南相馬市埋蔵文化財調査報告第11集

浦尻貝塚3

第1分冊　－土器編－

序　　文

文化財は、我が国の長い歴史の中で生まれ、今日まで守り伝えられてきた国民共有の財産であり、その地域の歴史、伝統、文化などの理解のために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化の向上・発展の基礎をなすものであります。とりわけ、地中に埋もれている埋蔵文化財は、文字資料だけでは知ることができなかった先人の生活の様子や文字がまだなかった時代の人々の生活や文化について、私達に多くの情報を与えてくれます。

浦尻貝塚は、平成12年に旧小高町の町道工事計画に伴い試掘調査を行ったところ、良好な貝塚を確認し、遺跡としての重要性が裏付けられ、遺跡の将来にわたる保存を図る必要があることから、文化庁・福島県の協力を得て、浦尻貝塚調査指導委員会を設置し、平成13年度から平成16年度まで国指定史跡指定にむけての範囲内容確認調査を開始したものであります。

この調査成果により、浦尻貝塚は福島県を代表する縄文時代の大規模貝塚であることが明らかとなり、全国的にみても大変重要な遺跡であると評価されたことから、平成18年１月26日、国指定史跡に指定されたところであります。

南相馬市では、この貴重な史跡を適切に保存し、広く活用を図るため、平成18年度から指定地内の全民有地の公有化をすすめ、平成19年度に完了したところであります。今後は、浦尻貝塚を活かした地域づくりに向け、史跡整備計画を策定して参る考えであります。

本書は、この国指定史跡に向けた範囲確認調査の成果の一部を報告するものであります。本書に掲載した調査成果が、地域における歴史の解明と地域文化の一助になれば幸いであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の作成にあたり、多大なるご指導、ご協力をいただきました浦尻貝塚調査指導委員会の先生方、文化庁記念物課、福島県教育庁生涯学習・文化スポーツ領域文化財グループ等の関係機関の皆様、さらには調査にあたりご理解、ご協力をいただきました浦尻貝塚地権者会ならびに浦尻行政区の皆様には厚く御礼を申し上げます。

平成20年3月

南相馬市教育委員会
教育長　青　木　紀　男

例　　言

1．本書は福島県南相馬市小高区大字浦尻字南台他に所在する浦尻貝塚の発掘調査報告書の２分冊からなるうちの「土器編」である。なお南相馬市は、平成18年１月１日付けで、原町市、鹿島町、小高町の１市２町が合併して発足した市である。

2．報告する調査は、平成12年度の旧小高町町道建設計画に伴う試掘調査及び平成13～16年度にかけて実施した保存目的範囲確認調査である。いずれの調査も国庫補助対象事業として旧小高町教育委員会が主体となって実施した。

3．上記調査のうち、これまでに調査内容の一部を掲載した調査報告書を刊行している。刊行した調査報告書は次のとおりである。

小高町文化財調査報告第２集「小高町内埋蔵文化財調査報告Ⅰ」2001　小高町教育委員会
小高町文化財調査報告第６集「浦尻貝塚１」2005　小高町教育委員会
南相馬市埋蔵文化財調査報告書第１集「浦尻貝塚２」2006　南相馬市教育委員会

本書は、上記調査のうち、南台（台地南部を除く）・台ノ前・西向地区で出土した表土等遺構外の出土土器、台ノ前地区Ⅰ区の出土土器などについて掲載したものである。先に刊行した「浦尻貝塚２」では同地区の遺構及び縄文時代の遺構・貝層・遺物包含層の出土遺物を報告している。

弥生時代以降の遺構・出土遺物、小迫北・南地区の出土遺物、骨角製品については、今後整理調査し、報告する予定である。なお、本報告に係る調査のうち遺構等の調査状況については、「浦尻貝塚１」に掲載している。

4．整理調査は、浦尻貝塚調査指導委員会、文化庁ならびに福島県教育庁文化財グループの指導のもと、発掘調査時から平成20年度まで継続的に南相馬市教育委員会（旧小高町教育委員会）が実施している。平成18・19年度の調査体制は次のとおりである。

調査主体　南相馬市教育委員会

事務局　南相馬市教育委員会文化財課

教育長	青木紀男
事務局長	風越清孝
事務局次長	藤原直道
文化財課長	烏中清
係長	堀耕平
主任学芸員	川田強
主任文化財主事	荒淑人
学芸員	佐川久
嘱託学芸員	林紘太郎

整理調査補助員

牛渡由起子
狭川麻子
玉川美枝子
渡部定子
松本経子
松崎孝子

5．出土土器の実測、図版作成は各調査参加者が行った。

6．本書に掲載した出土土器の写真撮影は株式会社まつざき印刷に委託した。

7．本書の編集は川田強が行った。執筆は、第２章のⅧ・Ⅸ群土器を佐川久、それ以外は川田強が担当した。

8．平成 13 年度からの保存目的範囲確認調査を実施するにあたり、学識経験者からなる浦尻貝塚調査指導委員会（以下、「調査指導委員会」という。）を組織し、調査の指導をお願いした。調査指導委員会には下記の方々に引き受けていただき、ご尽力を賜った。（敬称略）
委 員 長：藤　沼　邦　彦（弘前大学）
副委員長：玉　川　一　郎（現福島県教育庁生涯学習・文化スポーツ領域文化財グループ）
委　　員：山　田　昌　久（首都大学東京）
委　　員：樋　泉　岳　二（早稲田大学）
指導機関：文化庁記念物課、福島県教育庁生涯学習・文化スポーツ領域文化財グループ

9．報告書作成にあたり、下記の方々に多大なご協力いただいた。記して感謝の意を示したい。
（敬称略、五十音順）
阿部健太郎、石田典子、岩崎真幸、新井達哉、植月学、宇佐美雅夫、大平好一、大平理恵、岡田康博、岡村道雄、小川長導、大塚初重、梶原圭介、梶原文子、川上和人、小林謙一、小林雄一、今野徹、佐藤耕三、坂井秀弥、佐々木長生、三瓶秀文、嶋村一志、新海和広、宍戸弘治、菅原弘樹、鈴鹿良一、鈴木啓、高橋満、竹中正巳、中坪啓人、中村真由美、西本豊弘、禰宜田佳男、早瀬亮介、長谷川真、藤木海、古谷渉、堀江格、本間宏、松本茂、松本美和子、村田六郎太、村本周三、森幸彦、山内幹夫、山崎京美、山崎充浩、山本出、横田正美、吉田陽一

10．本報告書（第１・２分冊）作成にあたり、下記の機関に多大なご協力をいただいた。記して感謝の意を示したい。
国立歴史民俗博物館、東京大学総合研究博物館、千葉県立中央博物館、千葉市立加曽利貝塚博物館、財団法人福島県文化振興事業団、福島県文化財センターまほろん、南相馬市立博物館、南相馬市文化財保護審議会、原町市史編纂委員会考古部会、浦尻行政区、浦尻貝塚地権者会

11．本書で掲載した資料はすべて南相馬市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．本書で掲載した挿図の縮尺は各挿図に記した。

2．遺物実測図の表現は次のとおりである。

繊維土器　：断面内▲

断面輪積痕：//

3．掲載した出土遺物の縮尺は各挿図に記してあるが、基準は下記のとおりである。
出土土器　復元実測１／４　　断面実測１／３

4．出土土器写真の縮尺は不同である。

5．各写真図版の写真番号は実測図版の番号に一致する。

総 目 次

第１分冊　－土器編－

第１章　序章

第２章　出土土器

第３章　まとめ

第２分冊　－自然遺物編－

第１章　貝層等の出土状況

第２章　動物遺体

第３章　出土人骨

第４章　炭化種実

附編１　浦尻貝塚出土のイノシシ遺体について

附編２　明治期の相双地方の漁業

附編３　角部内南台貝塚・片草貝塚の動物遺体

第１分冊　－土器編－　目次

序文

例言

凡例

目次

第１章　序章…… 1
第１節　遺跡の位置と環境…… 1
第２節　遺跡の概要… …… 5

第２章　出土土器…… 9
第１節　土器分類…… 9
第２節　南台地区遺構外出土土器…… 10
第３節　台ノ前南貝層貝層外出土土器…… 25
第４節　台ノ前北貝層貝層外出土土器…… 35
第５節　台ノ前地区Ⅰ区出土土器…… 58
第６節　西向貝層貝層外出土土器…… 75
第７節　西向地区斜面下部遺構外出土土器…… 87

第３章　まとめ …… 95

引用・参考文献 …… 109

写真図版　…… 111

観察表　…… 135

挿図目次

図 1　南相馬市の位置…… 1
図 2　周辺の遺跡（S＝1/30,000）…… 3
図 3　浦尻貝塚調査状況図（調査年次別）（S＝1/2,500）… 6
図 4　浦尻貝塚調査状況図（縄文時代）（S＝1/2,500）… 7
図 5　南台地区遺構外出土土器① Ⅲ群土器 ……11
図 6　南台地区遺構外出土土器② Ⅲ・Ⅳ群土器 ……12
図 7　南台地区遺構外出土土器③ Ⅳ群土器 ……13
図 8　南台地区遺構外出土土器④ Ⅴ・Ⅵ群土器 ……15
図 9　南台地区遺構外出土土器⑤ Ⅵ群土器 ……16
図 10　南台地区遺構外出土土器⑥ Ⅵ群土器 ……17
図 11　南台地区遺構外出土土器⑦ Ⅶ群土器 ……18
図 12　南台地区遺構外出土土器⑧ Ⅶ群土器 ……19
図 13　南台地区遺構外出土土器⑨ Ⅶ群土器 ……20
図 14　南台地区遺構外出土土器⑩ Ⅷ群土器 ……22
図 15　南台地区遺構外出土土器⑪ Ⅷ群土器 ……23
図 16　南台地区遺構外出土土器⑫ Ⅹ群土器 ……24
図 17　台ノ前南貝層貝層外出土土器① Ⅱ・Ⅲ群土器 ……26
図 18　台ノ前南貝層貝層外出土土器② Ⅳ群土器 ……27
図 19　台ノ前南貝層貝層外出土土器③ Ⅳ群土器 ……29
図 20　台ノ前南貝層貝層外出土土器④ Ⅴ・Ⅵ群土器 ……30
図 21　台ノ前南貝層貝層外出土土器⑤ Ⅵ群土器 ……31
図 22　台ノ前南貝層貝層外出土土器⑥ Ⅷ・Ⅹ群土器 ……33
図 23　台ノ前北貝層貝層外出土土器① Ⅱ・Ⅲ群土器 ……36
図 24　台ノ前北貝層貝層外出土土器② Ⅲ群土器 ……37
図 25　台ノ前北貝層貝層外出土土器③ Ⅲ群土器 ……39
図 26　台ノ前北貝層貝層外出土土器④ Ⅲ群土器 ……40
図 27　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑤ Ⅲ群土器 ……41
図 28　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑥ Ⅳ群土器 ……43
図 29　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑦ Ⅳ群土器 ……44
図 30　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑧ Ⅳ群土器 ……45
図 31　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑨ Ⅳ群土器 ……47
図 32　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑩ Ⅳ群土器 ……48
図 33　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑪ Ⅳ群土器 ……49
図 34　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑫ Ⅴ群土器 ……51
図 35　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑬ Ⅴ群土器 ……52
図 36　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑭ Ⅴ群土器 ……53
図 37　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑮ Ⅵ群土器 ……54
図 38　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑯ Ⅵ群土器 ……55
図 39　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑰ Ⅶ群土器 ……56
図 40　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑱ Ⅶ・Ⅸ・Ⅹ群土器 …57
図 41　台ノ前地区Ⅰ区出土土器① テストピット・サブトレンチ出土土器……59
図 42　台ノ前地区Ⅰ区出土土器② サブトレンチ出土土器 …60
図 43　台ノ前地区Ⅰ区出土土器③ サブトレンチ出土土器 …61
図 44　台ノ前地区Ⅰ区出土土器④ 遺構外出土Ⅱ・Ⅲ群土器…63
図 45　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑤ 遺構外出土Ⅳ群土器 …65
図 46　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑥ 遺構外出土Ⅴ・Ⅵ群土器 …66
図 47　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑦ 遺構外出土Ⅵ群土器 …68
図 48　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑧ 遺構外出土Ⅵ・Ⅶ群土器 …69
図 49　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑨ 遺構外出土Ⅵ・Ⅶ群土器 …70
図 50　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑩遺構外出土Ⅶ群土器……71
図 51　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑪遺構外出土Ⅶ群土器……72
図 52　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑫遺構外出土Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ群土器 …73
図 53　西向貝層貝層外出土土器①Ⅱ・Ⅲ群土器……76
図 54　西向貝層貝層外出土土器②Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ群土器…77
図 55　西向貝層貝層外出土土器③Ⅳ群土器……79
図 56　西向貝層貝層外出土土器④Ⅳ群土器……81
図 57　西向貝層貝層外出土土器⑤Ⅴ・Ⅵ群土器……83
図 58　西向貝層貝層外出土土器⑥Ⅶ群土器……84
図 59　西向貝層貝層外出土土器⑦Ⅶ群土器……85
図 60　西向貝層貝層外出土土器⑧Ⅶ・Ⅷ群土器……86
図 61　西向地区斜面下部遺構外出土土器①Ⅲ・Ⅳ群土器…88
図 62　西向地区斜面下部遺構外出土土器②Ⅳ・Ⅴ群土器…90
図 63　西向地区斜面下部遺構外出土土器③Ⅴ・Ⅵ群土器…91
図 64　西向地区斜面下部遺構外出土土器④Ⅵ・Ⅶ群土器…93
図 65　西向地区斜面下部遺構外出土土器⑤Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ群土器 …94
図 66　浦尻貝塚貝層出土土器① （S＝1/5）……96
図 67　浦尻貝塚貝層出土土器② （S＝1/5）…… 100
図 68　浦尻貝塚貝層出土土器③ （S＝1/5）…… 101
図 69　浦尻貝塚貝層出土土器④ （S＝1/5）…… 102
図 70　浦尻貝塚貝層出土土器⑤ （S＝1/5）…… 103
図 71　浦尻貝塚貝層出土土器⑥ （S＝1/5）…… 105
図 72　浦尻貝塚貝層等出土土器 （S＝1/5）…… 107

写真図版目次

写真図版 1　南台地区遺構外出土土器① …… 113
写真図版 2　南台地区遺構外出土土器② …… 114
写真図版 3　南台地区遺構外出土土器③ …… 115
写真図版 4　南台地区遺構外出土土器④ …… 116
写真図版 5　台ノ前南貝層貝層外出土土器① …… 117
写真図版 6　台ノ前南貝層貝層外出土土器② …… 118
写真図版 7　台ノ前北貝層貝層外出土土器① …… 119
写真図版 8　台ノ前北貝層貝層外出土土器② …… 120
写真図版 9　台ノ前北貝層貝層外出土土器③ …… 121
写真図版 10　台ノ前北貝層貝層外出土土器④ …… 122
写真図版 11　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑤ …… 123
写真図版 12　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑥ …… 124
写真図版 13　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑦ …… 125
写真図版 14　台ノ前地区Ⅰ区出土土器① …… 126
写真図版 15　台ノ前地区Ⅰ区出土土器② …… 127
写真図版 16　台ノ前地区Ⅰ区出土土器③ …… 128
写真図版 17　西向貝層貝層外出土土器① …… 129
写真図版 18　西向貝層貝層外出土土器② …… 130
写真図版 19　西向貝層貝層外出土土器③ …… 131
写真図版 20　西向地区斜面下部遺構外出土土器① …… 132
写真図版 21　西向地区斜面下部遺構外出土土器② …… 133

第1章　序　章

第1節　遺跡の位置と環境

第1項　はじめに

浦尻貝塚は福島県南相馬市小高区浦尻字南台ほかに所在する縄文時代から近世にいたる複合遺跡である。平成12年度に旧小高町町道工事計画に伴い試掘調査が実施された。その結果を受け、平成13年度から平成16年度にかけて、国指定史跡に向けての範囲内容確認調査を、小高町教育委員会（現南相馬市教育委員会）が実施した。

図1　南相馬市の位置

本書は、この調査のうち、南台（台地南部を除く）・台ノ前・西向地区で出土した表土等遺構外の出土土器、台ノ前地区Ⅰ区の出土土器などについて掲載したものである。

先に刊行した「浦尻貝塚2」（南相馬市教育委員会2006）ではこの範囲内容確認調査のおける同地区の遺構及び縄文時代の遺構・貝層・遺物包含層の出土遺物を掲載している。また、本報告に係る調査のうち遺構等の調査状況については、「浦尻貝塚1」（小高町教育委員会2005）に掲載しており、調査歴・遺跡名・調査の経過等もあわせて報告していることから、本書ではその概略を記載するに留める。小迫北・南地区の出土土器は一部を除き、未報告であり、今後継続した整理調査を実施し、報告する予定である。

第2項　遺跡の位置と地理的環境

浦尻貝塚が所在する南相馬市は、福島県の太平洋側にあたる浜通り地方の北部域に所在する。浦尻貝塚は、この南相馬市南部の小高区にあり、浪江町に隣接した太平洋岸の大字浦尻に位置する。現海岸線からは、西に約700m離れた位置にあたる。

浜通り地方北部域の地質は、南北に縦断する双葉断層を境にし、西側に花崗岩を基盤とした標高500m以上の阿武隈山地が広がり、東側に第三紀の砂岩・泥岩などを基盤とした丘陵とその周囲に海成・河成の段丘が樹枝状に分布している。段丘下には東流する小高川などの河川によって形成された沖積地が広がる。段丘は、高位・中位・低位と3面に大別されている。段丘の堆積層は砂・レキ・砂レキ・シルトであり、この上部に風化火山灰層（ローム層）が堆積することが多い。このうち中位段丘は小高川流域などで発達しており、旧石器時代以降の遺跡が多く確認される。

浦尻貝塚はこの中位段丘上にあり、東西方向の段丘から派生した南北方向の舌状段丘を中心に分布し、段丘平坦面は標高25～28m、段丘幅は70～100m、眼下に望む沖積地との比高差は20～25mを測る。

浦尻貝塚が所在する段丘の北側には、かつては井田川浦という東西約1.8㎞、南北約1㎞という大きな潟湖があり、大正末期～昭和初期にかけて干拓されている。旧井田川浦の汀線は、浦尻貝塚の所在する段丘北側にほぼ接している。井田川浦に注ぎ込んでいた宮田川は5～6㎞の長さしかなく、源流は阿武隈山地まで至らない小河川である。

潟湖を形成した浜堤は、浦尻貝塚の東側の磯坂遺跡（18）が所在する海岸線の段丘から北側に1.7㎞にわたって伸び、太平洋をふさいでいたとされる。北に位置する小高川河口にも、同様の浜堤が形成されたが、少なくとも近世以降は井田川浦ほどの大きな潟湖は形成されていなかったようである。小高川支流の河口には、現在も規模は小さいものの前川浦という潟湖が残っている。

第３項　歴史的環境

浦尻貝塚は、縄文時代の貝塚・集落跡であるほか、古墳時代後期の古墳群、平安時代の集落跡、中世館跡の推定地でもある複合遺跡である。本報告は、このうち縄文時代の遺物について報告するので、周辺の縄文時代の遺跡を概観することする。

福島県太平洋側にあたる浜通り地方では縄文時代早期末葉から遺跡が多く確認されるようになる。浦尻貝塚周辺では、北原貝塚（17）（**註１**）において、過去に押型文系土器が表採された記録（志賀1985）がある。遺跡数が多くなるのは早期末からであり、浦尻貝塚のほか北原貝塚（小高町教育委員会2004）で断片的ながら、条痕文系土器が少量出土している。南相馬市内でも、阿武隈山地に近い八重米坂遺跡（福島県教育委員会1990c）や荻原遺跡（小高町教育委員会1993ほか）などで多数の竪穴住居が確認されており、この段階で浜通り地方北部では集落遺跡の増加が認められる。

続く縄文時代前期前葉になると、浦尻貝塚周辺では多数の貝塚が確認される。浦尻貝塚と同じ宮田川（旧井田川浦）流域では、浦尻貝塚に隣接した北原貝塚のほか、海岸線から約４km離れた学史上著名な宮田貝塚（14）（小高町教育委員会1975）や加賀後貝塚（15）（小高町教育委員会2001）が所在する。

宮田貝塚では小高町史編さん事業に伴う学術調査が実施されており、前期前葉の宮田Ⅲ群とされる土器とともにイボキサゴ？を中心とした内湾性の貝を多く含む斜面貝層が確認されている。資料の採集方法には不明な点が多いが、比較的多くの獣魚骨が得られている。鳥獣骨では、シカ・イノシシや、イヌ・タヌキなどの小形哺乳類が出土しているほか、カモ類も多くみられる。魚骨はスズキ・クロダイが最も多く、内湾での漁業が中心であったと考えられるが、マダイも一定量含まれ、外洋での漁業も想定される。これに伴うように、骨角器では釣針未製品や刺突具も出土しており、これらの調査成果から、宮田川流域では、この段階から積極的な漁業を示す資料が認められることが明らかとなった。

また、宮田貝塚では、貝層から多くの土器が出土し、このうち宮田Ⅲ群と分類された土器群は、当時知られていた一部併行する大木１式等と異なる地域的な特徴が見られることが調査報告書の中で指摘され、その後の縄文時代前期土器研究に大きな影響を与えた。

宮田貝塚に隣接する低位段丘斜面に形成された加賀後貝塚（**註２**）でも、ほ場整備に伴う試掘調査が実施され、宮田貝塚と同時期の小規模な貝ブロックを標高約3.0ｍの地点で検出している。小規模な貝ブロックでありながら比較的多くの動物遺体が得られている。貝類はイボキサゴを主体として少量のアサリやマガキが伴い、魚類はスズキ・クロダイが多く、宮田貝塚と同じく内湾性のものであることが確認された。獣骨は少量しか得られていないが、シカ・イノシシなどが出土している。また、周辺のボーリング調査では、標高約１～４ｍの縄文前期の遺物包含層が確認されている。

浦尻貝塚に隣接し、現海岸線にも近い北原貝塚では、この前期前葉を中心として大規模な貝塚が形成されている。調査がされた段丘西側の貝層は宮田Ⅲ群が出土している。貝類は加賀後貝塚と同じくイボキサゴを主体とし、アサリ・ハマグリ・イソシジミなど内湾性のほか、岩礁性のクボガイ類なども少量認められている。魚類では2.5㎜メッシュ以下で回収されるカタクチイワシなどの外洋沿岸～内湾表層域に生息する小形魚のほか、内湾浅海域に生息するフサカサゴなどの幼魚類が多量に出土していることが大きな特徴である。大形魚では宮田貝塚・加賀後貝塚と同様スズキ・クロダイなどの内湾性のものが多いが、フグが多産していることが特徴的である。外洋域のマダイ・カツオなども含まれるが量的には少ない。鳥獣骨は加賀後貝塚・宮田貝塚と同様イノシシ・シカ・カモ類が出土している。また、釣針・刺突具など少量ながら骨角器も出土している。

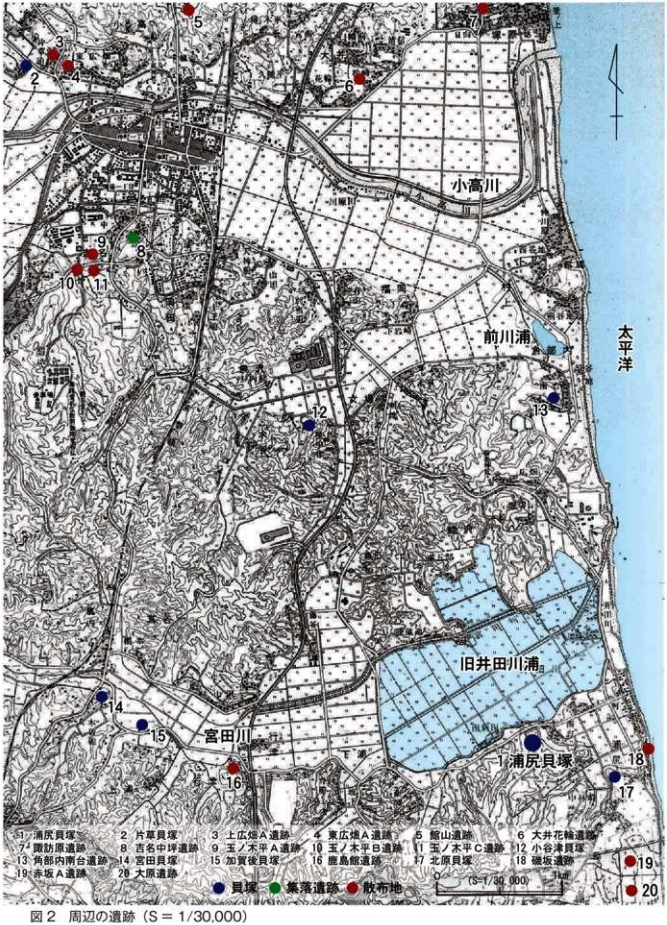


図2　周辺の遺跡（S＝1/30,000）

このほか、北原貝塚では平成13年に行われた個人住宅に伴う調査で縄文時代早期末～前期前葉と推定される小穴群が確認されている。さらに、平成16年には町道建設工事に伴い、小高町教育委員会が発掘調査を実施しており、大木２ａ式の土器が出土する貯蔵穴群を検出している(註３)。これらのことから、北原貝塚では縄文時代前期前葉～中葉にかけての集落が貝塚に伴うものと考えられる。

小高川流域では、大井花輪遺跡（６）で花積下層式の土器が表採されているほか、内陸に４㎞を測る位置にある片草貝塚（２）では大木２ａ式の土器とともにアサリ・マガキなどを含む貝層が確認されている（竹島1975）。また、海岸に近い角部内南台貝塚（13）（小高町教育委員会1988）(註４)でも、大木２ａ式以降の土器が出土し、前期中葉以降に集落・貝塚が形成されたと考えられる。詳細は不明であるが、小谷津貝塚（12）も縄文時代前期に伴う可能性が高い(註５)。

福島県内の縄文時代前期の貝塚は、いわき市の弘源寺貝塚（いわき市教育委員会1986）や双葉郡双葉町の郡山貝塚（双葉町教育委員会1990）などが知られるが、このように多地点にわたり貝塚が確認されるのは小高川・宮田川流域の大きな特徴である。宮田貝塚・加賀後貝塚・片草貝塚のような内陸におよそ４㎞入った貝塚群は縄文海進に伴い形成されたものと言える。また、貝塚だけでなく、散布地も前段階に比較するとこの海岸域に多く分布するようになる。これらの調査成果から、浦尻貝塚周辺では縄文海進によって広がった内湾を主な漁場とする漁業への志向が強く認められる。

浦尻貝塚では、縄文前期後葉になると小規模な貝塚の形成が始まる。しかし、前期後葉では宮田貝塚・北原貝塚・角部内南台貝塚などでも土器が出土しているが、貝層は現在のところ確認されておらず、集落も不明である。

前期末～中期前葉では、浦尻貝塚において大規模な貝塚が形成されるが、この段階になると散布地も角部内南台貝塚以外には認められなくなる。このように前期末～中期前葉になると浦尻貝塚・角部内南台貝塚の海岸線付近の遺跡以外は生活の痕跡が少なく、前期前葉～中葉の様相と大きな変化が認められる。

中期中葉以降は浦尻貝塚でも貝塚の形成は断続的となると考えられるが、集落の形成は継続している。角部内南台貝塚の貝層はこの段階に形成されたと推定されており、角部内南台貝塚も浦尻貝塚同様、前期以降にも集落が継続していた可能性が高い。また、近年、小高川流域の吉名中坪遺跡（８）で市道整備工事に伴い発掘調査が実施され、大木８ａ式の貯蔵穴群と大木８ｂ式の竪穴住居が確認されており(註６)、小高川中流域にも拠点的な集落が確認できるようになってくる。

次の中期後葉～末葉になると、小高川の中～上流域の遺跡でも、大田和広畑遺跡（南相馬市教育委員会2007a）や大富西畑遺跡（福島県教育委員会1991b）などの複式炉を伴う住居跡が確認され、後期前葉まで集落が継続するようであり、拠点的なあり方を示す。浦尻貝塚では貝塚の形成は中期末に中断すると推定されているが、この段階の遺構数は多い。また、後期前葉には比較的大きな貝層も確認されている。前段階まで形成されていると考えられる角部内南台遺跡では中期後葉までの土器がみられるが後期前葉以後の土器は出土しておらず、貝塚は浦尻貝塚以外では現在のところ確認されていない。

後期中葉以降は、浦尻貝塚周辺ではほとんど遺跡が確認できておらず、遺跡数は減少すると見られる。浦尻貝塚でも居住地の移動があり、大きな変化が認められるが、小規模ながら貝塚が形成され、柱穴が多数確認されている。浦尻貝塚は、ほぼ晩期中葉をもって集落が終焉を迎えるが、浦尻貝塚に隣接する海崖上には晩期後葉～末葉の遺物包含層が確認される磯坂遺跡（18）（玉川1986ほか）がある。磯坂遺跡は、浦尻貝塚に後続する遺跡と考えられ、貝塚は確認されていないが、製塩土器を多く出土することでも注目される。

第2節　遺跡の概要

第1項　これまでの経緯

浦尻貝塚については、明治34（1901）年、大野延太郎が東京人類学雑誌に「浦尻台前貝塚」「浦尻西向貝塚」として記されていることが初めての報告である（大野1901）。調査としては、これまで昭和25（1950）年の福島県学生考古学会によるもの（福島大学考古学研究会1971）が初めてとしていたが、最近になり、福島県師範学校 佐藤健次郎による「福島県相馬郡福浦村浦尻貝塚第1回試掘調査報告」（佐藤1932？）という資料を確認した。これによると、昭和6年（1931）年に、現在呼称する台ノ前北・南のいずれかの貝層、西向貝層、小迫貝層と推定される3地点の調査を行っている。この時点で既にこれらの貝層を含めた範囲を浦尻貝塚とし、一連の遺跡であることを認識していることは注目される（**註7**）。また、この段階で4基の古墳が現存することも記載されている（**註8**）。昭和25年の福島県学生考古学会の調査については、詳細は不明である。

昭和40（1965）年には農道工事の際に、浦尻貝塚内に所在する浦尻古墳群1号墳の主体部である刳抜石棺が露出し、緊急の調査を行っている。本格的な発掘調査は、昭和45（1975）年の福島大学学生考古学会の学術調査があげられ、この調査により、複式炉を伴う竪穴住居と西向貝層の一部の調査を行い、大木10式期には集落が営まれたこと、貝層範囲の概略が明らかになるなど大きな成果が得られている（福島大学考古学研究会1971）。その後は調査が少ないが、玉川一郎、森幸彦、石川隆司らによる表面調査がなされ、出土資料の一部が報告されている（玉川1986、玉川・吉田1987、森1991、石川1983・1984・1988）。また、平成9（1997）年には、現在の西向地区低地部で、ほ場整備に伴う試掘調査が小高町教育委員会により実施され、縄文時代の遺物包含層が確認されている。

平成12（2000）年、浦尻貝塚を縦断・横断する町道の拡幅工事計画に伴い、小高町教育委員会が試掘調査を実施した。この調査の結果、町道拡幅工事計画の一部において、良好な保存状況の縄文時代中期の貝塚などが確認された。小高町では町担当部局、県教育庁文化課と協議を行い、文化庁記念物課・福島県文化財課の現地視察を踏まえての指導に基づき、町道工事計画を中止し、平成13（2001）年から国史跡指定に向けた範囲内容確認調査を実施することとした。

範囲内容確認調査は、平成13（2001）年度に台ノ前・南台地区、平成14（2002）年度に南台・西向地区、平成15（2003）年度に小迫北・小迫南地区、平成16（2004）年度は小迫南地区で実施した。平成16年度には「浦尻貝塚1」を刊行し、これら平成12年以降の調査状況を報告した。

これらの調査から遺跡の概要・範囲が確定したことにより、平成17年度に国史跡指定事業に取り組み、平成18（2006）年1月26日付けで国史跡指定が告示となった。平成18年度には「浦尻貝塚2」を刊行し、範囲内容確認調査等の南台・台ノ前・西向地区の人工遺物の報告を行った。

また、平成18・19年度には、指定地外で調査が十分ではなかった南台地区台地南部等で範囲内容確認調査を行っている。さらに、墳丘が現存する浦尻古墳群4基の測量調査も実施している。これらの調査成果は「南相馬市内遺跡発掘調査報告書3」（南相馬市教育委員会2007b）で報告されている。

第2項　遺跡の概要

浦尻貝塚は平成12（2000）年以降の調査から調査区を、図3のとおり大きく4つの地区に分けており、それぞれ地形をもとに小区分している。本報告の記載内容はこの調査区分に基づく。平成12年以前に呼称されてきた「浦尻台ノ前貝塚（台ノ前貝塚）」、「浦尻西向貝塚（西向貝塚）」、「小迫貝塚」「浦尻南台遺跡群」等の呼称は、すべて「浦尻貝塚」に統合している。

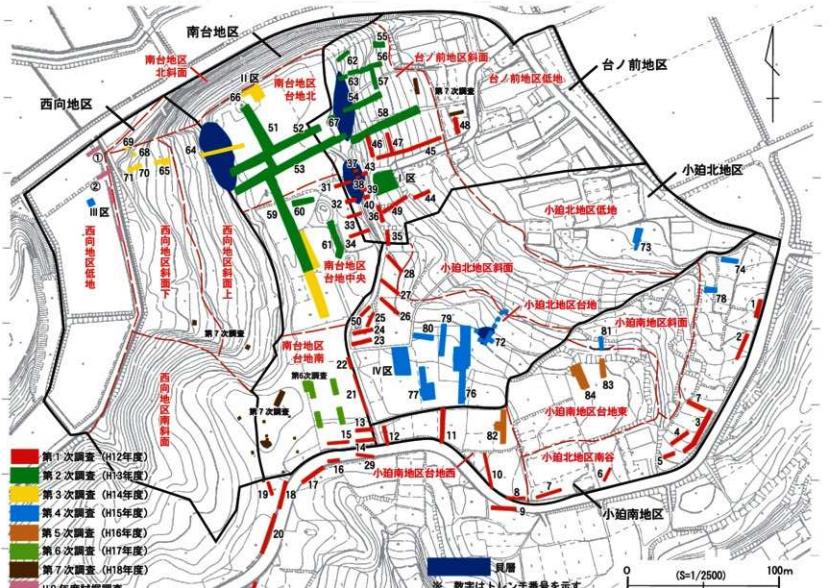


図３　浦尻貝塚調査状況図（調査年次別）（S＝1/2,500）

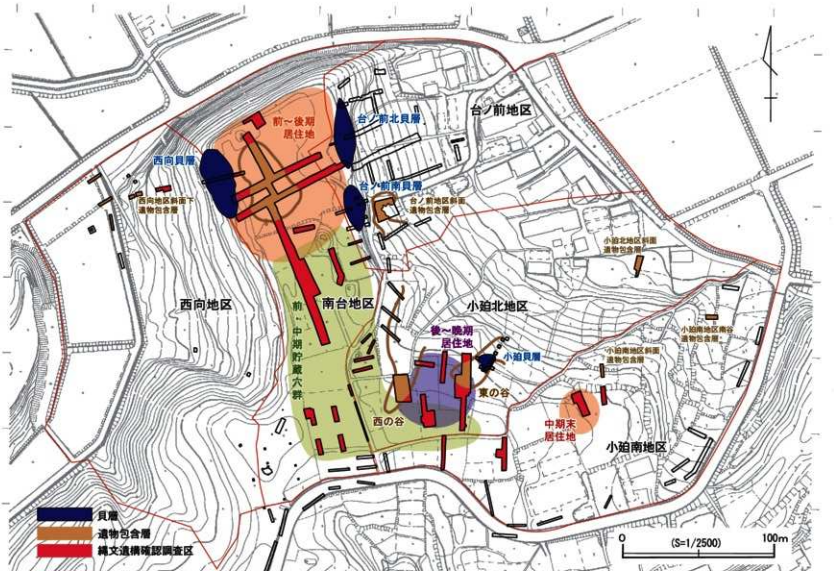


図４　浦尻貝塚調査状況図〔縄文時代〕（S＝1/2,500）

これまでの縄文時代の調査概要は図４のとおりである。南北に伸びる舌状段丘上（南台地区）は、前期後葉以降後期中葉までの遺構が確認される。前期後葉～後期前葉の竪穴住居・柱穴が分布する居住地は台地北側の径100mほどの範囲が中心となる。その中央は掘削行為により中期後葉の段階で厚さ70cm以上と推定されるローム層が失われている。遺構は前期後葉～中期中葉は少ないが、これは掘削行為等による遺構の破壊も考えられ、本来はこの地点で相当数の遺構があったものと考えている。確認される遺構数は、中期後葉以降に増加し、後期前葉まで多く確認されるが、後期中葉では断片的となる。居住地の南側の台地上には、小迫北地区までおよぶ広い範囲で貯蔵穴が分布している。

この居住地の東西斜面に貝層が形成されている。東側は「台ノ前北貝層」・「台ノ前南貝層」が南北に縦列しており、西側は「西向貝層」が確認されている。いずれも東西幅15～20m、南北長30～40mを計る大規模な貝層である。これらはいずれも前期後葉から形成され、前期末葉～中期初頭に本格化し、中期前葉までは継続して営まれている。中期中葉以後は断片的となり、現在のところ中期末葉には断続期をもつが、中期後葉、後期前葉も部分的な貝層が認められる。貝層は、前期末葉～中期前葉では土を多く含み、これは掘削行為による土の廃棄によるものと推定されている。貝はアサリを中心として、魚骨はスズキ・ウナギなど内湾性のものが多い。この他、台ノ前・西向地区の斜面、斜面下部ではこれらの居住地・貝層に伴う時期の遺物包含層が認められる。

小迫南地区では南台地区とおよそ180mの距離を持って、小規模ながら中期末葉の居住地が確認されている。また、前期前葉の遺物包含層も認められる（小迫南地区斜面遺物包含層）。しかし、小迫北・南地区で土器の出土量が多くなるのは、南台地区等で遺構数が減少する後期中葉以後である。小迫北地区では北から入り込む埋没谷（東の谷・西の谷）に囲まれた範囲を中心に多数の柱穴が確認され、この地区は後期末～晩期中葉の居住地と考えられている。

埋没谷は土器等の廃棄場としても利用されており、西の谷では後期末～晩期中葉にかけての貝以外の動物遺体を含む遺物包含層、東の谷には晩期前葉～中葉にかけての小規模な小迫貝層が確認される。この貝層ではヤマトシジミやイソシジミが多く、それ以前とは魚骨も含めて大きく様相を変える。このほか小迫南地区南谷遺物包含層（後期前葉）、小迫北地区低地遺物包含層（後期中葉～晩期）なども形成されており、低地や谷部まで生活の痕跡が認められている。

このように浦尻貝塚は、居住地や貝層の形成場所は変わりながらも、前期後葉～晩期までの長期間にわたる居住地として利用されていることと、各時期の貝層が形成されるという点が特筆される。

この他、浦尻貝塚の範囲内には浦尻古墳群とされる古墳時代後期の古墳群のほか、平安時代の竪穴住居も確認されている。また、中世館跡の推定地でもある。

註１　北原貝塚はこれまでに「北原貝塚」「神ノ前貝塚」「北向貝塚」「北原西貝塚（竜ヶ迫貝塚）」と呼称されてきており、過去にこれをまとめて「北原貝塚遺跡群」としたことがある（小高町教育委員会2004ほか）。平成19（2007）年に南相馬市教育委員会が実施した埋蔵文化財包蔵地の再整理において、これらを「北原貝塚」として登録することとした。

註２　加賀後貝塚は、これまで「大畑遺跡」「加賀後遺跡」「加賀後貝塚」を北原貝塚と同じく統合したものである。

註３　未報告である。

註４　角部内南台貝塚は、「角部内南台東貝塚」「角部内南台南貝塚」を統合したものである。

註５　竹島国基氏が採集した、南相馬市博物館に寄贈された資料には、縄文時代前期前半の土器が多いようである。

註６　未報告である。

註７　「浦尻貝塚１」で「浦尻台ノ前貝塚（台ノ前貝塚）」「浦尻西向貝塚（西向貝塚）」を統合したのは、福島大学学生考古学会の調査としていたが、初現はこの佐藤の報告であることが確認されたので、訂正をしておく。また、小迫貝塚（小迫貝層）も玉川一郎が昭和56（1981）年に発見したとしていたが、佐藤の記述の中に小迫貝層に比定できる地点の調査報告があるので、これも昭和６年時に既に確認されていたと考えられる。

註８　この４基の古墳のうち３基は、１～３号墳に相当すると推定される。古墳ではない可能性が指摘される４号墳（南相馬市教育委員会2007b）は、記載内容からみて異なるものであり、残る１基は現在墳丘が消失している５・６号墳であることも推察される。

第２章　出土土器

第１節　土器分類

報告する縄文土器は、「浦尻貝塚２」に追記して下記のように分類した。「浦尻貝塚１」で掲載した遺物は、型式分類を変更しているものがある。一部併行すると考えられる土器群も含めている。

Ⅰ群土器　縄文早期後葉の条痕文系土器群

Ⅱ群土器　縄文前期初頭～中葉の土器群

Ⅲ群土器　縄文前期後葉～末葉の土器群

Ⅲ－１類　大木３式

Ⅲ－２類　大木４式

Ⅲ－３類　大木５式

Ⅲ－４類　大木６式

Ⅲ－５類　１～４類または一部Ⅳ群に伴う主に単斜縄文等地文のみ施される土器を一括した。

Ⅲ－６類　１～４類に併行する異系統の土器を一括した。

Ⅳ群土器　縄文中期前葉の土器群

Ⅳ－１類　大木７ａ式

Ⅳ－２類　大木７ｂ式

Ⅳ－３類　１・２類に伴う主に無文の土器を一括した。

Ⅳ－４類　１・２類または一部Ⅲ群に伴う主に結束回転文等地文のみ施される土器を一括した。

Ⅳ－５類　１・２類に併行する異系統の土器を一括した。

Ⅴ群土器　縄文中期中葉の土器群

Ⅴ－１類　大木８ａ式

Ⅴ－２類　大木８ｂ式

Ⅴ－３類　１・２類に併行する異系統の土器を一括した。

Ⅵ群土器　縄文中期後葉～末葉の土器群

Ⅵ－１類　大木９式

Ⅵ－２類　大木10式

Ⅵ－３類　１・２類に併行する異系統の土器を一括した。

Ⅶ群土器　縄文後期前葉の土器群

Ⅶ－１類　綱取Ⅰ式

Ⅶ－２類　綱取Ⅱ式

Ⅶ－３類　堀ノ内Ⅱ式

Ⅶ－４類　１～３類に併行する異系統の土器を一括した。

Ⅷ群土器　縄文後期中葉～末葉の土器群

Ⅷ－１類　加曽利Ｂ式

Ⅷ－２類　新地式

Ⅸ群土器　縄文晩期の土器群

Ｘ群土器　縄文後期中葉～晩期の粗製土器

第２節　南台地区遺構外出土土器

第１項　地区の概要

南台地区は、縄文時代前期末以降後期中葉までの遺構が多数確認されている地区である。北側は竪穴住居のほか、柱穴などの多数の遺構が確認され、その分布範囲の中央部は縄文時代に掘削されたと考えられている。遺構の時期は大木９式期～綱取式期を中心とし、竪穴住居や柱穴とした土坑Ⅰ類の検出は多くがこの段階に相当する。しかし、前期末～中期中葉の遺構も断片的に確認することもでき、この地区の東西に分布する台ノ前北貝層、台ノ前南貝層、西向貝層という大規模な貝層も前期末葉以降中期前葉を中心として形成されていることから、当地区は前期末葉以降の居住域であったと考えられている。貝層は中期後葉以降では部分的な形成にとどまり、後期前葉で終焉するが、遺構は後期中葉まで確認できる。また、当地区の斜面側の調査区からは、それぞれの貝層の斜面上位部分が存在する。

当地区の南側は、竪穴住居等の遺構は少ないが、集落の中心部から南北に伸びる道路状遺構のほか、土坑Ⅱ類とした貯蔵穴が多く確認されており、集落の中心部に隣接した貯蔵穴群が広がっていることが確認された。この貯蔵穴群は、小迫北地区まで広がることが明らかとなっている。

ここで報告するのは、51～53T、59T、Ⅱ区の調査区から出土した小土坑・遺構外出土土器である。

第２項　Ⅲ群土器

（１）Ⅲ－１・２類（図５－１～14）

２は斜位の多条沈線と刺突、縦位に円形竹管が施されており、Ⅲ－１類とした。その他はⅢ－２類である。１・９は口縁に波状貼付文、頚部を横位に区画する貼付文が施されている。３～５は口縁部無文、地文が縄文のもので、口縁上端は刺突（３）、縄文（４）、交互押捺（５）がみられる。指頭による口縁交互押捺は、６・12など口縁に明瞭な無文帯を有しないものにもみられる。７は口縁にＶ字状の貼付文と押捺、口縁下に横位の刺突列が施文されている。８は口縁から横位・斜位の波状沈線上に縦位に垂下する波状貼付文が見られる。地文は斜位・縦位の結節回転文である。10は口縁から波状沈線が垂下し、頚部を横区画するものである。11も同様の横位の波状沈線が、頚部に施文されるともである。13は縄文地上に縦位の多条の平行沈線が施されており、全体の文様構成は不明だが、Ⅲ－２類に含めておく。14は幾何学状の貼付文が施される。

（２）Ⅲ－３類（図５－15～20、図６－１・２）

図５－15は口縁に鋸歯状貼付文が施される。同図16・17はちぎったような貼付文がみられるもので、山形文を施文している。同図18～20は縄文地上に多条の山形沈線が施されている。図６－１・２は複合口縁を呈し、口縁下端に刻みを持つ。１は平行沈線により弧状の文様を描き、２は半円状の突起がつけられる。

（３）Ⅲ－４類（図６－３～10）

３～６は口縁に文様が施文されるもので、３は上位を区画した格子状の平行沈線が施される。４は爪形文で施文され、２段の山形文を上下で区画し、施文後口縁の一部に押捺が認められる。５は太い隆帯が縦位に貼り付けられ、頚部を爪形文で区画している。６は頚部を突出するような隆帯で区画し、口縁部には縦位の多条平行沈線が充填されている。７は口縁に２個一対の瘤状隆帯（突起）がつけられている。８～10は胴部破片である。８は縄文地上に横位３条の結節浮線文が施されている。９は平行沈線で下位区画され、縦位の山形文が見られる。10は２条１単位の弧状刺突列が見られる。

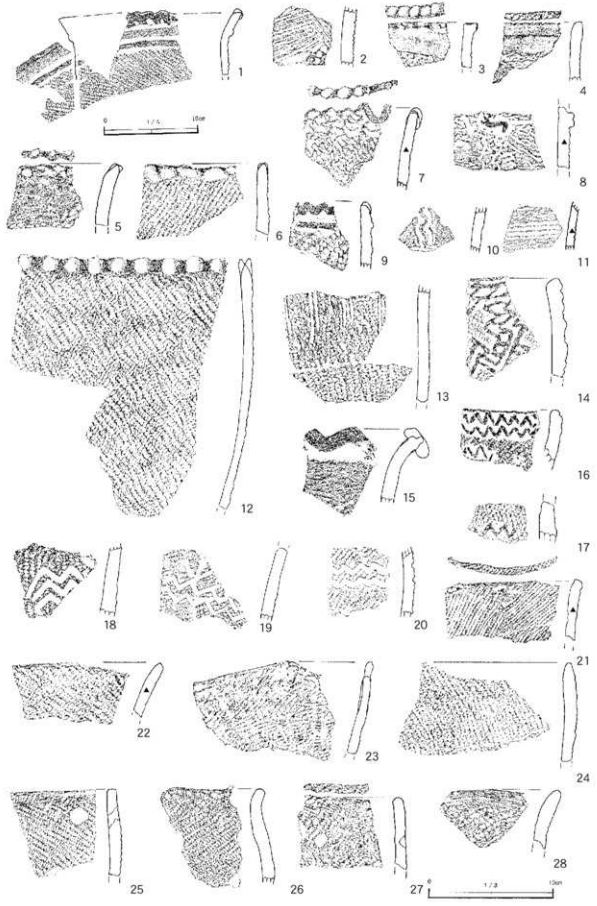


図５　南台地区遺構外出土土器① Ⅲ群土器

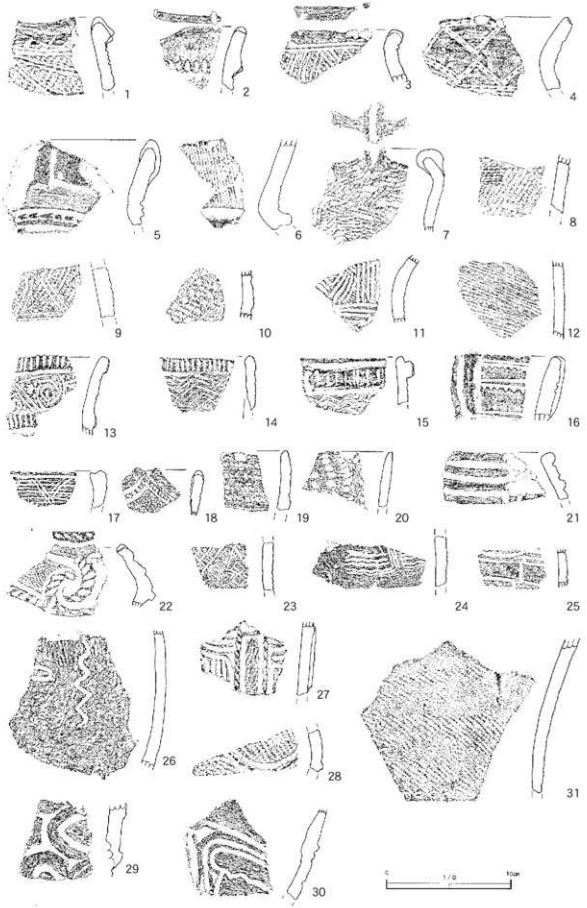


図6　南台地区遺構外出土土器② Ⅲ・Ⅳ群土器

（４）Ⅲ－５類（図５－21～28）

Ⅲ－２～４類に伴うと考えられる縄文施文の土器である。胎土に少量の繊維を含むもののほか（21・22）、波状口縁もみられる（23・26）。横位施文の単斜縄文を施し、口縁上端にも施文するものがある（27）。

（５）Ⅲ－６類（図６－11・12）

11は縄文地に多条沈線により縦位・横位・Ｖ字状の文様が施されている。12は斜位の櫛歯状線文が施される。

第３項　Ⅳ群土器

（１）Ⅳ－１類（図６－13～18・23～26）

13～15は口縁に縦位刻みが施された隆帯を施し、渦巻文、多段の山形文・波状文を描くものである。13は渦巻文の周囲に刺突を充填している。16は縦位隆帯を付け、横位沈線に沿い刺突が施される。17は横位多条平行沈線施文後に上位を単沈線で区画し、斜位・弧状の平行沈線で文様を描いている。18は波状口縁で梯子状短沈線が施されるもの、23も梯子状短沈線を施し、縦位に垂下する文様が施されている。24は縦位に垂下する多条波状沈線に横位波状沈線がアクセントとして加えられている。25・26も無文地に沈線による文様が描かれるものであり、Ⅳ－１類に含めておく。

（２）Ⅳ－２類（図６－19～22、27～31）

19は口縁に横位縄圧痕文が施されるものである。20は斜位刺突列が施されるもので、Ⅳ－２類に相当としておく。21・22は内湾する口縁部であり、21は隆沈線で楕円状区画が、22は刻み付隆帯で弧

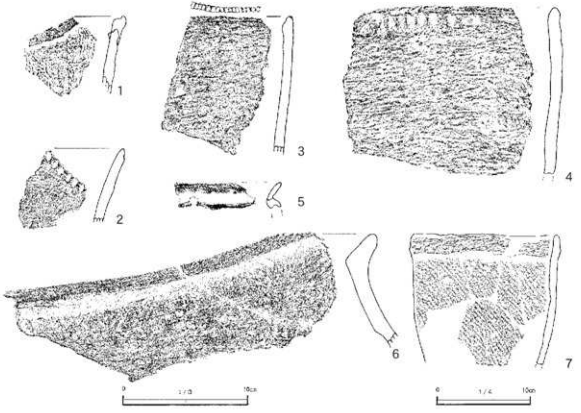


図７　南台地区遺構外出土土器③ Ⅳ群土器

状・渦巻状の文様が施されている。27は縄圧痕文が施された２条単位の縦位隆線で縦位に区画し、沈線による文様が施されている。28は隆線に沿い有節沈線がみられ、29・30は隆帯・隆線に沿う沈線・隆沈線が施文されている。31は断面三角の隆線が縄文地上に貼り付けられている。

（３）Ⅳ－３・４類（図７－１～７）

１・７はⅣ－４類である。１は波状複合口縁である。７は口縁が肥厚し、無文を呈するが、胴部は横位の縄文が施されている。２～６はⅣ－３類である。２は口縁断面が三角形状を呈し、口縁上端は、外方からの刻みが加えられる。３は内面内そぎ状の口縁形態で、口縁上端に押捺が施される。４は口縁がナデで丸く整えられている。５は口縁がくの字状に屈曲し、頸部に焼成前の穿孔が見られる有孔土器である。６は波状口縁を呈する浅鉢で、内面胴部上端に明瞭な段をもつ。

第４項　Ⅴ群土器

（１）Ⅴ－１類（図８－２～10・12）

２・３は渦巻状・Ｓ字状の貼付文が施されている。４・５は口縁上下に横位の弧状貼付文を施し、間に縦位の縄圧痕文を施すものである。６は口縁下端に隆帯を施し、口縁上に刺突列を施す。７は口縁を隆帯・隆線で区画し、撚糸文地上に沈線で弧状等の文様を描くものである。９は２～３条単位の沈線による文様を描き、下端を交互刺突文で区画するものである。12は隆沈線により方形区画され、渦巻文等が施される。８・10は縄文地上に平行沈線により施文されている。本類に含めたが、前後の段階に相当する可能性がある。

（２）Ⅴ－２類（図８－１・11・13～20、図９－１・２）

図８－１は浅鉢で波状口縁の波頂部を起点として隆沈線による渦巻文が施される。同図11は一部剥離しているが、断面カマボコ状の隆沈線による渦巻文が施される。胴部が大きく膨らむ器形を呈する。同図13～17は内湾する口縁である。13・14は横位に伸びる剝先状の隆線・隆沈線が施され、13は頸部に無文帯を有する。同図15～18は隆沈線で、19・20は隆線で文様が施される。

図９－１・２は渦巻状の隆沈線が施される口縁部破片である。渦巻文の中央の高さが浅くならないものである。

第５項　Ⅵ群土器

（１）Ⅵ－３類（図８－21）

21は頸部がくびれ、地文に平行沈線による条線文と押捺された隆帯がＴ字状に施されるものである。

（２）Ⅵ－１類（図９－３～12・15～19）

３は渦巻状隆線、４は環状隆線が施されている。５～７は隆沈線により渦巻文、楕円形区画が施される。８～10は隆沈線により曲線状・渦巻状の文様が施される胴部破片である。11は２条単位の沈線により縦位の帯状文が描かれ、12も同様の帯状文が施される。口縁が緩やかに外反する器形である。15は口縁を横位に区画し、頸部に無文帯を有し、縦位の沈線と帯状文が施される。16～18も沈線による縦位の帯状文が施される胴部破片である。19は断面カマボコ状の隆沈線間に刺突が施され、内外面ともに丁寧なミガキが施される。

（３）Ⅵ－２類（図９－13・14、図10－１～10）

図９－13は波状口縁を呈し、曲線状の文様が施される。同図14は口縁を横位区画し、縦位の帯状の縄文帯が施文されている。

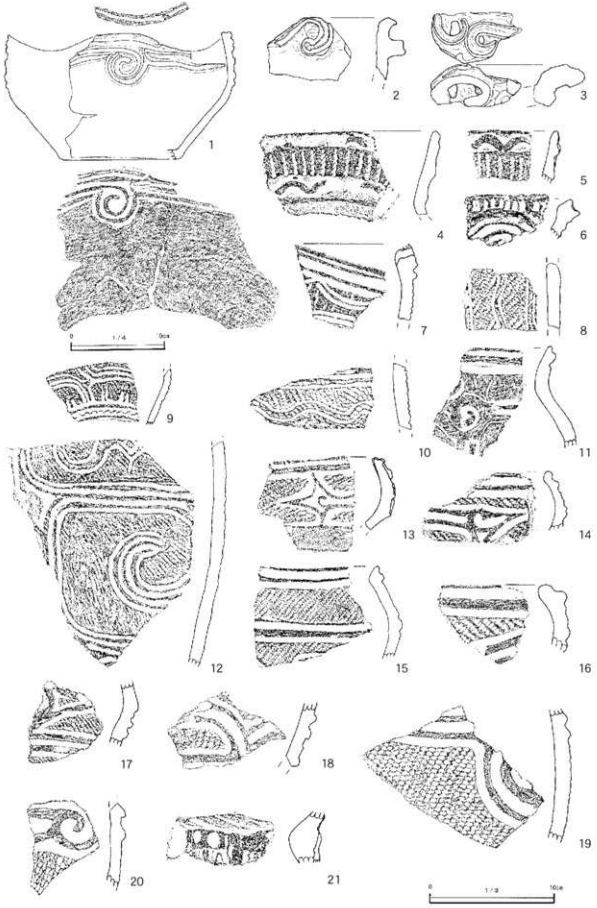


図８　南台地区遺構外出土土器④ Ⅴ・Ⅵ群土器

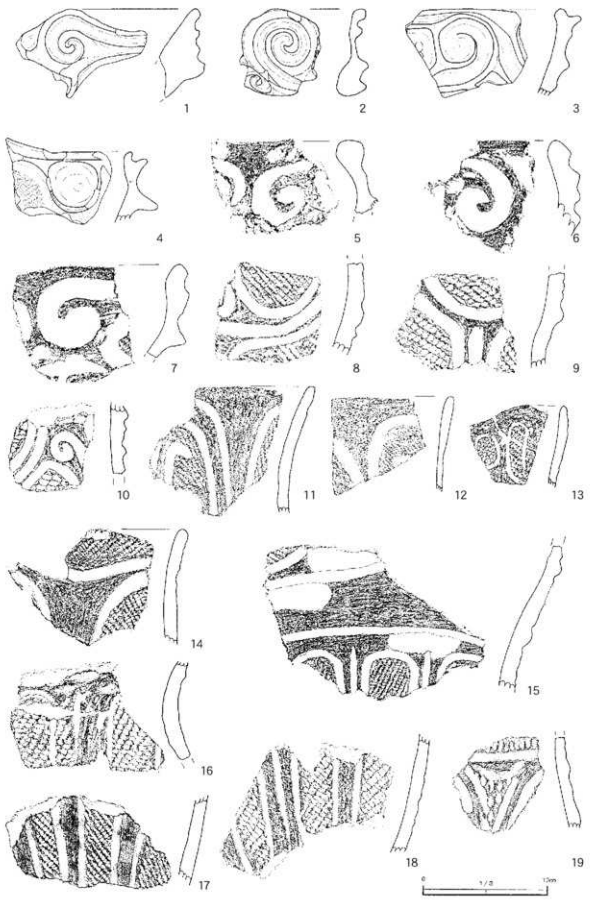


図９　南台地区遺構外出土土器⑤ Ⅵ群土器

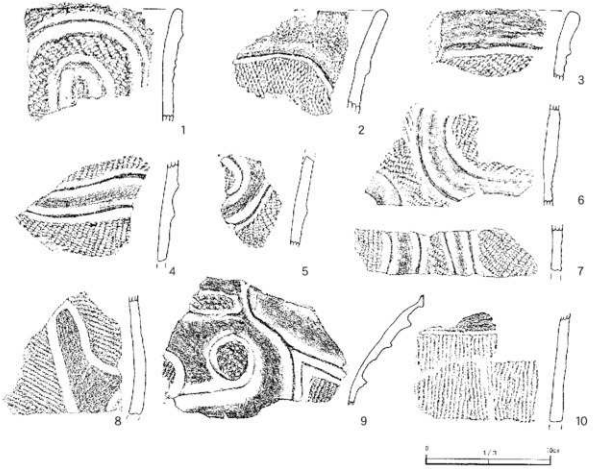


図 10　南台地区遺構外出土土器⑥ Ⅵ群土器

図10－１～７は、断面三角の隆線で文様を描くものである。１・２は逆Ｕ字状に、４～７は無文帯で横方向に流れた文様を描くものである。同図８は沈線で区画された無文帯で文様を描く胴部破片である。同図３・10は口縁を断面三角の隆線、沈線で区画する粗製土器である。同図９は浅鉢で、断面三角の隆線で文様を描き、外面が赤彩される。内外面ともにミガキ調整されている。

第６項　Ⅶ群土器

（１）Ⅶ－１類（図11－１～14、図12－１・２）

図11－１～３、５～７は口縁を隆帯で区画し、縦位隆帯・ノ字状隆帯が施されるものである。隆帯は刺突（２）や押捺（４）が施されるほか、中央沈溝をもつもの（６）がある。５は隆帯の交点に８字状浮文がつけられている。１は横方向に突出する突起をもつ。同図９は口縁が内屈し、低い隆線による渦巻文が施される。同図10は渦巻状・８字状の隆帯がつけられる突起部である。同図11・12・14は口縁を隆帯とそれに沿う沈線で区画するものである。11は縦位の摩消縄文や蛇行状沈線が認められる。同図13は三角状の突起をもち、隆帯が弧状にせり上がるように施されている。

図12－１は摩消縄文が施されるもので、Ｊ字状文を描くとみられる。同図２は多条の沈線で三角形区画が施される。

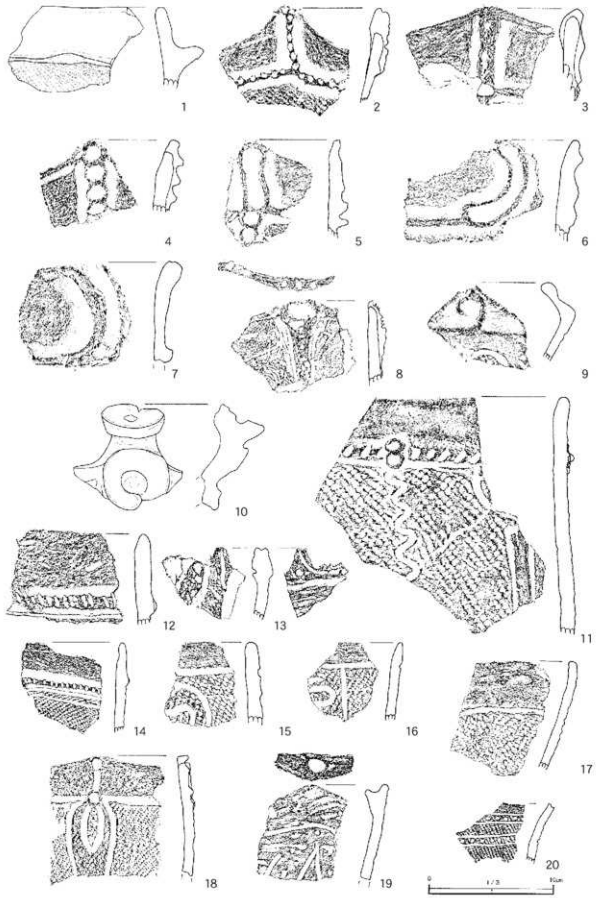


図 11　南台地区遺構外出土土器⑦ Ⅶ群土器

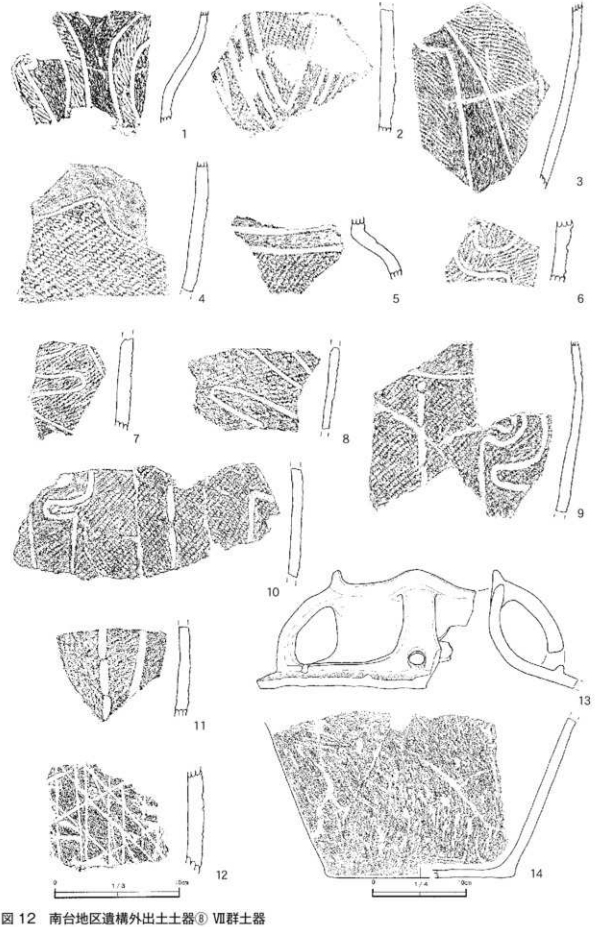


図 12　南台地区遺構外出土土器⑧ Ⅶ群土器

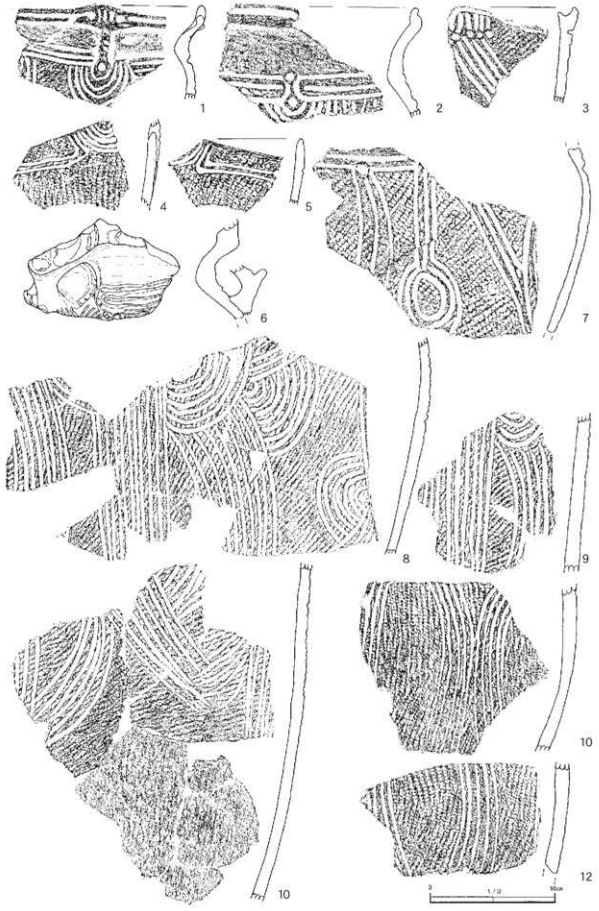


図 13　南台地区遺構外出土土器⑨ Ⅶ群土器

（２）Ⅶ－２類（図11－15・16・18、図12－３～11、図13－１～12）

図11－15・16・18は口縁を沈線区画し、15は蕨手状、16は蛇行状沈線、18は鉤手状摩消縄文を施す。図12－３～８は、摩消縄文により文様を描くものである。５は頸部が区画され、胴部が膨らむ器形を呈する。同図９～11は縦位の列点状沈線をもつものである。９・10は蕨手状文が施されている。

図13－１～12は多条沈線で文様が描かれるものである。１・２は頸部を楕円形の沈線で区画し、上向弧状の多条沈線が施されている。１は波頂部から垂下する縦位隆帯がつく。３は小波状口縁の波頂部に縦位多条の弧状沈線と盲孔を起点として、斜位多条沈線が施文されている。４・５は同一個体で、波頂部に上向の重弧状の多条沈線を施し、口縁を２条の沈線で区画している。６は橋状把手を持つもので、頸部に楕円形の沈線区画が認められる。７は沈線で口縁を区画し、縦位に多条沈線により曲線状、弧状の文様を施している。８～12は多条沈線により、曲線状の文様を施す。

（３）Ⅶ－４類（図11－19・20）

19は波状口縁を呈し、単沈線間に半截竹管による刺突が充填される。20は口縁に１条の沈線が施され、縄文地上に２条単位の横位沈線を施し、沈線間に円形刺突を充填している。

（４）Ⅶ群（図11－17、図12－12～14）

Ⅶ－１・２類いずれにも即断できないものをまとめた。図11－17は口縁を沈線で区画する粗製土器である。図12－12は格子状沈線が施される胴部破片である。同図13は波状口縁を呈する壺形土器である。波頂部から４単位の橋状把手が付けられ、把手下端には貫通孔が施されている。同図14はⅦ群と考えられる底部破片である。胴部下端にヘラケズリによる調整がみられ、底部はナデ調整されている。

第７項　Ⅷ・Ⅸ群土器

（１）Ⅷ－１類（図14、図15－１～８、11～19）

図14－１・３は内面に文様を持つ。１・３とも外面にミガキが施され、１は内面に平行沈線の施文後に刻みが加えられる。３は内面に円形状の沈線、平行沈線が施された後に刻み・平行沈線に連結するL字状の沈線が施文されている。同図２・４～11・14・15は地文施文後に平行沈線で横位文様帯を描出する一群である。５は口縁の形状にあわせて山形状の平行沈線が施される。６は平行沈線間に曲線状沈線を施文し、地文を磨り消している。９・14・15も沈線間の地文を磨り消している。同図12・13は地文施文後に横位沈線を１条施している。同図16～25は平行沈線を用いて横位の文様帯を描出した後に横位の文様帯を縦位の沈線で区切る一群である。17は口縁の上端部に縦位沈線が入った山形状の小突起が施され、18は口縁部に円形の突起・刻みが加えられる。19・23は施文してある平行沈線をなぞりながらL字状の沈線を描いている。20～22・25は縦位弧状沈線を施し、24は２条一対の縦位短沈線を施文している。

図15－１は頸部より上位が欠損する小形の壺形土器である。底部から外反しながら立ち上がり、肩が張り肩部に最大径を持つ。頸部から肩部にかけて斜位LR縄文を施し、肩部で横位沈線により文様帯を区画する。文様帯内はト字状に沈線を施し、区画内の縄文を磨り消している。底部には網代痕が確認される。同図２は斜位LR縄文施文後に斜位沈線を加えている。同図３・４は横位沈線の下位に弧状沈線区画、同図５は平行沈線間に刻みが施されている。同図６は沈線で区画され、内部は地文が磨り消されている。同図７は横位・縦位の平行沈線、同図８は弧状沈線が描かれている。同図11は注口土器である。注口部下位に縦位の沈線を施文する。同図12は内外面に、13は内面にミガキが施され、口縁内側に１条の沈線が横走する。同図14～16は内外面にミガキが施され、横位の沈線を加えている。同図18は波状口縁を呈す。同図19は口縁がわずかに肥厚し、内外面にミガキを施している。

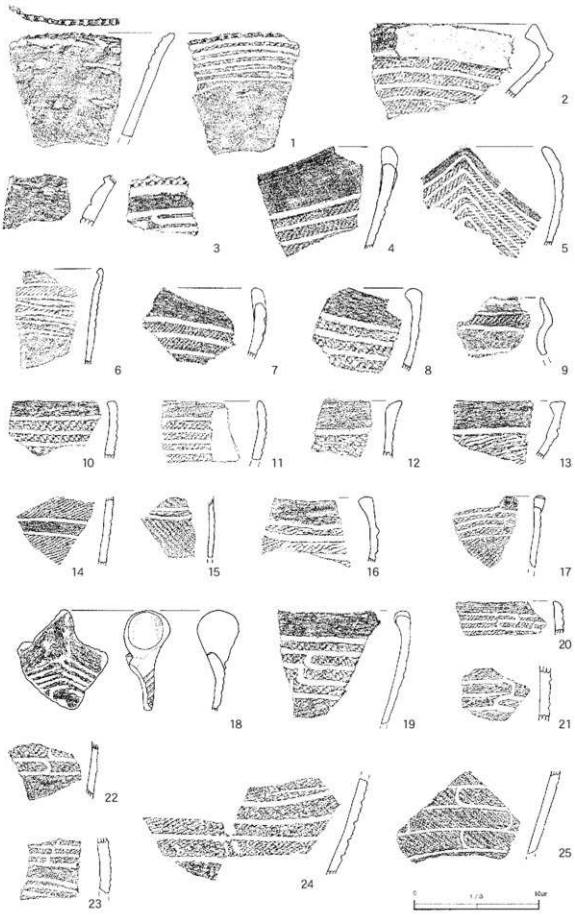


図 14　南台地区遺構外出土土器⑩ Ⅷ群土器

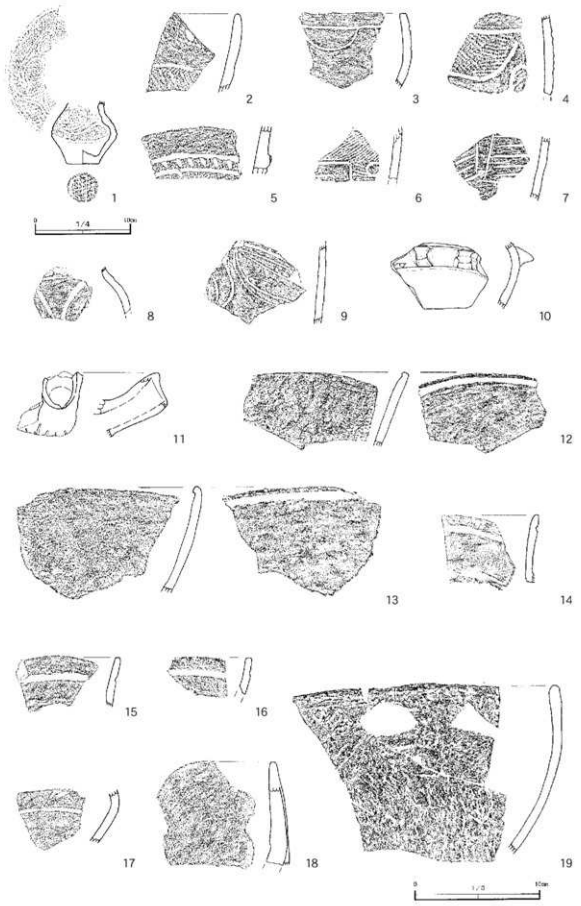


図 15　南台地区遺構外出土土器⑪ Ⅷ群土器

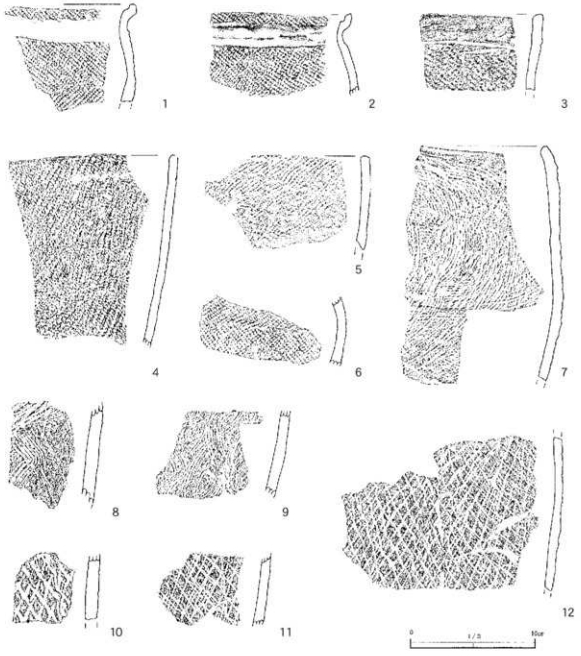


図 16　南台地区遺構外出土土器⑫ X群土器

（2）Ⅷ－2群土器（図15－9・10）

9は弧状沈線により文様が描出されている。10は２個の突起を施した後に平行沈線を横走させ、小さな瘤を貼付けている。

（3）X群土器（図16）

後期中葉～晩期の粗製土器である。１・６は非結束羽状縄文が施文されている。１は頚部の縄文が磨り消され、口縁内側に１条の横位沈線が加えられている。２～５は斜位縄文が施される。２は頚部の縄文が磨り消され、口縁内側に１条の沈線が横走する。３は横位沈線が見られる。７～９は縦位櫛歯条線文が施文される。同図10～12は網目状撚糸文が施されている。11と12は同一個体である。

第３節　台ノ前南貝層貝層外出土土器

第１項　貝層の概要

台ノ前南貝層は集落の中心と考えられる南台地区の東側にあたる東西最大約14m、南北約31mを測る貝層である。確認したトレンチは31・32・37～39・43Tである。貝層を掘り込んで調査したのは、斜面上位にあたる31Tと斜面下位にあたる38・39・43Tである。

貝層中からはⅢ・Ⅳ群を中心とした土器が出土しており、下層に大木５～６式が出土し、大木７ａ式を中心として、大木９式まで認められる。貝層は小規模な貝層が下層に間層をもって確認され、斜面上位は土・土主体層を中心とした堆積、斜面下位に混土貝層の堆積が認められる。

本節では貝層を確認しただけで掘り込んで調査していない32・37Tのほか、貝層は確認していないが、隣接する40Tの出土土器もあわせて掲載した。

第２項　Ⅱ・Ⅲ群土器

（１）Ⅱ群土器（図17－１）

１は胎土に繊維を含み、口縁上端と外面に横位縄文が施文されている。

（２）Ⅲ－１・２類土器（図17－２・３・12）

２は附加条縄文施文地に１条の山形沈線が施されるものである。やや波状であり、１条で施されていることから、Ⅲ－１・２類に伴うものとした。３は口縁下に多条の結節回転文が縄文地に施されるもので、Ⅲ－２類とした。12は胎土に繊維を少量含み、２段の横位沈線間に半截竹管による斜位刺突を施文している。刺突の方向が斜位であり、Ⅲ－１類に位置づけておく。

（３）Ⅲ－３類（図17－４・５）

４・５は口縁に鋸歯状貼付文が施されるものである。４は口縁下が無文で、頸部以下に縄文が施文されている。５は縄文地に２条単位の山形沈線が施される。

（４）Ⅲ－４類（図17－６～11・13～19）

６・７は口縁を無文とし、６は複合口縁を呈している。８・９も同じく口縁を無文とするが、口縁下端に８は三角刻み、９は爪形文を施文する。８は口縁下に爪形文で文様を描き、９は縄文地に平行沈線で山形（波状）文を加えている。10は肥厚口縁に太描沈線で施文している。11は肥厚しない口縁にＬ字状に区画された沈線間に短沈線を充填している。13も口縁破片で、弧状沈線や沈線間に短沈線が施されている。

14～19は金魚鉢形の器形を呈すると考えられるものである。14は胴部上半に太描沈線で文様が施されている。15は頸部屈曲部にあたり、横位に沈線区画し、縦位刻みが施文される。16は爪形文で文様を描き、17～19は沈線で文様を描いた後、沈線の片側に爪形文を沿わせている。

（５）Ⅲ－６類（図17－20～24）

20・21は同一個体で、横位に多条の有節沈線が施されている。22は縦位沈線間に斜位沈線を雑に充填するように施文している。23は変形爪形文が横位に施文されるものである。24は櫛歯状の工具による斜位・横位沈線が施されている。

（６）Ⅲ－５類（図17－25～29）

26は附加条１種、25・27・28は横位縄文、29は横位・縦位に縄文が施文される。25・27は波状口縁を呈する。28は棒状工具による刻みが施されている。

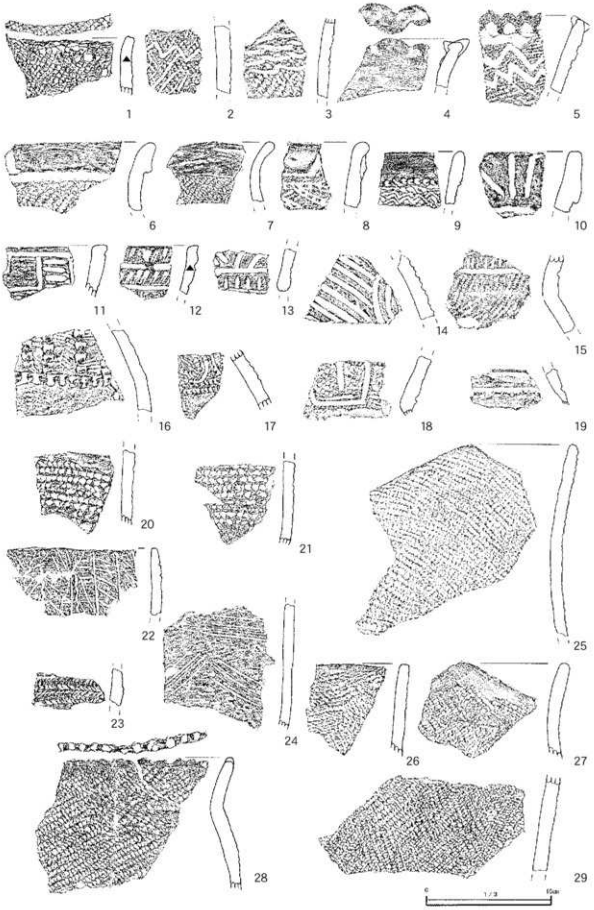


図 17　台ノ前南貝層貝層外出土土器① Ⅱ・Ⅲ群土器

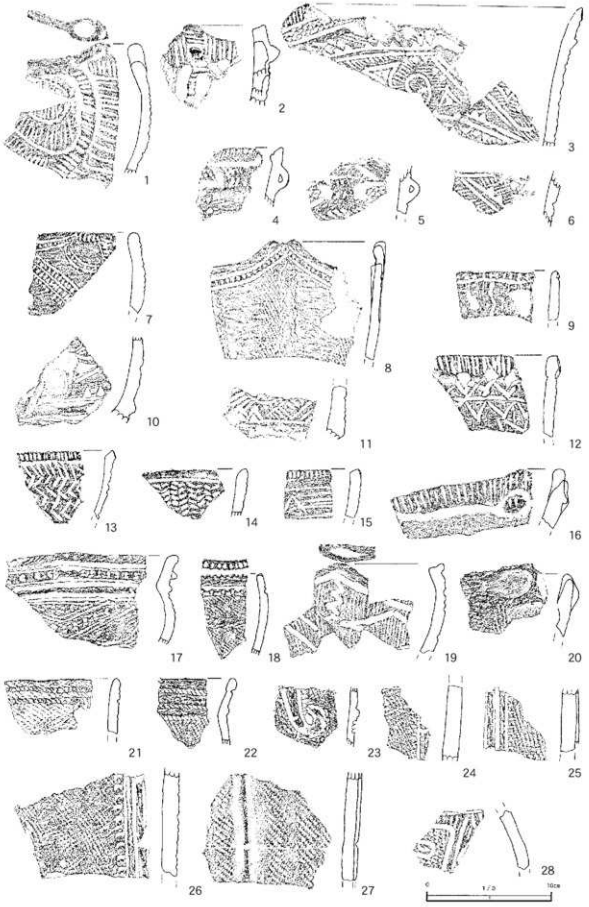


図 18　台ノ前南貝層貝層外出土土器② Ⅳ群土器

第３項　Ⅳ群土器

（１）Ⅳ－１類（図18－１～19）

１は波状口縁を呈し、口縁が内湾する器形である。波頂部に隆帯を貼り付けた突起を有する。縦位の刻み付弧状隆帯を施文した後、渦巻状沈線を描き、波頂部下に沈線が充填される。渦巻状沈線間に施される梯子状短沈線はやや乱雑に間隔をあけて施文されている。２は口縁に刻み付隆帯を貼付けている。口縁上端の突起部から口縁部にかけて縦位に刻み付隆帯が施され、隆帯の下端に瘤状突起を有する。瘤状突起からは逆Ｕ字状の隆帯が垂下している。

３～６は同一個体である。波状口縁を呈し、口縁は直線的に外反する。４・５には口縁下に橋状把手が見られる。口縁に刻み付隆帯を施し、口縁下の沈線間にＤ字形刺突列を施す。その下端を隆沈線で区画し、斜位多条沈線を充填した後、交互に三角刺突列が加えられている。胴部は斜位・渦巻状の沈線が描かれ、梯子状短沈線と三角刺突を加えて玉付三叉文を描いている。

７～９・11は梯子状短沈線が施文されている。７は斜位・弧状、８・９は口縁に沿って施されている。８は波状口縁で直線的に開く器形を呈する。９は縦位に山形波状沈線も施文されている。11は玉付三叉文を描くものとみられる。10は口縁が内湾する器形で、頸部を隆沈線で区画し、剥離が激しいが沈線と三角刺突で玉付三叉文を描くと考えられる。

12～15は短沈線により多段の山形文・矢羽状文を描くものである。12は口縁に刻み付隆帯を貼付け、下端に三角刻みが加えられる。13も口縁部に刻み付隆帯を施すが、14は口縁部を無文としている。15は口縁に隆帯はないが、縦位刻みがつき、横位多条沈線を施した上に山形沈線を描いている。16は口縁に刻み付隆帯を施し、山形状小突起を施した隆帯下端に瘤状貼付文が付けられている。

17は頸部で屈曲し、口縁は短く外反、胴部上半が膨らむ器形を呈している。口縁に縄文を施した隆帯を貼り付けている。頸部を隆帯で区画し、口縁下と胴部に横位・斜位の平行沈線で文様を描いている。平行沈線間には半截竹管による２条の刺突列が充填されている。18は口縁が内湾する器形を呈し、口縁上端に刻み、口縁下に横位沈線と交互刺突文が施される。19は内湾する波状口縁である。波頂部は隆帯が貼り付けられ、半截竹管による多条沈線地に単沈線による斜位、縦位山形文が施文されている。

（２）Ⅳ－２類（図18－20～28、図19－４）

図18－20は小波状口縁を呈し、横位弧状隆帯を貼り付けるものである。同図21・22は口縁に横位縄圧痕文を施すものである。21は縄文地に施され、端部が渦巻状を呈している。22は肥厚する無文の口縁に施文されている。同図23は縄文地に蕨手状の隆線を施し、隆線に沿い有節沈線が加えられる。同図24～25は同一個体の可能性があり、縦位隆線・平行沈線とそれに沿う爪形文が施されている。同図27は断面三角の隆線が縄文地に施されている。同図28は沈線により、方形または三角形に区画し、区画内に曲線状の文様を描くものとみられる。

図19－４は波状口縁を呈し、波頂部が逆Ｕ字形にくぼみ、波頂部のみ口縁上端に押捺が施される。外面は縦位に縄文が施文され、口縁内面には明瞭な段を持つ。

（３）Ⅳ－４類（図19－１～３・５～９）

３以外は縦位結節回転文が施文されている。６・９は附加条１種、７は羽状縄文を整った形で施文している。３は縦位の弧状隆帯があり、縄文が認められないが、２・８と同様に頸部を押捺付隆帯で区画することから本類に含めた。５は頸部を縦位刻み付隆帯で区画している。

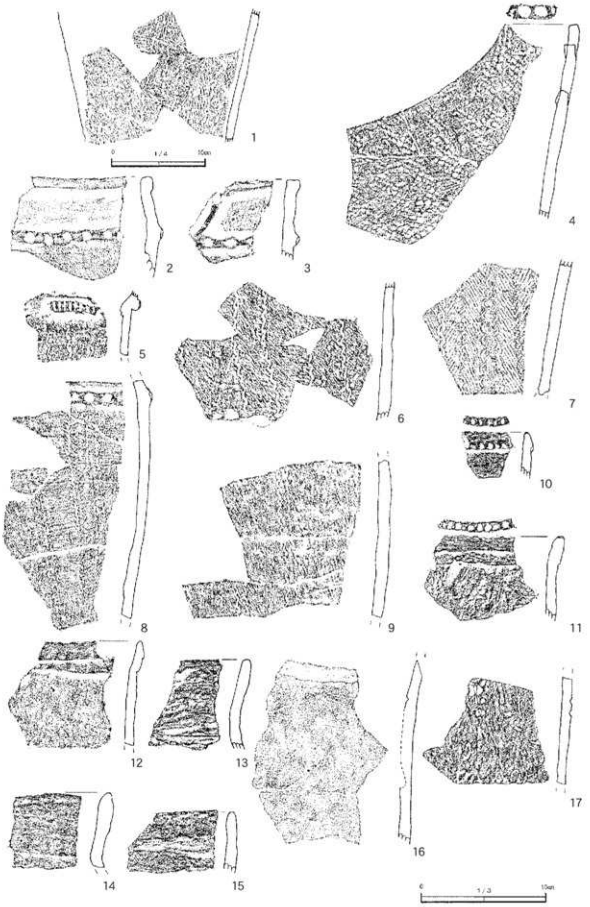


図19　台ノ前南貝層貝層外出土土器③ Ⅳ群土器

図 20　台ノ前南貝層貝層外出土土器④ Ⅴ・Ⅵ群土器

（4）Ⅳ－4類（図19－10～17）

10は複合口縁を呈し、口縁上端と下端に半截竹管による刺突を施すものである。11・12は口縁に輪積痕を残すものである。11は口縁上端に半截竹管による刻みを施しているが、12は先端を尖らせるように調整している。13～15は口縁破片である。13は口縁上端が平坦、14・15は丸い断面形を呈している。また、13・14は頸部でゆるく外反し、直立する形態であり、15はゆるく内湾する。16は胴部破片である。17は部分的に半截竹管による刺突が縦位に施文されている。

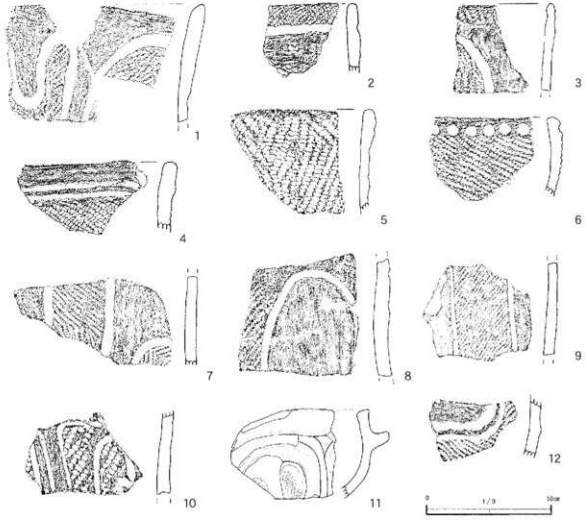


図21　台ノ前南貝層貝層外出土土器⑤ Ⅵ群土器

第４項　Ⅴ群土器

（１）Ⅴ－１類（図20－１～４）

１は口縁に隆帯を貼付けて区画し、区画内に有節沈線を施す。口縁上端には貼付文を施した突起を有し、頸部を隆帯区画している。２は隆沈線により方形区画するもの、３は隆沈線による曲線状文、４は平行沈線による横位・斜位の文様を描く。

（２）Ⅴ－２類（図20－５～12）

５は内湾する口縁でキャリパー状の器形を呈するものである。横位の隆沈線が施されている。６も同様の器形で渦巻文が施文されており、楕円形の区画を施す。12も同様の器形を呈し、隆線で文様が描かれている。７は渦巻文をもつ突起、８・９も渦巻状の隆線・隆沈線が施されている。10・11は胴部破片で、10は隆線、11は平行沈線で文様を描いている。

第５項　Ⅵ群土器

（１）Ⅵ－１類（図20－13～24、図21－７～10）

図20－13～16・19・20は内湾する口縁でキャリパー状の器形を呈するものである。口縁は楕円形区画（14～16）や渦巻文（13・16）が施される。15・16の胴部の帯状文は上位が閉じず、開放している。19は弧状の文様を施す。20は口縁を沈線区画し、縦位の帯状文が施されるものと見られる。同図17は胴部が膨らみ、頸部に横方向の突起をもつ。同図18は口縁に横位の橋状把手を有している。いずれも文様は沈線による帯状文である。同図21・22は口縁が外反して開く器形であり、逆Ｕ字状の文様を描くものと考えられる。同図23・24は２本１対の隆線・隆沈線で連結渦巻文を描くものである。

図21－７～10は胴部破片で、縦位の帯状文・逆Ｕ字状文を施している。

（２）Ⅵ－２類（図21－１～３・11・12）

１は曲線状の文様が描かれている。２・３は口縁が直線的に開くものであり、口縁に横位縄文帯を有している。11は浅鉢で内湾する口縁部である。断面三角の隆線で文様を描き、内外面に丁寧なミガキが施され、外面は赤彩が残る。12は断面三角の隆線で区画された無文帯で文様を描くものである。

（３）Ⅵ群（図21－４～６）

４は断面三角の隆線により口縁を区画する。５は単斜縄文が施文されるもので、本群に伴う可能性が高い。６は口縁に円形刺突列が施されている。

第７項　Ⅶ・Ⅹ群土器

（１）Ⅶ－１類（図22－１～６）

１～３は口縁を隆帯で区画している。１は縦位隆帯がつけられる。４は波頂部に「の」字状隆帯を貼付けている。５は口縁が内屈する波状口縁であり、波頂部に対向する弧状沈線、内面に盲孔を施す。６は口縁の沈線による楕円形区画内にＤ字形の刺突列を施すものである。縦位隆帯もわずかに認められる。

（２）Ⅶ－２類（図22－７～23）

７は口縁突起をもち、突起上端に環状の隆帯を貼り付けている。突起の内外面に沈線と盲孔が施され、胴部は対向する弧状の多条沈線が施文される。８も突起が付く口縁破片で橋状把手と多条沈線が施される。９も波状口縁を呈し、波頂部に貫通孔と盲孔が施されている。10・11・13は口縁が沈線区画されるものである。12は頸部を沈線による楕円文で区画している。

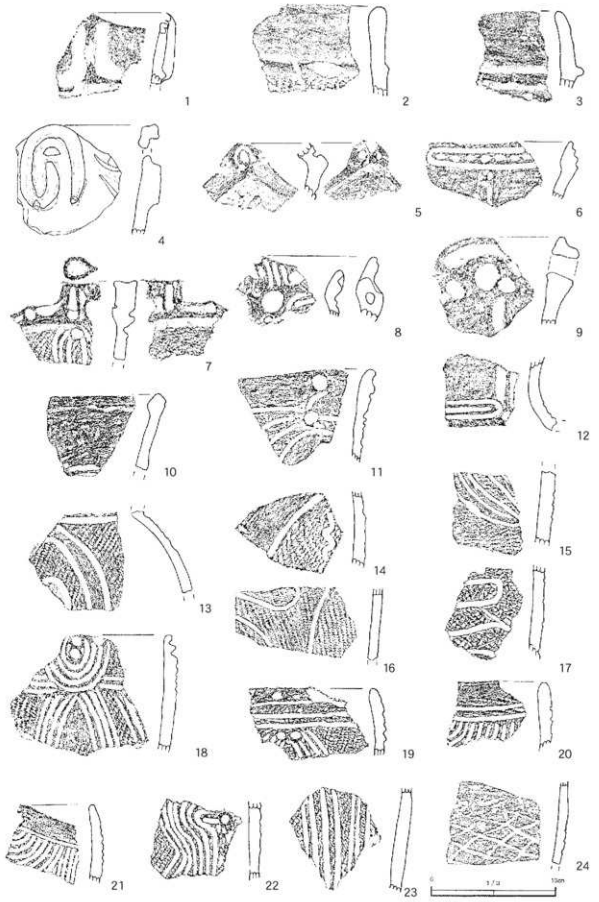


図22　台ノ前南貝層貝層外出土土器⑥ Ⅶ・Ⅹ群土器

14は弧状の沈線区画内に縦位の蛇行状沈線が施されている。15～17は曲線状の沈線が縄文地上に施されるものである。18～20は多条沈線により口縁を区画するものである。18は上向の重弧状文の中央に盲孔を施している。18・19の胴部文様は多条沈線により対向する弧状文を描いている。20・21は口縁区画下に上向の重弧状文を施す。22は円形浮文と縦位隆帯を基点にΩ状の文様を多条沈線で施している。23は縦位の多条沈線を描く。

（３）Ⅸ群（図21－24）

24は網目状撚糸文が施文されている。

第４節　台ノ前北貝層貝層外出土土器

第１項　貝層の概要

台ノ前北貝層は、集落の中心とされる南台地区の東側にあたる東西最大約15m、南北約47mを測る貝層である。確認したトレンチは、53・54・63・67Ｔである。平面的な検出状況では、54・63Ｔで混貝土層と土主体層が互層となっており、53Ｔでは混貝土層、67Ｔでは土層が中心である。貝層を掘り込んで調査を行ったのは、斜面下位の54Ｔであり、63Ｔでは上層の一部のみ掘り下げて調査を行った。

46Ｔ、54Ｔ東側、56～58Ｔでは貝層は確認されなかったが、二次体積と考えられる混貝土層が確認されており、貝層の下端は破壊された部分が多いと推定される。特に46Ｔ、56Ｔ、58ＴではⅡ層中に多量の貝等の動物遺体が確認されている。本節では、ここからの出土土器もあわせて掲載した。

台ノ前南貝層と同じく、斜面上位は土・土主体層を中心とした堆積、斜面下位に混土貝層の堆積が認められ、貝層中からはⅢ・Ⅳ群を中心とした土器が出土している。

斜面上位の53Ｔ東で大木３～４式の出土がみられることから、この段階が貝層の形成初期段階として捉えられる。斜面下位では大木６～７ｂ式を中心として、大木８ａ式まで貝層が形成されたと考えられている。

第２項　Ⅱ・Ⅲ群土器

（１）Ⅱ群土器（図23－１～11）

１～11は胎土に繊維を含む。１は口縁に山形状小突起を配し、多段のループ文が施文される。２は多条沈線により鋸歯状文を施す。口縁上端には刻み、文様帯下に横位の刺突列が加えられている。４は頸部が屈曲する器形で上位に多条斜位平行沈線を施し、屈曲部に半截竹管による刺突が加えられている。３・６・８・９は非結束羽状縄文が施されている。３は口縁上端に縄圧痕による刻み、口縁下に横位の刺突列が施される。６も口縁に横位刺突列が施されている。

（２）Ⅲ－１・２類（図23－12～20、図25－29）

図23－12・13はⅢ－１類である。12は縄文地に縦位木葉文と思われる縦位弧状の平行沈線を描く。13も縄文地に平行沈線により横位の連結木葉文を施文している。

図23－14～19はⅢ－２類である。14は口縁上端に刻みを施し、口縁に２条の刺突列が施される。15は波状・横位の貼付文が付けられている。16～19は口縁を無文とするもので、16・18・19は口縁下に多条の横位結節回転文が施される。口縁上端は16が刺突、17～19は押捺が施されている。

同図20は鋸歯状の貼付文が口縁に部分的につけられている。鋸歯状貼付文の幅が狭く、口縁下に結節回転文が認められることから、本類に含めておく。図25－29は縄文地に横位多条の爪形文を施し、その上に渦巻状貼付文を施している。

（３）Ⅲ－３類（図23－21～34、図24－１～11）

図23－21は縄文地上に半截竹管による刺突が施されている。小破片であることから、全体は不明であり、次段階の可能性もある。同図22～26は胴部に山形・幾何学状の貼付文が施されるものである。22は口縁に環状貼付文、23・24は鋸歯状貼付文がつけられている。26は内湾して立ち上がる波状口縁で、波頂部に貫通孔があり、その周囲に剥離痕がみられ、環状の貼付文がつけられていたとみられる。波頂部から垂下する菱形・三角形状の貼付文が施される。同図27は口縁に縄文施文した鋸歯状貼付文がつき、頸部に２条の半截竹管による刺突列が加えられている。同図28は複合口縁の上端を棒状工具による刻み、下端を半截竹管による刻みを施し、口縁下に円形竹管による刺突が施文されている。

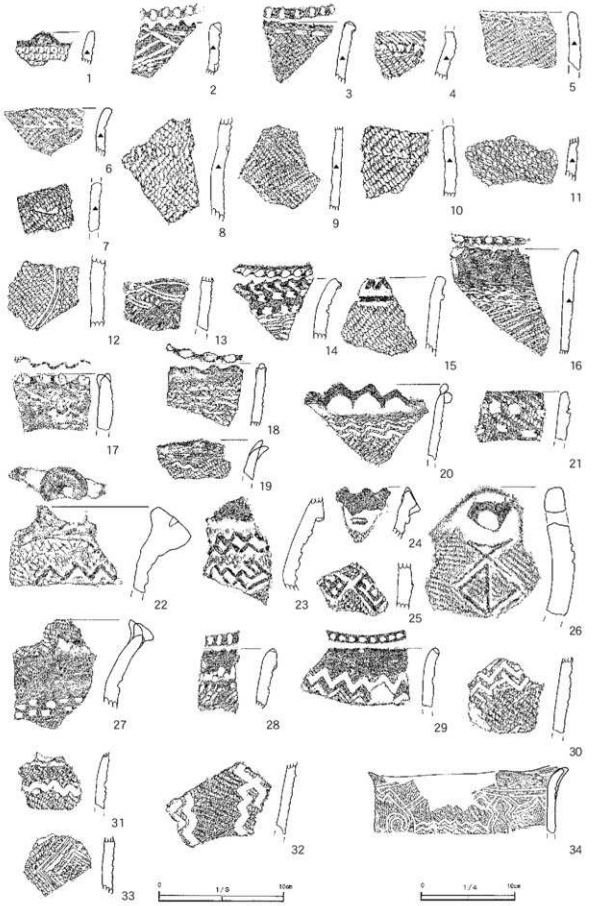


図 23　台ノ前北貝層貝層外出土土器① Ⅱ・Ⅲ群土器

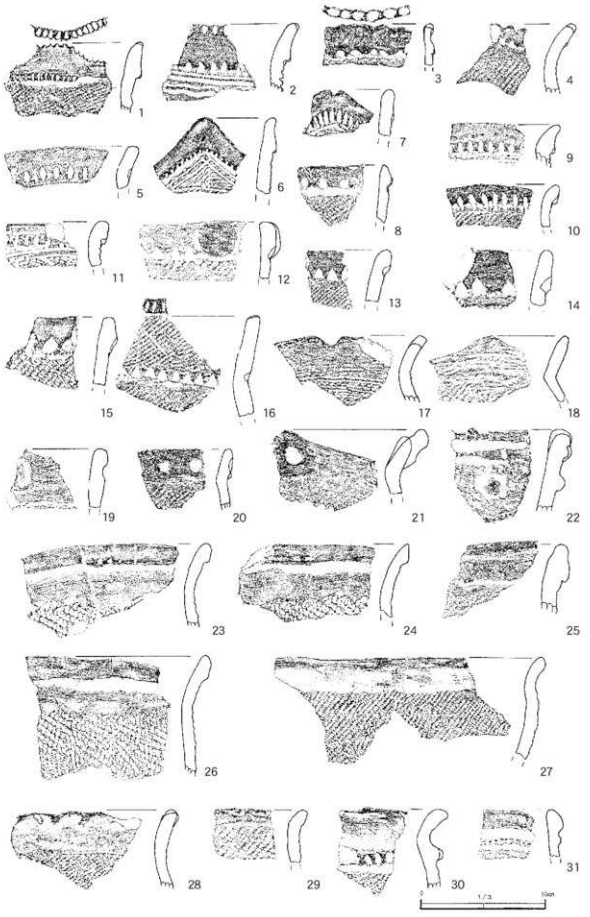


図 24　台ノ前北貝層貝層外出土土器② Ⅲ群土器

同図29～34は沈線により文様を描くものである。29～32は縦位・横位の山形文、33は菱形状の文様が描かれている。29は口縁上端に半截竹管による刺突が施される。34はゆるい波状口縁を呈し、口縁がわずかに外反する器形を呈する。口縁を２条単位の弧状沈線で区画し、横位・縦位・渦巻状などの２条単位の沈線による幾何学的な文様が描かれている。

図24－１～11は口縁の上下端または下端に押捺、刻みを施すものである。１は半円状の突起がつけられている。４は口縁上端押捺、下端三角刻みを施し、鋸歯状貼付文に近い形状を呈している。５は複合口縁を呈さず、下端のみに刻みが認められる。２・11は口縁下に横位の平行沈線による文様が描かれる。６・７は口縁下に口縁に沿った平行沈線が施される波状口縁である。

（４）Ⅲ－４類（図24－12～31、図25－１～29、図26－１～23）

図24－12～16は口縁下端に三角刻みを施すものである。12は口縁に円形貼付文を加えている。13～15は口縁が無文である。16は口縁上端に刻みを施し、胴部と同じく口縁にも横位LR縄文が施文されている。同図17・18は波状口縁で、口縁が無文である。17は口縁下の縄文地に横位平行沈線を施す。同図19～21は口縁が肥厚し、貼付文と盲孔または貼付文に沿う凹みが施されるものである。19は頚部を爪形文で区画する。同図22は口縁上端に貼付文、口縁下に横位隆帯を施し、瘤状貼付文が加えられている。

同図23～29は口縁に無文部を有し、胴部以下に縄文を施文するものである。23・24・26は同一個体で複合口縁を呈する。25は肥厚して輪積痕を残したような複合口縁である。27は口縁がわずかに外反し、胴部上位が膨らむ器形である。28は指頭によるゆるやかな交互押捺が施されている。同図30・31は口縁に無文部、頚部に横位隆帯をもつもので、隆帯上に30は縦位刻み、31は爪形文が施文されている。

図25－１～６は口縁に無文部を有し、口縁下に沈線等により文様を施すものである。１・２は波状口縁で、口縁下に平行沈線による波状文を施文している。３・４は口縁下に横位爪形文、５は横位刺突列と斜位平行沈線を施している。６は平行沈線で文様を施すもので、上下を区画し、区画内に弧状・山形文を描き、区画線上にボタン状貼付文を加えている。同図７は爪形文で頚部を区画する。

同図８～10は口縁に縦位の沈線を施すものである。８は複合口縁を呈し、10は文様帯下端を横区画する。同図11は隆帯で弧状の文様を施すものである。同図12・13は頚部を横位沈線で区画し、２条単位の沈線で山形文を描く。12は盲孔も加えられる。同図14は太描多条沈線を口縁に施し、頚部にD字形刺突を加えた隆帯で区画している。

同図15～17は口縁部に縄圧痕文で文様を描くものである。15は口縁上端に瘤状貼付文と山形状突起をつけ、肥厚口縁に下向連弧状の文様を描いている。頚部は２条の爪形文で区画されている。16は口縁に沿って縄圧痕文がつけられ、頚部には刺突列が施される。17は波状口縁の波頂部で上端に刻みが施され、斜位の縄圧痕文が施文される。

同図18・19は有節沈線で文様を描くものである。18は頚部を無文の隆帯とそれに沿う有節沈線で区画し、口縁に有節沈線による多条山形文を施文する。19は頚部を爪形文で区画し、口縁部に有節沈線による文様を描く。

同図20～28は刺突・爪形文で文様を描くものである。20は縄文地に爪形文が間隔をあけて横位施文される。21は波状口縁で、波頂部に環状貼付文をつけ、その周囲に沈線と爪形文を施文する。22は内湾する口縁を横位沈線と刺突で区画し、刺突列で文様を描いている。23は口縁に台形状突起を付け、無文地の肥厚口縁に円形竹管文を施文している。突起部は円形竹管文が円形に施される。24は口縁に

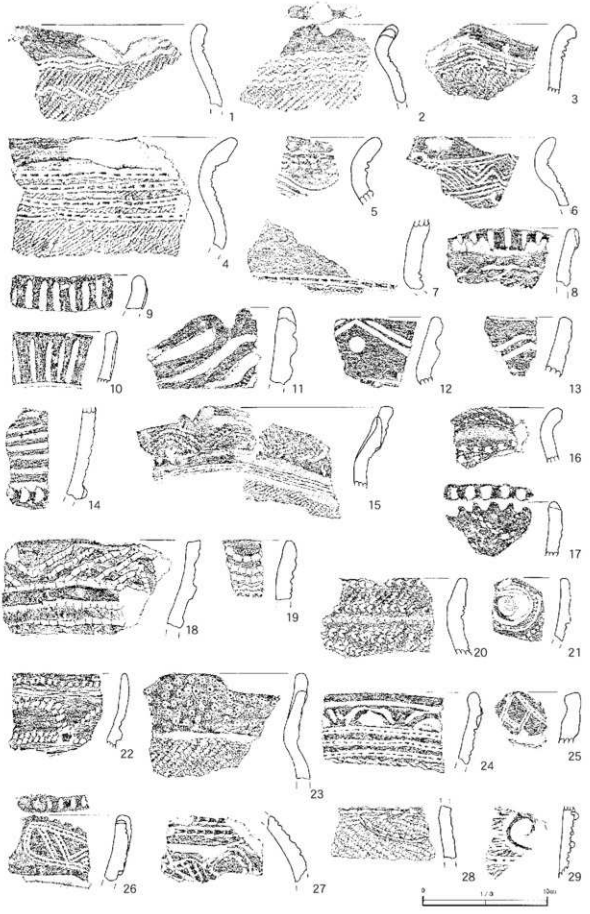


図 25　台ノ前北貝層貝層外出土土器③ Ⅲ群土器

図 26　台ノ前北貝層貝層外出土土器④ Ⅲ群土器

連弧状の隆沈線を施し、その下部は削りだされた調整をしている。その下端に横位多条の爪形文を施文している。25・26は肥厚する口縁に爪形文で文様を描くものである。27・28は胴部破片で、27は無文地に、28は縄文地に爪形文で文様を描いている。

図26－１～３は沈線と沈線に沿う爪形文が施されるものである。１は縦位隆帯を貼付け、縦位山形文を施す。２は肥厚口縁にボタン状貼付文を加えた縦位隆帯を貼付けて、口縁部に沈線と沈線に沿う

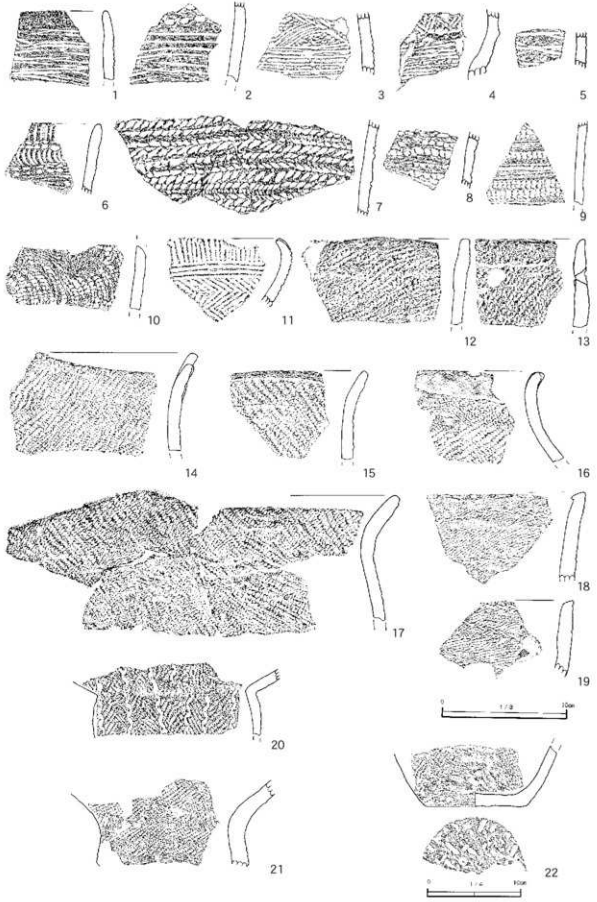


図 27　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑤ Ⅲ群土器

爪形文が施される。頸部は爪形文で区画している。３は沈線と沈線に沿う爪形文で区画し、区画内にボタン状貼付文が施されている。同図４・５は結節浮線文で文様を描いている。

同図６～９は縄文地に単沈線で文様を施すものである。６は口縁に方形の区画文を配する。７は頸部を沈線区画し、２条単位の沈線で口縁が上向弧状文、胴部に山形文を施文する。８は渦巻状・弧状の文様を施し、９は胴部上半に縦位区画された中に斜位短沈線を充填している。同図10・11は頸部を斜位刻み付隆帯で区画する。いずれも頸部で緩やかに外反し、胴部中位が膨らむ器形を呈し、口縁～頸部は斜位の沈線文が施されている。10の胴部には横位の豆粒状貼付文を基点として縦位菱形文・波状文を縄文地上に描いている。

同図12～17は無文地で肥厚しない口縁に単沈線による文様を描くものである。13・14は口縁上端に隆帯を貼り付ける。描かれる文様は、横位沈線と波状文（12）のほか、爪形文（13）、連弧状文（14・15）、縦位多条沈線（13・16・17）、山形文（14・15・17）がある。17は口縁を区画する沈線間に刻みを施している。同図18・19は平行沈線で山形文が施される。18は上位を爪形文で、19は上位を刻み付隆帯で区画する。同図20～23はソーメン状貼付文が施されるものである。20は口縁内面に隆帯を貼り付けており、21は口縁外面にＬ字状隆帯、22・23は頸部に横位隆帯がつけられる。貼付文の文様は連続菱形文（20）、山形文（21・22）、格子状文（23）がある。

（５）Ⅲ－６類（図27－１～11）

１～４は多条の平行沈線が施されるものである。２は多条の刺突列が伴い、３は弧状の多条平行沈線間に半截竹管による刺突を充填する。４は屈曲部を隆帯区画し、上位に山形平行沈線を描く。５は小破片であるが、連結木葉文を描くものとみられる。

６・７は変形爪形文と刺突列が交互に配されている。８は横位多条の有節沈線、９は横位多条有節沈線と多条の平行沈線を交互に施文している。10は縦位波状の貝殻腹縁文が施される。11は口縁にソーメン状貼付文を縦位に貼付け、横位・矢羽状の整った半隆起線が施される。

（６）Ⅲ－５類（図27－12～22）

12～17は横位に縄文を施文するものである。14・17は波状口縁で、17は頸部で緩やかに外反し、胴部が膨らむ器形を呈する。15・16は口縁に無文部を残す。18・19は横位に施文され、結節回転文が伴うものである。20・21は金魚鉢形の器形を呈するもので、20は縦位羽状縄文・結節回転文、21は横位LR縄文を施文する。22は底部に網代痕を残す。

第３項　Ⅳ群土器

（１）Ⅳ－１類（図28－１～31、図29－１、図30－１～３）

図28－１～４・７は梯子状短沈線で文様を描くものである。１は口縁内面に隆帯を貼り付け、口縁上端に刻みを施す。内湾する器形であり、斜位・弧状の沈線により、文様を描く。２～４も内湾する器形であるが、梯子状短沈線はやや雑な施文であり、渦巻文、斜位沈線も整っていない。３は４と同一個体である。７は直線的に開く器形で、口縁下を横位沈線区画し、三角刻み列が伴う。胴部上位は斜位沈線により三角形状の区画をなし、その区画から縦位に垂下する文様を描く。垂下文には沈線に沿って三角刻みが施される。

同図５～13は縦位刻みを持つ。５は１と同じく、沈線区画された口縁と頸部隆帯に縦位刻みが施されている。口縁部は斜位・弧状沈線を施した後、横位多条の短沈線が余白部に充填される。６は波状口縁を呈し、波底部に縦位、波頂部に渦巻状の刻み付隆帯を施す。口縁部は斜位・弧状・三角形状に

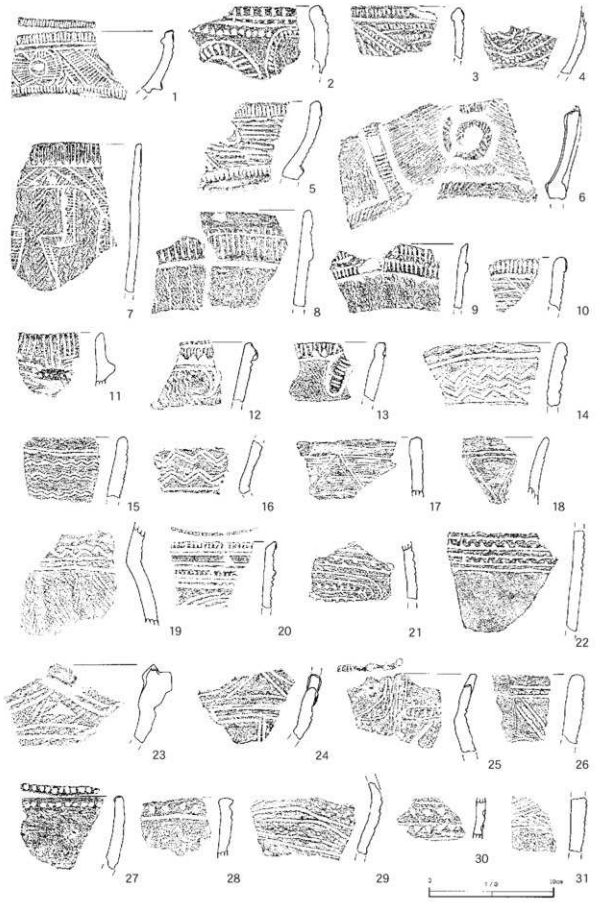


図 28　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑥ Ⅳ群土器

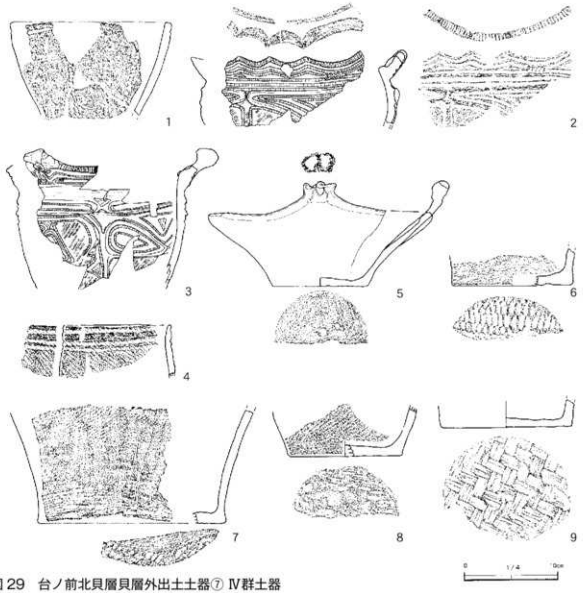


図 29　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑦ Ⅳ群土器

多条沈線を施し、余白部に刺突を充填している。８は口縁下に幅広の隆帯を施し、横位沈線で区画するものである。９は口縁と頚部に刻み付隆帯を貼付け、隆帯間に棒状工具による刺突を充填する。10は口縁部に横位多条沈線を施文した後、斜位沈線を施している。同様の文様は同図17にもみられる。11は口縁下に瘤状貼付文を施し、横位多条沈線間に交互刺突が加えられている。12・13は口縁の隆帯下に三角刻みを施し、12は曲線状沈線の垂下文、13はハの字状の隆帯が施されている。

同図14～16は口縁の上下を沈線区画後、多段の山形・波状沈線を施文するものである。同図18も無文地に平行沈線で文様を描く。同図19は頚部を横位・波状の沈線で区画している。同図20は口縁と頚部に隆帯を持ち、それに沿う平行沈線が施されている。胴部は弧状の多条沈線が施され、上位区画の交点に交互刺突がみられる。同図23は波状口縁で波頂部に帯状の突起を有する。２条単位の沈線により口縁に沿った三角形区画をなし、中央に三角刺突を施す。

同図21・22・24～31は無文地に沈線と刺突（刻み）が施されるものである。21・22は横位沈線間に交互刺突文を施している。24は波状口縁を呈し、23と同様に波頂部は三角形区画をなす。沈線間には円形竹管文が施文され、頚部を沈線区画し、胴部に沈線が垂下している。25・26・30は沈線間に刺突

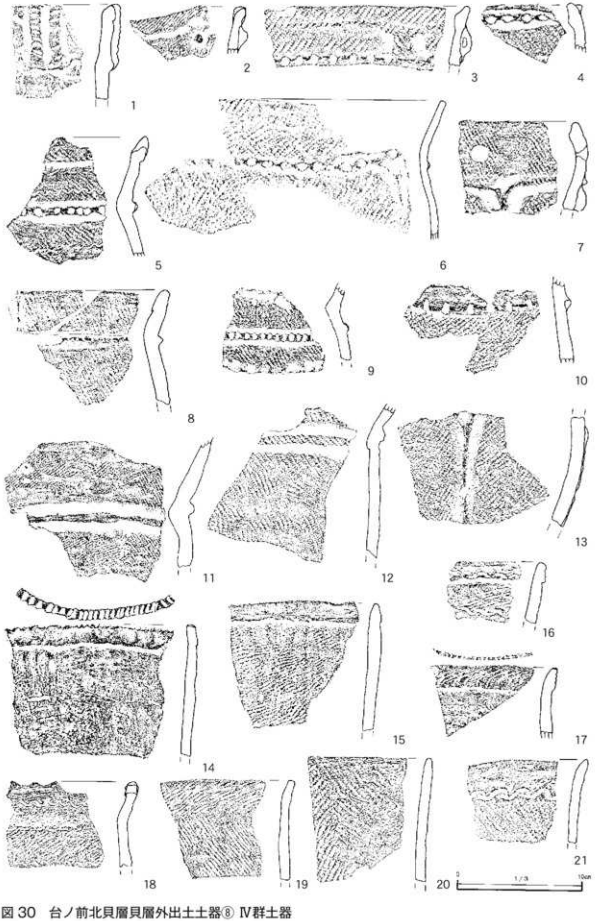


図 30　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑧ Ⅳ群土器

が施されるもので、25・30は三角刺突、26は円形竹管文である。25の文様は口縁上端の突起に対応した文様構成となっている。27・28は口縁部に刺突列が施され、28は口縁を沈線で区画する。29は沈線間に円形竹管文が充填されるもの、31は鋸歯状の沈線と円形刺突が施文されている。

図29－１も無文地に沈線と刺突が施される。やや内湾ぎみに立ち上がる器形で、口縁を沈線区画し、横位・縦位の刺突列を施文している。

図30－１は口縁に縦位の２条の棒状隆帯が付けられる。同図２は複合口縁を呈し、小波状口縁の波頂部下に瘤状貼付文が付けられる。同図３は口縁に橋状把手が付けられ、頸部を刻み付隆線で区画している。

（２）Ⅳ－４類（図29－７・８、図30－４～21）

図29－７・８は底部に網代痕を残し、横位縄文を施す。

図30－４は口縁に刻み付隆線が付けられる。同図５～12は頸部を区画する隆線が付けられている。隆線には刻み付隆線のもの（５・６・９・10）、縄文が施文されるもの（12）、素文のもの（８・11）がある。５は複合口縁に山形状小突起が付き、８は口縁に縦位隆線が施されている。６・７や同図13の様にＹ字状隆線が垂下するものもある。

同図14～17は複合口縁を呈するものである。14・15は複合口縁で、口縁が無文である。14はわずかに胴部に附加条施文が認められ、口縁上端は刻みが施される。17も口縁上端に刻みを施し、附加条縄文が口縁は横位に、胴部は縦位に施文されている。同図18は山形状小突起が口縁に付けられる。同図19～21は素口縁を呈する。19は口縁と胴部で施文方向を変える。21は口縁無文で、口縁下に結節回転文が１条施される。

（３）Ⅳ－２類（図29－２～４、図31－１～24、図32－１～13）

図29－２・３は隆線・有節沈線で文様を描き、口縁上端に刻みが施され、頸部または胴部上位に楕円形の区画文を持つものである。２は波状口縁を呈し、中位が膨らんだ胴部が頸部で屈曲し、短く外反する器形を呈する。口縁に２条の有節沈線が沿い、波底部は途切れて斜位刺突列がみられる。頸部は横位３条の有節沈線を施し、楕円・三角形（弧状）・縦位に有節沈線で区画している。地文は横位縄文である。内面は沈線がめぐり、三角印刻文が施される。３も波状口縁を呈し、波頂部に環状の貼付文が付けられる。口縁は三角形区画を有節沈線で施し、区画内に三角刺突が加えられる。頸部に無文帯を有する。胴部は縄文地に隆線・有節沈線により文様が描かれる。上位に横位楕円形区画を配し、中～下位は方形・弧状・三角形に区画され、区画内や交点に三角刺突を加えている。

図31－１・２は同一個体の可能性がある。波状口縁を呈し、波頂部がＵ字状を呈し、上端に刻みをもつ。口縁下を下向連弧状の隆線・沈線で区画し、中央に刺突を配した円形文が描かれる。口縁に沿って交互刺突文が配され、波頂部を三角形状に区画している。同図３・４は同一個体で口縁が内湾する器形を呈する。隆線と沈線で口縁を三角形に、頸部を横区画している。

同図５は曲線状の文様を有節沈線で描き、棒状工具による刺突が加えられている。同図６・７も縄文地に有節沈線が施されるもので、６は隆線とともに口縁下を区画し、７は多条となって曲線状の文様を描いている。同図９は直線的な胴部と内湾する口縁を呈する器形で、頸部を爪形文付隆線とそれに沿う爪形文で区画し、口縁を爪形文で方形区画する。

同図８・10は沈線で連弧状文を描くものである。８は口縁に渦巻状突起がつき、上下に対向する連弧状文を配している。10は口縁が内湾し、波状口縁を呈す。波底部の上端には押捺が施され、口縁に

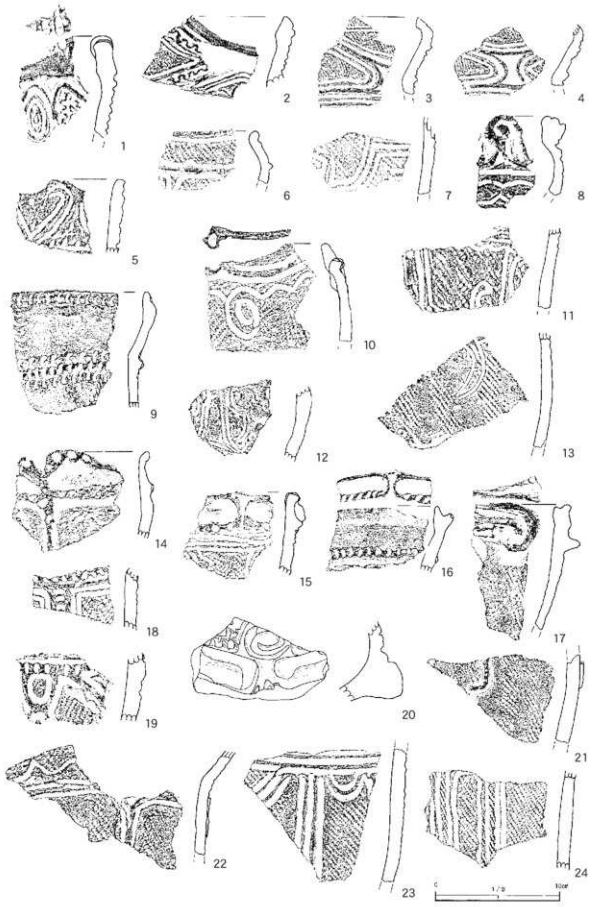


図 31　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑨ Ⅳ群土器

沿った隆線・沈線の下に縦長の渦巻文と連弧状文を施文している。同図11～13は曲線状の文様が施されるもので、11・13は胴部破片、12は内湾する口縁部である。11は縦位隆線で区画され、胴部上位を多条の沈線、波状文を施して方形の区画をなし、区画内に曲線状の文様が配される。12は２条単位の沈線で無文地に文様を施文し、13は縦位に垂下する文様を縄文地に施す。

同図14～16は口縁に隆線により楕円状の区画を施すものである。14は断面三角の隆線が胴部に垂下する。15は口縁下を多条沈線で区画し、縄文地に曲線状の文様が施されている。16は縄圧痕による刻み付隆線で頸部を区画している。同図17は渦巻状隆帯が口縁に付けられるものである。

同図18は隆線・沈線・爪形文で方形区画をなす。19は刻み付隆線で横区画し、縦位に楕円文や弧状文が施される。20は浅鉢の口縁破片である。口縁下端に横位楕円状に隆帯を付ける。楕円文の交点部に対応して上位の口縁部に渦巻沈線を施し、その横に横位の交互刺突文を施している。

同図21～24は隆線と沈線で文様を描くものである。21は縦位にクランク状の文様が垂下するもので、隆線に浅い沈線が沿う。22は底部から直線的に立ち上がりが頸部で屈曲する器形である。頸部に波状沈線を配し、Ｙ字状隆線とそれに沿う沈線で胴部を区画する。23も同様の器形と考えられ、頸部を多条の隆線・沈線で横区画し、縦位垂下文と区画に接する上向連弧状文を施文している。24は縄圧痕文施文の隆線と沈線が垂下するもので、縦位楕円状の区画を呈するとみられる。

図29－４、図32－１～８は縄圧痕文を施文するものである。図29－４は胴部に最大形をもつ器形で無文地の口縁に３条の横位縄圧痕文を施文する。

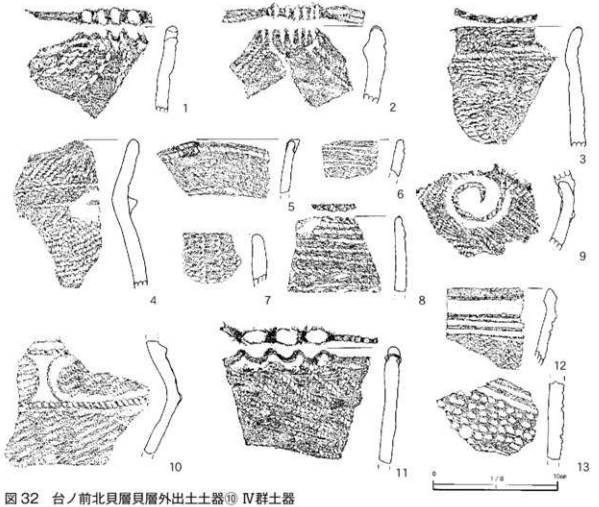


図32　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑩ Ⅳ群土器

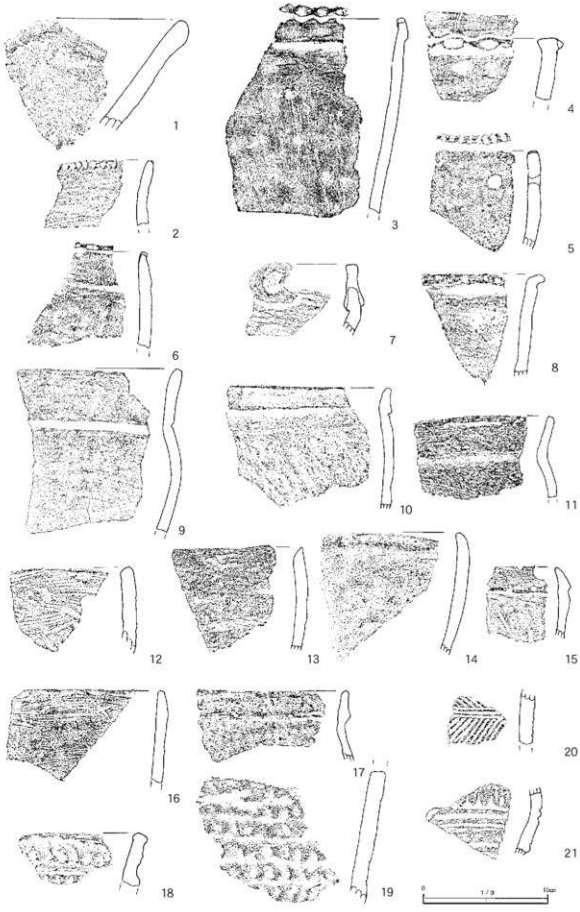


図 33　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑪ Ⅳ群土器

図32－１・２は波状口縁を呈し、波頂部上端に刻みを有する。縄圧痕文は無文地に施文され、１は波頂部から口縁に沿って弧状に施文される。２も口縁に沿って施文されるが、波頂部はＵ字状に施され、口縁上端にも認められる。３・４の縄圧痕文は頸部屈曲部に横位に施文される。３は口縁上端に刻みを有し、４は波状口縁で頸部に瘤状貼付文を施している。５は口縁に小Ｙ字状？貼付文を付け、口縁と頸部に横位縄圧痕文を施文する。６は口縁の横位縄圧痕文の下位に平行沈線が沿う。７は縦位、８は横位多条の縄圧痕文が無文地の口縁にみられる。

同図９は波状口縁を呈し、波頂部から縄圧痕文付隆線により渦巻文を描くものである。同図10は胴部上半で内屈した部分に刻み付隆線による楕円形区画が施される。同図11は隆帯を貼り付けて山形状突起を呈するものである。同図12は短口縁を呈するもので、頸部を隆帯と２条の沈線で区画している。同図13は２条の斜位沈線が施され、多条の刺突列が施される。

（４）Ⅳ－３類（図29－５・６・９、図33－１～17）

図29－５は浅鉢で４単位の波状口縁を呈する。波頂部は瘤状の隆帯により三山状の突起を有する。底部は木葉痕をわずかに残す。同図６・９は底部に網代痕を残すものである。

図33－１は浅鉢であり、波状口縁を呈し、口縁が丸く肥厚している。同図２～６は口縁に刻みまたは押捺が施されるものである。同図３・10は複合口縁であり、３は刻みが施される。４は口縁に隆帯を貼り付けて押捺を加えている。同図７は三日月状の突起を有し、突起中央がくぼんだ形状を呈している。同図８は口縁が短く横に突出する形態である。９は頸部に１条の沈線を施す。同図11～17は素口縁である。頸部で屈曲し外反するもの（11）、内湾気味のもの（12～16）、口縁下にわずかに稜をもつもの（15・17）などがある。

（３）Ⅳ－５類（図33－18～21）

18・19は外面に輪積痕を残し、輪積痕上に押捺が加えられている。20は半隆起線に近い平行沈線で斜位・横位に施文されている。21は上位に蓮華文と２条の半隆起線を施し、無文帯を挟んで、下位に横位半隆起線が施文されている。

第４項　Ⅴ群土器

（１）Ⅴ－１類（図34－１～22）

図34－１・２は口縁にソーメン状隆線文が施される。１は短口縁を呈し、胴部が膨らむ器形で、頸部を多条沈線で区画し、上下に波状沈線を施す。３～10は口縁を隆帯・隆線により、区画するものである。区画内は爪形文（３・４・６～８）、有節沈線（５・９・10）を施す。５は口縁下に縦位の多条有節沈線を施文し、９・10は口縁下に２条単位の上向連弧状文が沈線により施される。また区画には楕円形区画をなすもの（３・５・６・10）もある。３は隆線により２段の楕円形区画を口縁に施している。上位区画は爪形文を施し、下位の隆線下端のみ刻みを加える。６は楕円形隆線区画に接して渦巻状隆線が配される。４・８は隆帯・隆線の下端に押捺を施す。８は頸部にも横位の押捺付隆線を施す。

11も横位の楕円形区画と渦巻文を施し、区画内に爪形文を充填している。12・13は同一個体でソーメン状隆線文により文様を描くものである。口縁が内湾する器形を呈する。口縁に有節沈線を施し、横位・波状・縦位の文様を無文地に施文する。

14～16は突起部である。14は突起の外面に渦巻状隆帯を貼り付け、内面・側面・上面に渦巻状・Ｓ字状のソーメン状隆線を施している。15・16は突起の上面・内面にＳ字状・渦巻状貼付文が施されている。頸部には沈線による文様を施文する。

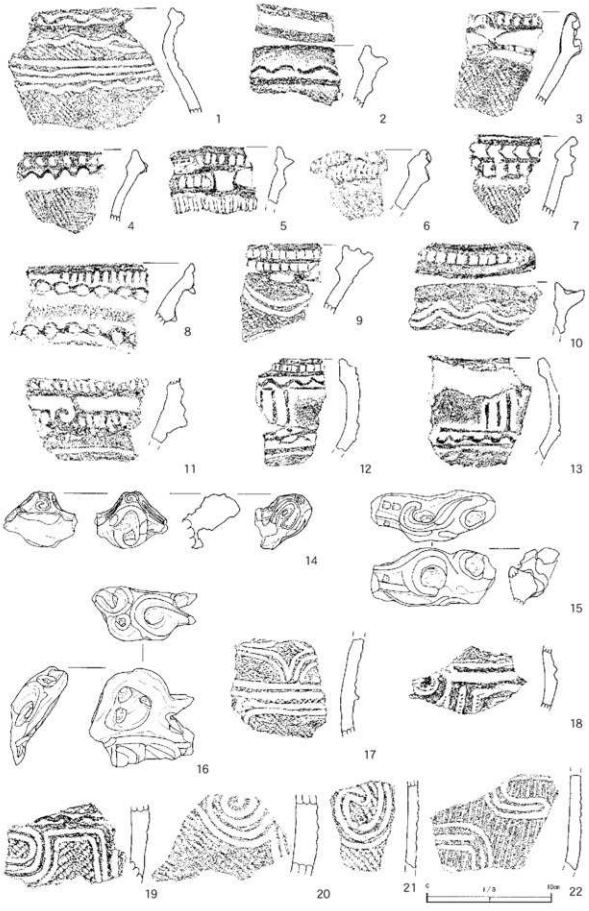


図 34　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑫ Ⅴ群土器

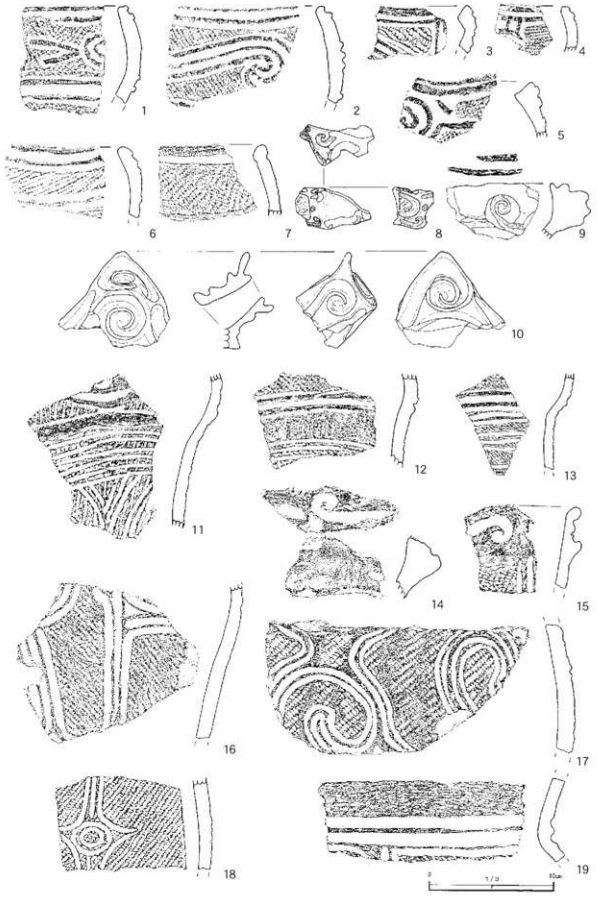


図 35　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑬ Ⅴ群土器

17～22は胴部破片である。17・20～22は沈線、18は隆線、19は隆沈線で文様を施している。胴部上位の区画は、17は縄圧痕文を施した隆線と多条沈線で、18は隆線、19は波状のソーメン状隆線で区画している。22の地文は縦位の撚糸文である。

（２）Ｖ－２類（図35－１～19、図36－１～６）

図35－１～７は口縁が内湾するものである。１～５は隆線・隆沈線により文様を区画し、横位の渦巻文、剣先状の文様を描く。同図８～10は突起部である。８は突起の周囲に沈線による渦巻文が施される。９は口縁に渦巻状の突起を施すものである。10は箱状の突起部で全面に渦巻文が隆沈線で付けられる。同図11～13はキャリパー状の器形を呈するもので、口縁下を隆線・隆帯で区画し、胴部に横位の多条沈線を施す。11は胴部に縦位の弧状の文様を施し、12は頚部に無文帯を有する。

同図14・15は口縁に沈線・隆沈線により渦巻文が加えられる。同図16は縦位・渦巻状に隆沈線が施されるものである。同図17は隆線、沈線により連結渦巻文を施す。同図18は縦位と円形の沈線に剣先状のアクセント文が加えられている。同図19は頚部を隆沈線で区画するものである。

図36－１～５は隆沈線で弧状・連結渦巻状の文様が施されるものである。同図６は３条単位の縦位沈線を施文している。底部はミガキ調整される。

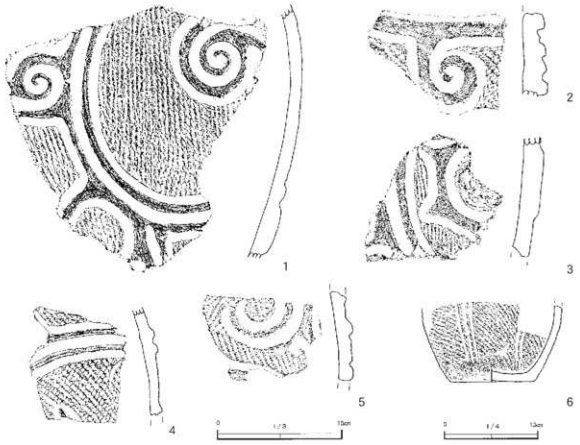


図 36　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑭ Ｖ群土器

第５項　Ⅵ群土器

（１）Ⅵ－１類（図37－１～14、図38～１～８）

図37－１～８は隆線、隆沈線により渦巻文、楕円形区画を施すものである。１～５は渦巻文が波頂部となる波状口縁を呈する。６～８は区画内には多条沈線が充填される。７は口縁を弧状に区画し、頸部に縦位に開放した沈線が施され、８は口縁に中央が凹んだ渦巻文と楕円形区画文を施文し、頸部無文とするものである。

同図９は隆沈線により渦巻文を描く胴部破片である。同図10は波状口縁を呈し、撚糸文地に沈線による渦巻文が施されている。11は隆沈線により頸部を区画し、帯状文を配するものである。12は縦位の隆沈線、13は縦位沈線で縄文帯を区画している。14は浅鉢で、隆線で双頭渦巻文を施し、文様の中央につまみ状の突起を有する。

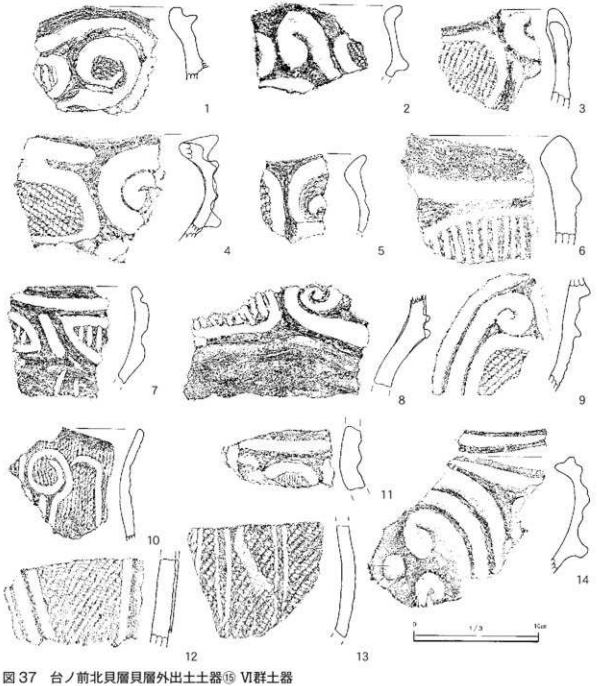


図37　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑮ Ⅵ群土器

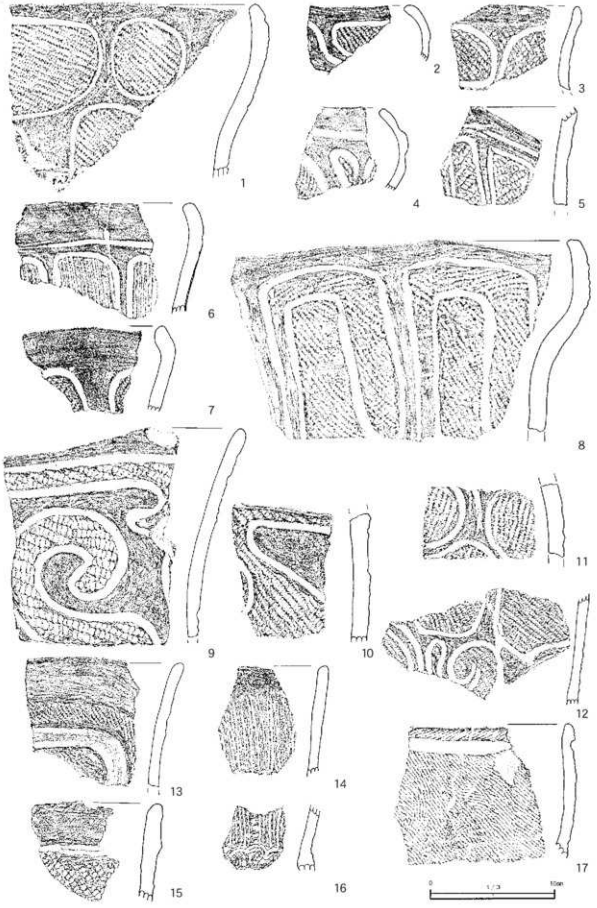


図 38　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑯ Ⅵ群土器

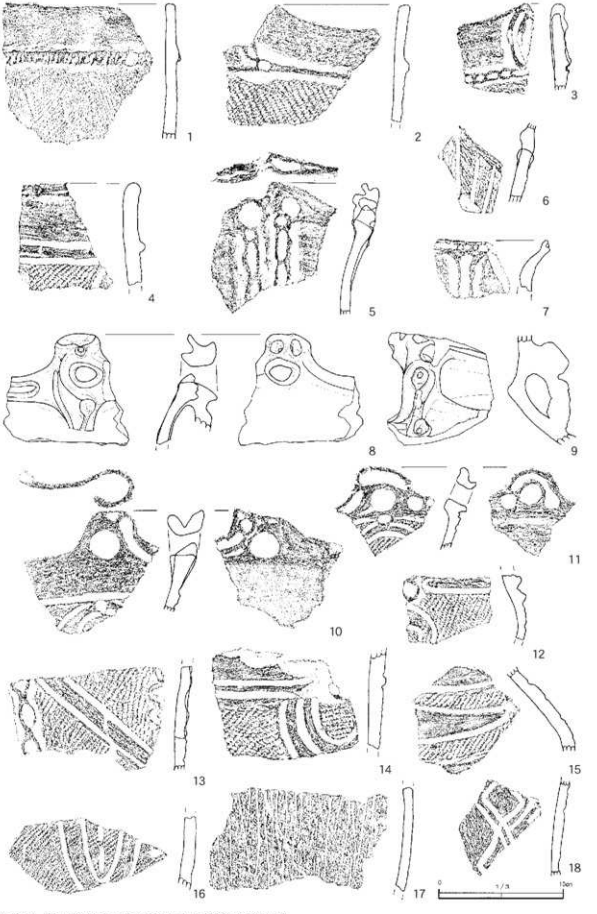


図 39　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑰ Ⅶ群土器

図38－1～3は口縁を沈線により区画された横位の文様を施すものである。1は口縁に円形文、楕円文を配し、胴部は縦位に帯状文を施す。1・2は内湾する口縁であるが、3は緩やかに外反し、口縁上位はやや内湾気味に立ち上がる器形を呈する。同図4は口縁を沈線区画し、帯状文と蕨手状の沈線を施している。5は外反する波状口縁で縦位帯状文を施文する。6・7は内湾する口縁で縦位帯状文を施し、6は縦位条線文が充填される。8も口縁が内湾し、頸部以下直線的となる器形である。縦位C字状に沈線で縄文を区画する文様を施文している。

（2）Ⅵ—2類（図38－9～13）

9～12は沈線で区画された縄文帯と無文帯で曲線状の文様が施されるものである。9は小波状口縁を呈し、S字状の文様を施す。13は断面三角の隆線で区画された無文帯で横方向になぞれた文様を描くものである。

（3）Ⅵ群（図38－14～17）

14は縦位に半截竹管による条線文が施される。15は口縁を断面三角の隆線で区画している。17は口縁下に横位沈線を施し、口縁部と胴部で施文方向を異にしている。16はⅥ－3類とした。頸部で屈曲し、連弧状の平行沈線を1条施し、その上位に縦位の条線文が施文されている。

第6項　Ⅶ・Ⅸ・Ⅹ群土器

（1）Ⅶ—1類（図39－1～6・12～14）

1～3は口縁を隆帯で区画するものである。1は隆帯に刻みを施し、格子状の条線文が胴部に施される。2・3は口縁にノ字状に隆帯が施され、3は隆帯上に刺突が加えられる。4は隆帯と沈線で口縁区画するもので、口縁下に摩消縄文による文様が施される。5は波状口縁を呈し、波頂部に貫通孔と盲孔が施される。波頂部から円形浮文と鎖状隆帯が垂下している。6は波状口縁を呈し、縦位に施された沈線間を摩り消している。

12は口縁下を横位楕円形の沈線による文様が施し、円形浮文を加えている。13は縦位鎖状隆帯を施し、斜位沈線と蛇行状沈線が施される。14は口縁を隆帯・沈線で区画し、弧状沈線が施文される。

（2）Ⅶ—2類（図39－15・16）

15は口縁を沈線区画し、文様を施すものである。16は縦長の円形区画内に縦位の列点状沈線が加えられている。

（3）Ⅶ群（図39－8・9・17・18）

8・9は橋状把手をもつものである。17は縦位に条線文を施文し、18は無文地に2条単位の沈線で縦位に格子状文が施されている。

（4）Ⅶ—3類（図40－1）

1は横位多条沈線に沿う円形刺突列が施文される。

（5）Ⅸ・Ⅹ群土器（図40－2・3）

2は縦位の櫛歯条線文が施文されるX群土器である。3は底部下端を2条の横位沈線が施され、底面はナデ調整されるⅨ群土器である。

図40　台ノ前北貝層貝層外出土土器⑱
Ⅶ・Ⅸ・Ⅹ群土器

第５節　台ノ前地区Ⅰ区出土土器

第１項　調査区の概要

Ⅰ区は台ノ前南貝層の東側斜面下に位置する調査区であり、第１次調査（平成12年度調査）において実施された41・42Ｔを拡張し、第２次調査（平成13年度調査）で実施したものである。第１次調査で確認された中近世と推定される水場遺構とそれに切られる調査区の西北側を中心としたⅢ－５層（縄文時代の遺物包含層）が確認されている。Ⅲ－５層は、台ノ前南貝層の斜面下位にあたる貝層のある西側から東側の緩やかな斜面に堆積する暗褐色シルト層である。

このⅢ－５層の内容を確認するため、調査区の北側で幅1.0mのサブトレンチを設定した結果、全面にわたり、多量の縄文土器が出土した。このためサブトレンチではその上面で確認するにとどめ、サブトレンチ西端に1.0m角のテストピットを設定し、Ⅲ－５層を掘り下げ、層厚ならびに堆積状況を確認している。テストピットにおけるⅢ－５層の層厚は約20cmを測る。なお、Ⅲ－５層からは貝類などの動物遺体は出土しなかった。

「浦尻貝塚２」刊行時には、このⅢ－５層出土土器（テストピット出土土器）ならびにⅢ－５層上面出土土器（サブトレンチ出土土器）の整理作業が終了していなかったため、本書で報告するものである。また、あわせて、Ⅲ－５層以外の層位から出土した土器についても報告する。

第２項　Ⅰ区テストピット（Ⅲ－５層）出土土器（図41－１～５）

１・２はⅣ－２類である。１は断面三角の縦位隆線が施される。２は横位沈線間に三角刺突を施し、縦位の隆帯が施される。方形に区画された余白部には縦位帯状の沈線が複数配されている。３はⅣ－５類である。多段の幅広の爪形文が施され、縦位に蛇行状の隆線と隆線に沿う１条の有節沈線が加えられる。４はⅤ－２類で、渦巻状隆沈線がつけられた口縁突起部である。５はⅥ－１類で、帯状文が縦位に配されている。

第３項　Ⅰ区サブトレンチ（Ⅲ－５層上面）出土土器

（１）Ⅱ群土器（図41－７・８）

７・８はいずれも胎土に繊維を含む。７は頸部の屈曲部に円形竹管文を施す。８は横位の結節回転文の地文上に横位２条単位の沈線が２段以上施されるものである。

（２）Ⅲ群土器（図41－９～13）

９・10はⅢ－６類である。９は口縁に縦位の刻みを施し、斜位刺突列、変形爪形文、横位平行沈線が多段に配されている。10は多条の半隆起線で施文されるもので、頸部を横位に区画し、縦位・鋸歯状に文様が施される。

11はⅢ－３類である。複合口縁で口縁下端に刺突が施される。12・13はⅢ－４類である。12は複合口縁で口縁下端に三角刻みを施し、口縁下に横位・山形状に平行沈線が描かれている。13は口縁に山形状小突起を付け、突起部に爪形文により円形文を配している。

（３）Ⅳ群土器（図41－14～26）

14はⅣ－１類である。無文地上に浅い沈線で菱形状の文様を縦位に施している。15・17～24はⅣ－２類である。15は口縁に隆帯とその上下に１条の有節沈線を施し、口縁下に１条の波状沈線を施文している。17は波状口縁で、波頂部は扇形を呈し、刻みが施される。波頂部下を二山状とした隆線を口縁に沿ってめぐらしている。剥離が激しいが、波頂部から縦位に垂下する多条沈線と口縁に沿う多条

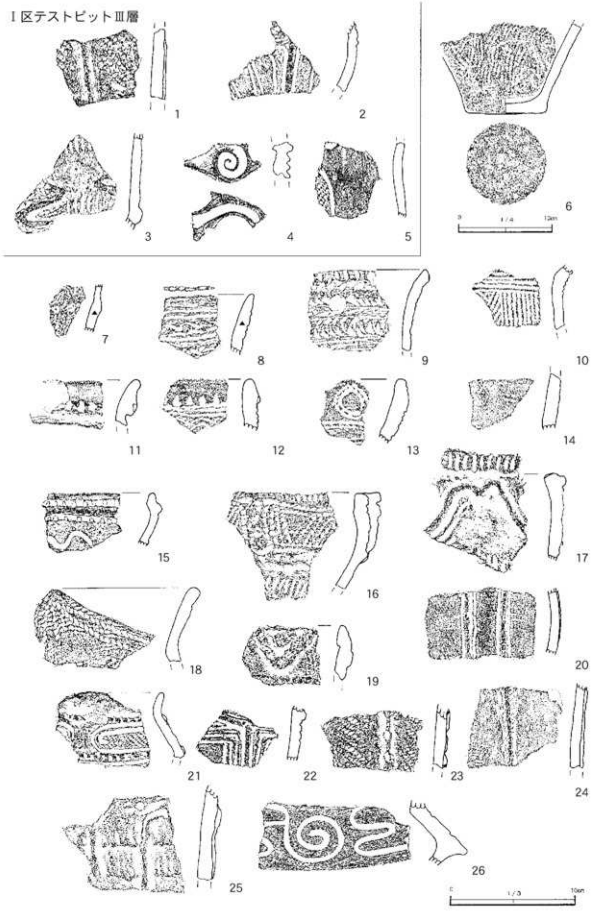


図 41　台ノ前地区Ⅰ区出土土器① テストピット・サブトレンチ出土土器

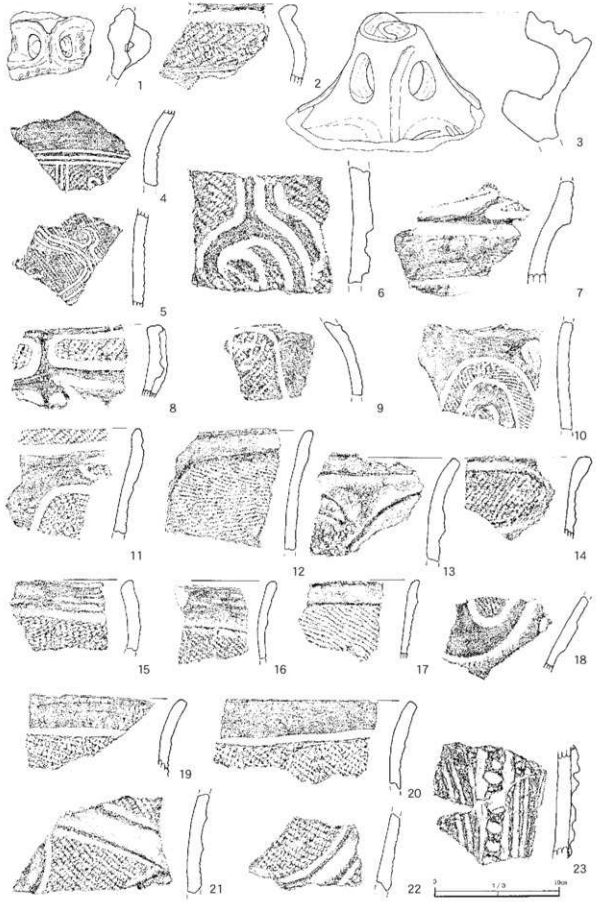


図 42　台ノ前地区Ⅰ区出土土器② サブトレンチ出土土器

沈線により口縁部を三角形に区画するものとみられる。18も波状口縁で縄圧痕文が施されている。縄圧痕文は波頂部から垂下するものと口縁に沿うものがみられる。19は縄圧痕文が加えられた山形状の隆帯が口縁に付けられる。21は口縁下に隆帯と沈線により楕円形区画が施されるもので、頸部で内屈し、口縁が短く外反する器形を呈している。20・22～24は胴部破片である。22は上位に太めの断面カマボコ状の隆線を貼り付けた後、縦位隆線と縦位・横位多条沈線により方形区画を施文する。20は縦位隆線とそれに沿う沈線、23は押捺付縦位隆線、24は縦位隆線とそれに沿う縄圧痕文を施している。

16・25・26はⅣ－５類である。16は口縁を隆帯と１～２条の有節沈線（刺突）で方形に区画し、区画内に多条の山形有節沈線を施している。隆帯下には幅広爪形文が横位に施されている。25は輪積痕を残す胴部破片で縦位・弧状の隆線により楕円形の区画を施すものとみられる。26は浅鉢で単沈線により渦巻文とそれに連結した流水状の文様を施すものである。外面には丁寧なミガキが施される。

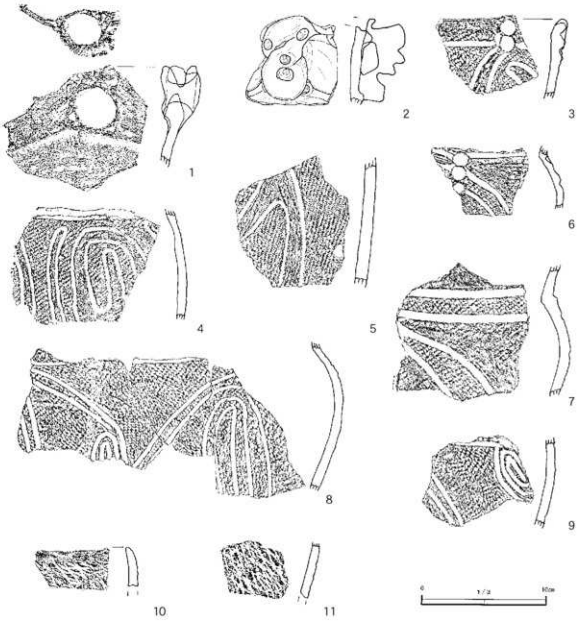


図 43　台ノ前地区Ⅰ区出土土器③ サブトレンチ出土土器

（４）Ⅴ群土器（図41－６、図42－１～７）

図41－６は縦位・斜位に縄文が施文された底部である。底面はナデ調整される。Ⅴ群またはⅥ群に伴うものとみられる。

図42－１はⅤ－１類である。隆線による楕円形区画の交点が橋状の突起を呈するものである。同図２～７はⅤ－２類である。２は口縁が内湾する器形で、剥離しているが口縁下に隆帯が施される。３は上端に渦巻文を施した波状口縁の波頂部である。左右に貫通孔が施される。４は頸部を無文とし、頸部下に多条沈線を施すものである。５は曲線状の文様を沈線で施すもの、６は渦巻文を隆帯で施すものである。７は頸部に無文帯を有し、口縁を隆沈線で弧状区画している。

（５）Ⅵ群土器（図42－８～23）

８～10はⅥ－１類である。８は口縁を隆沈線で楕円形区画し、口縁下は隆線が施されている。９は縦位に帯状文を配するもの、10は弧状の文様が施されるものである。

11～14・18・21・22はⅥ－２類である。11は口縁を横位沈線で区画するものである。口縁はわずかに内湾しながら立ち上がる。12～14・21・22は断面三角の隆線で文様が施されるものである。13は隆線間に刺突が充填されている。14・21・22は横位に無文帯で文様を施すものである。18は浅鉢で、太い断面長方形の隆帯で弧状の文様を施す。内外面に丁寧なミガキが認められる。

15～17は断面三角の隆線を施すもの、19・20は同一個体で沈線で口縁を横区画するものである。これらはⅥ群に伴うものとしておく。

23はⅥ－３類である。太い刻み付隆帯を縦位に付け、余白部に縦位多条の太い条線文を施す。

（６）Ⅶ・Ⅹ群土器（図43－１～11）

１は波状口縁で、波頂部に隆帯を貼付け、貫通孔を有する。２はひねりをもつ橋状把手である。口縁を隆帯区画し、Ⅶ－１類とみられる。３～９はⅦ－２類である。３・４・６・７は口縁を沈線区画するもので、胴部には曲線状の文様や盲孔が施される。５は摩消縄文が施される。８・９は多条沈線により連結した縦位渦巻状の文様を描いている。

10・11はⅩ群で、網目状撚糸文が施される粗製土器である。

第４項　Ⅰ区遺構外出土土器

（１）Ⅱ群土器（図44－１・２）

１・２は胎土に繊維を含むものである。１は縄文地上に刺突列が施される。２は縦位に単斜縄文が施される。

（２）Ⅲ－２類（図44－３～７）

３・４・６は口縁上端に押捺がみられ、５は交互押捺、７は刻みが施される。３は口縁下に横位結節縄文、縦位に山形貼付文を施す。６は口縁に縄文を施文せず、小波状の有節沈線が認められる。７は縄文地に平行沈線で文様を描いている。

（３）Ⅲ－３類（図44－８～11）

８は口縁に鋸歯状貼付文を施すものである。９は縄文地に幾何学状の貼付文を施文している。10・11は縄文地に山形沈線を描くもので、11は２条単位の沈線で多段に施されている。

（４）Ⅲ－４・５類（図44－12～21）

12～21はⅢ－４類である。12は肥厚する短い口縁が外反し、下端にのみ刺突を施すものである。13は多条沈線間に刺突を施している。14は口縁を無文とし、口縁下に沈線と沈線に沿う爪形文が施され

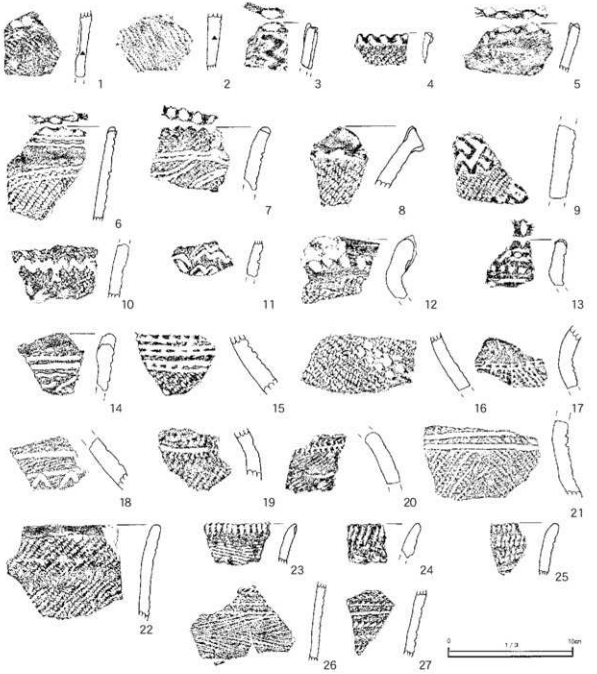


図 44　台ノ前地区Ⅰ区出土土器④ 遺構外出土 Ⅱ・Ⅲ群土器

る。頸部には斜位沈線と余白部に山形沈線が施文される。15は横位多条の爪形文、16は斜位の刺突が施される。17は爪形文で口縁部を弧状、頸部を横区画、胴部を山形状に文様を施文している。18は横位と山形状に沈線が描かれる。19・20は沈線に沿って爪形文を横位に施文するものである。21は縄文地上に横位の沈線を２条施し、頸部を区画するものである。

22はⅢ－５類である。口縁に無文部を有し、横位縄文が施されている。

（５）Ⅲ－６類（図44－23～27）

23～25は口縁に刻みを施す。23・25はアナダラ属の貝殻背圧痕文を施し、24は横位多条の刺突を充填している。26・27は変形爪形文を施文し、26は下位に多条の矢羽状平行沈線がみられる。

（６）Ⅳ－１類（図45－１～10・22・23）

１は橋状把手をもつ口縁部である。把手中央には穿孔があり、その上下に山形沈線が施される。口縁部上下を２条単位の沈線で区画し、三角刺突を付加している。沈線間には円形竹管文が充填されている。区画内には多段の山形沈線が施文されている。２は斜位沈線と梯子状短沈線が施されている。３は内湾する口縁に刻みを施し、２条の横位沈線下に三角刺突が施される。この三角刺突に沿ってY字状の沈線が施される。

４・５・７は無文地に文様を施すもので、４は平行沈線間に爪形文、５は縦位多条沈線施文後に横位口縁区画、７は縦位多条沈線と横位波状沈線施文後に三角刺突を施している。６は複合口縁を呈し、口縁下端に三角刺突を施し、頸部に浅い横位多条沈線を施文した後、山形沈線を施す。８は複合口縁で口縁下に沈線による楕円形区画を施し、交点部を中心に沈線間に三角刺突が一部認められる。

９・10は同一個体で、２個一対とみられる短いハ字状の隆帯が垂下する。口縁の文様は横位・弧状の刺突列である。

22は多条沈線と沈線に沿う三角刺突が施されている。23は沈線間に交互刺突を施すものである。

（７）Ⅳ－２類（図45－11～20・24～27）

11は口縁に縄圧痕文を加えた横位隆線と沈線が施される。12は胴部上位で内屈し、頸部で再度屈曲して内湾ぎみに立ち上がる器形を呈している。波状口縁で、波頂部に弧状の隆帯を貼付け、周囲に刻み付隆線を施す。口縁は横位の楕円形区画を隆線（剥離）・沈線で施し、区画内に円形竹管文を１列施文している。胴部上位は横位１条の沈線で区画している。

13～16は隆線により楕円形区画を呈するものである。14は隆線区画に沿った沈線が施され、区画内に横位縄圧痕文が２条施される。13・16は無文地だが、15は胴部に縄文を施文している。17は口縁が短く外反し、胴部が膨らむ器形である。無文地の頸部下を隆線で区画し、胴部上位に隆線・沈線で方形区画を施す。

18～20は縄圧痕文が施されている。18は波頂部が二又状となり、口縁に沿うものと波頂部から垂下する山形状の文様を施す。19は縄文地上に横位に縄圧痕文が施文する。20は口縁を隆帯で区画し、口縁に横位・斜位に縄圧痕文を施文する。24は頸部を刻み付隆線で区画し、縦位隆線と隆線に沿う沈線で方形区画している。25・26は沈線で文様が施される。27は縦位に縄圧痕文付隆線が施される。

（８）Ⅳ－３・５類（図45－21・38～31）

21はⅣ－３類である。波状口縁で、波頂部は内屈する器形である。

28～31はⅣ－５類である。28は縦位の隆帯を貼付け、口縁を刻み付隆線で区画する。隆帯・隆線に沿って１条の有節沈線を加え、区画内に２条単位の有節沈線を斜位に施す。胴部には幅広爪形文が横位に施文される。29は波状口縁で、波頂部に縦位瘤状貼付文を施し、弧状の隆線が垂下している。口縁内面には帯状の隆帯が貼り付けられる。30・31は押捺が施された輪積痕を多段に残すものである。30は複合口縁で、直線的に立ち上がる器形を呈し、口縁上端を平坦に整え、刻みを施している。口縁下端は下方からの押捺がなされている。31は縦位隆線の剥離痕が認められる。

（９）Ⅴ－１類（図46－１～８）

１～４は口縁に隆帯を貼付けて区画している。１は口縁下端に押捺を施し、頸部に多条沈線と波状沈線が施される。２・４は区画内に爪形文、３は波頂部に弧状貼付文を貼付け、有節沈線を施している。３の口縁外面には波状沈線がめぐる。５は口縁下端を隆線で区画し、爪形文と交互刺突文を施した隆線が施文されている。

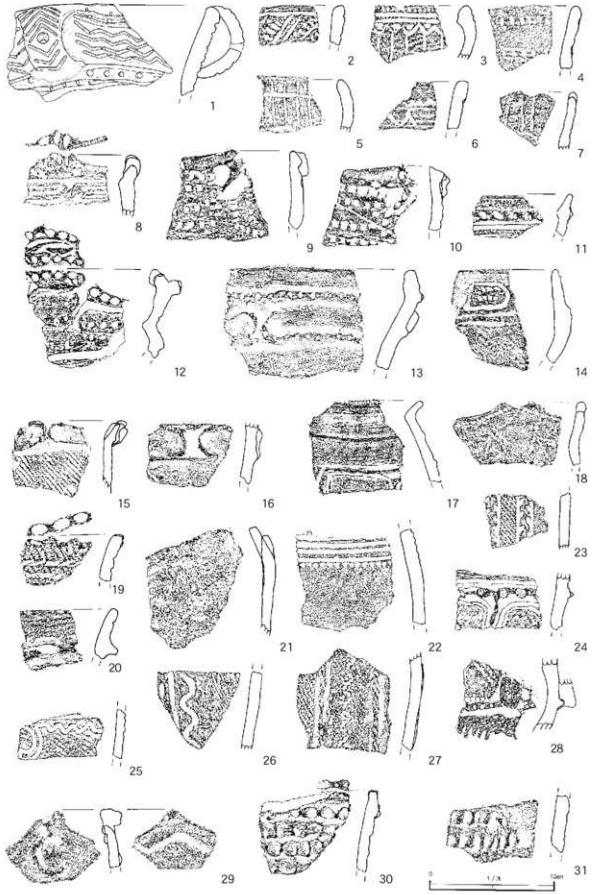


図45　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑤ 遺構外出土 Ⅳ群土器

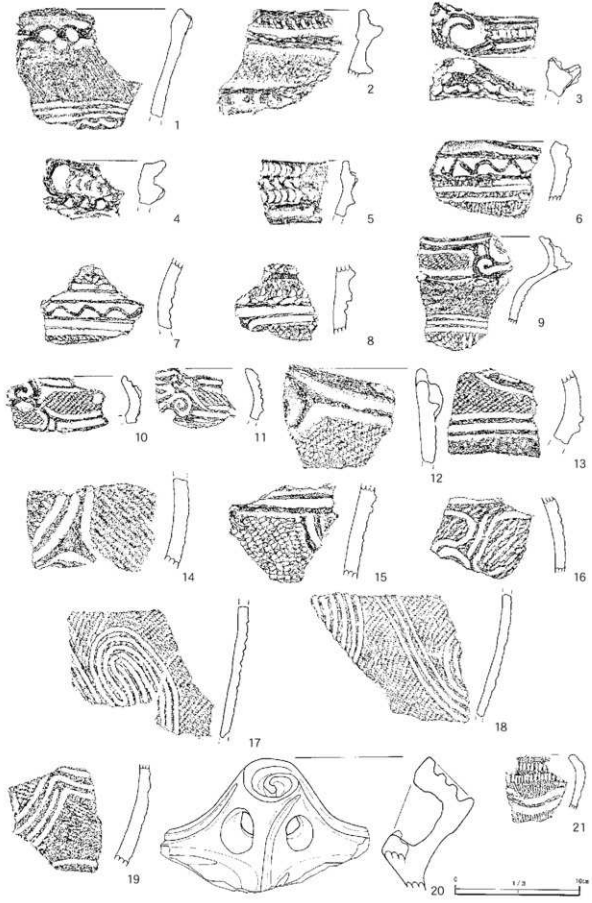


図46　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑥ 遺構外出土 Ⅴ・Ⅶ群土器

6・7はソーメン状隆線により波状文を施すものである。6は口縁の隆線区画内に施され、口縁下には撚糸文地に2条の沈線が加えられる。7は頚部の横位沈線間に施されている。8は頚部を隆線・沈線で区画し、隆線間に縦位多条の縄圧痕文を施すものである。

(10) Ⅴ－2・3類（図46－9～16・19～21）

9～20はⅤ－2類である。9～13はキャリパー状の器形で、口縁が内湾するものである。口縁に隆線・隆沈線による渦巻文・弧状文を施す。9は頚部を無文とし、胴部上位を多条沈線で区画し、縦位3条の沈線が施文されている。

14は隆沈線、15は隆線で弧状文を配し、16は撚糸文地に沈線で曲線状の文様を施している。19は3条単位の隆沈線で文様を施文するものである。20は上端に渦巻文を施した波状口縁の波頂部である。左右に貫通孔が施されている。

21はⅤ－3類である。口縁にヘラ状工具による2条の縦位刺突列を施し、細線文地に2条単位の横位波状沈線を施文している。

(11) Ⅵ－1類（図47－1～14・19、図48－1）

図47－1・2は内湾する口縁で、隆沈線による渦巻文・楕円形区画が施している。同図3も同様の器形を呈し、隆線による弧状区画を施す。同図4は胴部に隆沈線による渦巻文が施文される。同図5～12は沈線により区画された逆C字状文や縦位に帯状文を施文する。5～7は口縁が外反して開く器形である。

同図13・14は同一個体で、隆沈線により条線文を縦位区画している。同図19は浅鉢の胴部上半の破片で、隆線が縦位に施され、沈線により描出された2段の帯状文が認められる。

図48－1は胴部下半にあたる。幅の狭い縦位の縄文帯と上下2段に区画された帯状文が交互配置されている。文様の底部付近の下端は開放している。

(12) Ⅵ－2類（図47－15～18、図49－1）

図47－15は弧状の隆沈線を描き、区画内に縄文、余白部に縦長刺突を充填している。同図16・17は断面三角の隆線で文様を描くもので、16は縄文帯が切りあう横方向の文様を施す。17は無文帯で曲線状の文様を描出している。同図18は直線的に開く器形であり、口縁内面に稜を持つ。口縁下と胴部上半に横位沈線と、縦位沈線がわずかにみられる。沈線は未調整である。

図49－1は口縁下に横位隆線を施すものでⅥ群に伴う粗製土器である。

(13) Ⅶ－1類（図49－2～6・10・11・13、図50－8）

図49－2・4は口縁を隆帯で区画するものである。2の胴部は横位縄文、4の胴部は櫛描沈線により格子状文が施されている。同図3は隆帯が口縁にノ字状にせり上がるものである。同図5・6は内湾する口縁に横位縄文帯により楕円形の無文部を描出するものである。楕円無文部の口縁には円形浮文が施される。

同図10・11は口縁・頚部を隆帯とそれに沿う沈線で区画するものである。10は口縁に盲孔と2条の沈線を施し、口縁下に縦位鎖状隆帯・沈線が施される。11は小波状口縁を呈し、波頂部にノ字状隆帯、縦位・横位隆帯の交点に盲孔を施す。同図13は波状口縁の波頂部に2個の貫通孔を有する。口縁下には円形浮文を施し、胴部に2条単位の縦位沈線がみられる。

図50－8は縦位の蛇行状沈線が加えられている。

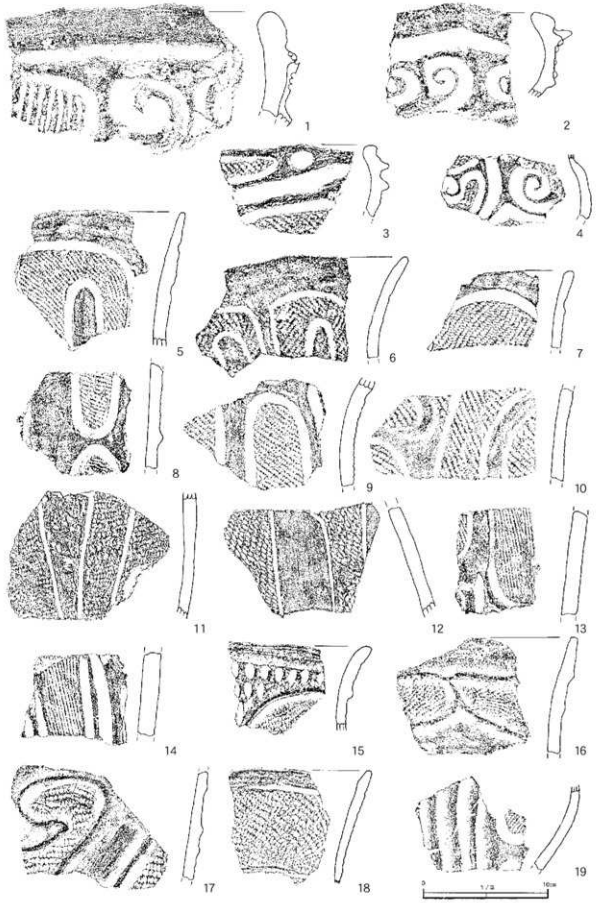


図47　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑦ 遺構外出土 Ⅵ群土器

（14）Ⅶ－２類（図46－17・18、48－２・３、図49－７～９・12・14～21、図50－１～７・９～17、図51－１～12、図52－１～12）

図46－17・18は同一個体で、多条の弧条沈線を施す。図48－２は球形の器形を呈する小形土器である。口縁を沈線区画し、胴部文様との交点に盲孔を施す。胴部は横に流れた曲線状の文様を施し、下位を緩やかな波状口縁で区画している。同図３は胴部上位が膨らみ頸部で屈曲し、直線的に立ち上がる器形を呈している。口縁に小突起を有し、盲孔を施す。頸部は沈線区画され、胴部に弧状の文様を描いている。

図49－７・８は口縁下でくの字状に内屈する器形である。７は中央沈溝・盲孔を施した縦位隆帯を中心として、横位の方形無文部が描出される。８は口縁に２条の横位沈線を施し、胴部に三角形状の区画文が描かれる。

同図９・12・14～21は口縁を沈線区画するものである。９は波状口縁で、波頂部に貫通孔を有する。12・14～17は小波状口縁を呈し、波頂部から垂下する文様は、12は貫通孔と縦位隆帯（盲孔、中央沈溝）、14は弧状沈線（盲孔）、15は縦位盲孔列、16は２条の縦位弧状沈線、17は盲孔と１条の縦位沈線である。18～21は口縁下に沈線が施され、胴部に18は蕨手状文、19は縦位楕円状沈線と列点状沈線、20は縦位楕円状沈線、21は小波状沈線が加えられている。

図50－１～４・14は頸部を沈線で区画するものである。１・２・14の胴部には摩消縄文で弧状の文様を施している。３は頸部に横位楕円状の沈線を施している。胴部にも斜位の雑な沈線が加えられている。

同図５・６は口縁に突起を有する小波状口縁である。５は突起上面に隆帯を貼付けて環状を呈している。６は突起外面に楕円形区画を施し、盲孔を充填している。７は蕨手状の摩消縄文を施す。

同図９・10は頸部下に横位の縄文帯と盲孔を施し、胴部に曲線状の文様を施している。同図11・12は鉤手状の文様を縦位に垂下させるものである。同図13も同様の文様に雑な小波状沈線が縦位に施文されている。

同図15は摩消縄文により曲線状の文様を描くもの、同図16・17は縄文地に曲線状の沈線を施すが、沈線間の縄文を摩り消していない。

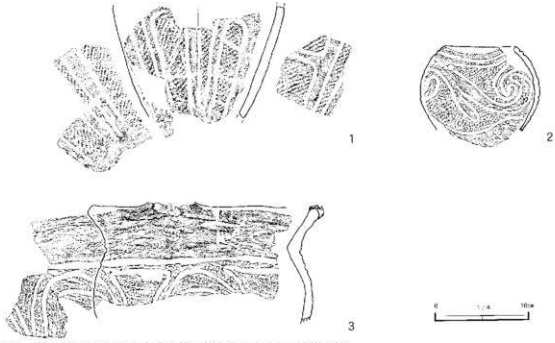


図 48　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑧ 遺構外出土 Ⅵ・Ⅶ群土器

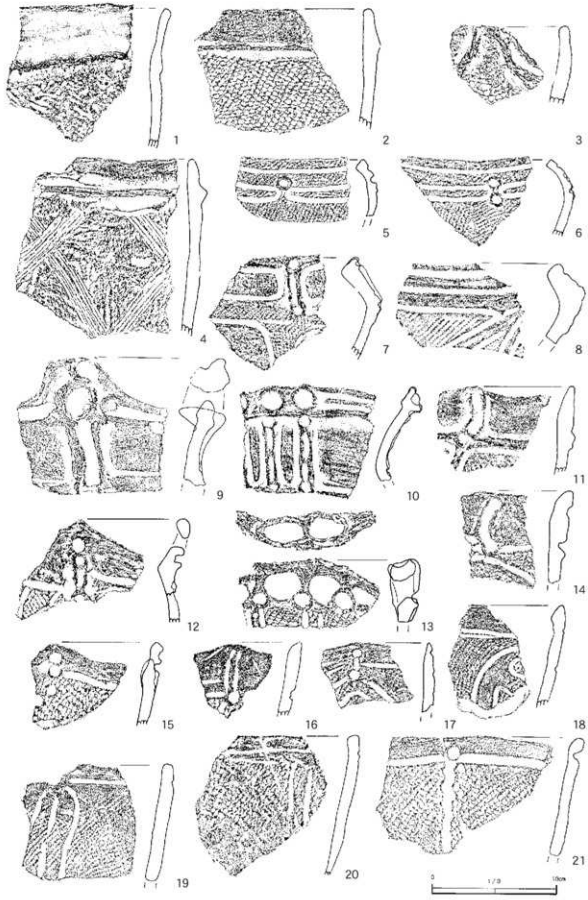


図49　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑨ 遺構外出土 Ⅵ・Ⅶ群土器

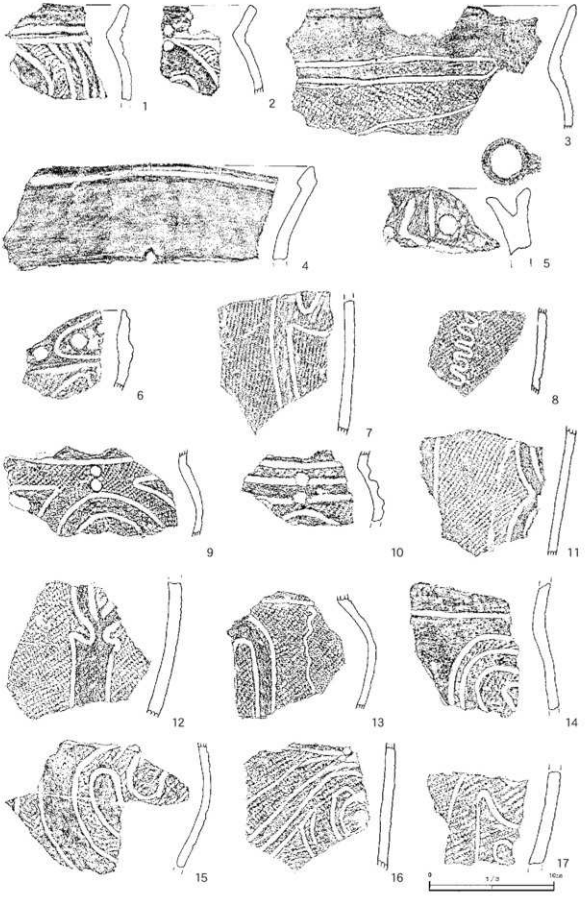


図 50　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑩ 遺構外出土 Ⅶ群土器

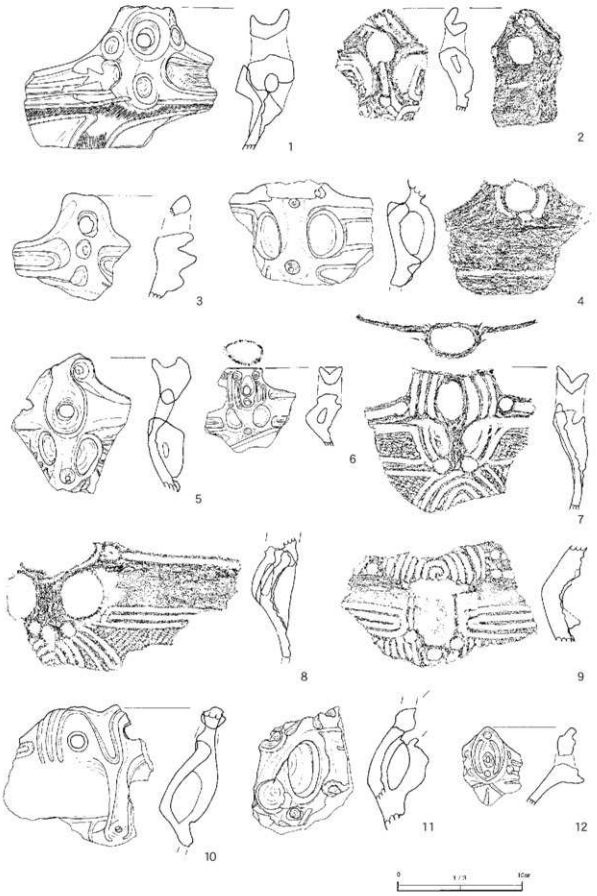


図51　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑪ 遺構外出土 Ⅶ群土器

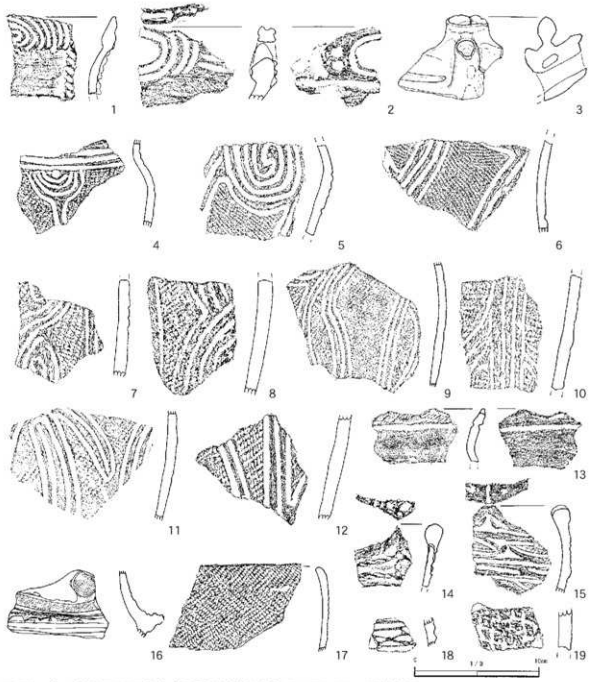


図52　台ノ前地区Ⅰ区出土土器⑫ 遺構外出土 Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ群土器

図51－1～11は橋状把手をもつものである。把手の上位は曲線状隆帯や上面に環状隆帯を貼付けた突起を持ち、貫通孔が施されるものが多い（1～3・5～7）。6・7は貫通孔に沿って弧状の多条沈線が施され、10は波頂部に口縁と貫通孔に沿って曲線状の多条沈線を施し、横位楕円状沈線を加えている。橋状把手には盲孔のほか、把手が捻りをもつもの（11）、中央沈溝（2・10）をもつものがある。把手が付けられる頚部は把手から派生した弧状隆帯（4～9・11）や沈線（2～4・7）により、方形・楕円形の区画帯が描出されている。この区画帯には無文のもの（2～4・11）と縄文が施文されるもの（7）、多条沈線が施文されるもの（5）、楕円状沈線文が下端に施されるもの（6・8・9）がある。楕円形・方形の区画を有しない1・10も上下を隆帯・沈線で区画し、横位の無文帯となっている。内面には盲孔（2・4）や弧状沈線（4）を施文しているものもある。胴部文様は1

が摩消縄文によって文様が施されているほか、５・７～９は多条沈線によって橋状把手の下端を基点とした弧状の文様を描いている。

同図12は波状口縁で波頂部に対向する弧状沈線と盲孔が付けられている。突起の中央は貫通孔を有する。口縁には２条の横位沈線と盲孔が施され、口縁下に沈線による文様が配される。Ⅳ－１類に伴う可能性もある。

図52－１・２は口縁部に多条の弧状沈線が施されるもので、１は刻み付縦位隆帯が頸部に加えられている。同図３は注口土器である。注口の上位には環状の隆帯が貼り付けられ、内面に弧状隆帯と盲孔が認められる。

同図４～12は多条沈線による文様が施される胴部破片である。渦巻状・弧状文などの曲線状の文様を施すもの（４・５・７～11）や三角形状の区画文を配するもの（６・12）がある。４は頸部を横位多条沈線により区画し、上向の重弧状文の中央に盲孔が施されている。

（15）Ⅶ－３類（図52－13・14）

13は山形状突起を口縁に貼付け、口縁下を沈線区画し、縄文を施すものである。内面にも１条の沈線がめぐる。14は波状口縁で、波頂部はつまみ出されたような突起を有する。波頂部から円形刺突を施した隆線が垂下し２条の刻み付隆線が口縁に沿って横位に施されている。口縁内面に浅い１条の沈線がめぐる。

（16）Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ群土器（図52－15～19）

15はⅧ－２類で、上端部に縦位単沈線を持つ山形状小突起が施され、突起の形状にあわせるように三叉状文が描出されている。これらの下位に描かれている向かい合う三叉状文の間には小さい瘤を貼付けている。口縁部から胴部にかけて横位沈線、弧状沈線、斜位沈線、横位単沈線が施文されている隆帯が加えられている。

同図16・18はⅨ群土器である。16は注口土器である。地文を施文した後に横位沈線・円形状沈線が施され、刻目文・刺突文が加えられた隆帯が巡っている。18は太めの沈線を用いて浮線網状文を描出している。

同図17・19はⅩ群土器である。17は横位の非結束羽状縄文が施文された口縁部資料である。19は網目状撚糸文が施されている。

第６節　西向貝層貝層外出土土器

第１項　貝層の概要

西向貝層は、集落の中心と考えられる南台地区の西側にあたる東西最大約20m、南北約49mを測る貝層である。確認した調査区は64Ｔ・52Ｔの西端である。ただし、52Ｔは貝層（Ⅲ－３層）上に竪穴住居が構築されており、面的には確認していない。53Ｔ西では後世の影響を受け、明確な貝層は確認できなかった。また、過去に福島大学考古学研究会で調査したＤトレンチは、53Ｔ西に隣接するものと推定され、約20cmの貝層が確認されている（福島大学考古学研究会1971）。

平面的な検出状況では、土主体層（ｃ層）の上位及び斜面下位に混貝土層（ａ・ｂ層）が堆積している状況が認められた。貝層を掘り込んで調査したのは64Ｔのコラムサンプルとサブトレンチだけである。ａ層（混貝土層）からはⅦ－２類、ｂ層（混貝土層）からはⅣ群、ｃ層（土・土主体層）からはⅢ・Ⅳ群が中心に出土し、ｃ層最上層からＶ－１類が出土している。本節では64Ｔの貝層上面にあがるⅠ・Ⅱ層から出土した出土土器を報告する。

第２項　Ⅱ・Ⅲ群土器

（１）Ⅱ群土器（図53－１）

１は胎土に繊維を含み、縦位刺突列と横位多条沈線が施されるものである。

（２）Ⅲ－２類（図53－２～４）

２は口縁を無文とし、口縁上端に刺突を施すものである。胎土にわずかに繊維を含む。３は口縁が交互押捺されるもの、４は口縁を無文とし、口縁下に横位多条有節沈線が施されている。

（３）Ⅲ－３類（図53－５・６・９）

５は２条単位の山形沈線が施される。６は波状口縁で波頂部が三角状を呈する。口縁端が肥厚し、外方へ大きく庇状に突出し、波頂部から垂下する縦位多条貼付文が施されている。９は波状の複合口縁である。口縁下端に刻みを施し、胴部上半に平行沈線で上下を区画した山形文が施される。

（４）Ⅲ－４類（図53－７・８・10～22、図53－１・２）

図53－７は複合口縁で、口縁上端に刻みを施し、下端に縦位縄圧痕文が施される。同図８も複合口縁を呈し、口縁上下端を棒状工具による刻みと縦位の隆帯が付けられている。地文は縦位撚糸文である。同図10はわずかに複合口縁状を呈し、下端に三角刻みを施している。同図11・12は同一個体で太描の山形沈線を施し、山形の頂点に対応して盲孔が施文される。頚部下に三角刺突列が施されている。

図53－13・14ならびに図54－１は頚部に爪形文を施した数条の隆帯を施すものである。いずれも口縁を無文とする。図53－13は山形状の突起を２個付けている。同図14も波状口縁では無文の口縁部が短く肥厚する。図54－１は口縁が肥厚し、短く外反する金魚鉢形の器形である。胴部は横位縄文と１条の結節回転文が施される。同図２も同様の器形を呈するが、口縁の肥厚は顕著ではない。頚部まで無文として、頚部下に輪積痕を１段残し、装飾効果をなしている。山形状の突起を有する。

図53－15も波状口縁で口縁を無文とする。縄文地上に平行沈線により格子状文を施している。同図16は口縁を横位に区画し、縦位の多条沈線を施文している。同図17・18は肥厚した口縁に縄圧痕文による文様を施すものである。17は口縁上位を横位に区画し、２条単位の菱形（弧状）文を配した下位に横位の小山形文を施文している。18は上下を区画して、Ｕ字状文を配し、余白部に斜位に施文されるものである。同図19は肥厚口縁にＬ字状に区画した沈線と沈線に沿う爪形文が施文されている。頚部も横位１条の沈線を区画し、胴部には爪形文が施文される。20は１条の横位山形沈線、２条の横位

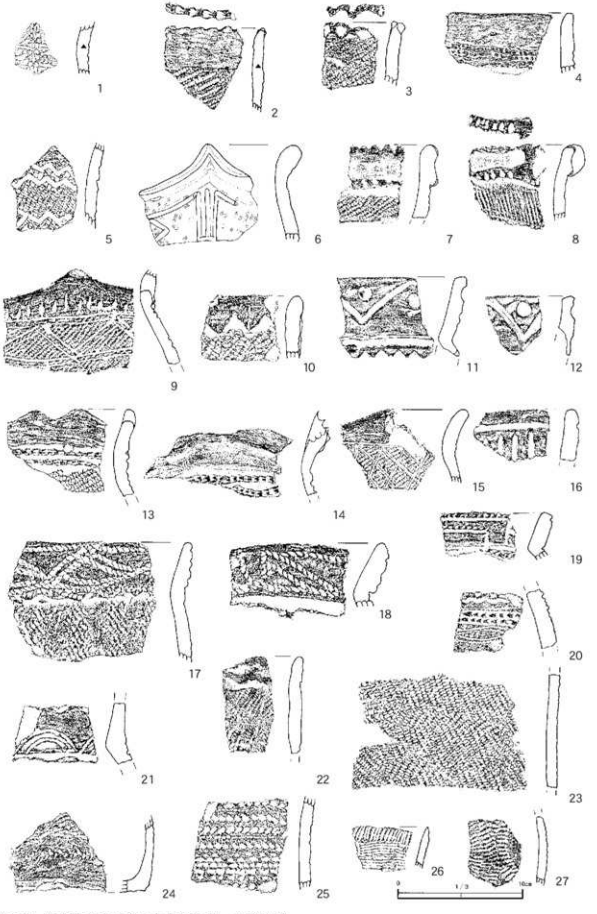


図 53　西向貝層貝層外出土土器① Ⅱ・Ⅲ群土器

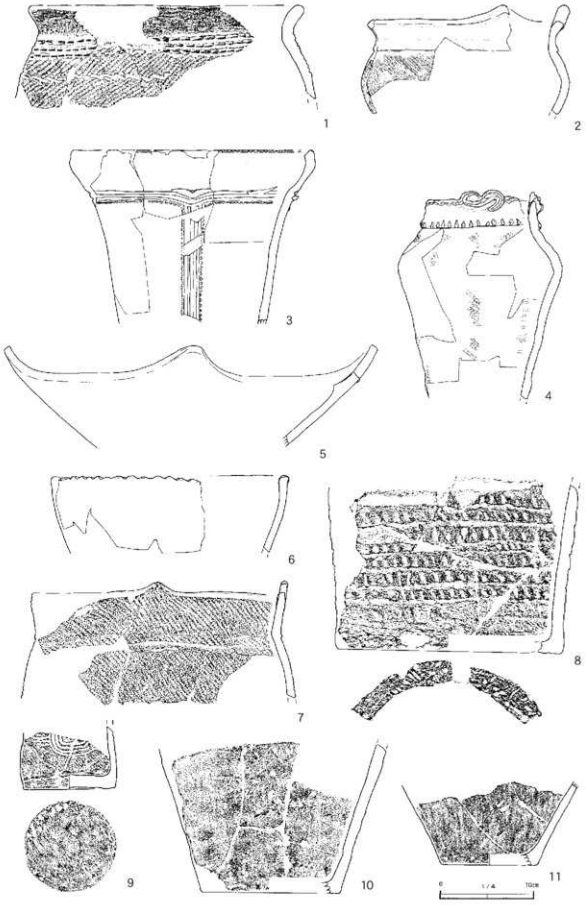


図 54　西向貝層貝層外出土土器② Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ群土器

爪形文、弧状の平行沈線が施されている。同図21は頸部を沈線区画し、口縁の上位に横位山形沈線、下位に２条単位の下向連弧状文が無文地に施文されている。

（５）Ⅲ－５類（図53－22～24）

22は口縁下に輪積痕をのこし、口縁を無文とするものである。23は縦位・横位にLR縄文を施文している。24は底部破片で横位LR縄文と結節回転文が施される。やや膨らんで立ち上がることから、Ⅲ－４類の金魚鉢形の器形を呈するものと考えられる。底部はナデ調整される。

（６）Ⅲ－６類（図53－25～27）

25は幅広の変形爪形文と多条の有節沈線を交互に施したものである。変形爪形文の中央には有節沈線のような浅い有節沈線状の痕跡が残され、半截竹管の内側を削ぎ、先端を尖らせた施文具で施されたとみられる。26は口縁に縦位の刻みを施し、多条の有節沈線を充填するものである。27は貝殻腹縁文を弧状に施文し、文様を描出している。

第３項　Ⅳ群土器

（１）Ⅳ－１類（図54－３、図55－１～12）

図54－３は、胴部は直線的に開き、口縁が内湾する器形を呈する。口縁上端は刻みを付け、口縁部は無文である。頸部隆帯貼付による有段を呈し、Ｖ字状の貼付文を施している。頸部は横位２条の沈線と沈線の下端に三角刺突、胴部はＶ字状の貼付文から垂下する３条の沈線と両側に三角刺突が施されている。

図55－１・２は口縁に縦位の刻みを施す。１は波状口縁で口縁に沿い２条の沈線を施し、波頂部下に梯子状短沈線を施した弧状文が配される。２は多段の山形沈線が施されている。同図９も上下を横位沈線で区画した多段の山形沈線が施されるものである。同図３は下端に三角刻みを施した刻み付隆帯で口縁下を区画する。区画内は上下を沈線区画し、２条単位の山形沈線を施し、斜位の刺突を余白部に充填している。胴部は横位の多条沈線が施文される。

同図４・６は刻み付隆帯が突起または波頂部から縦位に垂下し、頸部も横区画するものである。口縁が直線的に開く器形を呈する。４は多条沈線を横位施文後縦位に施し、格子状文を描出するものである。隆帯の交点には瘤状の貼付文が施される。６は口縁上位も隆帯で区画し、区画内と隆帯下に縦位の刺突列が施される。胴部は縦位の縄文と結節回転文を施文している。同図５は内湾する口縁で、口縁に横位１条、縦位に２条の刻み付隆帯が付けられ、乱雑な横位多条沈線が施文される。同図11は頸部を刻み付隆帯で区画し、口縁に縄文と結節回転文が施されている。

同図７は口縁を横位１条の沈線で区画し、縦位刻みがその上下に施されている。８は無文地に縦位・横位に浅い多条沈線を施すものである。同図10は直線的に立ち上がる胴部が頸部で内湾ぎみに外傾する器形を呈する。頸部を平行沈線で区画し、口縁に上向弧状短沈線を多段に充填している。同図12は無文地に縦位・横位・斜位の沈線と刺突列を沈線に沿わせている。

（２）Ⅳ－２類（図55－13～17、図56－１～４）

図55－13は直線的に開く器形で、口縁下端に隆帯を貼付けて口縁幅を広げ、横位沈線と円形刺突列が施される。口縁下には斜位隆帯と沈線が施され、余白部に２条単位の沈線による曲線状の文様が描かれている。内外面とも丁寧なミガキが認められる。同図14は胴部が膨らみ、頸部で屈曲して短い口縁を持つ器形である。頸部下は隆帯・沈線による楕円形区画が施され、区画内は沈線による方形文が配される。胴部は沈線による楕円文と波状文が描かれている。同図15も隆線・沈線により横位楕円形

区画が頸部下に配されるもので、区画内無文の楕円状区画文も縦位に施されている。同図16は断面三角の縄圧痕文付隆線が縦位に施されるもの、同図17は頸部の横位沈線区画から縦位に波状文が垂下するものである。

図56－１～４は縄圧痕文が施されるものである。１は瘤状貼付文を基点として横位・斜位・縦位に隆帯を付け、それに沿った多条の縄圧痕文が施文される。２～４は口縁に1条の縄圧痕文を施すものである。２は口縁にＹ字状貼付文、３は頸部に押捺付隆帯、４は口縁に下端に押捺を加えた隆帯を貼付け、環状・縦位の貼付文による突起を有する。

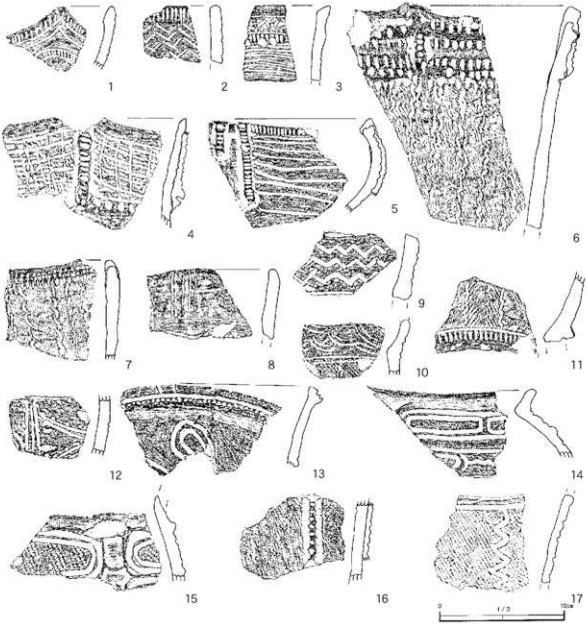


図 55　西向貝層貝層外出土土器③ Ⅳ群土器

（３）Ⅳ－４類（図54－７、図56－５～13）

図54－７は膨らんだ胴部が頸部で屈曲し、直線的に開く器形を呈する。口縁に山形状小突起をつけ、突起上端は浅い刻みを施して、三山状となっている。地文は横位RL縄文である。

図56－５・６は内湾する口縁で、口縁に押捺付隆帯を施している。５は口縁に瘤状突起を有する。同図７は口縁と頸部に押捺付隆帯を施すもの、同図８・10・11は刻み・押捺を施した断面三角の隆線で頸部を区画するものである。８はやや内湾気味の器形であり、口縁上端に刻みを施す。10・11はゆるく外反する器形である。同図９は口縁上端に縄圧痕文、同図12は頸部に縄圧痕文付隆帯を施す。同図13は内湾気味に立ち上がる器形を呈している。

（４）Ⅳ－３類（図54－５・６・10、図56－14～17・19）

図54－５は波状口縁を呈する浅鉢である。口縁を平坦に整え、内面に１条の隆帯を貼り付けて有段状を呈している。図56－19も同様の浅鉢であり、口縁内面に隆帯を施し、口縁上端に瘤状貼付文を加えている。図54－６は内湾気味に立ち上がる器形で口縁上端に押捺を施している。同図10は直線的に開く底部で、底面に網代痕を残している。

図56－14は膨らんだ胴部が頸部で屈曲し、短く外反する器形である。15は胴部が直線的に開き、口縁部が肥厚し、内湾気味に直立するものである。口縁上端に刻みを施す。16・17は複合口縁状に輪積痕を残すもので、16は多段に輪積痕が認められる。

（５）Ⅳ－５類（図54－８、図56－18）

図54－８は押捺が施された輪積痕を多段に残すものである。底面は網代痕を残す。

図56－18は胴部が直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して直線的に外傾する器形である。波頂部に傾斜した突起を有する波状口縁を呈する。波頂部の上端は片縁のみ棒状工具による刻みを施し、波頂部から斜位に蕨手状隆線が垂下する。口縁部と口縁部上端の文様は１条単位の有節沈線によって施される。口縁部の波頂下片側には環状隆帯の剥離痕がみられ、その中央は貫通孔が施されている。有節沈線はこの隆帯に沿うものと上下対向する横位蕨手状文があり、蕨手状文の交点には、剣先状の刺突が加えられる。胴部以下は押捺が施された輪積痕を残し、断面三角の隆線と一部沈線となる有節沈線による横位楕円形区画が施される。波頂部の内面にも円形刺突・刻み文を施し、波頂部から垂下するL字状の１条の有節沈線がみられ、頸部内面は隆線状の段をもっている。

第４項　Ⅴ群土器

（１）Ⅴ－１類（図54－９、図57－１～11）

図54－９は３～４条の沈線によりクランク状文を施すものである。底部はナデ調整される。

図57－１～３は同一個体である。口縁上端に縄圧痕文を施す。口縁に隆線により区画された２帯の文様帯を配し、中位の区画隆線が伸びて渦巻状を呈する。区画内は上位に半截竹管による刺突、下位に縦位多条沈線を施している。隆線には沈線が沿っており、下端には多条沈線と連弧状（山形）沈線を施文する。地文は縦位縄文である。

同図４・５は口縁に隆帯・隆線で楕円形区画を施すものである。４は爪形文、５は棒状工具による刺突が施される。同図６は口縁に隆帯を貼付け、２段の有段状を呈し、下端のみ押捺が施される。隆帯下位に２条の横位沈線を施し、胴部に縦位・波状沈線が垂下する。口縁上面の内方にＳ字状貼付文を付ける突起を有し、口縁の一部と突起上端には縄圧痕文が施される。同図７は内外面にＳ字状・渦巻状貼付文を施す突起をもつものである。頸部に押捺付隆帯が施される。

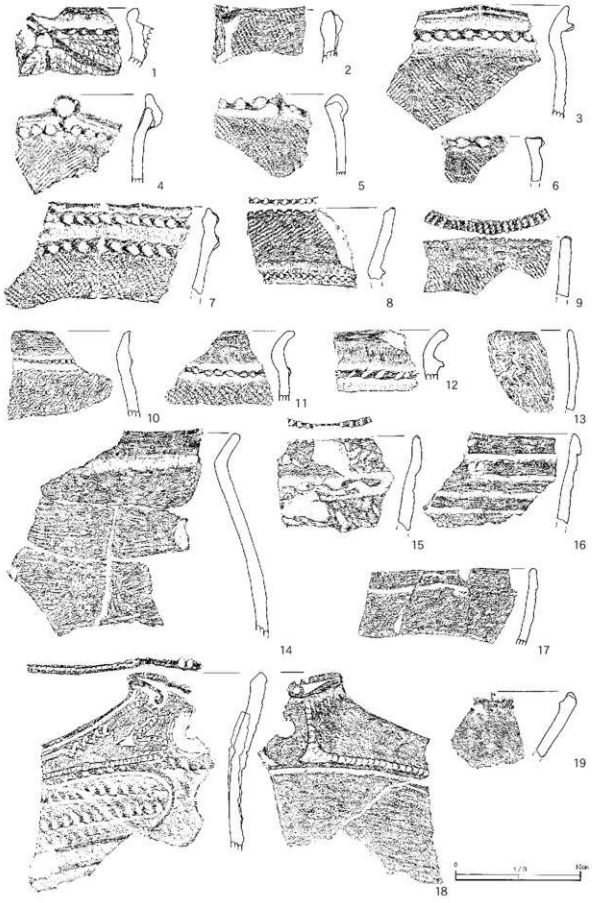


図 56　西向貝層貝層外出土土器④ Ⅳ群土器

同図８・９は撚糸文地に文様を描き、胴部が直線的に開く器形を呈するものである。８は頚部を多条沈線で区画し、その上位に横位波状沈線が描かれる。９は頚部を２条の沈線と小波状沈線で区画し、口縁上位に隆線、下位に弧状・斜位の沈線文様を施文している。同図10・11は隆線・隆沈線で文様を描くものである。10は縦位区画され、弧状文・渦巻文が施文される。11は方形区画された文様帯の下位に縦位に曲線状の文様を施すものである。

（２）Ⅴ－２類（図57－12・13）

12・13は口縁が内湾するものである。12は口縁を隆沈線で区画し、弧状の隆沈線を施す。口縁中央に瘤状突起が付けられ、突起に口縁から縦位に垂下する隆線と突起を巻く隆線が加えられる。13も弧状の隆沈線が口縁に描かれ、環状の隆線がアクセント文として施されている。

第５項　Ⅵ群土器（図57－14～16）

14・15はⅥ－１類である。14は断面三角の隆沈線により逆Ｃ字状文を描くものとみられる。15は胴部破片で隆沈線による弧状文が施されている。16はⅥ－２類またはⅦ－１類に位置づけられるものである。波状口縁を呈し、波頂部に山形状小突起、口縁内面に鍔状の突帯を有する。外面は剥離が激しいが、未調整沈線により三角形の区画文を施している。

第６項　Ⅶ・Ⅷ群土器

（１）Ⅶ－１類（図58－１～11、図59－１～５）

図58－１～11は口縁を隆帯で区画するものである。１・10・11は隆帯に沿って沈線も加えられている。１は波状口縁であり、弧状隆帯・沈線が胴部に垂下する。３は胴部に２個単位の刺突列を８字状に施している。４は口縁上端と下端に刻み付隆帯が施され、胴部に縦位の櫛描多条短沈線が施されている。７～11は小波状口縁または半円状の突起を有し、縦位隆帯が施されている。隆帯はＩ字状（５・７・10・11）・ノ字状（６・８）・対向する弧状（９）を呈し、中央沈溝や盲孔が伴っている。10・11は胴部にＪ字状の文様が施されている。

図59－１～４は円形浮文が施されるものである。１は波状口縁で、波頂部に対向する弧状文と盲孔を施し、中央に貫通孔を有する。口縁は盲孔と２条の沈線を施し、波頂部下の円形浮文を基点として縦位に沈線文様が垂下している。２～４は胴部破片で、摩消縄文による文様の交点に円形浮文が加えられている。同図５は胴部下位の破片で縦位鎖状隆帯が付けられている。

（２）Ⅶ－２類（図59－６～16、図60－１・２）

図59－６・７は橋状把手をもつものである。把手の上位は上面に環状隆帯を貼付けた突起が付き、把手の上下に盲孔を施す。いずれも胴部は縄文地に沈線文様を描く。７は突起の中央から内面に抜ける貫通孔を有する。把手が付けられる頚部は把手から派生した弧状隆帯がつき、口縁と頚部下に付けられた隆帯ともに頚部に横位の区画が作られている。この区画帯には楕円状沈線が施される。

同図８～14は口縁・頚部を沈線区画するものである。８は口縁に円形浮文、胴部に厳手文を施す。９・10は突起または波頂部に盲孔を施し、10は胴部に方形の区画文を描出する。11は沈線区画上に８字状浮文を加え、それを基点として縦位列点状沈線を施文している。12も突起から垂下する列点状沈線が加えられている。13は胴部が膨らみ、口縁が外反する器形である。摩消縄文によって文様が描かれる。14は胴部が膨らみ、口縁が短く立ち上がる器形を呈する。頚部に２条の沈線文を施し、多条沈線によるＪ字状文を施文している。

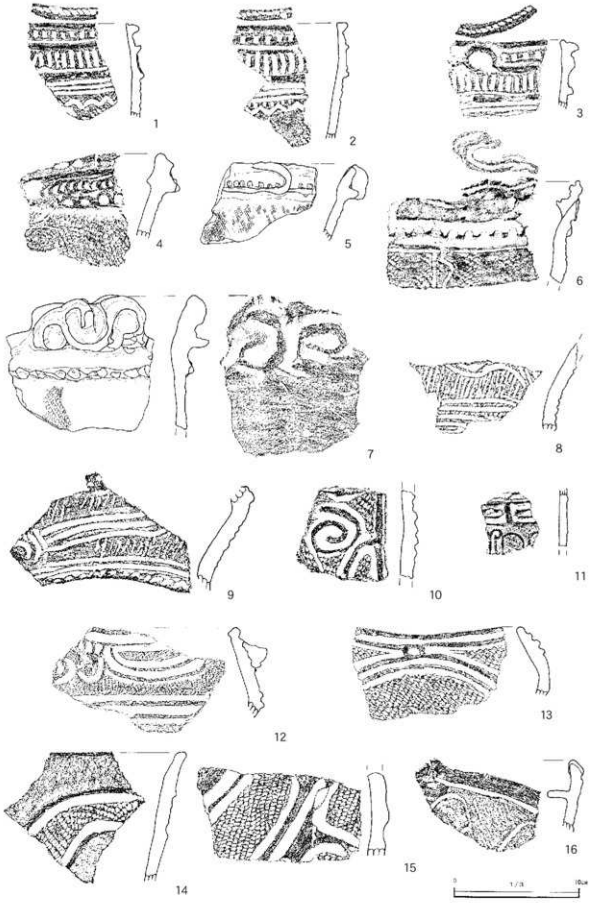


図 57　西向貝層貝層外出土土器⑤ Ⅴ・Ⅵ群土器

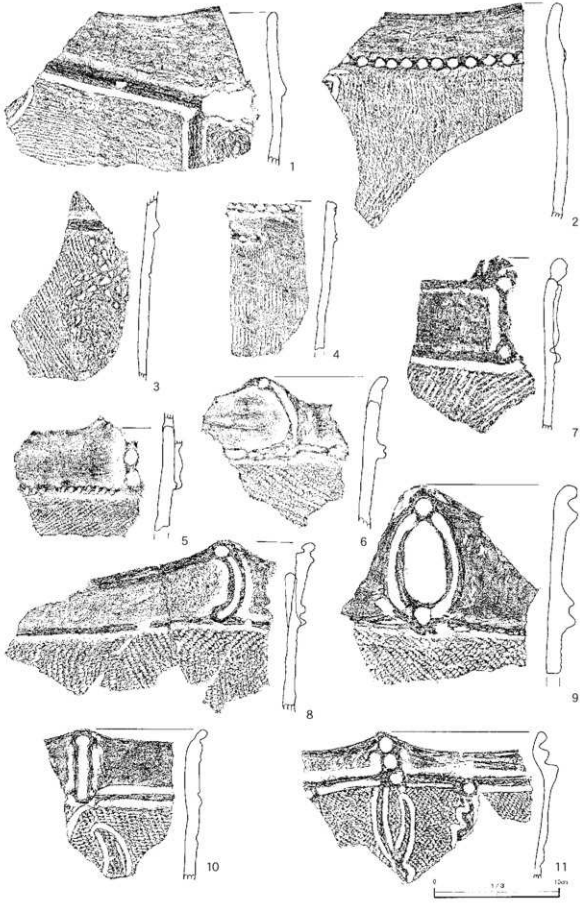


図 58　西向貝層貝層外出土土器⑥ Ⅶ群土器

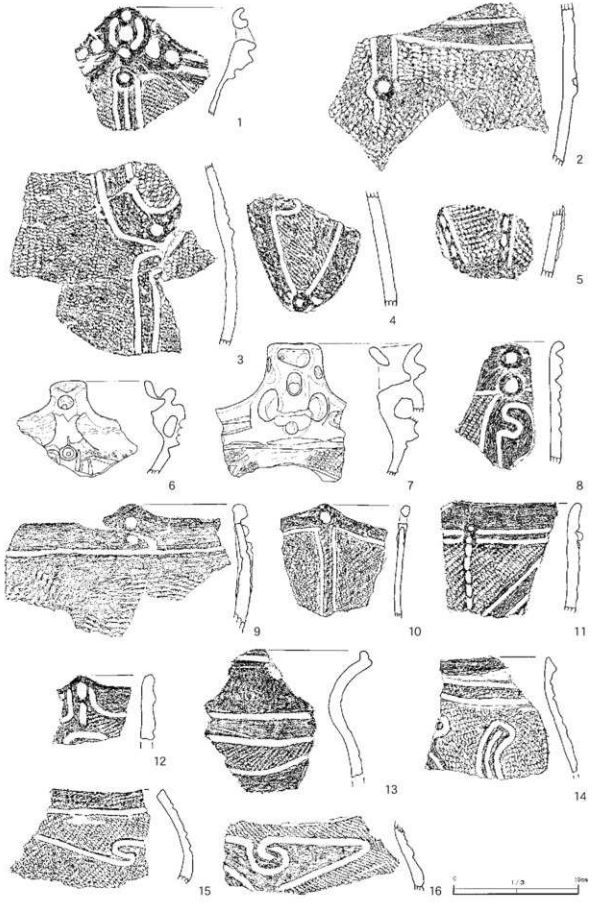


図 59　西向貝層貝層外出土土器⑦ Ⅶ群土器

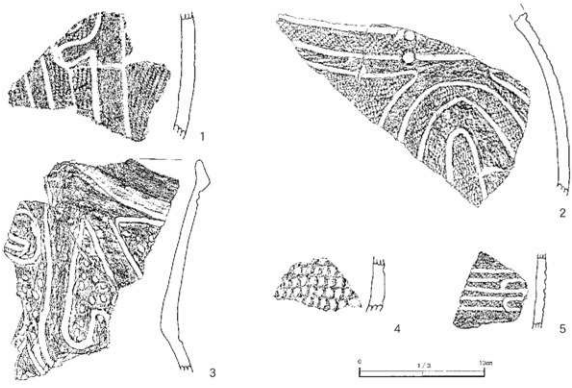


図60　西向貝層貝層外出土土器⑧ Ⅶ・Ⅷ群土器

同図15は内湾する口縁であり、口縁を沈線区画し、縄文上に横位の曲線状の文様を加えている。同図16は胴部が膨らむ胴部上半にあたり、同図15の文様に摩消しを加えたような横位曲線状の文様を施している。

図60－１・２は摩消縄文で文様を描かれた胴部である。１は蕨手文、２は渦巻状の文様が描かれている。

（３）Ⅶ－４類・Ⅷ－１類（図60－３～５）

３・４はⅦ－４類である。３は波状口縁であり、胴部中位で屈曲し、直線的に開く器形を呈する。口縁は短く内屈する。無文地に沈線で曲線状の文様を施し、沈線間に半截竹管による刺突を充填している。４は横方向からの刺突が全面的に施されている。

５はⅧ－１類である。縄文地に施された横位沈線間に縦位弧状の沈線を付加している。

第７節　西向地区斜面下部遺構外出土土器

第１項　調査区の概要

西向地区斜面下部は、西向貝層の西側斜面下にあたる。この地区は表土上から多くの破砕貝が認められるが、65Ｔ等のトレンチによる調査及びボーリング調査により、耕作等により西向貝層が破壊され、斜面下部まで崩落した二次堆積であることが確認された。

この地区で調査した調査区は、65・68・69・70・71Ｔである。このうち65Ｔで綱取式期の土坑が１基検出され、65・70・71Ｔでは遺物包含層を確認した。遺物包含層を掘り込んで調査をしたのは65Ｔだけであり、その他は上面確認にとどめている。遺物包含層は緩やかな斜面に厚さ20cmほどで堆積している。綱取式の土坑の上位に堆積するが、遺物包含層からはⅢ～Ⅸ群までの土器が混在している。

平成９年度にこれらの西側で実施したトレンチ（①～④Ｔ）やさらに西側の西向地区低地部にも調査した箇所（Ⅲ区）があるが、今回は報告の対象としなかった。本節では、65・68・69・70・71Ｔの調査区における１・Ⅱ層から出土した土器を掲載した。

第２項　Ⅲ群土器

（１）Ⅲ－２・３類（図61－１～４）

４はⅢ－２類である。横位多条結節回転文上に縦位の波状沈線が施される。

１～３はⅢ－３類である。１は直線的に開く器形で、口縁に縦位刻みを施している。口縁下には平行沈線により文様を描き、上下区画された中に斜線文が施される。２は波状口縁で、波頂部に瘤状貼付文を施す。口縁と胴部中位に単沈線による多条の山形沈線を施し、その間を２条の斜線文が加えられている。３も縄文地に山形沈線を描くものである。

（２）Ⅲ－４・５類（図61－５～16）

５～12・14～16はⅢ－４類である。５は直線的に開く器形を呈し、横位爪形文と三角刻み列が交互に多段に配されている。６は口縁を無文とし、屈曲する頸部を爪形文で区画して、胴部に多条の平行沈線が縦位・波状に施されるものである。７・８は単沈線で文様を描き、７は口縁に隆帯、８は突起が付けられている。９は口縁が肥厚し、沈線と沈線に沿う爪形文が施されている。14は胴部破片で同じく沈線に沿う爪形文で弧状の文様を描いている。10は口縁上端に隆帯を貼付けて幅広とし、そこに沈線による文様を施している。口縁外面は上位を沈線区画し、横位弧状の短沈線を多段に配している。

11は口縁に棒状工具による刻みを施している。12は胴部破片で縄文地に多条の平行沈線により方形・Ｘ字状の文様を施文する。平行沈線の交点には太描の弧状沈線が加えられている。15は金魚鉢形の器形を呈するもので、胴部上半に短沈線による山形文と２条の横位沈線文を施し、文様帯の下位を横位隆線で区画している。16は口縁上位に多条の縦位短沈線を施文し、横位に沈線区画している。区画下は沈線で弧状文と波状文を描いている。口縁の内面は隆帯を貼付けて突出した形態を呈している。

13はⅢ－５類で、無文の口縁がやや肥厚するものである。胴部は横位縄文が施文されている。

第３項　Ⅳ群土器

（１）Ⅳ－１類（図61－17・18）

17は口縁内面に隆帯を貼付けて、肥厚した形態を呈する。梯子状短沈線を施した渦巻文を描き、余白部に斜位多条沈線を施す。18は頸部を刻み付隆帯で区画し、口縁部に浅い平行沈線を斜位に施した後、やや深さのある平行沈線を斜位（格子状？）に加えている。

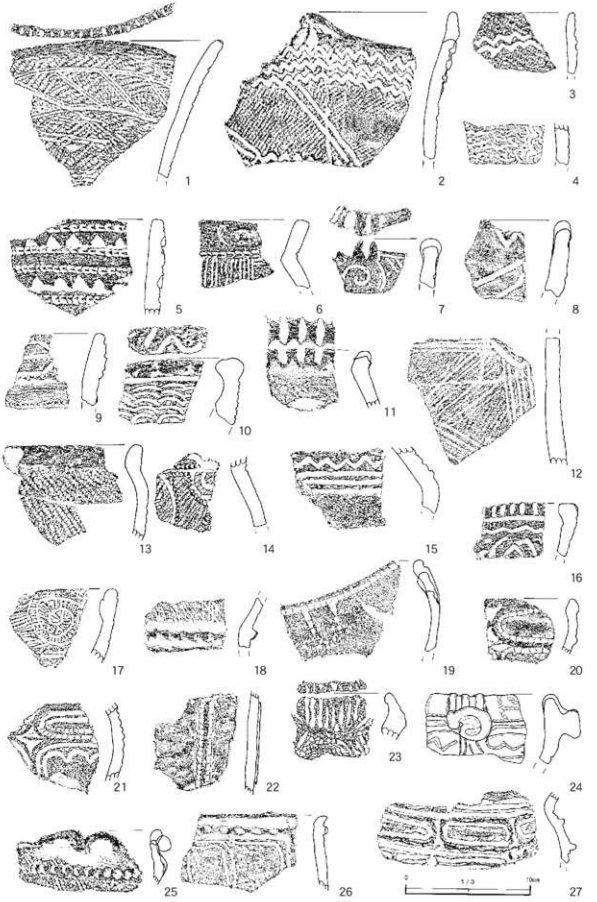


図61　西向地区斜面下部遺構外出土土器① Ⅲ・Ⅳ群土器

（２）Ⅳ－３・５類（図61－19・20・22、図62－１・２）

図61－19・20・22、図62－２はⅣ－５類とした。図61－19は口縁が内湾する波状口縁である。口縁に沿って１条の有節沈線を施し、波底部に２条の有節沈線が短く垂下する。同図20・22は隆線に沿って１条の有節沈線が施されるものである。20は口縁に楕円形区画を有し、区画線に沿った１条の有節沈線が胴部に垂下している。22は無文地に縦位隆線・有節沈線が施されている。

図62－１はⅣ－３類とした。内面にも段をもち、外面に多段の輪積痕を残している。同図２も多段の輪積痕を残すものだが、輪積痕上に断面三角の隆線による縦位文様が加えられている。

（３）Ⅳ－２類（図61－21・23～27、図62－３～８）

図61－21は胴部上位に隆線による楕円形区画を施し、区画内に隆線に沿う２条の有節沈線を施している。区画下はＹ字状隆線・沈線が垂下し、上位に連弧状沈線が施される。同図23は波状口縁の波頂部突起で、上端はわずかにＵ字状を呈する。突起はＵ字状の隆線が下位に施され、その上位と波頂部上端に縦位多条沈線が施される。波頂部下は逆Ｕ字状の多条沈線を中央に配し、口縁に沿って沈線と交互刺突文が施文される。同図24は口縁下を２条の横位隆線で区画し、隆帯上に渦巻状隆帯を貼り付けた突起を有する。突起には口縁から垂下する縦位隆線が加えられる。口縁は横位（楕円？）隆線と縄圧痕文が施される。頚部は沈線による山形文・弧状文などの文様が施文される。

同図25は口縁に弧状貼付文を付け、口縁に沿って横位１条の縄圧痕文が施されるものである。屈曲する頚部には縦位に縄圧痕文がみられる。同図26は短く外反する口縁で頚部から胴部にかけてわずかに膨らむ器形である。口縁下には刻み付隆線が施され、縦位の隆線を加えて方形区画をなしている。胴部の区画内は無文地に浅い沈線によるＬ字状？の文様が描かれる。同図27は頚部で屈曲する器形の胴部上半の破片資料である。隆線による楕円形区画を配し、区画内に隆線に沿う浅い沈線が施される。区画の上下は横位の多条沈線が加えられ、楕円形区画の一部の交点下位から垂下する２条の隆線も認められる。

図62－３は波頂部が三角形状を呈する波状口縁である。口縁内面に隆帯を貼付け、口縁上端を幅広とし、爪形文を施文する。波頂部から縦位に縄圧痕文を付けた隆帯が垂下し、斜位の多条沈線が口縁に沿ったように施される。同図４は環状貼付文を付け、Ｌ字状に断面三角の隆線を無文地に施している。口縁はやや外傾し、内面に隆線状に稜を持ち、楕円形沈線と沈線の端部に刻み文を有する。

同図５・６は口縁に隆線による楕円形区画を施すものである。５は直線的に外傾した胴部が頸部で直立気味に屈曲し、明瞭な稜を有する。反り気味に内傾した頚部は口縁下で再度稜をもって内屈し、楕円形区画と一体となっている。区画内には縦位沈線が施される。６の楕円形区画内は区画に沿った２条の沈線が施される。

同図７は縄文地に沈線により弧状文と斜位の楕円文が施されている。同図８は口縁に横位に伸びたＳ字状貼付文による突起が付く。口縁下には隆帯を貼付けて、複合口縁状の段を持つ。口縁外面には半截竹管による横位刺突列、胴部には縦位LR縄文が施されている。

第４項 Ⅴ群土器

（１）Ⅴ－１類（図62－９～15）

９・10は口縁下に隆帯を貼り付けるものである。９は口縁に縄圧痕文を施す。10は口縁にＳ字状？貼付文と有節沈線を施す。口縁下には沈線による上向連弧状文を施文し、頚部は横位沈線で区画している。11は口縁に隆線による楕円形区画を有するものである。外面には沈線による文様を施す。内面

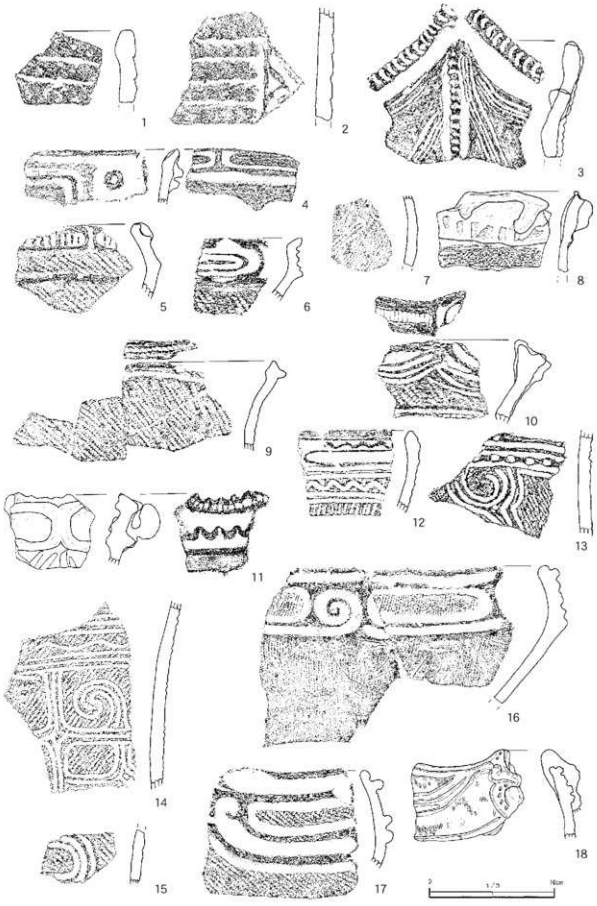


図 62　西向地区斜面下部遺構外出土土器② Ⅳ・Ⅴ群土器

には隆帯を貼付け、隆線による波状文と有節沈線を施す。12は口縁に隆線による波状文と楕円文を、その下位の撚糸文地に横位・波状沈線を施している。

13～15は胴部に沈線文様が施すもので、13は頸部を隆沈線と隆線で区画し、3～4条単位の渦巻状沈線を描く。14は横位・山形沈線で頸部を区画し、方形区画内に渦巻文・クランク状文を施文する。

（2）V－2類（図62－16～18、図63－1～4）

図62－16～18は口縁を隆沈線による渦巻文・楕円形・弧状の区画を施すものである。18は渦巻状？の突起が付けられている。突起周囲には渦巻状沈線と刺突が加えられる。

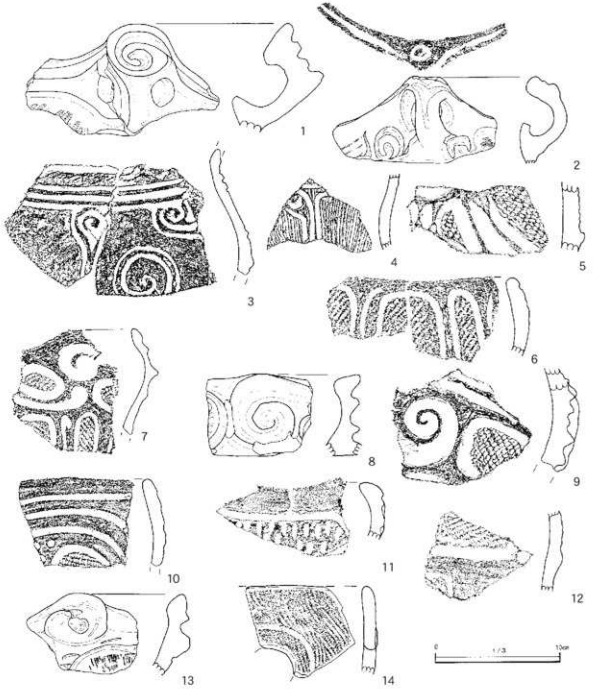


図 63　西向地区斜面下部遺構外出土土器③ V・Ⅵ群土器

図63－１・２は橋状把手を持つもので、把手の左右から内面に抜ける貫通孔が施される。１の波頂部は隆沈線による渦巻文、２の波頂部は環状沈線を施し、把手の周囲には渦巻状沈線を描く。

同図３は、胴部が膨らむ器形で、無文地に隆沈線で文様が施される。頸部を無文とし、胴部を横位に区画し、胴部には連結渦巻文が描いている。同図４は縦位の条線文地に渦巻状沈線を施文する。

第５項　Ⅵ群土器

（１）Ⅵ－１類（図63－５～12）

５は隆沈線で文様を描く胴部破片である。６は口縁が内湾する器形で、縦位帯状文が施されている。７～９は口縁部に渦巻状隆沈線を施すものである。11・12も同様の口縁区画がなされているとみられる。７は口縁が内湾するキャリパー状の器形で、口縁と胴部で分帯化され、胴部は縦位に帯状文が施される。10は口縁を沈線区画し、弧状の文様を配し、余白部に刺突を充填する文様を施文している。

（２）Ⅵ－２類・Ⅵ群（図63－13・14、図64－１）

図63－13は波状口縁で波頂部に「の」字状隆帯を貼り付けるものである。条線文を沈線で区画している。同図14は胴部上位に円形の貫通孔を有する。貫通孔の周囲に弧状沈線が施される。

図64－１は小波状口縁を呈し、波頂部から伸び、口縁を横区画する隆線と、口縁から逆Ｌ字状に胴部に垂下する隆線が施されている。隆線で区画された余白部に縦位条線文を施し、未調整沈線により楕円状・帯状に区画される。

第６項　Ⅶ群土器

（１）Ⅶ－１類（図64－２～５・13・14、図65－１）

図64－２は口縁を隆帯と沈線で区画し、盲孔を加え、盲孔を基点とし、蛇行状沈線が施される。同図３～５は口縁を隆帯で区画し、弧状隆帯を加えるもので、３・４は胴部に蕨手状沈線が施される。４は貫通孔を有した突起をなす渦巻状の隆帯が弧状隆帯として頸部に垂下している。

同図13は波状口縁で波頂部に貫通孔を有する。波頂部上端は沈線を施した突起を付け、貫通孔の周囲に盲孔、下端に円形浮文を加える。波頂部の円形浮文からは中央沈溝の隆帯が垂下し、口縁は２条の沈線を施している。同図14は口縁が内屈する波状口縁で、波頂部に縦位隆帯を貼り付けた突起を施している。突起の内面は弧状沈線と盲孔が施され、内面中央から外面横に抜ける貫通孔を有する。

図65－１は重三角形状の文様を描く摩消縄文が施される。

（２）Ⅶ－２・３類（図64－６～12、図65－２～11・13）

図64－６～12は口縁・頸部を沈線区画するものでⅦ－２類である。６・９・11は波状口縁または突起を有し、波頂部に貫通孔を有する。６は貫通孔に沿う隆線を施し、貫通孔脇と波頂部上端に盲孔を施す。７は口縁に弧状隆帯を貼付、胴部には曲線状の文様が描かれている。８は盲孔を基点として蕨手状、弧状沈線が描かれる。９は貫通孔に沿って隆線・沈線・盲孔、頸部には列点状沈線が施される。11は盲孔を基点とした蕨手状沈線が垂下する。12は崩れた蕨手状沈線を描いている。

図65－２～７は曲線状の文様を描く胴部破片でⅦ－２類である。７は蕨手状文がみられる。９は頸部を沈線区画するものである。横位沈線区画上に円形浮文を加え、それを基点に縦位列点状沈線を施文し、曲線状の文様を無文地に描いている。同図10・11は多条沈線により、弧状の文様を描くものである。10は横位楕円状沈線で頸部を区画し、盲孔が加えられている。

同図12はⅦ－３類で、横位・縦位に沈線を施し、縄文を沈線間に充填するものである。

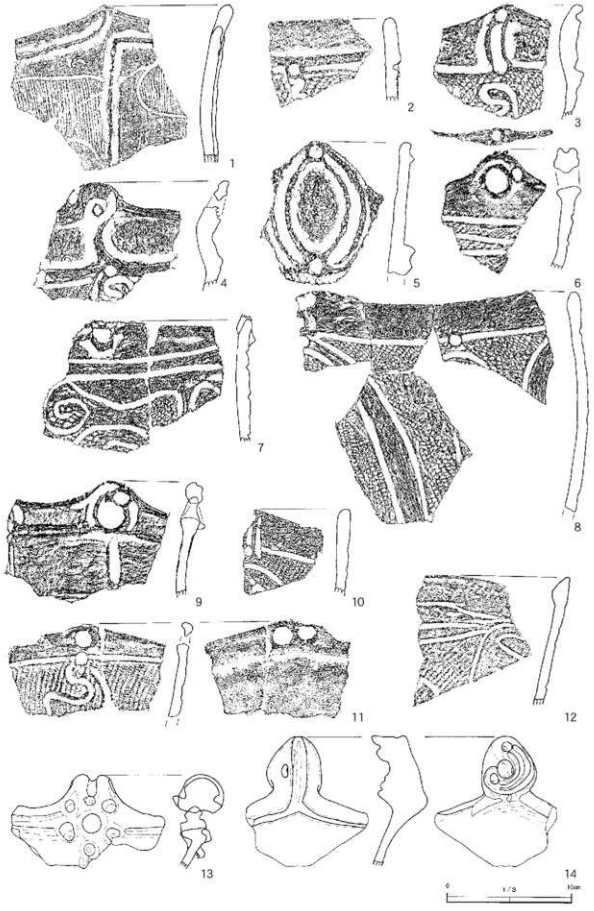


図 64　西向地区斜面下部遺構外出土土器④ Ⅵ・Ⅶ群土器

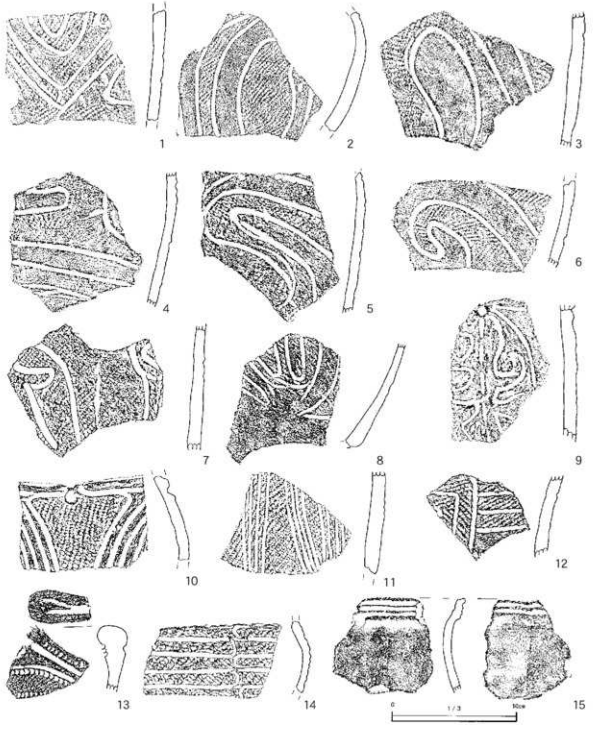


図 65　西向地区斜面下部遺構外出土土器⑤ Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ群土器

第７項　Ⅷ・Ⅸ群土器（図65－13～15）

13・14はⅧ－１類である。13は波状口縁を施し、波頂部に隆帯を貼り付けている。沈線で弧状の区画文を施して、縄文を充填させ、口縁と区画に沿って刺突が施されている。14は横位平行沈線間に縦位弧状沈線を付加するものである。

15はⅨ群で、壺形土器である。口縁が段をもって直立して立ち上がり、横位３条の沈線を施す。内面にも２条の沈線を加えている。

第３章　まとめ

１．はじめに

浦尻貝塚は、前期前葉～晩期末葉までの遺構・貝層・遺物包含層が確認され、一遺跡の継続期間としては極めて長期にわたっている。また、出土土器は早期の条痕文系土器群から出土し、長短の断続期を挟む可能性はあるが、遺構等の確認時期以上の長期間の利用がうかがえる。

本報告ならびに「浦尻貝塚２」（南相馬市教育委員会2006）では、南台（台地南部を除く）・台ノ前・西向地区で出土した遺物を掲載した。この３地区では、前期後葉～後期中葉の遺構・貝層・遺物包含層が確認されており、当該時期の土器が多く出土している。貝層は断続期を挟みながらも前期後葉～後期前葉までの所産と考えられ、遺構は中期後葉以降の検出が多い。遺構等が確認されない後期末葉以降の出土土器は極少量である。

これまでに、報告した浦尻貝塚の範囲確認調査は、遺構等の保存を前提に調査を実施している。このため、出土土器についても、遺跡全体からすると断片的であることは否めない。しかし、浦尻貝塚では、福島県太平洋岸では調査された遺跡数が少ない時期である前期後葉～中期前葉の貝層からの出土土器があり、貴重な資料と言える。また、この時期は浦尻貝塚の貝層形成の中心時期であり（註１）、多くの情報を内包する各貝層の一定の時間軸を決定する必要がある。

このようなことから、本報告のまとめとして、大別した層位毎のまとまりを概観し、貝層形成の中心時期である前期後葉～中期前葉の土器群の概要を述べることしたい（註２）。対象とする土器群は、貝層中から出土した資料を中心とし、適宜、遺構・遺構外・貝層外出土資料で補足することとする。以下で記述する層位ごとの土器群は、出土状況や土器の特徴から、一定の時間幅を共有すると考えたまとまりである。これらは複数の時期のものが含まれるが、出土量や大形破片の出土を基に、各層の中心時期を考え、まとまりを設定した（註３）。

２．大木３～５式

貝層から出土した大木３～５式に位置づけられる土器群は少なく、台ノ前北貝層の斜面上位にあたる53Ｔ東Ⅲ－３層ならびに西向貝層斜面上層の64Ｔサブトレンチ１Ⅲ層出土土器をあげるに留まる。

53Ｔ東Ⅲ－３層では、縄文地に平行沈線による縦位木葉文（図66－３）を施すものがあり、大木３式に相当しよう。同図４は口縁に指頭による交互押捺が施され、大木４式の特徴を有するが、口縁下に横位爪形文列と地文と同じ原体のLR縄文による縄圧痕文が山形状に施されている。縄圧痕文は大木５式の要素とされる（芳賀1985、小林1991）。幅の狭い爪形文列を浮島Ⅲ～興津式からの影響と考えることもでき、本土器を大木４式の新しい段階に位置づけておく。

その他、縄文を施文した粗製土器があり、口縁が外反して広がる器形（同図１）、胴部中位が膨らむ器形（同図２）が認められる。１は横位施文の縄文とともに斜位方向に結節回転文が加えられている。これらは大木３～４式に含められ、口縁上端に刻みを有するもの（同図５）や粗雑な条線文を施すもの（同図６）も共伴すると考えられる。

64Ｔサブトレンチ１Ⅲ層では、口縁に無文部を有し、口縁下と内面に２条単位の波状粘土紐貼付文を施す大木４式が出土している（同図７）。同図10の渦巻状貼付文は、少量の繊維を胎土に含み、粘土紐の形状が大木４式のものに共通する。これに類似した渦巻状貼付文は図25－29があり、これは大木４式に共通する地文を有し、幅の狭い爪形文上に施されている。

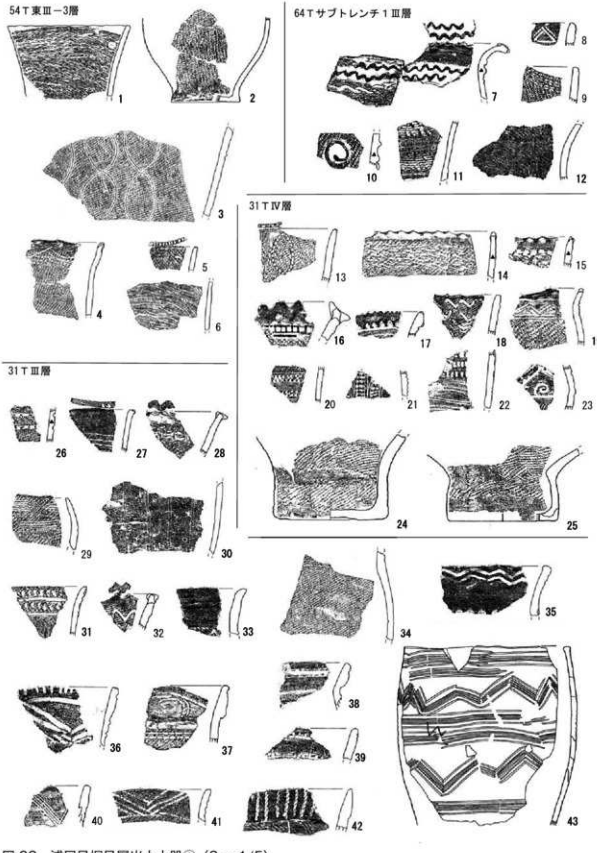


図 66　浦尻貝塚貝層出土土器①（S＝1/5）

図66－9は口縁に条線帯（縦位刻み）を持ち、口縁に沿って爪形文が施されている。同図11は貝殻腹縁文、条線文、横線文が配される。これらは興津Ⅰ式に位置づけられよう。

この他、当該時期の土器は、各貝層中や貝層外から断片的に出土している。大木3式では、円形竹管文で縦位木葉文を施すもの（図66－13）、爪形文が施されるもの（同図26）、内湾する口縁で、口縁端部が短く外反し、円形竹管文を配するもの（図68－6）、入組木葉文と考えられる文様内に円形竹管文を施すもの（図69－1）などが相当しよう。遺構・貝層外資料でも図5－2や図23－12・13が含められる。

大木4式は、大木3式に比較し出土数が多くなる。口縁は指頭による交互押捺（図66－14・15、図68－8）や部分的な刻みを施すもの（図66－27）、波状貼付文を施すもの（同図28）、上端に刺突列（図68－7）・縄文（同図8）を施すものがある。文様は、口縁下に刺突列（図66－15）・結節回転文（同図14・28）を施すもの、口縁に無文帯を有し、口縁下を有節沈線で横位に区画するもの（図66－27、図69－2）、これに縦位の文様を加えるもの（図68－7・8）が多くみられる。この他、図66－29・30のような平行沈線で文様を描くものも含められよう。

遺構・貝層外資料では、大木4式の新しい段階とされる粘土紐貼付文（図5－1・8・9等）のほか、単沈線で山形文を描くもの（図17－2）などがある。図23－20は、口縁の波状貼付文が鋭角化し、山形状を呈しており、大木5式の口縁の鋸歯状貼付文につながると考えられる。

大木5式はまとまった土器群はないが、台ノ前北・南貝層から他の時期の資料と混在して出土している。大木5a式とされる鋸歯状貼付文を持ち、梯子状貼付文を施すもの（図66－16）、山形沈線文を施すもの（同図32）の他、大木5b式とされる口縁の上下に刻みを有したもの（同図17、図68－10）がみられる。図68－15のような口縁の鋸歯状貼付文が緩い波状となり、多条横線文と連弧状の文様が施文されるものも大木5b式に含めて考えられよう。

この他、山形沈線文がランダムに配されるもの（図66－18）、刺突列と横線を交互に施すもの（同図31）、口縁部に無文部を有し、縄圧痕文と山形沈線を施すもの（同図33）、縄文地に横位の縄圧痕文を施すもの（同図34）などがある。口縁下の刺突のみのもの（図68－9）は、大木4式から大木5式に相当しよう。

遺構・貝層外資料では、口縁に環状突起を有するもの（図23－22）、頸部に刺突文列を施すもの（同図27）がある。沈線文様は、口縁に無文部を有し、山形文が整然としたもの（同図29）や縦位に施文されるもの（同図32）など粘土紐貼付文と共通する文様がある他、平行沈線で菱形文様を描くもの（同図33）、当地域では少ないとされ、胄宮西遺跡（会津高田町教育委員会1984）などでみられる幾何学的な文様が組み合わさるもの（同図34）などもある。

また、内湾する口縁に、縦位に細い粘土紐貼付文による文様を施し、貫通孔が伴う環状貼付文を持つものがある（同図26）。同じく波状口縁の波頂部から垂下する縦位の文様を細い貼付文で施し、口縁が庇状に鋭く外反するものもある（図53－6）。これらは大木5b式に位置づけられる。さらに、図24－5～10のような複合口縁の下端に刻み、刺突を施すものも同段階と考えられよう。**（註4）**

これらの土器群には64TサブトレンチⅠⅢ層出土土器にみられるように、浮島・興津式が伴うと考えられる。他に、貝層中から、興津Ⅰ式として変形爪形文と刺突列、多条横線文が配されるもの（図66－20）、興津Ⅱ式として平行沈線区画内に刺突を充填して文様を描くもの（同図21）がある。同図22は刺突と平行沈線による条線文が施され、浮島Ⅲ～興津式に相当する。これらは遺構・貝層外からも散見され、浮島Ⅱ～Ⅲ式（図27－6～8）や興津Ⅰ式（同図9）などが中心となるようである。

当該時期の資料は、浜通り地方北部では羽白C遺跡など真野ダム関連遺跡の中で出土しており、鈴鹿良一により、次のような土器群の変遷が示されている（鈴鹿1990）。

羽白C遺跡1次・2次	大木3式（古）
上ノ台C遺跡	大木3式（新）
岩下D遺跡	大木4式（古）、諸磯b式（中）、浮島Ⅱ式
羽白D遺跡・柏久保遺跡	大木4式（新）、浮島Ⅲ～興津Ⅰ式
羽白A遺跡・松ヶ平B遺跡	大木5a式、興津Ⅱ式（註5）

これらと浦尻貝塚出土資料を比較すると、64Tサブトレンチ1Ⅲ層は大木4式（新）に相当しよう。また、浦尻貝塚出土資料は、大木4式（古）以前の資料は少なく、大木4式（新）以降大木5b式までの資料が明確であり、小破片資料を含めると多くの文様・器形等のバリエーションが認められる。浮島Ⅰb式、諸磯b式以前の資料が少なく、浮島Ⅱ～Ⅲ式以降多いこともこの傾向に一致している。

これらの土器群は先学により東北地方南部においても地域差があり、浮島・興津式の出土量にも差があることが指摘されている（芳賀1985など）。資料がまとまりつつある中で（註6）、これらの変遷や地域差についても今後検討していく必要があろう。

3．大木6式

当該時期に限定される土器群はないが、各貝層から多く出土している。福島県の当該時期は松本茂により古・新の2段階に分けられ（松本1991）、近年松田光太郎により東北中南部を対象とした3段階5様相の編年案が出されている（松田2003）。ここでは松本の2細分を基に記載し、松田の編年で補足する。概ね松本の古段階は松田の古・中段階に、松本の新段階は松田の新段階に相当しよう。

31TⅣ層では、この時期以降の土器は出土はなく、当該時期が下限である。図66－24・25は金魚鉢形の器形の底部破片で横位の縄文・結節回転文が施文される。同図19は波状口縁を呈し、頸部に横位沈線文様が施され、大木5b～大木6式古段階に位置づけられる。この他、三角形区画内に結節浮線文による渦巻文を施すもの（同図23）は、大木6式に併行する関東・北陸地方の影響が考えられよう。

31TⅣ層の上位にあたる31TⅢ層は次段階の土器が中心となるが、少量の大木6式が含まれている。口縁に文様を施すものでは、2条単位の太描沈線で文様を描き、頸部を三角刻み（図66－35）・斜位刻み（同図36）で区画するもの、幅が狭い肥厚口縁に有節沈線（同図37）・爪形文（同図38）が施文されるもの、縄圧痕文が施されるもの（同図41・42）などが松本の古段階に、沈線に沿う刺突が施されるもの（同図39）、多条沈線で山形状の文様が描かれるもの（同図40）が同じく新段階に当てられよう。砲弾形の器形を呈する同図43は、浅い多条沈線で横線文と山形文が交互配置されるもので、胴部中位に波状貝殻腹縁文が部分的に施文されている。文様構成は興津式以降にあると考えられるが、器形は十三菩提式に類似する。いずれにしても関東地方からの影響を受けた土器と見ることができる。

38Tの下層にあたるⅣ層・ⅢE～G層からも少量の大木6式が出土し（図68－11～13・16）、11・12・16が松本の古段階に、13が同じく新段階に当てられる。

最も資料としてまとまっているのは54Tの最下層にあたる29・30層であり、少量の大木7a式以降の土器群（図69－24～28）が含まれるが、主体となるのは大木6式である。大形破片資料では、金魚鉢形のもの（図69－17～20）があり、18・20は胴部中位まで文様が施され、爪形文による斜線文、弧状文、同心円文等の文様が施文されている。17・19は口縁に文様帯が縮小しており、17は隆帯で区画した口縁部に爪形文が沿った沈線により文様が描かれ、19は粘土紐貼付文による菱形文、矢羽状文

が施文されている。これらはいずれも松本の新段階に相当するが、18・20の胴部まで広がる文様構成は松田の中段階新相～新段階古相に、17・19は施文される文様要素ならびに口縁に縮小された文様帯という特徴から、松田の新段階新相に位置づけられよう。17・19が新段階の中でも新しい様相であることは、胴部下半が円筒状を呈する器形や19の縦位結節回転文などが次段階へつながることが傍証となろう。これらのことから、大形破片は松本の新段階の資料が多いと指摘でき、同図23はこれらに伴う粗製土器と考えられる。ただし、本土器群には口縁下に三角刻みを有す松本の古段階の資料もあり（同図12～14）、小破片資料からみると大きな時間差があるものといえる。

同図22は半隆起線で文様が描かれるものであり、同様のものに三角刻みが伴うもの（図70－16）や遺構外資料であるが、口縁に縦位に浮線文を施し、矢羽状の半隆起線が描かれるもの（図27－11）が出土している。これらは関東・北陸地方からの影響を受けた大木６～７ａ式に伴うものと考えられる。

図70－１は横位沈線間に短沈線を充填し、下段に沈線による山形文が施されるものである。沈線間の短沈線は宮城県域で多い大木７ａ式の横位沈線間の縦位刻み（縦位刻み文）と類似するが、山形文と組み合わさる点で文様構成上異なるものとみられる（**註7**）。他に沈線間に短沈線（刻み）を充填するものとして、図17－11・13・15や図26－16・17などがあげられる。これらは大木７ａ式の梯子状短沈線に比較し、沈線間の幅が広く、沈線も太描である特徴があり、大木６式に伴うものと考えた。

大木７ａ式に多く認められる梯子状短沈線は、「浮線文を沈線文に置き換えたもの」（今村1985）、「梯子状のソーメン浮線文をなぞる単沈線から」変遷すること（松田2003）が指摘されている。この他にも、このような沈線間に短沈線を施す手法もこの出現に関わる要素と言えるだろう。同様に松本が指摘するように法正尻遺跡の図660－1～12のような沈線間に刺突（短沈線）を交互に施すものは、大木７ａ式の梯子状短沈線の文様中にみられる三角刻みによる交互刺突に変遷した可能性がある（松本1991）。松本は新段階の渦巻文が描かれる幾何学的な文様についても、次段階につながる要素と指摘している。図69－18の文様から数段階の変遷を経て図67－１の文様へという系統は首肯できる。

西向貝層の64ＴコラムサンプルＳ３のサンプル14以下は大木６式が下限と考えられ、大木６式が少量見られる（図72－４・５）。５は口縁に縦位沈線が施されるもので、松田の新段階に相当し、宮城県以北に多いとされている。貝層外資料には、宮城県以北に多い胴部に格子状の沈線文様を施すもの（図26－10）もあり、会津地方に比較し、浜通り地方北部ではこのようなタイプが多いようである。

西向貝層貝層上面からも少量の大木６式が出土している。図72－１は波状口縁で三角形の貫通孔を波頂部に持ち、口縁下有段部に爪形文を施す。同図２・３は口縁に横位または縦位隆帯がつき、２は刺突が加えられ、頚部に爪形文が施文されている。これらは松田の古段階に相当する資料と言える。

このように浦尻貝塚では大木６式古段階から新段階までの資料が多くのバリエーション（文様系統）をもって出土しており、この特徴は大木４式（新）以降継続的であると言える。また、新段階とされる資料には、次段階につながる要素が多く確認できることも指摘できよう。

４．大木７ａ式

当該時期は浦尻貝塚の貝層中から最も多くの土器が得られている。一定の層位のまとまりを抽出できたので、これを基に述べてゆくこととする。

（１）31ＴⅢ層（図67・図68－１～５）

大木６式以前に位置づけられるⅣ層の上位にあたり、下限はこの時期と考えられる。文様を施文す

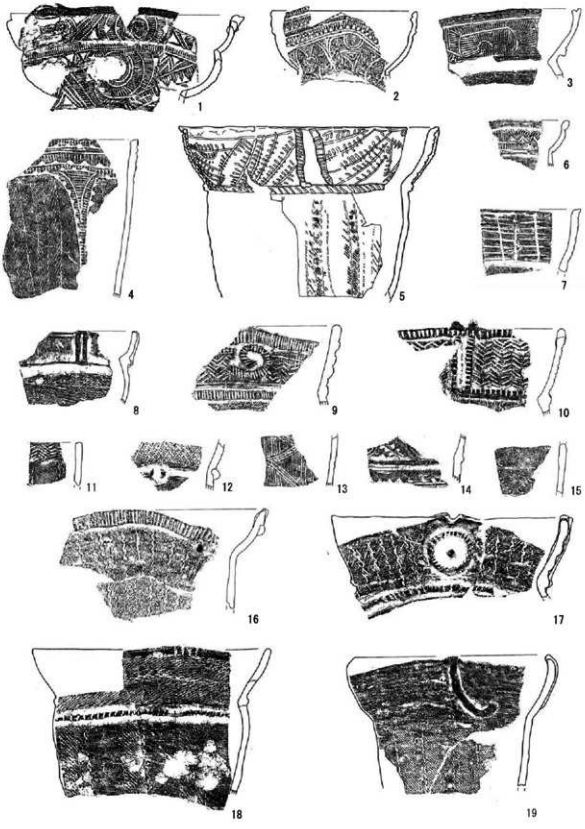


図 67　浦尻貝塚貝層出土土器②（S＝1/5）

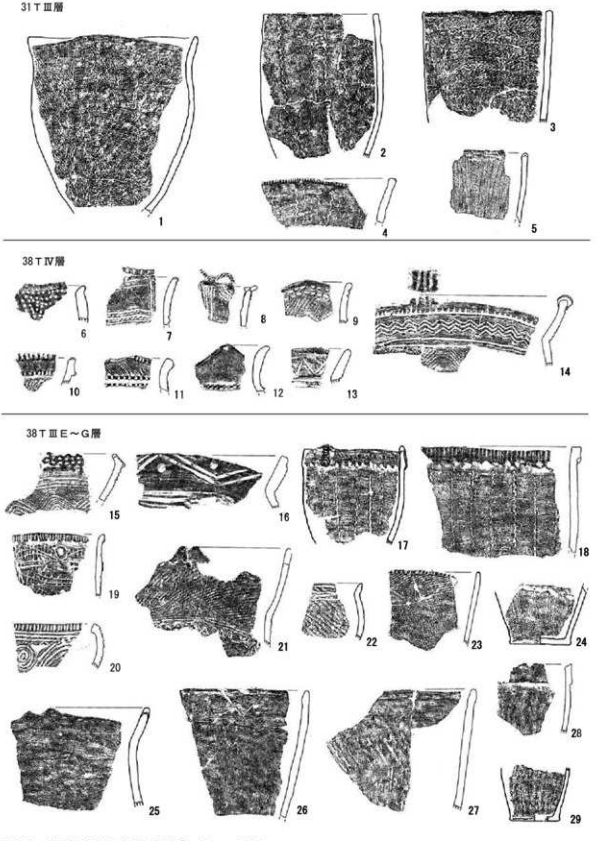


図 68　浦尻貝塚貝層出土土器③（S＝1/5）

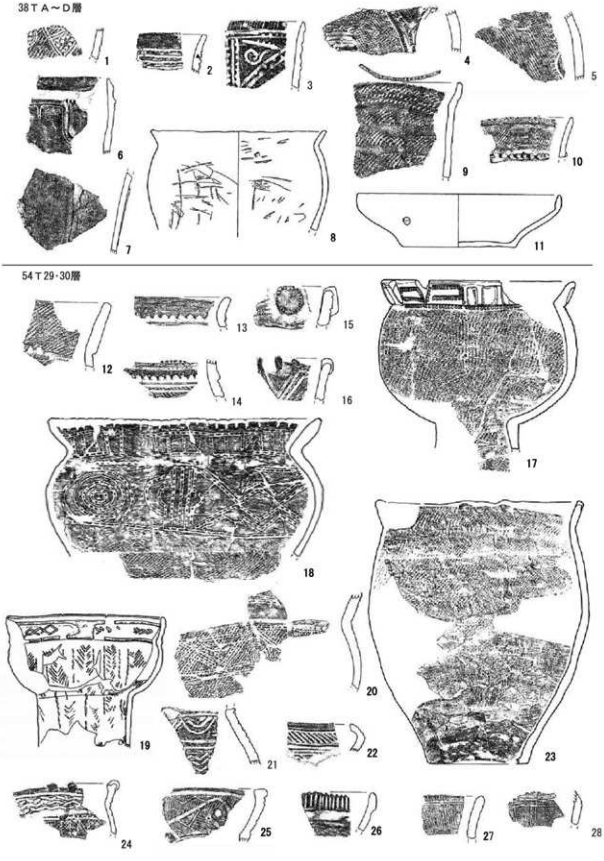


図 69　浦尻貝塚貝層出土土器④（S＝1/5）

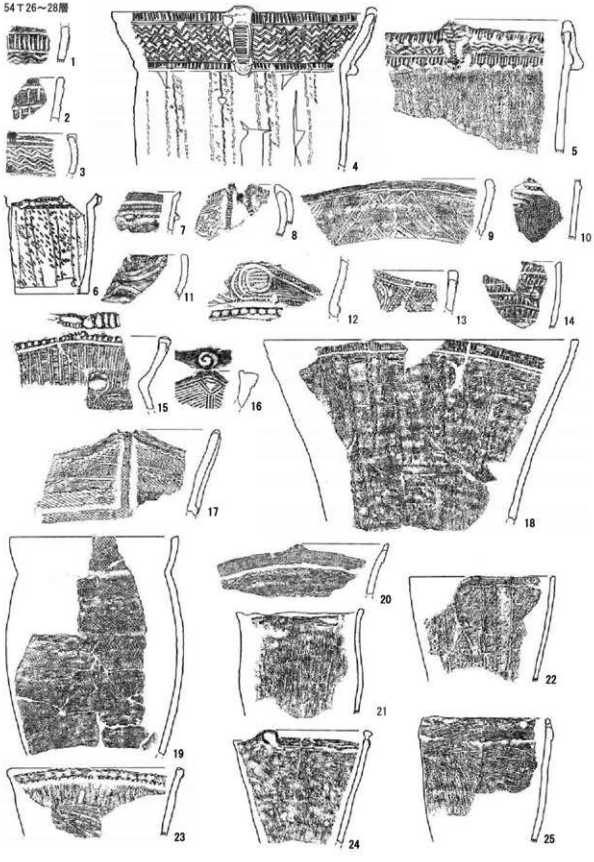


図 70　浦尻貝塚貝層出土土器⑤（S＝1/5）

るものでは、器形は内湾する口縁を持つもの（図67－１～３・５～７）と直線的に立ち上がるもの（同図４）に大別される。同図９・10も内湾する口縁の分類に大別されよう。いずれも文様は口縁部に集中する。文様は梯子状短沈線を描くものが多くあり（同図１～６）、これらは三角刻みが施され、整然とした梯子状短沈線を施すもの（１・２・４・６）が多い。３は１の渦巻文・斜線文の組み合わせが横に押し潰されたような文様であり、５も明確な梯子状ではなく、斜線文に雑に短沈線を加えた施文である。これらの特徴は、前者と時間差を示しているとも考えられる。三角刻みは隆線で頚部を区画し、平行沈線に沿って施されるものもある（同図14）。

次に、多いのが、多条の山形沈線を施すものである（同図９・10・11）。その他、斜格子状文（同図12）、雑な格子状文（同図７）、縦位沈線だけのもの（同図８）などがある。小破片資料には、集合平行沈線地上に矢羽状の文様を施すもの（同図13）や無文地に沈線に沿う刺突を施すもの（同図15）などもある。

沈線文様が施されないもの中でも内湾する器形では、頚部の隆帯区画（同図17・18）や口縁文様体内に隆帯による縦区画（同図17・19）が多くあり、沈線文様を施すものと共通する要素が見られる。他に複合口縁上に縦位の刻みを有し、口縁下に瘤状貼付文を施すもの（同図16）などがある。19は口縁が無文であり、区画する隆帯もＪ字状であり、Ｕ字状隆帯の崩れとみられ、やや新しい要素が指摘できる。縄文のみのものでは、胴部上位が膨らみ、頚部から口縁にかけて緩やかに外反するもの（図68－１）や砲弾形を呈するもの（同図２・３）などの器形がある。これらの地文は沈線文様を持つものを含めて、縦位の結節回転文を伴うものが多く、無文のものは小破片資料しかない（同図５）。

（２）54Ｔ26～28層（図70）

大木６式新段階の大形破片資料が出土する29・30層の上層にあたる。この土器群は、整然とした梯子状短沈線が少なく、縄文地に施文されるもの（９）や多条沈線地上に施されるもの（12）など雑な文様構成を呈するものが目立つ。多いのは山形沈線であり、内湾する口縁に施されるもの（４・８）や直立する口縁の狭い口縁に施されるもの（５）がある。弧状沈線が施された口縁端に山形沈線がアクセント文として施されるものもある（11）。その他、爪形文を施すもの（６・７）や沈線に沿って刺突を施し、三角刻みが伴うもの（13）（註８）、宮城県以北に多い横位沈線間に縦位刻みを施すもの（２・14）、縦位集合沈線が口縁部に施文されるもの（15）などがある。縄文施文は、沈線文様が施されるものを含め縦位結節回転文が伴うものが多いが、口縁部は横位に施文するもの（17・20）や結節回転文が伴わず、全体を横位に施文するものがある（19）。無文のものも少量みられ、複合口縁で刻みを有するもの（23）、渦巻状の突起が付けられるもの（24）、複合口縁上に有段部を有するもの（25）などがある。器形としては、31ＴⅢ層に見られなかったものとして、口縁に最大径をもち、大きく外反し、口縁がやや内湾するもの（18）、内湾する口縁で、胴部中位が膨らみ口縁径より大きくなるもの（19）などがあげられよう。

この下層にあたる29・30層でも山形沈線（図69－24）、渦巻文に短沈線を充填するもの（同図25）、など54Ｔ26～28層や31ＴⅢ層出土の土器群と共通する特徴のものが出土している。

（３）54Ｔ21～25層（図71－１～14）

54Ｔ26～28層の上層にあたる。本土器群からは山形沈線や梯子状短沈線を施すものはほとんど見られない。代わって明確になるのは、沈線に沿い刺突が施されるもの（２・４）である。２は縦位の隆帯で４分割された縄文地の胴部に上下に対向する弧状沈線を施し、それに刺突が沿う。余白部には三角刻みが施され、口縁下と胴部文様の交点には橋状の貼付文を持つ。４は口縁を無文とし、刻みが

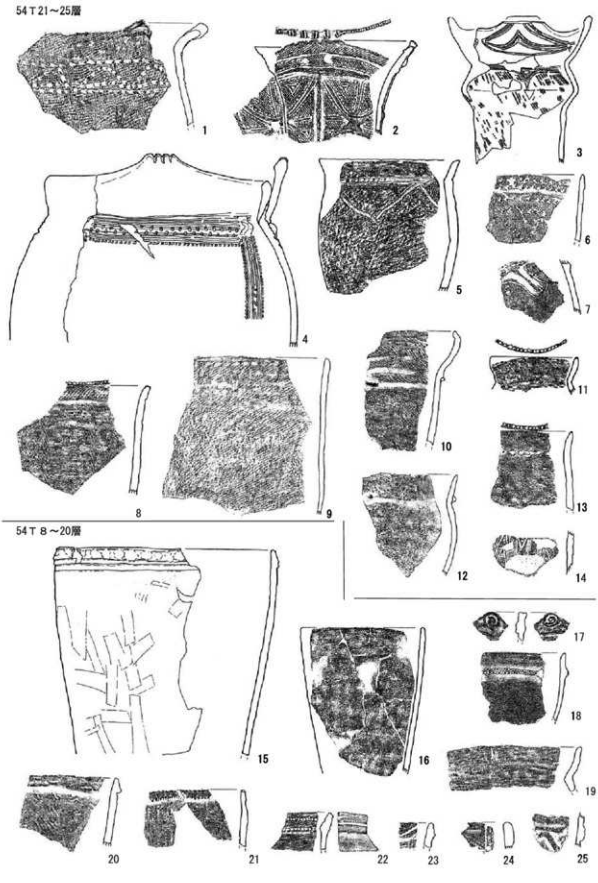


図71　浦尻貝塚貝層出土土器⑥（S＝1/5）

付けられた弁状の波頂部をもつ。横位沈線と交互刺突文、沈線に沿う刺突によりT字状の文様が施され、交点に橋状貼付文が付く。無文地に文様を施文するものは多くみられ、沈線と刺突で文様を施すもの（5）、刺突のみで文様を施すもの（6）、弧状隆線文に縄圧痕文が沿うもの（7）などがみられる。3は、無文地の口縁に沈線により三角形の区画をなし、弧状の文様が加えられている。器形の系譜は図67－1に求められよう。4・5の胴部が膨らむ器形は図70－19などに類似している。

縄文のみを施文するものでも横位縄文（9・10）が多くなり、縦位結節回転文も幅を広げやや雑に施文されるもの（8）が目立つ。これらは無文地の土器（11～13）が多くなることと、地文の簡略化という点で一致した傾向と言えよう。他に木目状燃糸文（14）があり、東北北部・北陸からの影響も認められる。

（4）54T2～20層（図71－15～25）

本土器群は54Tの最上層にあたる土器群である。文様が施文されるものはほとんどなく、縄文も浅い施文が多く（20）、無文地のものが多数を占める（15～19・21）。小破片資料では、口縁に縄圧痕文が施されるもの（23・24）のほか、口縁外面に有節沈線、内面に沈線が施文されるもの（22）や、Y字状隆線が施されるもの（25）がみられる。

（5）小結

福島県域の大木7a式は、松本茂によりⅣ期に分けられ、当地域において阿玉台Ⅰa式併行とされる上ノ台B遺跡出土資料以後が大木7b式期と理解されることが多い（松本1995・1996）。これと比較すると、31TⅢ層が松本のⅠ・Ⅱ期に、54T26～28層がⅡ期に、54T25層以上がⅢ期以降に共通する土器が多いといえるが、変遷は漸移的であり、本土器群の共時性にも問題があることから、時期を限定することは難しい。

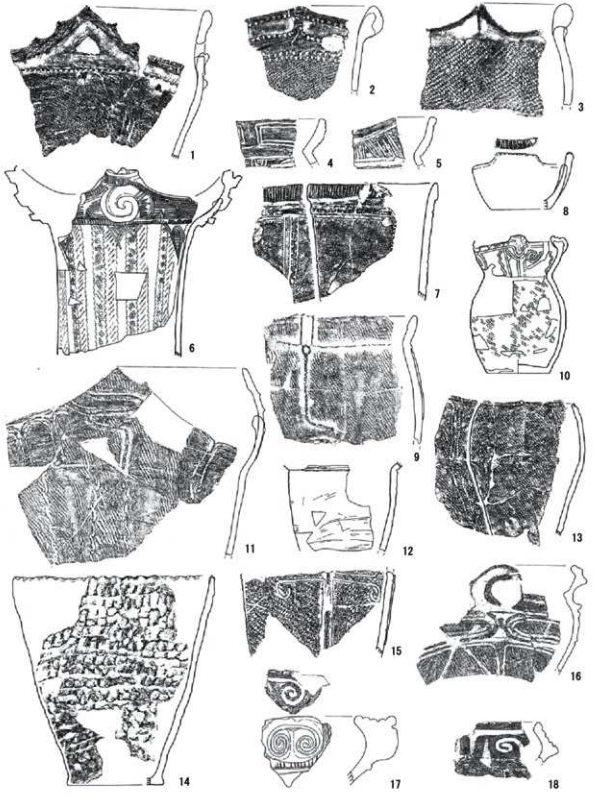
しかし、54T25層以上は、沈線・刺突を中心とした無文地への施文、縄文施文の簡略化、無文土器の増加が明瞭であり（**註9**）、31TⅢ層等の土器群にある梯子状短沈線や山形沈線を施すものや整然とした縦位結節回転文が施文されるものと大きな差が認められる。ここでは、浦尻貝塚の貝層出土の自然遺物の時間軸を設定する必要性を鑑み、これらの土器群を大木7a式新段階（松本のⅢ・Ⅳ期）とし、これに先行する31TⅢ層、54T26～28層の土器群を古段階（松本のⅡ期以前）としておく。

これを基にすると、台ノ前南貝層斜面下位の38Tでは、Ⅳ層の大木6式以前の土器に含まれる山形沈線を施すもの（図68－14）が古段階に含められる。ⅢE～G層では、口縁に縦位刻みを施し、下端に三角刻みを施す同図17～19などが古段階に含められるが、縄文地に浅い沈線で文様を描くもの（同図21）、玉付三叉文を施し、文様の交点に交互刺突文を施文するもの（同図20）、口縁に横位縄圧痕文を施すもの（同図22）などが新段階に相当し、無文（同図25～28）の出土も多いことから、ⅢE～G層は新段階が中心と考えられる。

38TA～D層では新段階のもの（図69－3）があるが、大木7b式に位置づけられる断面三角の隆線を施文するもの（図69－6・7）や隆線に爪形文が沿うもの（同図4・5）などがあり、より新しい段階の土器が含まれているといえよう（**註10**）。

同じく台ノ前南貝層にあたる39TⅢ層中からは図72－11が出土している。本土器は三角波状口縁を呈し、口縁の片側突起、波頂部からの蛇行状の隆線など東関東の特徴を示しながら、隆線に沿う縄圧痕が施され、小梁川遺跡第Ⅳ・Ⅴ群（相原1986）とされる大木7b式の要素も認められる。これは、当地域において大木7a新段階～7b式に位置づけられる土器と言えよう。このように台ノ前南貝層斜面下位では、大木7b式とされる段階までの貝層形成の可能性が指摘できる。

台ノ前北貝層にあたる54Tにおいても貝層上面ではあるが、環状・クランク状の隆線を施すもの



1～3・6：64TⅢ層上面（西向貝層）　4・5：64Tコラムサンプル３（西向貝層）　7：P100上面（南台地区台地北）
8・9・14：54TⅢ層上面（台ノ前北貝層）　10：65TⅢ－５層（西向地区斜面下）　11：39TⅢ層（台ノ前南貝層）
12・13・15・17・18：63TⅢ層上面（台ノ前北貝層）　16：ⅡESK643（南台地区台地北）

図 72　浦尻貝塚貝層等出土土器（S＝1/5）

（同図９）や指頭押捺が施され輪積痕を明瞭に残すもの（14）など東関東の影響がある同時期の土器群が出土している。同じく63Ｔでも、貝層最上層・貝層上面出土の同図12・13は、縄圧痕文が施文され、大木７ａ式新段階から大木７ｂ式に伴うものと考えられる。ただし、63Ｔの上面には当地域において大木７ｂ式に位置づけられている上ノ台Ａ遺跡出土土器と共通するもの（同図15）の他、大木８ｂ式も出土しており、下限はさらに新しい段階の可能性がある。また、中峠式に位置づけられるもの（同図17・18）も出土しており、これらが含まれていることは大木７ｂ～８ａ式期の当地域の土器群の特徴の一端を示すものと言えよう。

他に貝層中以外の資料では、口縁文様帯に細線状の地文を有する同図６は古段階に、同図７・８・10（**註11**）は新段階に、同図16は大木７ｂ式に相当する土器としてあげられる。図29－２・３の有節沈線、隆線による楕円形区画、内面刻み文という特徴は大木７ａ式新段階～７ｂ式に相当しよう。

５．まとめ

ここでは、貝層の時期決定を行う必要性を念頭に、一定の層位のまとまりをとらえ、その概要をみてきた。しかし、ここでの検討は、型式としての整理が十分ではないまま、これまでの編年に当てはめたに留まり、改めて検討を加える必要があると考えている。この事は今後の課題としたいが、浦尻貝塚の貝層中資料は、当地域における少なくとも松本の大木６式新段階から大木７ａ式新段階～７ｂ式とした段階まで多くの系統を持つ各時期の土器が含まれていると言えよう。

また、これらを通してみると、大木３式以降大木７ｂ式までの間には、何らかの表徴として東関東地方の影響が認められる。特に大木７ａ式新段階とした土器群は、今村が東関東の五領ヶ台式（今村1985）、小林が八辺式とするもの（小林1988・1989b）と共通する点が多い。既にこれらは先学の指摘するところであるが（松本1996ほか）、近年新地町山中Ｂ遺跡で当該期の資料を得て、改めて指摘されたところである（今野2007）。このことを含め、通時的と考えられる浦尻貝塚の当該期の出土資料は、複数の系統が組み合わさり、それぞれの系統が時期的な多寡や性質を表出していることが伺われる。今後、その歴史的な意義も含めて、当該期の土器群を整理していく必要があると考えられる。

註１　貝層の調査状況については、「浦尻貝塚１」（小高町教育委員会2005）のほか、本報告第２分冊に詳述している。

註２　福島県の当該時期の土器群は、大木３～７ｂ式という型式名が用いられているが、これらは福島県域においても多くの地域差や系統差が認められている。また、これらの枠組みの差異は、特に大木７ａ式において大きい（相原2008ほか）。本報告を含めた浦尻貝塚の報告では概ね福島県域で用いられている型式名（鈴鹿1990・松本1991等）を基に、筆者なりに分類をした。

註３　貝層形成以前の考えられる前期前葉以前の土器は記載を省いた。また台ノ前南貝層の38ＴＡ～Ｄ層の大木９式は分析の対象としない。西向貝層のコラムサンプル出土資料は、出土量が少ないことから、土器群として抽出しなかった。

註４　これらは大木６式古段階とする見解（松田2003）もあり、それぞれの型式の枠組みを設定することが必要と考えられる。

註５　大木５ａ式が興津Ⅱ式と併行することは芳賀英一も指摘するところだが（芳賀1985）、小林謙一は、大木５ａ式が興津Ⅱ式と完全に一致しない可能性を指摘している。（小林1991）

註６　近年南相馬市鹿島区（旧鹿島町）宮前遺跡（福島県教育委員会ほか2005）では大木３式のまとまった資料が得られており、他に浜通り地方南部富岡町の木町西Ａ遺跡（福島県教委委員会ほか2002c）・上木町Ｇ遺跡（福島県教育委員会ほか2002ｄ）から大木４式（古）、浜通り地方北部新地町山中Ｂ遺跡（福島県教育委員会ほか2007）から大木５ａ・ｂ式、大木６式の良好な資料が得られている。

註７　松田は、宮城県域の大木７ａ式とする「縦位刻み文」は下から上に突き上げる技法や横帯区画された横位沈線間に施文されることから、沈線間に直行して施文する短沈線充填技法（櫛子状短沈線）とは異なることを指摘している。

註８　本土器は「浦尻貝塚１」において、刺突を円形竹管文とみて、大木３式に位置づけたが、三角刻み文が伴うことから、大木７ａ式に伴うものに訂正しておく。

註９　本土期群は、近年報告された Ⅲ期を中心として出土している山中Ｂ遺跡と共通する点が多い（今野2007）。

註10　38ＴＡ～Ｄ層は大木９式も出土している。しかし、大木８ａ・８ｂ式の出土はみられない。このことを含め、大木７ｂ式以前のまとまりを見る上では、38Ｔ貝層中資料は大木７ｂ式新段階・大木７ｂ～８ａ式（森1998）とされる段階が含まれない土器群と位置づけられよう。

註11　本土期は「浦尻貝塚１」において大木７ｂ式としたが、口縁の短沈線（刻み）施文などから位置づけを変更しておく。

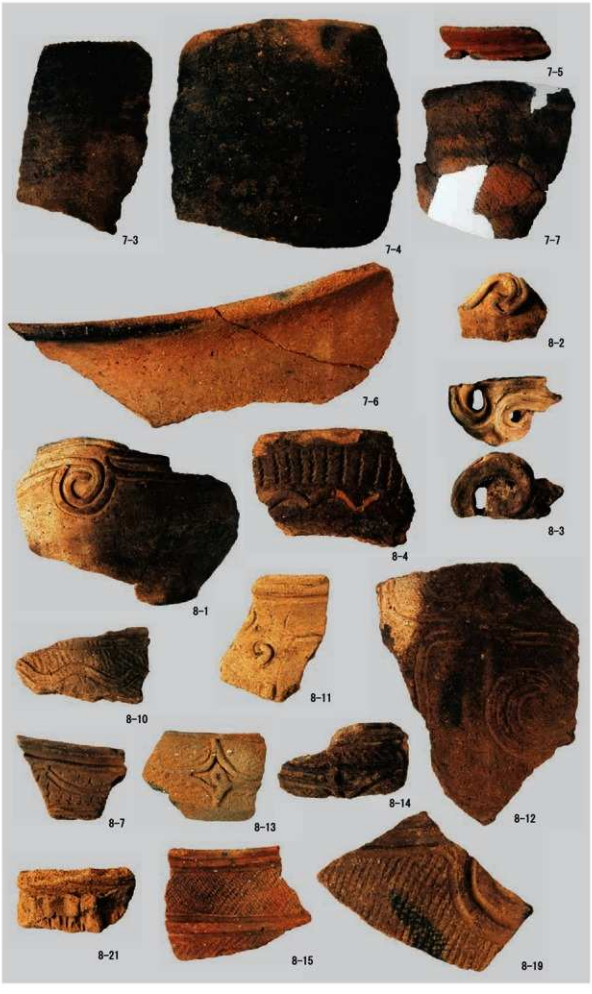
引用・参考文献

会津高田町教育委員会(1984)『宵宮西遺跡』
相原淳一(1986)「(1) 小梁川遺跡 Ⅳ 東側遺物包含層」『小梁川遺跡遺物包含層土器編』所収
相原淳一(2008)『縄年研究の現状と課題 東北地方』『歴史のものさし－縄文時代研究の縄年大系―』縄文時代の考古学2　同成社
飯野町教育委員会(2003)『和台遺跡』飯野町埋蔵文化財報告書第5集
飯野町教育委員会(2004)『和台遺跡2』飯野町埋蔵文化財報告書第6集
飯館村教育委員会(1981)『松ヶ平B遺跡・岩下向遺跡・羽白A遺跡予備調査』『真野ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅱ』
飯館村文化財調査報告第2集
石川隆司(1983)「福島県浦尻台ノ前貝塚における貝類採集活動の復元」『法政考古学』第8集　法政考古学会
石川隆司(1984)「縄文時代前期末葉における土器文化接触に関する予察」『法政大学大学院紀要』第12号
石川隆司(1988)「浦尻貝塚群の縄文土器（1）－浦尻台ノ前貝塚採集資料－」『法政考古学』第13集　法政考古学会
市川市教育委員会(2000)『東山王貝塚・イゴ塚貝塚－縄文時代低地性貝塚の調査－』
今村啓爾(1985)「五領ヶ台式土器の編年」『考古学研究室紀要』第4号　東京大学文学部考古学研究室
いわき市教育委員会(1986)『弘源寺貝塚』いわき市埋蔵文化財調査報告第13冊
海老沢稔(1982)「茨城県内における縄文中期前半の土器様相（1）」『霊良岐考古』第4号　霊良岐考古同人会
大野延太郎(1901)「磐城襍十日の旅」『東京人類学雑誌』16-181
小高町教育委員会(1975)『宮田貝塚』
小高町教育委員会(1988)『角部内南台東貝塚』
小高町教育委員会(1993)『萩原遺跡』小高町文化財調査報告第1集
小高町教育委員会(2001)「浦尻貝塚・加賀後貝塚」『小高町埋蔵文化財調査報告Ⅰ』小高町文化財調査報告第2集
小高町教育委員会(2004)『北原貝塚遺跡群』小高町文化財調査報告第5集
小高町教育委員会(2005)『浦尻貝塚Ⅰ』小高町文化財調査報告第6集
上守秀明(1995)「中期初頭の諸様相 －東関東の様相―」『第8回縄文セミナー』縄文セミナーの会
興野義一(1967～70)「大木式土器理解のために（1）～(VI)」『考古学ジャーナル No.12・16・18・24・32・48』ニューサイエンス社
興野義一(1984)「大木式土器について」『宮城の研究』1　清文堂
興野義一(1970)「大木5b式の提唱」『古代文化』第22巻第4号　(財) 古代学協会
興野義一(1996)「山内清男先生供与の大木式土器写真セットについて」『画龍点睛』
小林謙一(1984)「中部・関東地方における勝坂・阿玉台式土器設立期の様相」『神奈川考古』19号　神奈川考古同人会
小林謙一(1988)「東関東地方縄文時代中期初頭段階の土器様相－「八辺式」土器群の設定とその編年的位置について」
『村上徹君追悼論文集』村上徹君追悼論文集編集委員会
小林謙一(1989a)「縄文中期勝坂式・阿玉台式成立期における土器群組成比の分析」『考古学の世界』
小林謙一(1989b)「千葉県八日市場市八辺貝塚出土土器について－東関東地方中期初頭段階の土器様相―」
『史学』第58巻2号 三田史学会
小林謙一(1991)「東関東の縄文時代前期末葉段階の土器様相―側面圧痕土器及び前面縄文施文土器の編年的位置づけ－」
『東邦考古　第15号』
小林謙一(1995)「中期初頭の諸様相 －南関東の様相―」『第8回縄文セミナー』縄文セミナーの会
小林謙一・中山真治・黒尾和久(2004)「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定（補）」
『シンポジウム　縄文集落研究の新地平3－勝坂から曽利へ－　発表要旨』縄文集落研究グループセツルメント研究会
今野徹(2007)「山中B遺跡（調査Ⅰ・Ⅲ区）第4章　まとめ」『一般国道6号 相馬バイパス遺跡発掘調査報告Ⅵ』所収
佐藤健次郎(1932?)『福島県相馬郡福浦村浦尻貝塚第1回試掘調査報告』
志賀敏行(1985)「浦尻貝塚採集の押型文土器について」『Shell Mound』第3号
白鳥良一(1989)「前期大木式土器様式」『縄文土器大観1』小学館
鈴鹿良一(1990)「第7編　総括」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ』福島県文化財調査報告書第230集
竹島国基(1975)「第一編 第一章 郷土文化のよあけ」『小高町史』小高町
玉川一郎(1986)「福島の縄文規製塩土器」『福島の研究 1 地質考古編』清文堂
玉川一郎・吉田秀享(1987)「浦尻磯坂遺跡の縄文晩期土器と製塩土器」『福島考古』28号
谷井彪(1986)「阿玉台式からみた東北南部大木式の変遷」『古代 80 号』早稲田大学考古学会
塚本師也(1990)「北関東・南東北における中期前半の土器様相」『古代 89 号』早稲田大学考古学会
中山真治(1992)「五領ヶ台式土器―その段階設定と系統について―」『東京考古 10』
西村正衛(1984)『石器時代における利根川下流域の研究』早稲田大学出版会
丹羽茂(1981)「大木式土器」『縄文文化の研究4』縄文土器
丹羽茂(1989)「中期大木式土器様式」『縄文土器大観1』小学館
芳賀英一(1985)「大木5式土器と東部関東の関係」『古代 80 号』早稲田大学考古学会
早瀬亮介・菅野智則・須藤隆(2006)「東北大学文学研究科考古学陳列館所蔵大木囲貝塚出土基準資料」
『東北大学総合学術博物館研究紀要』第5号
福島県教育委員会ほか(1982)「七郎内C遺跡」『母畑地区遺跡発掘調査報告X』福島県文化財調査報告書第108集
福島県教育委員会ほか(1984a)「上ノ台A遺跡（第1次）」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告V』福島県文化財調査報告書第128集

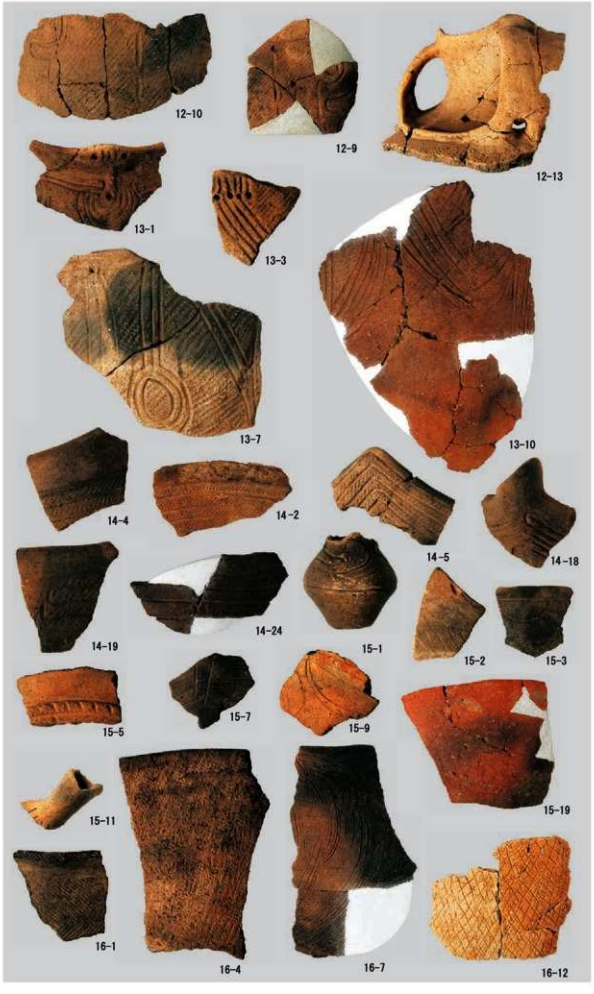
福島県教育委員会ほか(1984b)「柏久保遺跡」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告VI』福島県文化財調査報告第129集
福島県教育委員会ほか(1986)「岩下D遺跡」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告VII』福島県文化財調査報告第165集
福島県教育委員会ほか(1987a)「中江堅の宮遺跡」『国営会津水利事業関連遺跡調査報告V』福島県文化財調査報告書第177集
福島県教育委員会ほか(1987b)「岩下向A遺跡」「羽白D遺跡(第1次)」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告X』
福島県文化財調査報告第183集
福島県教育委員会ほか(1988a)「羽白D遺跡(第2次)」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告XI』福島県文化財調査報告書第193集
福島県教育委員会ほか(1988b)「羽白C遺跡(第1次)『真野ダム関連遺跡発掘調査報告XII』福島県文化財調査報告書第194集
福島県教育委員会ほか(1989)「羽白C遺跡(第2次))」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告XIII』福島県文化財調査報告書第210集
福島県教育委員会ほか(1990a)「上ノ台A遺跡(第2次)」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告XIV』福島県文化財調査報告書第230集
福島県教育委員会ほか(1990b)「上ノ台B遺跡・上ノ台C遺跡・上ノ台D遺跡・」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告XV』
福島県文化財調査報告書第231集
福島県教育委員会ほか(1990c)「八重米坂遺跡」『原町市火力発電所遺跡調査報告I』福島県文化財調査報告書第236集
福島県教育委員会ほか(1990d)「師山遺跡」『相馬開発関連遺跡調査報告II』福島県文化財調査報告書第234集
福島県教育委員会ほか(1991a)「東北横断自動車道遺跡調査報告11 法正尻遺跡」福島県文化財調査報告第243集
福島県教育委員会ほか(1991b)「大富西畑遺跡」『請戸川地区遺跡発掘調査報告I』福島県文化財調査報告書第252集
福島県教育委員会ほか(1995)「荻原遺跡」『請戸川地区遺跡発掘調査報告III』福島県文化財調査報告書第323集
福島県教育委員会ほか(1996)『三春ダム関連遺跡発掘調査報告8 越田和遺跡』福島県文化財調査報告書第322集
福島県教育委員会ほか(1999)「関林A遺跡」『福島空港公園遺跡発掘調査報告11』福島県文化財調査報告書第372集
福島県教育委員会ほか(2000)「常磐自動車道遺跡発掘調査報告21 鍛冶屋遺跡(第1次)』福島県文化財調査報告書第365集
福島県教育委員会ほか(2001a)「常磐自動車道遺跡発掘調査報告24 鍛冶屋遺跡(第2次)』福島県文化財調査報告書第377集
福島県教育委員会ほか(2001b)「常磐自動車道遺跡発掘調査報告25 馬場前遺跡(1次調査)』福島県文化財調査報告書第378集
福島県教育委員会ほか(2002a)「常磐自動車道遺跡発掘調査報告28 鍛冶屋遺跡(第3次)』福島県文化財調査報告書第387集
福島県教育委員会ほか(2002b)「常磐自動車道遺跡発掘調査報告29 馬場前遺跡(2次調査)』福島県文化財調査報告書第388集
福島県教育委員会ほか(2002c)「本町西A遺跡」『常磐自動車道遺跡発掘調査報告32』福島県文化財調査報告書第391集
福島県教育委員会ほか(2002d)「上本町G遺跡」『常磐自動車道遺跡発掘調査報告33』福島県文化財調査報告書第392集
福島県教育委員会ほか(2003a)『常磐自動車道遺跡発掘調査報告34 馬場前遺跡(2・3次調査)』福島県文化財調査報告書第398集
福島県教育委員会ほか(2003b)『常磐自動車道遺跡発掘調査報告35 前山A遺跡』福島県文化財調査報告書第399集
福島県教育委員会ほか(2003c)『阿武隈川右岸築堤跡発掘調査報告3 高木・北ノ脇遺跡』福島県文化財調査報告書第402集
福島県教育委員会ほか(2005)「宮前遺跡」『常磐自動車道遺跡調査報告40』福島県文化財調査報告書第427集
福島県教育委員会ほか(2007)「山中B遺跡(調査I・II区)」『一般国道6号 相馬バイパス遺跡発掘調査報告VI』
福島県文化財調査報告書第437集
福島県立博物館(1988)『三貫地貝塚』福島県立博物館調査報告第17集
福島県立博物館(1991)『企画展 縄文絵巻』
福島市教育委員会(1989)「愛宕原遺跡」『昭和63年度市道原宿愛宕原1号線建設工事関連遺跡発掘調査報告』
福島市埋蔵文化財報告書第31集
福島大学考古学研究会(1971)『浦尻貝塚』福島大学考古学研究会発掘調査報告書第1冊
双葉町教育委員会(1990)『双葉・郡山貝塚の研究』双葉町埋蔵文化財調査報告第7冊
栃田光太郎(1995)「浮島式土器の研究」『古代探叢IV－滝口宏先生追悼考古学論集－』早稲田大学出版部
栃田光太郎(2002)「関東・中部地方における十三菩提式土器の変遷」『神奈川考古第38号』神奈川考古同人会
栃田光太郎2003「大木6式土器の変遷とその地域性」『神奈川考古第39号』神奈川考古同人会
松本茂(1991)「法正尻遺跡下巻 第3章 考察」『東北横断自動車道遺跡調査報告11』所収
松本茂(1995)「中期初頭の諸様相－福島県の様相－」『第8回縄文セミナー』縄文セミナーの会
松本茂(1996)「五領ヶ台式土器から阿玉台式土器へ－福島県内出土土器から－」
『論集しのぶ考古－目黒吉明先生頌寿記念－』論集しのぶ考古刊行会
南相馬市教育委員会(2006)『浦尻貝塚2』南相馬市埋蔵文化財調査報告書第1集
南相馬市教育委員会(2007a)『大田和広畑遺跡－縄文時代集落跡の調査－』南相馬埋蔵文化財調査報告第7集
南相馬市教育委員会(2007b)「浦尻古墳群・浦尻貝塚(第6次・第7次調査)」
『南相馬市市内遺跡発掘調査報告書3 －平成17・18年度試掘調査報告－』南相馬市埋蔵文化財調査報告第8集
宮城県教育委員会(1986)『理蔵文化財緊急発掘調査概報－長根貝塚－』宮城県文化財調査報告書第119集
宮城県教育委員会ほか(1986)「小梁川遺跡－遺物包含層土器編－七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書II」
宮城県文化財調査報告書第117集
宮城県教育委員会ほか(2003)『嘉倉貝塚』宮城県文化財調査報告書第192集
森幸彦(1991)「浦尻台ノ前貝塚・浦尻西向貝塚」『福島県の貝塚 －県内貝塚詳細分布報告－』福島県文化財調査報告第260集
森幸彦(1998)「福島県内の大木8a式土器について」『第11回縄文セミナー 中期中葉から後葉の諸様相』縄文セミナーの会
山本典幸(1988)「五領ヶ台時様式」『縄文土器大観2』小学館
山本典幸(2000)『縄文時代の地域生活史』未完成考古学叢書1ミュゼ

写　真　図　版

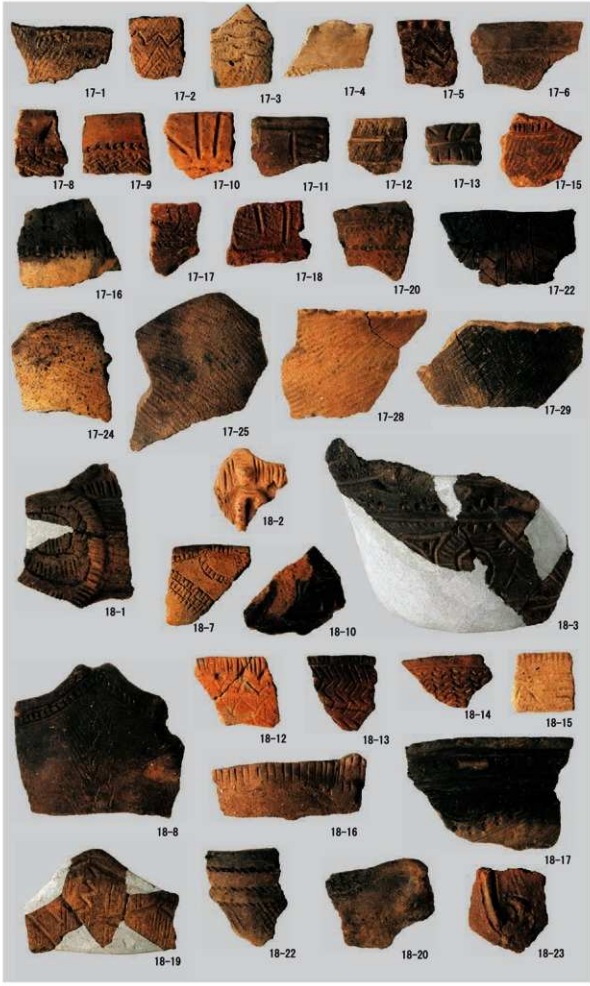
5-1
5-2
5-7
5-8
5-10
5-11
5-13
5-14
5-12
5-15
5-16
6-1
6-3
6-4
6-5
6-6
6-11
6-12
6-13
6-14
6-15
6-16
6-21
6-22
6-24
6-26
6-29
6-30
6-31


7-5
7-3
7-4
7-7
8-2
7-6
8-3
8-4
8-1
8-11
8-10
8-14
8-12
8-7
8-13
8-21
8-15
8-19

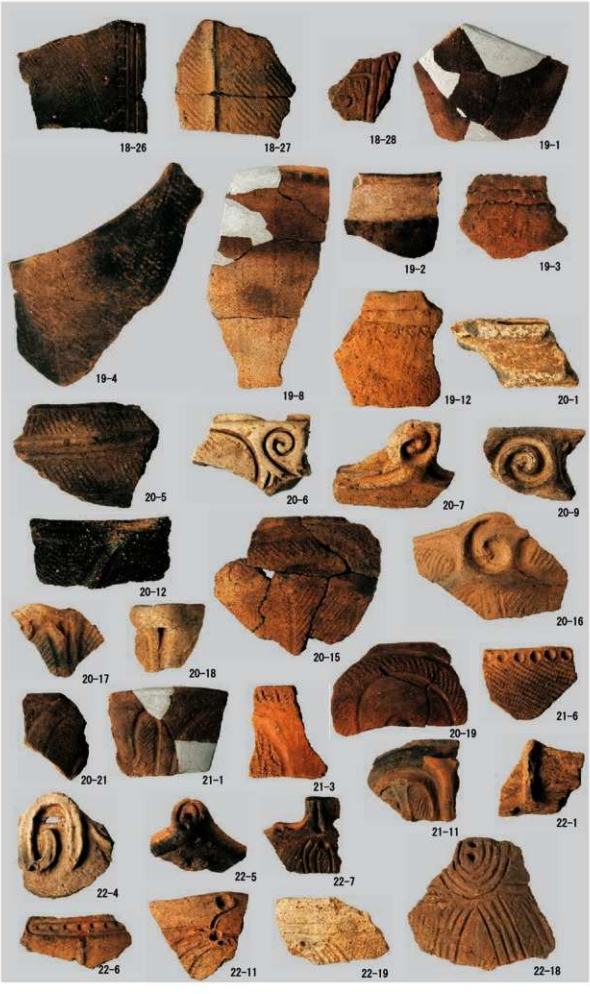
9-1
9-3
9-4
9-5
9-7
9-13
9-14
9-19
9-15
9-18
10-1
10-6
10-8
10-9
11-1
11-2
11-11
11-10
11-18
11-19
11-20
12-1
12-2
12-3


12-10
12-9
12-13
13-1
13-3
13-7
13-10
14-4
14-2
14-5
14-18
14-19
14-24
15-1
15-2
15-3
15-5
15-7
15-9
15-19
15-11
16-1
16-4
16-7
16-12

写真図版5　台ノ前南貝層貝層外出土土器①

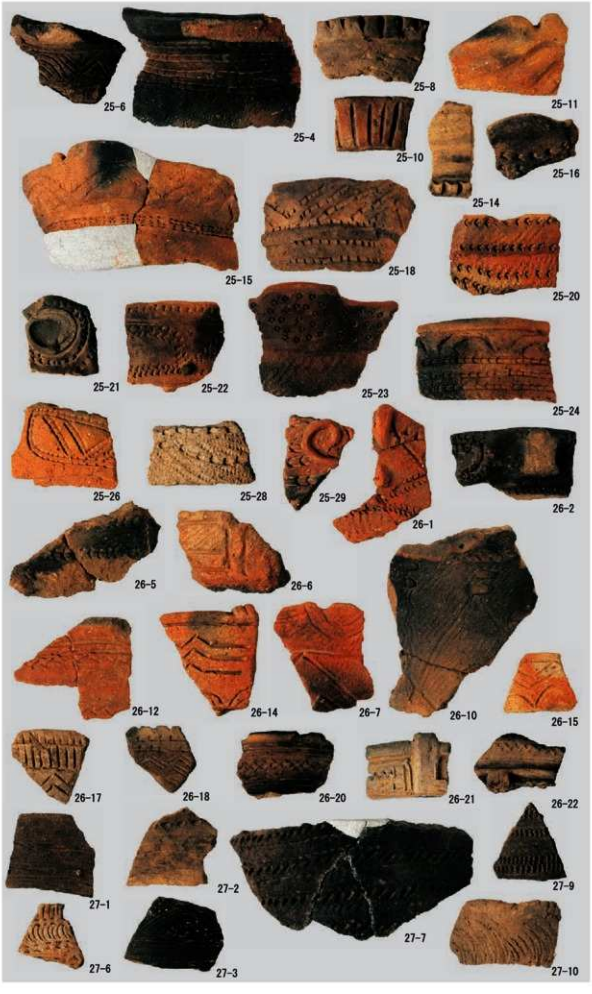


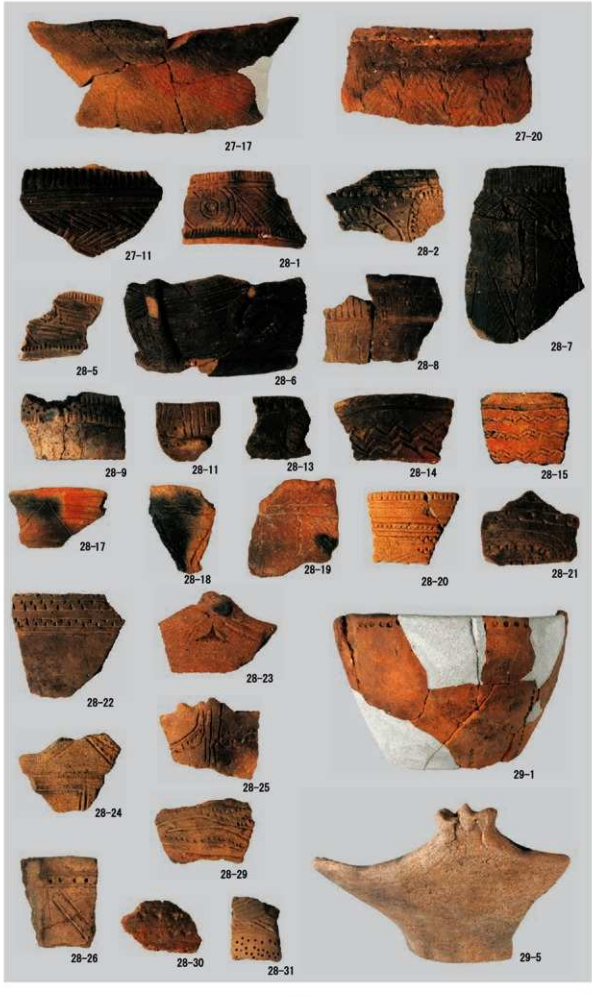
写真図版6　台ノ前南貝層貝層外出土遺物②



23-1
23-2
23-8
23-12
23-13
23-14
23-15
23-16
23-18
23-20
23-21
23-22
23-23
23-26
23-27
23-29
23-32
23-34
24-1
24-2
24-4
24-6
24-12
24-16
24-17
24-20
24-21
24-22
24-23
24-27
24-28
24-30
24-31
25-2
25-3

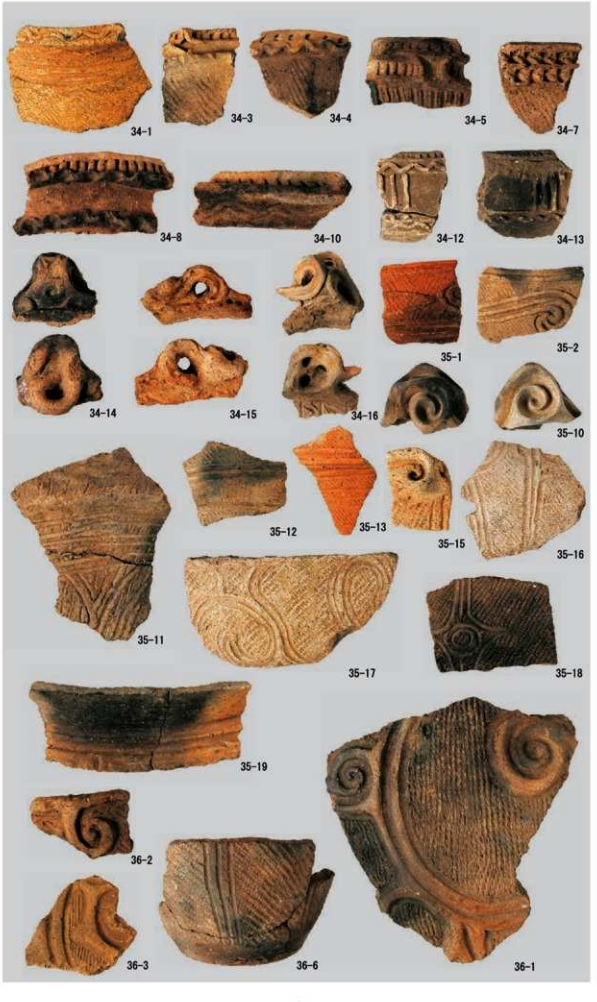
写真図版8　台ノ前北貝層貝層外出土土器②




27-17
27-20
27-11
28-1
28-2
28-7
28-5
28-6
28-8
28-9
28-11
28-13
28-14
28-15
28-17
28-18
28-19
28-20
28-21
28-22
28-23
29-1
28-24
28-25
28-29
28-26
28-30
28-31
29-5

写真図版10　台ノ前北貝層貝層外出土土器④

31-14
31-17
31-18
31-19
31-20
31-22
31-23
31-24
32-1
32-2
32-3
32-4
32-5
32-8
32-9
32-10
32-11
32-12
32-13
33-1
33-3
33-5
33-7
33-8
33-9
33-10
33-11
33-14
33-18
33-19
33-20
33-21

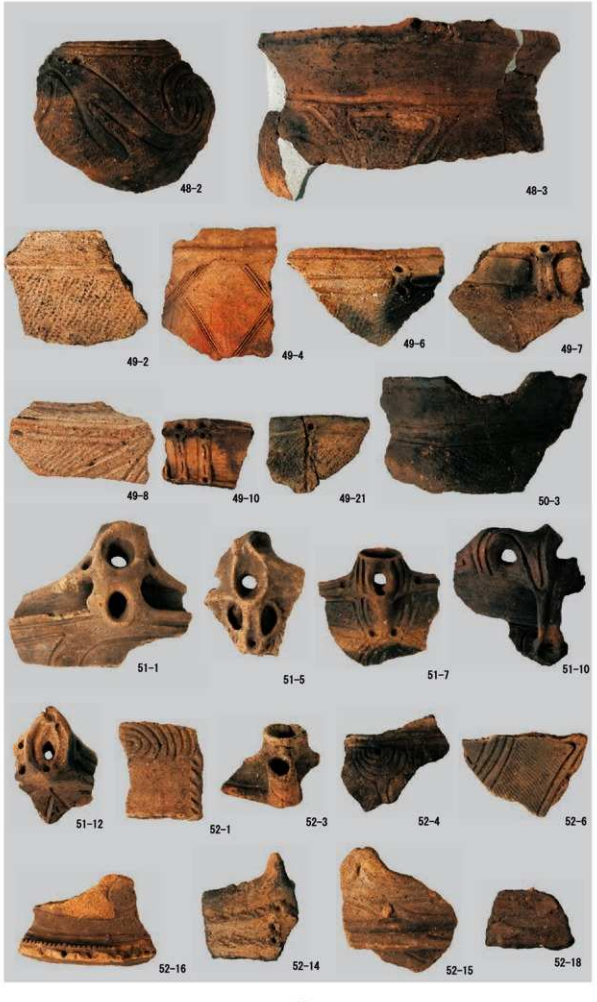

34-1
34-3
34-4
34-5
34-7
34-8
34-10
34-12
34-13
34-14
34-15
34-16
35-1
35-2
35-10
35-11
35-12
35-13
35-15
35-16
35-17
35-18
35-19
36-1
36-2
36-3
36-6

37-1
37-2
37-6
37-8
37-9
37-10
37-12
37-13
37-14
38-5
38-6
38-1
38-8
38-9
38-13
38-16
38-17
39-1
38-12
39-13
39-18
40-1
40-2
40-3

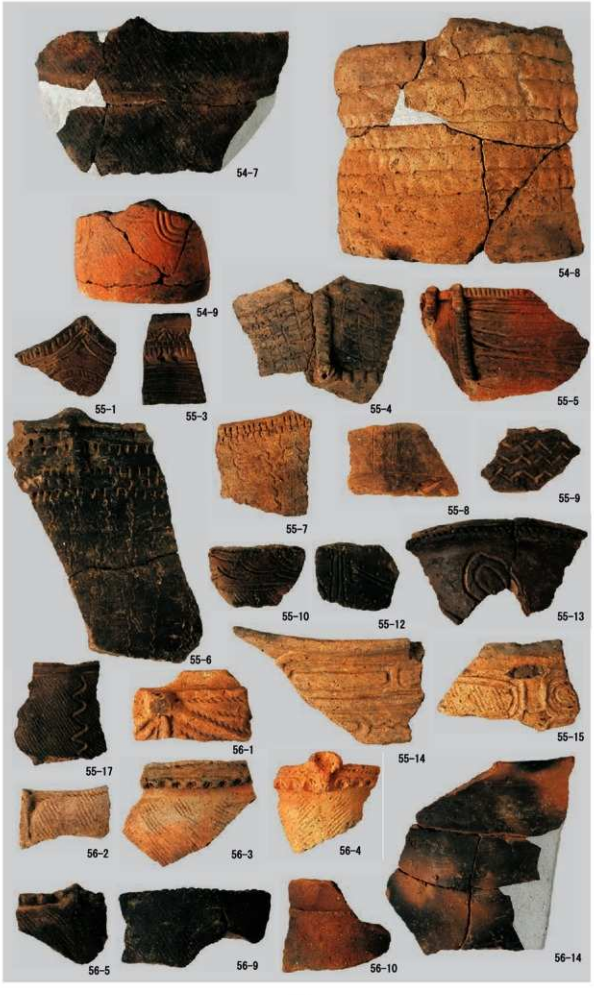
写真図版14　台ノ前地区Ⅰ区出土土器①

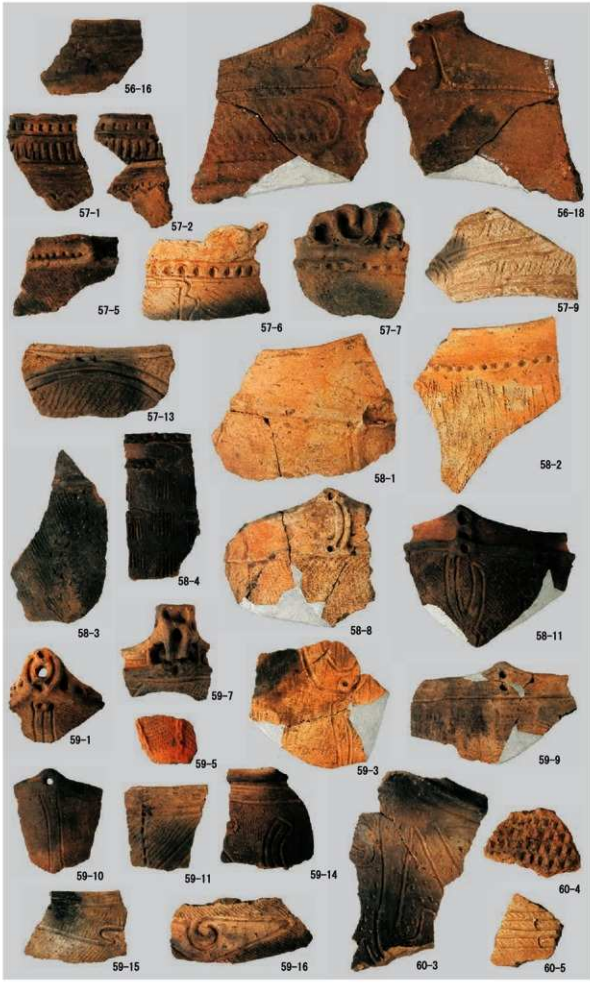
45-1
45-3
45-4
45-5
45-8
45-9
45-12
45-13
45-15
45-17
45-18
45-23
45-22
45-27
45-28
45-29
45-30
46-1
46-2
46-5
46-6
46-7
46-9
46-20
46-21
47-1
47-2
47-5
47-16
47-18
47-19
48-1

写真図版16　台ノ前地区I区出土土器③



53-1
53-2
53-4
53-6
53-7
53-8
53-9
53-11
53-13
53-14
53-15
53-17
53-18
53-19
53-20
53-25
53-26
53-27
54-1
54-2
54-3
54-4
54-6


54-7
54-8
54-9
55-1
55-3
55-4
55-5
55-7
55-8
55-9
55-6
55-10
55-12
55-13
55-14
55-15
56-1
55-17
56-2
56-3
56-4
56-5
56-9
56-10
56-14


56-16
56-18
57-1
57-2
57-5
57-6
57-7
57-9
57-13
58-1
58-2
58-3
58-4
58-8
58-11
59-1
59-7
59-5
59-3
59-9
59-10
59-11
59-14
60-4
59-15
59-16
60-3
60-5

写真図版20　西向地区斜面下部遺構外出土土器①

63-1
63-3
63-6
63-7
63-13
63-14
64-1
64-4
64-6
64-7
64-11
64-12
64-13
64-8
64-14
65-1
65-2
65-5
65-8
65-9
65-12
65-13
65-14
65-15

観　察　表

表１　土器観察表

図版No	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
5 － 1	53T Ⅰ層	Ⅲ－２	口縁上端部分的に波状貼付文。頸部横位貼付文、横位 RL（０段多条）縄文。	ヘラケズリ・ナデ	海綿状骨針
5 － 2	53T Ⅰ層	Ⅲ－１	半截竹管による斜位多条沈線、斜位半截竹管による D 字形刺突列。縦位円形竹管列。	ミガキ	海綿状骨針
5 － 3	53T Ⅰ層	Ⅲ－２	口縁上端半截竹管による D 字形刺突、外面無文。頸部横位 LR ？縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
5 － 4	53T Ⅰ層	Ⅲ－２	口縁上端 LR 縄文、外面無文。頸部横位結節回転文、RL? 縄文。	ナデ	石英・海綿状骨針
5 － 5	53T Ⅱ層	Ⅲ－２	口縁指頭による交互押捺。頸部無文、横位縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
5 － 6	52T Ⅰ層	Ⅲ－２	口縁指頭による交互押捺。横位 LR（０段多条）縄文。補修孔有。	ナデ	雲母
5 － 7	P311	Ⅲ－２	口縁Ｖ字状貼付文、上端ヘラ？状工具による押捺。LLR 縄文⇒半截竹管による２列の横位刺突。	ケズリ・ナデ	繊維
5 － 8	53T Ⅱ層	Ⅲ－２	斜位・縦位結節回転文⇒ヘラ状工具による横位・斜位波状沈線、縦位波状貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・繊維（少）
5 － 9	53T Ⅰ層	Ⅲ－２	口縁上端波状貼付文。頸部横位貼付文、横位 LR 縄文。	ナデ	雲母
5 － 10	53T Ⅰ層	Ⅲ－２	２条単位縦位・横位波状沈線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
5 － 11	P653	Ⅲ－２	横位多段の４条単位の小波状沈線。	ナデ	繊維（少）
5 － 12	53T Ⅰ層	Ⅲ－２	口縁指頭による交互押捺。横位 RL（０段多条）縄文。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
5 － 13	52T Ⅰ層	Ⅲ－２？	RRL ？縄文⇒半截竹管による縦位沈線。	ナデ	石英・海綿状骨針
5 － 14	53T Ⅱ層	Ⅲ－２	RL 縄文⇒２条単位の幾何学状の貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
5 － 15	52T Ⅰ層	Ⅲ－３	口縁鋸歯状貼付文。ナデ。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
5 － 16	52T Ⅰ層	Ⅲ－３	横位 LR 縄文⇒２本単位の山形貼付文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
5 － 17	53T Ⅱ層	Ⅲ－３	横位 RL 縄文⇒山形貼付文。	ミガキ	雲母
5 － 18	52T Ⅰ層	Ⅲ－３	縦位 LR 縄文⇒３条単位の山形沈線。	ナデ	雲母
5 － 19	53T Ⅰ層	Ⅲ－３	横位 LR 縄文⇒２条単位の山形沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
5 － 20	53T Ⅰ層	Ⅲ－３？	横位 LR 縄文⇒多段の２条単位の山形沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
5 － 21	52T Ⅰ層	Ⅲ－５	口縁上端 LR 縄文、外面横位附加条１種（LR ＋ R）。	ミガキ	海綿状骨針・繊維（少）
5 － 22	53T Ⅰ層	Ⅲ－５	横位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・繊維（少）
5 － 23	53T Ⅱ層	Ⅲ－５	波状口縁。無節 L 縄文。	ヘラナデ後ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
5 － 24	53T Ⅰ層	Ⅲ－５	縦位 RL 縄文。	ヘラナデ	雲母・石英・海綿状骨針
5 － 25	53T Ⅱ層	Ⅲ－５	横位 RL 縄文。補修孔有。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
5 － 26	53T Ⅰ層	Ⅲ－５	波状口縁。横位附加条１種（LR ＋ R）。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
5 － 27	53T Ⅰ層	Ⅲ－５	口縁上端 LR 縄文。横位 LR 縄文。補修孔有（貫通せず）。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
5 － 28	53T Ⅱ層	Ⅲ－５	横位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
6 － 1	53T Ⅱ層	Ⅲ－３	複合口縁。口縁無文、下端斜位ヘラ状工具による刻み。頸部以下横位 LR 縄文⇒斜位・弧状平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
6 － 2	53T Ⅱ層	Ⅲ－３	複合口縁。口縁半円状突起、突起上端部分的に棒状工具による刻み。口縁無文、下端縦位棒状工具による刻み。頸部縄文⇒横位沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
6 － 3	59T Ⅰ層	Ⅲ－４	口縁上端部分的に棒状工具による刻み。頸部以下格子状平行沈線⇒上位横位沈線。	ミガキ	石英・海綿状骨針
6 － 4	53T Ⅱ層	Ⅲ－４	口縁下端横位爪形文⇒２段の山形爪形文⇒口縁上端横位爪形文⇒口縁上端部分的に指頭による押捺。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
6 － 5	52T Ⅰ層	Ⅲ－４	複合口縁。口縁縦位隆帯。頸部２条の横位爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
6 － 6	53T Ⅱ層	Ⅲ－４	口縁～頸部縦位多条平行沈線。頸部横位隆帯。	ナデ	雲母・海綿状骨針
6 － 7	53T Ⅱ層	Ⅲ－４	口縁縦位２単位の瘤状隆帯（突起）。外面横位 LR 縄文・RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
6 － 8	51・52T Ⅰ層	Ⅲ－４	横位 LR 縄文⇒横位３条の結節浮線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
6 － 9	53T Ⅱ層	Ⅲ－４	横位 LR 縄文⇒横位・斜位・弧状平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
6 － 10	59TSZ05 下層	Ⅲ－４	横位 RL 縄文⇒半截竹管による２条単位の縦位弧状刺突列。	ナデ	石英・海綿状骨針
6 － 11	52 T SD03	Ⅲ－６	横位 RL ？縄文⇒Ｖ字状・縦位・横位多条沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
6 － 12	53T Ⅰ層	Ⅲ－６	斜位櫛歯状条線。	ミガキ	雲母・石英
6 － 13	52T Ⅱ層	Ⅳ－１	口縁上下縦位刻み付隆帯。２条単位の斜位・渦巻状沈線⇒棒状工具による刺突。	ナデ	雲母・石英
6 － 14	52T Ⅱ層	Ⅳ－１	口縁上位縦位刻み付隆帯。多段の山形沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
6－15	53T Ⅰ層	Ⅳ－1	口縁上位縦位刺み付隆帯。多段の山形・波状平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
6－16	52T Ⅱ層	Ⅳ－1	２条単位の多段横位沈線、半截竹管による沈線に沿う刺突列⇒縦位棒状隆帯。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
6－17	52T Ⅱ層	Ⅳ－1	横位多条平行沈線⇒斜位・弧状平行沈線⇒上位横区画沈線。口縁内面隆帯貼付、口縁上端沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
6－18	59TSZ05	Ⅳ－1	波状口縁。波頂部二又状。縦位結節回転文⇒口縁に沿う２条の沈線⇒梯子状短沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
6－19	59 T SZ05	Ⅳ－2	４条の横位縄圧痕文（RL）。	ナデ	海綿状骨針
6－20	53T Ⅰ層	Ⅳ－2？	棒状工具による多条斜位刺突列。	ミガキ	石英・海綿状骨針
6－21	52T Ⅰ層	Ⅳ－2	隆沈線による楕円形区画、縦位隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
6－22	52T Ⅰ層	Ⅳ－2	波状口縁。口縁上端斜位刺み。口縁横位LR・RL縄文⇒上下沈線が沿う隆帯区画、下位隆帯斜位刺み、区画から伸びる沈線が沿う斜位刺み付隆帯による弧状、渦巻文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
6－23	52T Ⅱ層	Ⅳ－1	斜位沈線⇒沈線間に梯子状短沈線。縦位重要状の沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
6－24	52T Ⅰ層	Ⅳ－1	縦位小波状平行沈線、沈線に沿う刺突列？⇒横位多条の小波状平行沈線。	ナデ	雲母
6－25	53T Ⅰ層	Ⅳ－1？	横位・縦位の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
6－26	52T Ⅰ層	Ⅳ－1	縦位山形波状沈線、横位楕円？沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
6－27	53T Ⅰ層	Ⅳ－2	縦位RL縄文⇒縄圧痕文付縦位楕円状貼付文⇒多条の単沈線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
6－28	52T Ⅱ層	Ⅳ－2	縦位LR縄文⇒弧状隆線⇒隆線に沿う有節沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
6－29	52T Ⅰ層	Ⅳ－2	横位・縦位の隆帯・沈線による楕円形区画。	ナデ	雲母・海綿状骨針
6－30	52T Ⅰ層	Ⅳ－2	波状口縁。隆線、隆線に沿う隆沈線による三角形区画、区画内斜位・波状の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
6－31	52T Ⅱ層	Ⅳ－2	横位LR縄文、結節回転文⇒断面三角の縦位隆線。	ナデ	雲母・石英
7－1	51T Ⅰ層	Ⅳ－4	波状複合口縁。縦位LR縄文・結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
7－2	51T Ⅰ層	Ⅳ－3	波状口縁。口縁上端縦位ヘラ？状工具による刻み。無文。	ナデ	雲母
7－3	52T Ⅱ層	Ⅳ－3	口縁上端棒状工具による押捺。ミガキならびにヘラナデ。	ヘラナデ	雲母・石英・海綿状骨針
7－4	52T Ⅰ層	Ⅳ－3	ヘラナデ。	ヘラナデ	雲母・石英・海綿状骨針
7－5	53T Ⅱ層	Ⅳ－3	有孔土器。ミガキ。頸部焼成前穿孔。	ミガキ	金雲母
7－6	52T Ⅰ層	Ⅳ－3	浅鉢。波状口縁。ヘラナデ後ミガキ。口縁内面有段。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母
7－7	53T Ⅰ層	Ⅳ－4	口縁肥厚、横位ナデ。胴部横位RL縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
8－1	Ⅱ区SD01	Ⅴ－2	波状口縁。浅鉢。口縁横位隆沈線（楕円形区画）、波頂部渦巻状横位隆沈線。口縁上端１条の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
8－2	51・52T Ⅰ層	Ⅴ－1	波状口縁。波頂部渦巻状貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
8－3	59T Ⅰ層	Ⅴ－1	横方向の突起。上面Ｓ字状貼付文。	－	雲母・海綿状骨針
8－4	52T Ⅰ層	Ⅴ－1	上位から下向連弧状貼付文、縦位縄圧痕文（L）、下向連弧状貼付文。図８－５と同一。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
8－5	52T Ⅰ層	Ⅴ－1	図８－４と同一。	－	－
8－6	52T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁隆帯区画、区画内刺突列。隆沈線による渦巻？文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
8－7	52T Ⅰ層	Ⅴ－1	波状口縁。口縁隆帯。縦位Ｒ撚糸文⇒２条単位の横位・連弧状沈線、口縁下横位隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
8－8	53T Ⅱ層	Ⅳ－2・Ⅴ－1	縦位RL縄文⇒縦位・波状平行沈線。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
8－9	51 T Ⅰ層	Ⅴ－1	縦位LR縄文⇒横位・弧状の３条単位の沈線、の２条単位のＵ字状短沈線⇒下端３条以上の横位沈線⇒交互刺突文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
8－10	52T Ⅰ層	Ⅴ－1・2	縦位RL縄文⇒横位・波状平行沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
8－11	52T Ⅱ層	Ⅴ－2	口縁横位隆沈線。横位・縦位・渦巻状の隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
8－12	52T Ⅰ層	Ⅴ－1	縦位RL縄文⇒３条単位の隆沈線による方形区画、渦巻文、弧状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
8－13	Ⅱ区SD01	Ⅴ－2	口縁上下隆線区画。区画内横位LR縄文⇒刺先状・渦巻状隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
8－14	52T Ⅰ層	Ⅴ－2	横位RL？縄文⇒上位区画・刺先状・渦巻状の隆沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
8－15	51T Ⅰ層	Ⅴ－2	横位LR縄文⇒口縁上下横位隆沈線、胴部沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針

図版No	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
8 － 16	53T Ⅰ層	Ⅴ－2	縦位LR縄文⇒隆沈線による三角形区画。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
8 － 17	59T Ⅰ層	Ⅴ－2	縦位LR縄文⇒弧状・横位の隆沈線。	ミガキ	石英
8 － 18	53T Ⅰ層	Ⅴ－2	縦位RL縄文⇒弧状・横位の隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
8 － 19	59T Ⅰ層	Ⅴ－2	縦位RLR縄文⇒曲線状の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
8 － 20	53T Ⅰ層	Ⅴ－2	横位RLR縄文⇒渦巻状の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
8 － 21	60T Ⅰ層	Ⅵ－3	斜位・縦位平行沈線⇒横位・縦位押捺付隆帯。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
9 － 1	51T Ⅰ層	Ⅴ－2	小波状口縁。渦巻状の隆沈線。	ミガキ	雲母
9 － 2	51・52T Ⅰ層	Ⅴ－2	突起。渦巻状の隆沈線。	ナデ	雲母・金雲母
9 － 3	Ⅱ区SD01	Ⅵ－1	渦巻状の隆線、刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
9 － 4	Ⅱ区SD01	Ⅵ－1	小波状口縁。縦位RL縄文⇒横位・環状隆線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
9 － 5	52T Ⅰ層	Ⅵ－1	渦巻状の隆沈線。	ミガキ	雲母・石英・赤色粒
9 － 6	52T Ⅰ層	Ⅵ－1	渦巻状の隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
9 － 7	51T Ⅰ層	Ⅵ－1	渦巻状の隆沈線。	ナデ	雲母、金雲母・石英・海綿状骨針
9 － 8	53T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位LR縄文⇒曲線状の隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
9 － 9	53T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位LRL縄文⇒曲線状の隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
9 － 10	59T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位RL縄文⇒曲線・渦巻状の隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
9 － 11	52T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位LR縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
9 － 12	53T Ⅰ層	Ⅵ－1？	縦位LR縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
9 － 13	59T Ⅰ層	Ⅵ－2	小波状口縁。縦位LR縄文⇒沈線、棒状工具による刺突。	ミガキ	雲母・金雲母
9 － 14	52T Ⅰ層	Ⅵ－2	口縁横位LR縄文、胴部縦位LR縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
9 － 15	52T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位LR縄文⇒隆沈線。頸部無文帯。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
9 － 16	52T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位RLR縄文⇒隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
9 － 17	52T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位LR縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
9 － 18	52T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位RL縄文⇒沈線。	ミガキ	金雲母
9 － 19	53T Ⅰ層	Ⅵ－2	LR縄文⇒隆沈線⇒刺突。	ミガキ	雲母
10 － 1	52T Ⅰ層	Ⅵ－1・2	縦位・斜位RL縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
10 － 2	52T Ⅱ層	Ⅵ－1・2	縦位L撚糸文⇒断面三角の隆沈線。	ナデ	雲母、金雲母・石英・海綿状骨針
10 － 3	52TSD03	Ⅵ－2	縦位LR縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・石英
10 － 4	52T Ⅰ層	Ⅵ－2	縦位RL縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
10 － 5	52T Ⅰ層	Ⅵ－2	縦位RL縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
10 － 6	52TSD0 2	Ⅵ－2	縦位・斜位RL縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母
10 － 7	52TSD0 2	Ⅵ－2	縦位LR・RL縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
10 － 8	60T Ⅰ層	Ⅵ－2	縦位LR縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母
10 － 9	53T Ⅰ層	Ⅵ－2	浅鉢。縦位RL縄文⇒断面三角の隆線⇒ミガキ⇒棒状工具による刺突。赤彩。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
10 － 10	52T Ⅰ層	Ⅵ－2？	縦位R撚糸文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
11 － 1	59T Ⅰ層	Ⅶ－1	口縁隆帯区画、隆帯上突起。横位RL縄文。	ナデ	雲母・石英
11 － 2	51T Ⅰ層	Ⅶ－1	小波状口縁。波頂部から縦位隆帯。口縁隆帯区画。隆帯上半截竹管による円形刺突。横位LR？縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
11 － 3	59TSZ05	Ⅶ－1	小波状口縁。波頂部から縦位隆帯。口縁隆帯区画。隆帯上円形押捺。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
11 － 4	51T Ⅰ層	Ⅶ－1？	小波状口縁。波頂部から縦位隆帯。隆帯上円形押捺。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
11 － 5	52T Ⅰ層	Ⅶ－1	小波状口縁。波頂部から縦位隆帯、隆帯中央沈溝、上下円形刺突、下端８字状浮文。口縁隆帯・沈線区画。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
11 － 6	53T Ⅰ層	Ⅶ－1	小波状口縁。波頂部から ノ字状隆帯、中央沈溝。口縁隆帯区画。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
11 － 7	66T Ⅱ層	Ⅶ－1	ノ字状隆帯。口縁隆帯区画。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
11 － 8	53T Ⅰ層	Ⅶ－1？	小波状口縁。縦位隆帯,隆帯上刻み。隆帯に沿う沈線。口縁沈線区画？。縦位波状の楕円状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
11 － 9	52T Ⅰ層	Ⅶ－1	波状口縁。波頂部満巻状隆線。頸部以下沈線、円形刺突。	ナデ	雲母・海綿状骨針
11 － 10	53T Ⅰ層	Ⅶ－1	波状口縁,波頂部上端満巻状突起,外面８字？状隆帯。	ナデ	石英・海綿状骨針
11 － 11	53T Ⅰ層	Ⅶ－1	口縁隆帯・沈線区画。隆帯上斜位刻み、８字状浮文。胴部縦位LR縄文⇒縦位蛇行沈線、鉤手？状沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
11 － 12	Ⅱ区SD01	Ⅶ－1	口縁刻み付隆帯・沈線区画。	ナデ	雲母
11 － 13	59T Ⅰ層	Ⅶ－1	口縁三角状小突起。縦位刻み付隆帯。外面斜位沈線。突起内面沈線、盲孔。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
11 － 14	52T Ⅰ層	Ⅶ－1	口縁縦位刻み付隆帯区画。横位LR縄文⇒隆帯に沿う２条の沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針

図版No	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
11 － 15	59TSZ05	Ⅶ－２	口縁沈線区画。横位 LR 縄文⇒蕨手状沈線。	ミガキ	雲母・金雲母
11 － 16	59T Ⅰ層	Ⅶ－２	口縁沈線区画。横位 LR 縄文⇒縦位・蛇行状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
11 － 17	59T Ⅰ層	Ⅶ？	口縁沈線区画。横位・縦位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
11 － 18	52T Ⅰ層	Ⅶ－２	小波状口縁。口縁沈線区画。波頂部から縦位沈線、上端盲孔、下端円形浮文。横位 LR 縄文⇒鉤手状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
11 － 19	52TSD03	Ⅶ－４	小波状口縁。波頂部上端盲孔。沈線⇒沈線間半截竹管による刺突。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
11 － 20	52T Ⅰ層	Ⅶ－４	波状口縁。口縁上端沈線。縦位 LR 縄文⇒２条単位の沈線、沈線間円形刺突。	ナデ	海綿状骨針・金雲母
12 － 1	52T Ⅰ層	Ⅶ－１	縦位 LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
12 － 2	53T Ⅰ層	Ⅶ－１	横位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母
12 － 3	51T Ⅰ層	Ⅶ－２	横位無節 R 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
12 － 4	52TSD03	Ⅶ－２	縦位 RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
12 － 5	53T Ⅰ層	Ⅶ－２	横位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
12 － 6	60T Ⅰ層	Ⅶ－２	横位 LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
12 － 7	53T Ⅰ層	Ⅶ－２	横位 LR 縄文⇒曲線状沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
12 － 8	52T Ⅰ層	Ⅶ－２	横位 LR ？縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
12 － 9	Ⅱ区Ⅱ層	Ⅶ－２	口縁沈線区画。横位 LR 縄文⇒盲孔、列点状沈線、蕨手状沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
12 － 10	Ⅱ区Ⅱ層	Ⅶ－２	横位 LR 縄文⇒列点状沈線、曲線状（蕨手状）沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
12 － 11	53T Ⅰ層	Ⅶ－２	弧状沈線、列点状沈線。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
12 － 12	51T Ⅰ層	Ⅶ	格子状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
12 － 13	53T Ⅰ層	Ⅶ	壷形土器。波状口縁、波頂部に対応して橋状把手（４単位）。頸部隆帯区画。横位 LR 縄文。	ミガキ・ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
12 － 14	51T Ⅰ層	Ⅶ？	外面縦位・斜位ヘラケズリ。底部ナデ。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
13 － 1	51・52T Ⅰ層	Ⅶ－２	小波状口縁。波頂部縦位３条の縦位沈線、盲孔。口縁１条の沈線。波頂部から垂下する刻み付隆帯。胴部 RL 縄文⇒上位多条沈線区画、多条沈線による重弧状文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
13 － 2	51T Ⅰ層	Ⅶ－２	口縁１条の沈線。胴部上位多条沈線区画、盲孔、多条沈線による重弧状文。	ミガキ・ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
13 － 3	59TSZ05	Ⅶ－２	小波状口縁。波頂部多条沈線による縦位弧状文、盲孔。横位 LR 縄文⇒斜位多条沈線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
13 － 4	51T Ⅰ層	Ⅶ－２	波状口縁。波頂部多条沈線による重弧状文。口縁２条の沈線区画。縦位 LR 縄文。図 13 － 5 と同一。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
13 － 5	51T Ⅰ層	Ⅶ－２	図 13 － 4 と同一。	－	－
13 － 6	51T Ⅰ層	Ⅶ－２	波状口縁。波頂部縦位弧状沈線。頸部橋状把手、縦位弧状刻み付隆帯。胴部上位多条沈線区画、多条沈線。	ミガキ・ナデ	雲母・海綿状骨針
13 － 7	52T Ⅰ層	Ⅶ－２	口縁沈線区画。横位 LR 縄文⇒盲孔、曲線状（円形・弧状）沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
13 － 8	52T Ⅰ層	Ⅶ－２	横位 LR 縄文⇒垂下する多条沈線による曲線状（重弧状）文。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
13 － 9	52T Ⅰ層	Ⅶ－２	横位 LR 縄文⇒垂下する多条沈線による曲線状文。	ナデ	雲母・石英・赤色粒
13 － 10	52T Ⅰ層	Ⅶ－２	横位 LR 縄文⇒垂下する多条沈線による曲線状文。胴部下端ミガキによる堺消。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針・赤色粒
13 － 11	52T Ⅰ層	Ⅶ－２	斜位 LR 縄文⇒垂下する多条沈線による曲線状文。	ミガキ	雲母
13 － 12	51・52T Ⅰ層	Ⅶ－２	斜位 LR 縄文⇒垂下する多条沈線による曲線状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
14 － 1	59T Ⅰ層層	Ⅷ－１	口縁刻み。ミガキ。内面横位平行沈線⇒刻み。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
14 － 2	51・52T Ⅰ層	Ⅷ－１	口縁肥厚。斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
14 － 3	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	ミガキ。内面円形沈線。横位平行沈線⇒横位Ｌ字状沈線⇒刻み。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
14 － 4	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	波状口縁。斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
14 － 5	51・52T Ⅰ層	Ⅷ－１	波状口縁。斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
14 － 6	52TSD02	Ⅷ－１	斜位Ｌ撚糸文⇒横位平行沈線、曲線状沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
14 － 7	51T Ⅰ層	Ⅷ－１	波状口縁。斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
14 － 8	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	小波状口縁。斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
14 － 9	51・52T Ⅰ層	Ⅷ－１	小波状口縁。斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線⇒磨消。	ミガキ	石英・海綿状骨針

図版No	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
14 － 10	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	口縁肥厚。斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
14 － 11	66T Ⅱ層	Ⅷ－１	斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
14 － 12	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	口縁肥厚。RL 縄文⇒横位沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
14 － 13	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	口縁肥厚。斜位 L 撚糸文⇒横位沈線。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
14 － 14	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線⇒磨消。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
14 － 15	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	斜位 RL 縄文⇒横位平行沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
14 － 16	52TSD03	Ⅷ－１	口縁肥厚。斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線・縦位弧状？沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
14 － 17	Ⅱ区Ⅱ層	Ⅷ－１	口縁上端縦割山形状小突起。斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線⇒縦位弧状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
14 － 18	52TSD03 上	Ⅷ－１	円形突起。口縁上端縦位刻み。横位平行沈線⇒縦位弧状沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
14 － 19	51T Ⅰ層	Ⅷ－１	小波状口縁。斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線⇒横位 L 字状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
14 － 20	59TSZ01	Ⅷ－１	斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線⇒縦位弧状沈線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
14 － 21	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	横位平行沈線⇒縦位弧状沈線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
14 － 22	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線⇒縦位弧状沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
14 － 23	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	斜位 L 撚糸？文⇒横位平行沈線⇒横位 L 字状沈線。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針・赤色粒
14 － 24	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線⇒縦位短沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
14 － 25	51T Ⅰ層	Ⅷ－１	斜位 RL 縄文⇒横位平行沈線⇒縦位弧状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
15 － 1	52TSI05	Ⅷ－１	斜位 LR 縄文⇒ト字状沈線区画・横位区画沈線⇒磨消。底部網代痕。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
15 － 2	66T Ⅱ層	Ⅷ－１	波状口縁。斜位 LR 縄文⇒斜位沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
15 － 3	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	横位沈線⇒弧状沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
15 － 4	66T Ⅰ層	Ⅷ－１	斜位 RL 縄文⇒横位沈線・弧状沈線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
15 － 5	66T Ⅰ層	Ⅷ－１	斜位 LR 縄文⇒横位平行沈線⇒刻み・縦位短沈線？	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
15 － 6	52T Ⅱ層	Ⅷ－１	斜位 LR 縄文⇒区画沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
15 － 7	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	横位平行沈線、縦位平行沈線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
15 － 8	52T Ⅰ層	Ⅷ－１	弧状沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
15 － 9	59T Ⅰ層	Ⅷ－２	弧状沈線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
15 － 10	59TSZ0 1 上層	Ⅷ－２	２個の突起⇒横位平行沈線⇒瘤貼付。	ナデ	雲母・海綿状骨針
15 － 11	52TSD03	Ⅷ－１？	注口土器。縦位沈線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
15 － 12	59T Ⅰ層	Ⅷ－１	ミガキ。内面横位沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
15 － 13	59T Ⅰ層	Ⅷ－１	ナデ。内面横位沈線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
15 － 14	52TSD03	Ⅷ－１？	ミガキ⇒横位沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
15 － 15	52T Ⅰ層	Ⅷ－１？	ミガキ⇒横位沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
15 － 16	52T Ⅰ層	Ⅷ－１？	ミガキ⇒横位沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
15 － 17	52T Ⅰ層	Ⅷ－１？	ナデ⇒横位沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
15 － 18	52TSD03	Ⅷ－１	波状口縁。ナデ	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
15 － 19	52T Ⅱ層	Ⅷ－１？	口縁肥厚。ミガキ。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
16 － 1	52TSD03 上層	X	横位 LR・RL 非結束羽状縄文⇒磨消。内面横位沈線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
16 － 2	52TSD03 上層	X	斜位 RL 縄文⇒磨消。内面横位沈線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
16 － 3	52T Ⅰ層	X	斜位 LR 縄文⇒横位沈線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
16 － 4	51T Ⅰ層	X	斜位 LR 縄文。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
16 － 5	52TSD02	X	斜位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
16 － 6	52TSD03 下層	X	横位 LR・RL 非結束羽状縄文。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
16 － 7	52T Ⅰ層	X	縦位櫛歯状条痕（５～６本単位）。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
16 － 8	52T Ⅰ層	X	縦位櫛歯状条痕（６本単位）。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
16 － 9	53T Ⅰ層	X	縦位櫛歯状条痕（単位不明）。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
16 － 10	59T Ⅰ層	X	網目状撚糸文（横位回転Ｒ、交互に上下しない）。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
16 － 11	51T Ⅰ層	X	網目状撚糸文（横位回転Ｒ？、交互に上下しない）。図 16 － 12 と同一。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
16 － 12	51T Ⅰ層	X	図 16 － 11 と同一。	－	－
17 － 1	37 T Ⅰ層	Ⅱ	口縁上端 LR 縄文。外面横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維
17 － 2	31 T Ⅱ層	Ⅱ－１・２	附加条１種（LR+R）⇒１条の山形沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
17 － 3	43 T Ⅱ層	Ⅲ－２	口縁下多条の結節回転文、下位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維（少）
17 － 4	32 T Ⅱ層	Ⅲ－３	口縁鋸歯状貼付文。横位 RL？縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
17 － 5	31 T Ⅱ層	Ⅲ－３	口縁鋸歯状貼付文。横位 LR 縄文⇒半截竹管による２条の山形沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
17 － 6	31 T Ⅱ層	Ⅲ－４	複合口縁。口縁無文、頂部以下横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
17 － 7	39 T Ⅰ層	Ⅲ－4	波状？口縁。口縁無文、頸部以下横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
17 － 8	40 T Ⅰ層	Ⅲ－4	複合口縁。口縁下端三角刻み。胴部横位 LR 縄文⇒横位・斜位ハ形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
17 － 9	39 T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁肥厚。口縁下端爪形文。附加条１種？⇒山形波状平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
17 － 10	31 T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁肥厚。口縁縦位・斜位沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
17 － 11	39 T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁上横位単沈線区画、L 字状単沈線、直行する単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
17 － 12	39 T Ⅱ層	Ⅲ－1？	横位２条の単沈線⇒沈線間斜位半截竹管による刺突。	ミガキ	海綿状骨針・繊維（少）
17 － 13	39 T Ⅰ層	Ⅲ－4？	横位単沈線⇒弧状・斜位単沈線、沈線間縦位刻み。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
17 － 14	31 T Ⅱ層	Ⅲ－4	斜位・弧状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
17 － 15	31 T Ⅱ層	Ⅲ－4	横位 LR 縄文⇒横位単沈線⇒縦位刻み。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
17 － 16	39 T Ⅱ層	Ⅲ－4	横位無節 L 縄文⇒横位・縦位爪形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
17 － 17	37 T Ⅰ層	Ⅲ－4	横位・弧状の平行沈線⇒沈線に沿う爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
17 － 18	31 T Ⅰ層	Ⅲ－4	沈線による方形文、縦位列点状沈線⇒沈線に沿う爪形文。補修孔有。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
17 － 19	32 T Ⅱ層	Ⅲ－4	横位沈線⇒沈線に沿う爪形文。内面剥離。	－	雲母・海綿状骨針
17 － 20	39 T Ⅱ層	Ⅲ－6	多条有節沈線。図 17 － 21 と同一。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
17 － 21	39 T Ⅱ層	Ⅲ－6	図 17 － 20 と同一。	－	～
17 － 22	31 T Ⅰ層	Ⅲ－6	縦位沈線⇒斜位沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
17 － 23	39 T Ⅱ層	Ⅲ－6	２条の変形爪形文（幅 0.9mm）。	ナデ	雲母・海綿状骨針
17 － 24	31 T Ⅱ層	Ⅲ－6	櫛歯状工具による横位・斜位沈線（条線文）。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
17 － 25	38 T Ⅰ層	Ⅲ－5	波状口縁。横位 RL 縄文。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
17 － 26	43 T Ⅰ層	Ⅲ－5	横位・斜位附加条１種（RL ＋ 拠）。	ナデ	雲母・海綿状骨針
17 － 27	43 T Ⅰ層	Ⅲ－5	波状口縁。横位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
17 － 28	39 T Ⅱ層	Ⅲ－5	口縁上端棒状工具による刻み。横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
17 － 29	39 T Ⅱ層	Ⅲ－5	横位・縦位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
18 － 1	31T Ⅱ層	Ⅳ－1	波状口縁。口縁上端隆帯貼付による突起。波頂部から垂下する弧状の刺み付隆帯⇒渦巻状沈線⇒楕子状短沈線、斜位多条沈線、口縁下端斜位刻み。	ナデ	雲母・海綿状骨針
18 － 2	31T Ⅱ層	Ⅳ－1	口縁突起、縦位刺み付隆帯、隆帯上瘤状突起、口縁下端三角刻み。突起から垂下する逆Ｕ字状刺み付隆帯。	ナデ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
18 － 3	31T Ⅱ層	Ⅳ－1	波状口縁。口縁縦位刻み。口縁下断面三角の隆線区画、口縁上下横位沈線⇒半截竹管による Ｄ字形刺突列。口縁に沿う隆沈線区画、斜位多条沈線⇒区画内三角形交互刺突。胴部斜位・曲線状沈線、三角刺突、楕子状短沈線（玉付三叉文）。図 18 － 4 ～ 6 と同一。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
18 － 4	31T Ⅱ層	Ⅳ－1	図 18 － 3・5 ～ 6 と同一。頸部横状把手。口縁内面隆帯貼付。	－	－
18 － 5	31T Ⅱ層	Ⅳ－1	図 18 － 3・4・6 と同一。頸部横状把手。口縁隆帯。	－	～
18 － 6	31T Ⅱ層	Ⅳ－1	図 18 － 3 ～ 5 と同一。	－	～
18 － 7	31T Ⅱ層	Ⅳ－1	斜位・弧状の平行沈線⇒楕子状短沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
18 － 8	31T Ⅱ層	Ⅳ－1	波状口縁。波頂部二叉状、縦位 LR 縄文・結節回転文⇒口縁に沿う２条の沈線⇒楕子状短沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
18 － 9	31T Ⅱ層	Ⅳ－1	口縁１条の横位沈線⇒楕子状短沈線、縦位１条の山形波状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
18 － 10	43T Ⅰ層	Ⅳ－1	頸部断面三角の隆沈線区画⇒斜位・曲線状の沈線、三角刺突（玉付三叉文？）。	ミガキ	金雲母・石英
18 － 11	38T Ⅱ層	Ⅳ－1	単沈線による横位・斜位・弧状文⇒楕子状短沈線、三角刺突。	ミガキ	金雲母
18 － 12	31T Ⅰ層	Ⅳ－1	口縁刻み付隆帯⇒口縁下端三角刻み、胴部縦位多条の浅い沈線⇒横位沈線⇒多段の山形沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
18 － 13	31T Ⅰ層	Ⅳ－1	口縁縦位刻み付隆帯。多段の矢羽状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
18 － 14	31T Ⅰ層	Ⅳ－1	口縁沈線区画、多段の山形沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
18 － 15	31T Ⅱ層	Ⅳ－1	口縁縦位刺み。横位多条沈線⇒山形沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
18 － 16	31T Ⅱ層	Ⅳ－1	口縁山形状小突起、縦位刻み付隆帯、隆帯上瘤状貼付文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
18 － 17	38T Ⅰ層	Ⅳ－1	口縁隆帯、隆帯上 LR 縄文。頸部下隆帯区画。胴部横位 LR 縄文⇒口縁・隆帯に沿う半行沈線⇒胴部斜位・弧状の平行沈線⇒沈線間半截竹管による２条の刺突列、口縁下横位楕状貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
18 － 18	37 T Ⅰ層	Ⅳ－1	口縁上端刻み。横位 RL 縄文、結節回転文⇒横位沈線、交互刺突文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
18 － 19	31T Ⅱ層	Ⅳ－1	波状口縁。波頂部隆帯貼付。縦位多条平行沈線文⇒口縁沈線区画、波頂部から垂下する山形状・斜位の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
18 － 20	37 T Ⅰ層	Ⅳ－2	小波状口縁。波頂部から弧状隆帯。	ナデ	雲母・海綿状骨針
18 － 21	39T Ⅰ層	Ⅳ－2？	横位無節 R 縄文⇒端部渦巻状の横位縄圧痕文（L）。	ナデ	雲母・海綿状骨針
18 － 22	39T Ⅰ層	Ⅳ－2	口縁肥厚。頚部以下縦位 LR 縄文⇒口縁３条の横位縄圧痕文（LR）。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
18 － 23	39T Ⅰ層	Ⅳ－2	縦位 LR 縄文⇒鏨手状の断面三角の隆線⇒隆線に沿う有節沈線。	ミガキ	金雲母・石英
18 － 24	38T Ⅱ層	Ⅳ－2	縦位 LR 縄文⇒縦位平行沈線、沈線に沿う爪形文。図 18 － 25 と同一。	ナデ	雲母・海綿状骨針
18 － 25	38T Ⅱ層	Ⅳ－2	図 18 － 24 と同一。縦位 LR 縄文⇒隆線⇒縦位平行沈線、沈線に沿う爪形文。	－	－
18 － 26	38T Ⅱ層	Ⅳ－2	縦位附加条１種（LR ＋ R）⇒隆線⇒縦位平行沈線、沈線に沿う爪形文。図 18 － 24・25 と同一か？	ナデ	雲母・海綿状骨針
18 － 27	32T Ⅱ層	Ⅳ－2	縦位 LR 縄文⇒断面三角の縦位隆線。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
18 － 28	31T Ⅱ層	Ⅳ－2	縦位 LR 縄文⇒斜位・横位・曲線状の沈線（方形・三角形区画？）。	ミガキ	雲母・金雲母
19 － 1	31T Ⅱ層	Ⅳ－4	縦位 LR 縄文、結節回転文。図 19 － 8 と同一か？	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
19 － 2	38T Ⅰ層	Ⅳ－4	口縁隆帯。頚部押捺付隆帯区画。縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	石英・海綿状骨針
19 － 3	31T Ⅱ層	Ⅳ－4？	口縁縦位弧状の隆線、横位押捺付隆帯。	ナデ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
19 － 4	39T Ⅱ層	Ⅳ－2	波状口縁、波頂部Ｕ字形、波頂部のみ上端押捺。縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
19 － 5	31T Ⅰ層	Ⅳ－4	頚部刻み付隆帯区画。縦位結節回転文。	ミガキ	雲母・金雲母
19 － 6	37 T Ⅰ層	Ⅳ－4	縦位附加条１種（LR ＋ R）、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
19 － 7	31T Ⅱ層	Ⅳ－4	縦位 LR・RL 羽状縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
19 － 8	31T Ⅰ層	Ⅳ－4	頚部押捺付隆帯区画。縦位 LR 縄文、結節回転文。図 19 － 1 と同一か？	ナデ	雲母・海綿状骨針
19 － 9	31T Ⅰ層	Ⅳ－4	縦位附加条１種（LR ＋ R）、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
19 － 10	37T Ⅰ層	Ⅳ－3	複合口縁、口縁上端、下端半截竹管による刺突。ナデ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
19 － 11	37 T Ⅰ層	Ⅳ－3	口縁上下端半截竹管に刻み、輪積み痕２段。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針
19 － 12	31T Ⅱ層	Ⅳ－3	口縁輪積み痕２段。ナデ。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
19 － 13	37 T Ⅰ層	Ⅳ－3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針
19 － 14	31T Ⅱ層	Ⅳ－3	ナデ。	ナデ	雲母・石英
19 － 15	37 T Ⅰ層	Ⅳ－3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針
19 － 16	38T Ⅱ層	Ⅳ－3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
19 － 17	37 T Ⅰ層	Ⅳ－3	ナデ。棒状工具による３単位の縦位刺突列。	ナデ	雲母
20 － 1	39T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁隆帯による楕円形区画、区画内有節沈線、横方向の突起、突起上Ｓ字状貼付文。頚部隆帯区画。	ナデ	雲母・海綿状骨針
20 － 2	31T Ⅱ層	Ⅴ－1	縦位 LR 縄文⇒隆沈線による方形区画。	ナデ	雲母・海綿状骨針
20 － 3	31T Ⅰ層	Ⅴ－1	縦位 LR 縄文⇒曲線状隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
20 － 4	43T Ⅰ層	Ⅴ－1	横位 LR 縄文⇒斜位・横位平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
20 － 5	31T Ⅱ層	Ⅴ－2	縦位 LR 縄文⇒横位・弧状の隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
20 － 6	38T Ⅰ層	Ⅴ－2	渦巻状の隆沈線。横位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
20 － 7	31T Ⅱ層	Ⅴ－2	突起。突起上下渦巻状の隆沈線。口縁横位隆沈線。	ナデ	雲母・金雲母
20 － 8	38T Ⅱ層	Ⅴ－2	渦巻状の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
20 － 9	37T Ⅰ層	Ⅴ－2	渦巻状の隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
20 － 10	31T Ⅱ層	Ⅴ－2	縦位・斜位 LR 縄文⇒弧状の隆線。	ミガキ	雲母
20 － 11	31T Ⅱ層	Ⅴ－2	縦位 LR 縄文⇒横位・弧状の平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
20 － 12	38T Ⅱ層	Ⅴ－2	横位 LR 縄文⇒横位・弧状の隆線。	ミガキ	金雲母
20 － 13	31T Ⅱ層	Ⅵ－1	小波状口縁。縦位 LR 縄文⇒渦巻状の隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
20 － 14	32T Ⅱ層	Ⅵ－1	隆沈線による渦巻文、楕円形区画⇒区画内刺突。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
20 － 15	31T Ⅱ層	Ⅵ－1	口縁縦位 LR 縄文⇒沈線による弧状文、楕円形区画。胴部縦位 RL 縄文⇒縦位沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
20 － 16	39T Ⅰ層	Ⅵ－1	小波状口縁。縦位 RL 縄文⇒口縁隆沈線による渦巻文・楕円形区画、縦位沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
20 － 17	31T Ⅳ層	Ⅵ－1	口縁横方向の突起。縦位 RL 縄文⇒縦位隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英
20 － 18	37T Ⅰ層	Ⅵ－1	口縁横位橋状把手。縦位 RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
20 － 19	31T Ⅱ層	Ⅵ－1	縦位・斜位 RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針

図版No	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
20 － 20	31T Ⅱ層	Ⅵ－１	波状口縁。縦位LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
20 － 21	31T Ⅰ層	Ⅵ－１	縦位RL 縄文⇒沈線，刺突。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
20 － 22	32T Ⅱ層	Ⅵ－１	渦巻状の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
20 － 23	38T Ⅰ層	Ⅵ－１	縦位LR 縄文⇒曲線状の隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
20 － 24	39T Ⅰ層	Ⅵ－１	横位LR 縄文⇒隆沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
21 － 1	31T Ⅱ層	Ⅵ－２	縦位RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母
21 － 2	31T Ⅱ層	Ⅵ－２	縦位RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
21 － 3	39T Ⅰ層	Ⅵ－２	縦位LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母
21 － 4	39T Ⅰ層	Ⅵ	縦位LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状
21 － 5	31T Ⅱ層	Ⅵ	縦位・横位RL 縄文。	ミガキ	雲母
21 － 6	31T Ⅱ層	Ⅵ	縦位LR 縄文⇒口縁円形刺突列。	ミガキ	雲母・石英
21 － 7	31T Ⅱ層	Ⅵ－１	縦位・横位RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
21 － 8	31T Ⅱ層	Ⅵ－１	縦位RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
21 － 9	31T Ⅱ層	Ⅵ－１	縦位RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
21 － 10	31T Ⅳ層	Ⅵ－１	縦位RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
21 － 11	31T Ⅱ層	Ⅵ－２	浅鉢。縦位RLR 縄文⇒隆帯・断面三角の隆線。赤彩。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
21 － 12	31T Ⅱ層	Ⅵ－２	縦位LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
22 － 1	31T Ⅱ層	Ⅶ－１	小波状口縁。波頂部から垂下する縦位隆帯。口縁隆帯区画。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
22 － 2	32T Ⅱ層	Ⅶ－１	口縁隆帯区画。縦位LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
22 － 3	32T Ⅱ層	Ⅶ－１	口縁隆帯区画。	ナデ	雲母・海綿状骨針
22 － 4	38T Ⅰ層	Ⅶ－１	波状口縁。口縁隆帯貼付による突起、貫通孔。の字状隆帯、中央沈溝。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
22 － 5	31T Ⅱ層	Ⅶ－１	波状口縁。波頂部縦位弧状沈線、盲孔。波頂部内面盲孔。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
22 － 6	38T Ⅰ層	Ⅶ－１	口縁精円形沈線区画.区画内D字状刺突列.縦位隆帯。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
22 － 7	31T Ⅱ層	Ⅶ－２	口縁突起、環状隆帯貼付。突起内外面縦位沈線・上下盲孔。口縁縦位沈線・盲孔。頚部以下横位LR 縄文⇒縦位弧状多条沈線⇒盲孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
22 － 8	39T Ⅱ層	Ⅶ－２	口縁突起、貫通孔。突起外面多条沈線・盲孔。橋状把手。横位沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
22 － 9	38T Ⅰ層	Ⅶ－２	口縁突起、貫通孔、盲孔、沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
22 － 10	39T Ⅰ層	Ⅶ－２	口縁沈線区画。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
22 － 11	31T Ⅱ層	Ⅶ－２	口縁盲孔、／字状沈線。横位LR 縄文⇒口縁沈線区画，弧状多条沈線⇒盲孔。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
22 － 12	31T Ⅱ層	Ⅶ－２	縦位隆帯、頚部横位沈線区画、盲孔。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
22 － 13	31T Ⅰ層	Ⅶ－２	口縁沈線区画。横位LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英
22 － 14	31T Ⅱ層	Ⅶ－２	横位RL 縄文⇒沈線、蛇行状沈線⇒ミガキ。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
22 － 15	31T Ⅱ層	Ⅶ－２	横位LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
22 － 16	32T Ⅱ層	Ⅶ－２	縦位RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
22 － 17	39T Ⅰ層	Ⅶ－２	横位RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
22 － 18	31T Ⅱ層	Ⅶ－２	口縁重弧状の多条沈線、盲孔。横位LR 縄文⇒口縁沈線区画⇒多条沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
22 － 19	39T Ⅰ層	Ⅶ－２	縄文⇒口縁沈線区画⇒多条沈線⇒盲孔。	ナデ	雲母・石英
22 － 20	31T Ⅱ層	Ⅶ－２	横位RL 縄文⇒口縁沈線区画⇒重弧状の多条沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
22 － 21	31T Ⅱ層	Ⅶ－２	波状口縁。横位RL 縄文⇒口縁沈線区画⇒重弧状の多条沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
22 － 22	39T Ⅰ層	Ⅶ－２	横位LR 縄文⇒多条沈線、縦位隆帯，円形浮文。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
22 － 23	31T Ⅱ層	Ⅶ－２	横位LR 縄文⇒多条沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
22 － 24	40T Ⅰ層	Ⅹ	縦位網目状撚糸文。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
23 － 1	58T Ⅱ層	Ⅱ	山形状小突起。多段のループ文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維
23 － 2	58T Ⅱ層	Ⅱ	口縁上端半截竹管による刻み。口縁鋸歯状の多条沈線、頚部横位刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維
23 － 3	58T Ⅱ層	Ⅱ	口縁上端縄圧痕（RL）による刻み。横位LR・RL非結束羽状縄文⇒半截竹管による横位刺突列。	ナデ	雲母・石英・繊維
23 － 4	54T Ⅰ層	Ⅱ	斜位多条平行沈線。横位RL 縄文。頚部屈曲部半截竹管による横位刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維
23 － 5	58T Ⅱ層	Ⅱ	横位LR 縄文。	ナデ	海綿状骨針・繊維

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
23 － 6	58T Ⅱ層	Ⅱ	横位 LR・RL 非結束羽状縄文⇒半截竹管による横位刺突列。	ナデ	雲母・石英・繊維
23 － 7	54T Ⅰ層	Ⅱ	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英・繊維
23 － 8	63T Ⅱ層	Ⅱ	横位 RLR・LRL 非結束羽状縄文⇒棒状工具による横位刺突列。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・繊維
23 － 9	54T Ⅰ層	Ⅱ	横位 LR・RL 非結束羽状縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維
23 － 10	54T Ⅰ層	Ⅱ	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維
23 － 11	54T Ⅰ層	Ⅱ	横位 RLR 縄文。	ナデ	雲母・繊維
23 － 12	58T Ⅱ層	Ⅲ－１	横位 RL 縄文⇒緩位弧状平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
23 － 13	46T Ⅰ層	Ⅲ－１	無節 L 縄文⇒平行沈線による横位連結木葉文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
23 － 14	46T Ⅰ層	Ⅲ－２	口縁上端棒状工具による刻み。口縁半截竹管による２条の横位刺突列。横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
23 － 15	63T Ⅱ層	Ⅲ－２	横位 LR 縄文⇒波状・横位貼付文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
23 － 16	46T Ⅰ層	Ⅲ－２	口縁上端半截竹管による刺突。口縁無文。口縁下横位 LR 縄文⇒横位多条結節回転文。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
23 － 17	58T Ⅱ層	Ⅲ－２	口縁指頭による交互押捺。	ナデ	海綿状骨針・赤色粒
23 － 18	46T Ⅰ層	Ⅲ－２	口縁上端上方からの押捺。横位 LR 縄文⇒横位多条結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
23 － 19	46T Ⅰ層	Ⅲ－２	口縁指頭による交互押捺。横位 RL 縄文⇒横位結節回転文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
23 － 20	58T Ⅱ層	Ⅲ－２	口縁山形状・鋸歯状貼付文。横位 LR 縄文⇒横位多条結節回転文。	ナデ	石英・海綿状骨針
23 － 21	46T Ⅰ層	Ⅲ－３？	横位 LR 縄文⇒半截竹管による２条の横位刺突列。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
23 － 22	57T Ⅰ層	Ⅲ－３	口縁上方への環状突起。斜位 LR？縄文⇒山形貼付文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
23 － 23	58T Ⅱ層	Ⅲ－３	口縁鋸歯状貼付文。横位 LR 縄文⇒多条山形貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
23 － 24	46T Ⅰ層	Ⅲ－３	口縁鋸歯状貼付文。横位 LR 縄文⇒貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
23 － 25	46T Ⅰ層	Ⅲ－３	横位 RL 縄文⇒格子状貼付文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
23 － 26	46T Ⅰ層	Ⅲ－３	波状口縁。波頂部貫通孔、環状貼付文（剥離）？横位 RL 縄文⇒菱形・三角形状貼付文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
23 － 27	58T Ⅱ層	Ⅲ－３	口縁鋸歯状貼付文⇒ RL 縄文。縄文⇒半截竹管による２条の横位刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針
23 － 28	58T Ⅱ層	Ⅲ－３	複合口縁。口縁上端棒状工具による刻み、下端半截竹管による刻み。横位無節 L 縄文⇒半截竹管による円形刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針
23 － 29	46T Ⅰ層	Ⅲ－３	口縁上端半平行截竹管による刺突。２条以上の山形平行沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
23 － 30	49T Ⅰ層	Ⅲ－３	横位 RL 縄文⇒３条以上の山形平行沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
23 － 31	58T Ⅰ層	Ⅲ－３	横位 RL 縄文⇒山形沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
23 － 32	46T Ⅰ層	Ⅲ－３	横位 RL 縄文⇒２条以上の緩位山形平行沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
23 － 33	58T Ⅱ層	Ⅲ－３	横位 LR 縄文⇒２条以上の緩位菱形平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
23 － 34	58T Ⅱ層	Ⅲ－３	波状口縁。横位 RL 縄文⇒口縁下２条単位の横位弧状沈線区画、横位・緩位山形・弧状・渦巻状沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
24 － 1	54T Ⅰ層	Ⅲ－３	複合口縁。口縁半円状突起。口縁上端棒状工具による刻み。突起下口縁下端ヘラ状工具による緩位刻み。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
24 － 2	46T Ⅰ層	Ⅲ－３	複合口縁。口縁上下端半截竹管による刻み。横位・小波状平行沈線文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
24 － 3	46T Ⅰ層	Ⅲ－３	複合口縁。口縁上下端棒状工具による刻み。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
24 － 4	58T Ⅱ層	Ⅲ－３	複合口縁。口縁上端棒状工具による刻み、下端三角刻み。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
24 － 5	57T Ⅰ層	Ⅲ－３？	口縁下端緩位刻み。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
24 － 6	63T Ⅱ層	Ⅲ－３	波状複合口縁。口縁下端棒状工具による刻み。横位 LR 縄文⇒半截竹管による横位・斜位平行沈線⇒半截竹管による緩位刺突列。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
24 － 7	63T Ⅱ層	Ⅲ－３	波状複合口縁。波頂部上端棒状工具刻みによる二又状。口縁下端ヘラ状工具による緩位刻み。斜位沈線文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
24 － 8	58 T Ⅱ層	Ⅲ－３	複合口縁。口縁下端棒状工具による刻み。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
24 － 9	58 T Ⅰ層	Ⅲ－３	複合口縁。口縁下端棒状工具による緩位刻み。横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
24 － 10	57T Ⅰ層	Ⅲ－３	複合口縁。口縁下端棒状工具による緩位刻み。横位沈線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
24 － 11	46T Ⅰ層	Ⅲ－3	複合口縁。口縁下端ヘラ状工具による縦位刻み。横位縄文⇒横位・斜位平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
24 － 12	63T Ⅰ層	Ⅲ－4	複合口縁。円形貼付文。口縁下端三角刻み。横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
24 － 13	46T Ⅰ層	Ⅲ－4	複合口縁。口縁下端三角刻み。横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
24 － 14	46T Ⅰ層	Ⅲ－4	複合口縁。口縁下端三角刻み。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
24 － 15	46T Ⅰ層	Ⅲ－4	複合口縁。口縁下端三角刻み。横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
24 － 16	63 T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁肥厚。口縁上端刻み。横位LR縄文⇒口縁下端三角刻み。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母
24 － 17	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	波状口縁？波頂部二又状。口縁無文。口縁下横位LR縄文⇒半截竹管による横位多条平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
24 － 18	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	波状口縁。口縁無文。口縁下横位LR縄文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
24 － 19	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	波状口縁、緩位弧状凹み。頂部横位爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
24 － 20	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁肥厚、横位盲孔列。胴部横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
24 － 21	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	波状口縁。口縁肥厚、円形貼付文上凹み。胴部横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
24 － 22	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁上端縦位棒状貼付文。口縁下隆帯。縦位LR縄文⇒瘤状貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
24 － 23	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	複合口縁。口縁～頸部無文。胴部横位RLR縄文。図24 － 24・26と同一。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
24 － 24	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	図24 － 23・26と同一。	－	－
24 － 25	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	複合口縁。口縁無文。胴部横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
24 － 26	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	図24 － 23・24と同一。	－	－
24 － 27	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁無文。胴部横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
24 － 28	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁指頭による交互押捺。胴部横位LR縄文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
24 － 29	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁肥厚、無文。横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
24 － 30	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁無文。頸部ヘラ状工具による刻み付横位隆帯。横位附加条１種（LR ＋ R？）。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
24 － 31	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	複合口縁。口縁横位隆線、隆線上爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
25 － 1	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	波状口縁。口縁無文。横位LR縄文⇒頸部平行沈線による横位波状文、胴部上位１条の横位結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
25 － 2	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	波状口縁、波頂部三山状。口縁無文。横位LR縄文⇒平行沈線による２条単位の横位波状文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
25 － 3	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	波状口縁、口縁隆帯貼付、無文。横位LR縄文⇒２条の横位爪形刺突列。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
25 － 4	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	複合口縁。口縁無文。無節L縄文⇒４条の横位爪形文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
25 － 5	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	波状口縁。口縁無文。口縁下半截竹管による横位刺突列。斜位平行沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
25 － 6	57T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁肥厚、無文。縄文⇒横位・弧状・山形状の平行沈線⇒ボタン状貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
25 － 7	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁無文。２条以上の横位爪形文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
25 － 8	46T Ⅰ層	Ⅲ－4	複合口縁。口縁上半截竹管による緩位短沈線。	ナデ	金雲母
25 － 9	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁緩位棒状工具による緩位短沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
25 － 10	46T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁緩位多条沈線⇒口縁下横位沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
25 － 11	46T Ⅰ層	Ⅲ－4	波状口縁、波頂部三山状。隆帯による弧状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
25 － 12	46T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁２条の斜位沈線、盲孔。頸部横位沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
25 － 13	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁肥厚、２条の斜位太描沈線。頸部横位沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
25 － 14	58T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁斜位多条沈線。頸部半截竹管による D 字形刺突付横位隆帯。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
25 － 15	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁肥厚。口縁山形状突起、瘤状貼付文、２条の下向連弧状縄圧痕文（LR）。頸部２条の横位爪形文、横位LR縄文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
25 － 16	46T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁山形状突起。口縁に沿う２条の縄圧痕文（LR）。半截竹管による２条の横位刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針
25 － 17	54T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁山形状突起。口縁上端棒状工具による刻み。口縁斜位１条の縄圧痕文（LR）。	ナデ	雲母・海綿状骨針
25 － 18	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁斜位多条の有節沈線による山形文。頸部横位隆帯貼付。隆帯上位１条・下位２条以上の有節沈線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
25 － 19	58T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁肥厚。多条の有節沈線による弧状文、小波状沈線、横位爪形文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
25 － 20	46T Ⅰ層	Ⅲ － 4	口縁肥厚。横位LR縄文⇒口縁摩消⇒口縁上下横位爪形文、胴部２条以上の弧状？の爪形文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
25 － 21	46T Ⅰ層	Ⅲ － 4	波状口縁。波頂部環状貼付文。貼付文に沿う２条の沈線・爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
25 － 22	58T Ⅱ層	Ⅲ － 4	口縁先端三又状の工具による横位・弧状刺突列⇒口縁上下３条単位の横位沈線区画、ボタン状貼付文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
25 － 23	58T Ⅱ層	Ⅲ － 4	口縁肥厚、台形状突起。口縁円形・横位・縦位の円形竹管文列。横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
25 － 24	58T Ⅱ層	Ⅲ － 4	口縁肥厚。口縁上位横位沈線区画、横位連弧状隆沈線（下方張り出し）。頂部３条の横位爪形文、１条の結節回転文？	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
25 － 25	62ＴⅠ層	Ⅲ － 4	波状口縁。波頂部上端平坦。口縁肥厚、斜位・菱形の爪形文。口縁下端三角刻み。	ナデ	石英・海綿状骨針
25 － 26	58T Ⅱ層	Ⅲ － 4	波状複合口縁。口縁上端棒状工具による刻み。口縁１条の爪形文による方形区画、区画内２条単位の山形爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
25 － 27	56T Ⅰ層	Ⅲ － 4	横位RL縄文⇒上位から横位２条の爪形文、１条の横位沈線、円形・斜位山形状・斜位の爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
25 － 28	58T Ⅱ層	Ⅲ － 4	横位RL縄文⇒横位２条以上の爪形文、１条の弧状爪形文。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
25 － 29	46T Ⅰ層	Ⅲ － 2	横位LR縄文⇒多条の横位爪形文⇒渦巻状貼付文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
26 － 1	46T Ⅰ層	Ⅲ － 4	波状口縁。波頂部二又以上、波頂部から垂下する縦位棒状・蛇状貼付文。縦位LR縄文⇒１条単位の山形状・斜位沈線、口縁棒状工具による刺突。⇒沈線の上下に沿う爪形文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
26 － 2	46T Ⅰ層	Ⅲ － 4	口縁肥厚。口縁縦位隆帯、隆帯上ボタン状貼付文。口縁弧状沈線⇒沈線に沿う爪形文。頸部横位爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
26 － 3	58T Ⅱ層	Ⅲ － 4	横位LR縄文⇒２条の沈線⇒沈線間ボタン状貼付文列⇒沈線の上下に沿う爪形文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
26 － 4	46T Ⅰ層	Ⅲ － 4	横位LR縄文⇒横位・山形状結節浮線文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
26 － 5	46T Ⅰ層	Ⅲ － 4	横位無節Ｌ縄文⇒頸部縄文摩消⇒横位・縦位結節浮線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
26 － 6	46T Ⅰ層	Ⅲ － 4	口縁上端刻み。横位附加条１種（LR ＋ R）⇒横位・縦位沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
26 － 7	46T Ⅰ層	Ⅲ － 4	波状口縁。波頂部三山状。横位LR縄文⇒波頂部２条単位の沈線による上向弧状文、口縁に沿う１条の沈線、頸部横位沈線区画⇒２条以上の斜位沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
26 － 8	46T Ⅰ層	Ⅲ － 4	横位LR縄文⇒２条単位の弧状・渦巻状沈線文、渦巻文の中心爪形文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
26 － 9	58T Ⅱ層	Ⅲ － 4	横位LR縄文⇒斜位短沈線⇒縦位沈線⇒横位沈線区画。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
26 － 10	46T Ⅰ層	Ⅲ － 4	頸部半截竹管による山形沈線。頸部下位斜位刻み付隆帯区画。横位LR縄文⇒半截竹管による斜位菱形状？・波状平行沈線⇒横位豆粒状貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
26 － 11	57T Ⅰ層	Ⅲ － 4	頸部多条の斜位沈線。頸部下位ヘラ状工具による横位刺突列、斜位刻み付隆帯。胴部横位LR？縄文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
26 － 12	58T Ⅱ層	Ⅲ － 4	２条の横位沈線⇒沈線に沿う１条の山形沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
26 － 13	58T Ⅱ層	Ⅲ － 4	口縁縦位隆帯貼付（突起）。口縁下２条の横位沈線⇒沈線間爪形文、縦位多条沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
26 － 14	46T Ⅰ層	Ⅲ － 4	口縁縦位隆帯貼付。隆帯上縦位沈線。口縁上下横位１条の沈線区画、区画内山形・横位・下向連弧状の多条沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
26 － 15	63T Ⅰ層	Ⅲ － 4	口縁上下横位１条の沈線区画⇒区画内２条単位の山形沈線、１条の下向連弧状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
26 － 16	58T Ⅱ層	Ⅲ － 4	口縁上横位３条、口縁下横位２条以上の沈線区画。区画内縦位多条沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
26 － 17	62ＴⅠ層	Ⅲ － 4	口縁横位沈線⇒口縁下端刻み。横位沈線⇒縦位多条沈線。２条以上の山形沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
26 － 18	54T Ⅰ層	Ⅲ － 4	口縁上端棒状工具による刻み。口縁上横位２条の爪形文、多段の山形平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
26 － 19	58T Ⅱ層	Ⅲ － 4	口縁上縦位棒状工具による刻み付横位隆帯。山形？平行沈線。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
26 － 20	58T Ⅱ層	Ⅲ－４	口縁内面隆帯貼付。口縁上下２条単位の横位ソーメン状貼付文区画、区画内連続菱形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
26 － 21	58T Ⅱ層	Ⅲ－４	口縁横位隆帯貼付⇒縦位幅広隆帯（L 字状）。ソーメン状貼付文による方形区画、区画内山形文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
26 － 22	58 T Ⅰ層	Ⅲ－４	頸部横位・縦位の隆帯。口縁横位・山形状のソーメン状貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
26 － 23	63 T Ⅰ層	Ⅲ－４	頸部横位隆帯区画。口縁格子状のソーメン状貼付文。	ミガキ	雲母・金雲母・石英
27 － 1	46T Ⅰ層	Ⅲ－６	横位多条平行沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
27 － 2	46T Ⅰ層	Ⅲ－６	横位２条以上の刺突列・横位多条平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
27 － 3	58 T Ⅱ層	Ⅲ－６	横位・斜位・弧状の多条平行沈線。沈線間半截竹管による刺突。	ナデ	雲母・海綿状骨針
27 － 4	58 T Ⅱ層	Ⅲ－６	縄文⇒半截竹管による山形平行沈線、横位隆帯区画、横位多条平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
27 － 5	58 T Ⅱ層	Ⅲ－６	平行沈線による連結木葉文？	ナデ	雲母・海綿状骨針
27 － 6	46T Ⅰ層	Ⅲ－６	２条の幅広爪形文（幅 1.2cm）・半截竹管による１条の刺突列。半截竹管による横位条線文。	ナデ	石英・海綿状骨針
27 － 7	46T Ⅰ 層・58 T Ⅱ層	Ⅲ－６	多段の横位の斜位刺突列・変形爪形文（幅 1.2cm）。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
27 － 8	58 T Ⅱ層	Ⅲ－６	横位多条有節沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英
27 － 9	46T Ⅰ層	Ⅲ－６	半截竹管による横位多条刺突列、横位多条平行沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
27 － 10	46T Ⅰ層	Ⅲ－６	アナダラ属の貝殻腹縁による縦位多段波状文。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
27 － 11	58T Ⅱ層	Ⅲ－６	口縁縦位ソーメン状貼付文。口縁下横位３条の半隆起線、多条の矢羽状半隆起線。	ナデ	金雲母・雲母
27 － 12	46T Ⅰ層	Ⅲ－５	横位附加条１種（LR ＋ R）。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
27 － 13	46T Ⅰ層	Ⅲ－５	口縁下輪積痕。横位 LR 縄文。補修孔有。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
27 － 14	58 T Ⅰ層	Ⅲ－５	波状口縁。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
27 － 15	58 T Ⅰ層	Ⅲ－５	横位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
27 － 16	46T Ⅰ層	Ⅲ－５	口縁無文。横位 LR 縄文（端部結節）。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針・赤色粒
27 － 17	54T Ⅰ層	Ⅲ－５	波状口縁。横位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
27 － 18	58 T Ⅰ層	Ⅲ－５	横位 LR 縄文・結節回転文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針・赤色粒
27 － 19	58 T Ⅱ層	Ⅲ－５	横位 LR 縄文・結節回転文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針・赤色粒
27 － 20	46T Ⅰ層	Ⅲ－５	縦位 LR・RL 羽状縄文・結節回転文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
27 － 21	58 T Ⅱ層	Ⅲ－５	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
27 － 22	58 T Ⅱ層	Ⅲ－５	横位 LR・RL 縄文。底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針
28 － 1	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	口縁上端縦位刻み、内面隆帯。口縁横位２条の沈線⇒斜位・弧状２条単位の沈線⇒２条の三角形状の沈線⇒頸部隆帯貼付⇒口縁・隆帯縦位刻み、梯子状短	ミガキ	雲母・海綿状骨針
28 － 2	58T Ⅰ層	Ⅳ－１	口縁横位２条の沈線⇒縦位刻み、下端三角刻み列。弧状の２条の沈線⇒梯子状短沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
28 － 3	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	図 28 － 4 と同一。口縁内外面隆帯貼付。口縁横位１条の沈線区画、縦位刻み。２条単位の斜位沈線⇒梯子状短沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
28 － 4	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	図 28 － 3 と同一。２条単位の斜位・渦巻状沈線⇒梯子状短沈線・渦巻中心円形刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
28 － 5	46 T Ⅰ層	Ⅳ－１	口縁横位１条の沈線⇒縦位刻み。斜位・弧状沈線⇒横位多条短沈線。頸部縦位刻み付隆帯貼付。	ナデ	石英・海綿状骨針
28 － 6	46 T Ⅰ層	Ⅳ－１	波状口縁。斜位・弧状・三角形状の多条沈線⇒頸部斜位・山形状刻み付隆帯区画⇒波頂部渦巻状・波底部縦位棒状の刻み付隆帯、余白部に刺突列充填。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
28 － 7	46 T Ⅰ層	Ⅳ－１	縦位 RL 縄文・結節回転文⇒口縁１条の沈線区画、口縁下２条の沈線による三角形状区画・縦位区画⇒口縁縦位刻み⇒沈線に沿う三角刻み。	ヘラナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
28 － 8	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	口縁下隆帯貼付、口縁下縦位多条沈線⇒横位２条の沈線。胴部 LR 縄文・結節回転文。	ヘラナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
28 － 9	46 T Ⅰ層	Ⅳ－１	波状口縁。口縁・口縁下縦位刻み付隆帯⇒区画内棒状工具による円形刺突。胴部縦位 LR 縄文・結節回転文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
28 － 10	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	口縁縦位刻み付隆帯⇒横位多条沈線⇒斜位２条単位沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
28 － 11	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	口縁下端状貼付文⇒横位多条沈線⇒口縁縦位刻み⇒沈線間棒状工具による交互刺突。	ナデ	雲母・海綿状骨針
28 － 12	63T Ⅰ層	Ⅳ－１	口縁縦位刻み、刻み付隆帯、隆帯に沿う沈線、隆帯下三角刻み。縦位結節回転文⇒口縁下横位２条の沈線⇒曲線状の２条の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
28 － 13	46 T Ⅰ層	Ⅳ－１	口縁横位１条の沈線区画、区画内縦位刻み。ハ字状の刻み付隆帯⇒隆帯に沿う１条の単沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
28 － 14	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	口縁上下横位１条の沈線区画。区画内多段の山形沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
28 － 15	58T Ⅰ層	Ⅳ－１	口縁横位平行沈線、３段以上の波状平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
28 － 16	62 T Ⅰ層	Ⅳ－１	２段以上の山形平行沈線、下端横位平行沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
28 － 17	63T Ⅱ層	Ⅳ－１	横位多条平行沈線⇒山形平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
28 － 18	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	横位・斜位（菱形状？）平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
28 － 19	46 T Ⅰ層	Ⅳ－１	口縁山形沈線、縦位 LR 縄文・結節回転文⇒頸部横位２条の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
28 － 20	54T Ⅰ層	Ⅳ－１	口縁上端刻み。口縁刻み付隆帯、横位４条の沈線、頸部刻み付隆帯、横位３条の沈線文（一部交互刺突）、弧状の多条沈線（一部交互刺突）。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
28 － 21	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	横位・流水状の平行沈線⇒沈線間刺突・交互刺突。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
28 － 22	63T Ⅰ層	Ⅳ－１	横位５条の沈線⇒交互刺突。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
28 － 23	46 T Ⅰ層	Ⅳ－１	波状口縁。波頂部突起。横位 LR 縄文⇒２条単位の沈線による三角形区画、区画中央三角刺突。	ナデ	雲母・石英
28 － 24	54T Ⅰ層	Ⅳ－１	波状口縁。波頂部２条の単沈線による三角形区画⇒一部沈線間円形竹管文。頸部横位３条の沈線⇒縦位２条の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
28 － 25	54T Ⅰ層	Ⅳ－１	波状口縁。波頂部押捺による３個の突起。口縁上端刻み。波頂部から垂下する３条の沈線。横位・弧状の２条の沈線⇒沈線間三角刺突。	ナデ	雲母・海綿状骨針
28 － 26	46 T Ⅰ層	Ⅳ－１	縦位隆帯剥離。横位・斜位２条単位の単沈線。沈線間一部円形竹管文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
28 － 27	46 T Ⅰ層	Ⅳ－１	口縁上端半截竹管による刺突。口縁半截竹管による１条の刺突列。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
28 － 28	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	口縁横位１条の沈線、半截竹管による１条の刺突列。	ナデ	金雲母
28 － 29	54T Ⅰ層	Ⅳ－１	横位多条沈線、一部沈線間円形竹管文充填。	ナデ	石英・海綿状骨針
28 － 30	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	横位多条単沈線、沈線に沿う三角刺突。	ナデ	雲母・金雲母・石英
28 － 31	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	鋸歯状の多条沈線。棒状工具による円形刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
29 － 1	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	口縁横位沈線区画（一部のみ）、横位・縦位円形竹管文。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
29 － 2	58 T Ⅱ層	Ⅳ－２	波状口縁。口縁上端刻み。口縁に沿う２条の有節沈線、頸部横位３条の有節沈線⇒波底部交点斜位刺突。胴部横位 LR 縄文⇒胴部上位隆線による楕円形・弧状（三角形）区画、縦位隆線⇒隆線に沿う有節沈線。口縁内面沈線・三角印刻文。	ミガキ	金雲母
29 － 3	63T Ⅱ層	Ⅳ－２	波状口縁。口縁上端刻み。口縁内面沈線。波頂部内外面環状貼付文。口縁多条有節沈線による三角形区画、区画内三角刺突。頸部無文。胴部縦位 RL 縄文⇒胴部上位隆線による楕円形区画、区画内隆線に沿う１条の有節沈線、胴部中～下位隆線による方形・弧状・三角形区画、隆線に沿う有節沈線、区画内・交点に三角刺突。	ミガキ	雲母・金雲母
29 － 4	63 T Ⅰ層	Ⅳ－２	縦位 LR 縄文⇒横位３条の縄圧痕文（LR）。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
29 － 5	54T Ⅱ層	Ⅳ－３	浅鉢。波状口縁（４単位）。波頂部瘤状隆帯貼付による三山状の突起。外面ナデ・ミガキ。底部木葉痕ナデ消し。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
29 － 6	58 T Ⅱ層	Ⅳ－３	外面ナデ。底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針
29 － 7	54 T Ⅱ層	Ⅳ－４	横位無節 L 縄文。底部網代痕。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
29 － 8	46 T Ⅰ層	Ⅳ－４	横位 LR 縄文、下端摩消。底部網代痕。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
29 － 9	46 T Ⅰ層	Ⅳ－３	外面ナデ。底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針
30 － 1	58 T Ⅱ層	Ⅳ－１	口縁上下横位隆帯⇒２条の縦位刻み付隆帯。胴部縦位結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英
30 － 2	58T Ⅱ層	Ⅳ－１	小波状複合口縁。口縁 LR 縄文。頸部 LR 縄文？・瘤状貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
30 － 3	54T Ⅰ層	Ⅳ－１	口縁下断面三角の横位微隆起線、橋状把手、頸部断面三角の刻み付横位隆線⇒横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
30 － 4	63T Ⅱ層	Ⅳ－4	口縁横位刻み付隆線。縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
30 － 5	54T Ⅰ層	Ⅳ－4	複合口縁。口縁山形状小突起。頂部刻み付断面三角の横位隆線。横位 RL 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
30 － 6	54T Ⅰ層	Ⅳ－4	口縁横位・胴部一部縦位 LR 縄文。頂部断面三角の刻み付横位隆線、断面三角の刻み付Ｙ字状隆線。	ミガキ	雲母・金雲母
30 － 7	63T Ⅱ層	Ⅳ－4	横位・Ｙ字状の断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
30 － 8	54T Ⅰ層	Ⅳ－4	口縁縦位・頂部横位の断面三角の隆線。縦位 LR 縄文。口縁内面輪積痕。	ミガキ	海綿状骨針
30 － 9	63T Ⅰ層	Ⅳ－4	縦位無節 L 縄文。頂部刻み付横位隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
30 － 10	54T Ⅰ層	Ⅳ－4	頂部無文、断面三角の横位刻み付隆線⇒横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
30 － 11	58T Ⅱ層	Ⅳ－4	頂部横位隆線⇒縦位・横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
30 － 12	63T Ⅱ層	Ⅳ－4	頂部横位隆線⇒隆線上 LR 縄文。縦位 LR 縄文。頂部内面輪積痕。	ヘラナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
30 － 13	58T Ⅱ層	Ⅳ－4	断面三角のＹ字状隆線。縦位 RL 縄文。	ナデ	金雲母・石英
30 － 14	54T Ⅱ層	Ⅳ－4	複合口縁。口縁上端刻み。横位附加条１種（RL+R ？）。縄文はわずかに残すのみ。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針・石英
30 － 15	54T Ⅰ層	Ⅳ－4	複合口縁。口縁無文。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
30 － 16	58T Ⅱ層	Ⅳ－4	複合口縁。口縁結節回転文。頂部横位 LR 縄文・結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
30 － 17	54T Ⅰ層	Ⅳ－4	複合口縁。口縁上端二又状工具による刻み。口縁横位・頂部縦位附加条１種（LR? ＋ R）。	ナデ	雲母・海綿状骨針
30 － 18	58T Ⅰ層	Ⅳ－4	口縁３単位以上の山形状小突起。横位 LR 縄文・結節回転文。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
30 － 19	57T Ⅰ層	Ⅳ－4	口縁横位 LR 縄文、胴部縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
30 － 20	58T Ⅰ層	Ⅳ－4	縦位 RL 縄文・附加条１種（LR+R）。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
30 － 21	58T Ⅱ層	Ⅳ－4	口縁無文。胴部横位附加条１種（RL+L）⇒頂部横位結節回転文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
31 － 1	54T Ⅰ層	Ⅳ－2	波状口縁。波頂部Ｕ字状、上端棒状工具による刻み。下向連弧状隆線、隆線に沿う沈線、縦長円形状の多条沈線、円形文中央半截竹管による縦位刺突列。交互刺突文。図 31 － 2 と同一？	ミガキ	雲母・海綿状骨針
31 － 2	54T Ⅰ層	Ⅳ－2	波状口縁。縦位 RL 縄文⇒隆沈線による三角形・弧状区画、隆沈線に沿う多条沈線、沈線間交互刺突。図 31 － 1 と同一？	ミガキ	雲母・海綿状骨針
31 － 3	58T Ⅰ層	Ⅳ－2	縦位 LR 縄文⇒断面三角の隆線による楕円形・弧状区画、隆線に沿う２条単位の沈線。図 31 － 4 と同一。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
31 － 4	58T Ⅱ層	Ⅳ－2	縦位 LR 縄文⇒断面三角の隆線による楕円形・弧状区画、隆線に沿う２条単位の沈線。図 31 － 3 と同一。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
31 － 5	46 Ｔ Ⅰ層	Ⅳ－2	口縁山形状小突起。厳手状・斜位・弧状の２条単位有節沈線、頂部横位沈線⇒余白部に棒状工具による刺突。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
31 － 6	57T Ⅰ層	Ⅳ－2	縦位 LR 縄文⇒口縁横位１条の有節沈線、口縁下位断面三角の横位隆線、隆線に沿う有節沈線。	ミガキ	雲母・石英
31 － 7	57T Ⅰ層	Ⅳ－2	縦位 LR 縄文⇒曲線状（クランク状？）の２～３条単位の有節沈線。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
31 － 8	54T Ⅰ層	Ⅳ－2	口縁渦巻状隆帯による突起。突起から垂下する弧状隆帯。横位１条の沈線、上下向連弧状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
31 － 9	63T Ⅱ層	Ⅳ－2	口縁横位・縦位爪形文。頂部横位爪形文付隆線、隆線に沿う爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
31 － 10	46 Ｔ Ⅰ層	Ⅳ－2	波状口縁。波底部棒状工具による押捻。口縁１条の横位隆帯、隆帯上下１条の沈線。縦位・横位 LR 縄文⇒１条の沈線による下向連弧状文・縦長渦巻状文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
31 － 11	63 Ｔ Ⅰ層	Ⅳ－2	縦位 LR 縄文⇒縦位隆線、縦位・横位・波状・曲線状の沈線。	ヘラナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
31 － 12	54T Ⅰ層	Ⅳ－2	２条単位の曲線状沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
31 － 13	54T Ⅰ層	Ⅳ－2	縦位 LR 縄文⇒２条単位の弧状沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
31 － 14	63T Ⅰ層	Ⅳ－2	口縁刻み付隆帯による楕円形区画、断面三角の縦位隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
31 － 15	63 Ｔ Ⅰ層	Ⅳ－2	口縁隆線による楕円形区画、下位のみ刻み付。縦位 LR 縄文。頂部隆線に沿う横位３条の沈線、縦位弧状・曲線状沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
31 － 16	63T Ⅱ層	Ⅳ－２	口縁隆線による楕円形区画、下端のみ縄圧痕（LR）による刻み。頸部縄圧痕（LR ？）による横位刻み列。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
31 － 17	58T Ⅱ層	Ⅳ－２	複合口縁。口縁横位渦巻状隆帯。胴部縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
31 － 18	63 T Ⅱ層	Ⅳ－２	横位・縦位の爪形文・隆線・２条単位の沈線。縦位LR縄文。	ナデ	雲母・石英・金雲母
31 － 19	46 T Ⅰ層	Ⅳ－２	縦位RL縄文⇒横位刻み付隆線⇒弧状・楕円状の隆沈線。	ミガキ	雲母・石英・金雲母
31 － 20	63 T Ⅰ層	Ⅳ－２	浅鉢。屈曲部隆帯による楕円形区画、突出。沈線による渦巻文、方形区画⇒区画内交互刺突文。	ミガキ	金雲母
31 － 21	54T Ⅰ層	Ⅳ－２	縦位LR縄文⇒隆線によるクランク状文⇒隆線上下に沿う１条の沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
31 － 22	63T Ⅱ層	Ⅳ－２	縦位LR縄文⇒頸部山形波状沈線、横位２条の沈線、Y字状隆線、隆線に沿う沈線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
31 － 23	63T Ⅱ層	Ⅳ－２	縦位LR縄文⇒横位・縦位隆沈線、多条の上向連弧状沈線。	ミガキ	金雲母
31 － 24	63T Ⅱ層	Ⅳ－２	縦位LR縄文⇒縄圧痕文（LR）付縦位隆線、隆線に沿う２条単位の沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
32 － 1	54T Ⅰ層	Ⅳ－２	波状口縁。波頂部上端棒状工具による４単位の刻み。多条の斜位・弧状縄圧痕文（LR）。	ナデ	雲母・海綿状骨針
32 － 2	58T Ⅱ層	Ⅳ－２	波状口縁。波頂部上端縦位刻み。波頂部１条の弧状縄圧痕文（L）。口縁に沿う２条の縄圧痕文（L）。口縁内面隆帯。	ナデ	雲母・海綿状骨針
32 － 3	54T Ⅱ層	Ⅳ－２	口縁上端縄圧痕文？による刻み。横位無節L縄文⇒頸部横位２条の縄圧痕文（L）。	ナデ	雲母・海綿状骨針
32 － 4	62 T Ⅰ層	Ⅳ－２	口縁山形状小突起。横位LR縄文⇒頸部横位２条の縄圧痕文（LR）、瘤状貼付文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
32 － 5	57T Ⅰ層	Ⅳ－２	口縁上端二又状の瘤状貼付、外面小Y字状？貼付文。縦位無節L？縄文⇒口縁上下横位１条の縄圧痕文（L？）。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
32 － 6	58T Ⅱ層	Ⅳ－２	口縁横位２条の縄圧痕文（R）、横位１条の平行沈線、横位無節R縄文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
32 － 7	58T Ⅱ層	Ⅳ－２	縦位多条縄圧痕文（LR）。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
32 － 8	46T Ⅰ層	Ⅳ－２	口縁上端縄圧痕（L）による刻み。口縁下輪積痕。横位多条の縄圧痕文（L）。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
32 － 9	54T Ⅰ層	Ⅳ－２	波状口縁。横位・斜位LR縄文⇒縄圧痕文（LR）付隆線による波頂部から垂下する渦巻文。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
32 － 10	57T Ⅰ層	Ⅳ－２	上下２条の断面三角の刻み付横位隆線⇒断面三角の縦位弧状隆線（楕円形区画）⇒縦位RL縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
32 － 11	54T Ⅱ層	Ⅳ－２	口縁隆帯貼付による４単位の山形状小突起。横位附加条１種（RL+R）。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
32 － 12	63T Ⅱ層	Ⅳ－２	口縁下横位隆帯。縦位RL縄文⇒横位２条の沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
32 － 13	46T Ⅰ層	Ⅳ－２？	斜位２条以上の沈線⇒刺突列充填。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
33 － 1	57T Ⅰ層	Ⅳ－３	浅鉢。口縁隆帯貼付。ヘラナデ。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
33 － 2	58T Ⅱ層	Ⅳ－３	口縁上端斜位刻み。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針
33 － 3	54T Ⅰ層	Ⅳ－３	複合口縁。口縁上端押捺による小波状。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針
33 － 4	63T Ⅱ層	Ⅳ－３	口縁内外面隆帯貼付、外面隆帯横位押捺。ナデ・ミガキ。	ナデ・ミガキ	金雲母・海綿状骨針
33 － 5	58T Ⅱ層	Ⅳ－３	口縁上端二又状工具による刻み。ナデ。補修工有。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
33 － 6	46T Ⅰ層	Ⅳ－３	複合口縁。口縁上端横位押捺。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針
33 － 7	58T Ⅱ層	Ⅳ－３	口縁三日月状突起。突起中央くぼみ。口縁内面隆帯貼付。ミガキ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
33 － 8	58T Ⅱ層	Ⅳ－３	口縁隆帯貼付。ナデ・ミガキ。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
33 － 9	63T Ⅰ層	Ⅳ－３	頸部横位１条の沈線。ミガキ。内面赤彩残す。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
33 － 10	63T Ⅱ層	Ⅳ－３	複合口縁。ナデ。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
33 － 11	63T Ⅰ層	Ⅳ－３	ナデ。	ヘラナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
33 － 12	58T Ⅱ層	Ⅳ－３	ヘラナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針
33 － 13	63T Ⅰ層	Ⅳ－３	ヘラナデ。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
33 － 14	46T Ⅰ層	Ⅳ－３	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針
33 － 15	58T Ⅱ層	Ⅳ－３	複合口縁。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針
33 － 16	54T Ⅰ層	Ⅳ－３	ナデ。	ヘラナデ・ミガキ	雲母・海綿状骨針

図版No	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
33 － 17	54T Ⅰ層	Ⅳ－3	複合口縁。ナデ。	ナデ	雲母・金雲母
33 － 18	58T Ⅱ層	Ⅳ－5	多段輪積痕。輪積痕上押捺。	ナデ	雲母・石英
33 － 19	46T Ⅰ層	Ⅳ－5	多段輪積痕。輪積痕上押捺。	ナデ	雲母・海綿状骨針
33 － 20	46T Ⅰ層	Ⅳ－5	斜位多条平行沈線、横位２条の平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
33 － 21	58T Ⅱ層	Ⅳ－5	蓮華文、２条の横位半隆起線、無文帯、１条以上の横位半隆起線。	ナデ	雲母
34 － 1	58 T Ⅱ層	Ⅴ－1	口縁上端波状のソーメン状隆線。縦位 LR 縄文⇒横位１条の波状沈線、横位３条沈線、横位１条波状沈線。	ナデ	金雲母・石英
34 － 2	58 T Ⅱ層	Ⅴ－1	口縁上端隆帯貼付。口縁下波状・横位ソーメン状隆線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
34 － 3	63 T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁隆線による上下２段の楕円形区画。上位区画内爪形文、下位隆線刺み。胴部縦位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
34 － 4	63 T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁隆帯貼付、横位爪形文。口縁下端下方からの押捺。縦位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・石英
34 － 5	63 T Ⅱ層	Ⅴ－1	口縁有節沈線、口縁下断面三角の隆線による楕円形区画、区画内横位有節沈線。頸部縦位多条の有節沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
34 － 6	57T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁隆線による楕円文・渦巻文、爪形文。区画内爪形文。縦位 LR 縄文。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
34 － 7	57T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁隆帯貼付⇒隆帯上２条の爪形文。縦位 LR 縄文。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
34 － 8	63 T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁下端隆帯貼付⇒爪形文⇒下端隆線貼付⇒下方からの押捺。頸部隆線貼付⇒下方からの押捺。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
34 － 9	56 T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁隆帯貼付⇒隆帯上２条の有節沈線。縦位 LR 縄文⇒対向する２条単位の連弧状沈線。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
34 － 10	63 T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁隆帯貼付による楕円形区画、区画内有節沈線。２条単位の上向連弧状沈線。	ミガキ	雲母・金雲母
34 － 11	46 T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁隆帯貼付⇒横位・楕円形区画・渦巻状ソーメン状隆線⇒区画内爪形文。	ナデ	金雲母・石英・赤色粒
34 － 12	63T Ⅱ層	Ⅴ－1	口縁有節沈線。口縁上部横位波状１条、縦位３条、口縁下部横位２条・波状１条のソーメン状隆線文。図 31 － 13 と同一。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
34 － 13	63T Ⅱ層	Ⅴ－1	図 31 － 12 と同一。	－	－
34 － 14	63 T Ⅱ層	Ⅴ－1	突起。突起上面・内面・側面にソーメン状隆線による渦巻文・Ｓ字状文。外面渦巻状隆帯。	－	雲母・金雲母・海綿状骨針
34 － 15	58 T Ⅱ層	Ⅴ－1	横位の渦巻状突起。突起上面Ｓ字状貼付文。口縁隆帯による２段の横沈線、区画内有節沈線。頸部縦位 LR 縄文⇒２条以上の波状？沈線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
34 － 16	63 T Ⅰ層	Ⅴ－1	横方向の渦巻状突起。突起上面Ｓ字状・渦巻状貼付文。外面横位・縦位・斜位・曲線状の単沈線。	－	海綿状骨針・赤色粒
34 － 17	58 T Ⅱ層	Ⅴ－1	縦位 LR 縄文⇒横位・縦位隆線⇒横位隆線上縄圧痕文（LR）、横位・縦位・弧状の２～３条単位の沈線。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
34 － 18	63 T Ⅰ層	Ⅴ－1	頸部縦位 LR 縄文，胴部横位 LR ？縄文⇒横位・縦位渦巻状の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
34 － 19	54 T Ⅰ層	Ⅴ－1	縦位 RL 縄文⇒横位・縦位・弧状の隆沈線、横位波状のソーメン状隆線。	ミガキ	雲母・金雲母
34 － 20	57T Ⅰ層	Ⅴ－1	縦位 LR 縄文⇒渦巻状の３条単位の沈線。	ナデ	雲母・石英
34 － 21	57T Ⅰ層	Ⅴ－1	縦位 LR 縄文⇒縦位・渦巻状多条沈線。	ナデ	雲母
34 － 22	57T Ⅰ層	Ⅴ－1	縦位 R 撚糸文⇒クランク状の３条単位の沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
35 － 1	63 T Ⅰ層	Ⅴ－2	縦位・横位 LR 縄文⇒隆線による口縁上下区画・渦巻状・弧先状文。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
35 － 2	54 T Ⅰ層	Ⅴ－2	縦位 LR 縄文⇒隆沈線による口縁上下区画・渦巻状文。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
35 － 3	63 T Ⅱ層	Ⅴ－2	横位 RL 縄文⇒隆沈線による三角形区画。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
35 － 4	63 T Ⅰ層	Ⅴ－2	横位 LR 縄文⇒横位・縦位隆沈線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
35 － 5	63 T Ⅰ層	Ⅴ－2	波状口縁。縦位 LR 縄文⇒隆線による口縁上位区画・渦巻状文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
35 － 6	46 T Ⅰ層	Ⅴ－2	横位 LR 縄文⇒横位隆沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
35 － 7	58 T Ⅱ層	Ⅴ－2	横位 LR 縄文⇒口縁下横位沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
35 － 8	57T Ⅰ層	Ⅴ－2	隆線による渦巻状？突起。突起上下渦巻状沈線。楕円形区画縦位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
35 － 9	58 T Ⅱ層	Ⅴ－2	口縁上端１条の沈線。横方向への隆線による渦巻状突起。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
35 － 10	63 T Ⅰ層	Ⅴ－2	箱状突起。突起内外側面隆沈線による渦巻文。	－	雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
35 － 11	63 T Ⅰ層	Ⅴ－2	口縁縦位L 撚糸文⇒隆沈線による渦巻文，口縁下横位隆帯。胴部以下縦位多条条線文⇒横位の多条沈線⇒縦位弧状の多条沈線。	ナデ・ミガキ	雲母・海綿状骨針
35 － 12	63 T Ⅰ層	Ⅴ－2	口縁縦位LR 縄文⇒口縁下横位隆沈線⇒胴部縦位LR 縄文⇒横位・縦位多条沈線。頂部無文。	ナデ	雲母・石英・赤色粒
35 － 13	63 T Ⅰ層	Ⅴ－2	縦位LR 縄文⇒口縁下端横位多条の隆線，胴部横位多条沈線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
35 － 14	63 T Ⅱ層	Ⅴ－2	波状口縁。渦巻状隆沈線。縦位RL 縄文⇒縦位沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
35 － 15	58 T Ⅱ層	Ⅴ－2	波状口縁。波頂部上端渦巻状沈線。	ナデ	雲母・石英
35 － 16	63 T Ⅱ層	Ⅴ－2	縦位LR 縄文⇒縦位・渦巻状の３条単位の隆沈線。	ナデ	金雲母・石英
35 － 17	46 T Ⅰ層	Ⅴ－2	縦位RL 縄文⇒隆線・２条単位の沈線による連結渦巻文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
35 － 18	63 T Ⅰ層	Ⅴ－2	縦位RLR 縄文⇒縦位・円形・剣先状の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
35 － 19	63 T Ⅰ層	Ⅴ－2	頂部横位隆沈線。胴部横位・縦位多条沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英
36 － 1	63 T Ⅰ層	Ⅴ－2	縦位R 撚糸文⇒連結渦巻状の隆沈線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
36 － 2	63 T Ⅰ層	Ⅴ－2	縦位LR 縄文⇒渦巻状の隆沈線。	ミガキ	金雲母・石英
36 － 3	58 T Ⅱ層	Ⅴ－2	縦位条線文⇒剣先状・連結渦巻状の隆沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
36 － 4	63 T Ⅱ層	Ⅴ－2	縦位LR 縄文⇒渦巻状の隆沈線。	ナデ	金雲母
36 － 5	57T Ⅰ層	Ⅴ－2	横位・縦位RL 縄文⇒渦巻状の隆沈線・沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
36 － 6	63 T Ⅰ層	Ⅴ－2	縦位LR 縄文⇒３条単位の縦位沈線⇒下端・底部ミガキによる摩消。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
37 － 1	58 T Ⅱ層	Ⅵ－1	波状口縁。縦位条線⇒渦巻状隆線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
37 － 2	54 T Ⅱ層	Ⅵ－1	波状口縁。縦位LR 縄文⇒渦巻状隆線。	ナデ	雲母・石英
37 － 3	54 T Ⅰ層	Ⅵ－1	波状口縁。縦位RL 縄文⇒隆線による渦巻状文，楕円形区画。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
37 － 4	57T Ⅰ層	Ⅵ－1	波状口縁。横位RL 縄文⇒隆線よる渦巻状文，楕円形区画。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
37 － 5	62 T Ⅰ層	Ⅵ－1	波状口縁。横位LR 縄文⇒渦巻状隆線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
37 － 6	58 T Ⅱ層	Ⅵ－1	波状口縁⇒隆線による楕円区画⇒区画内縦位多条沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
37 － 7	63 T Ⅰ層	Ⅵ－1	隆沈線による弧状区画⇒区画内縦位多条沈線。頂部縦位沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英
37 － 8	56 T Ⅰ層	Ⅵ－1	隆沈線による渦巻文・楕円形区画⇒区画内刺突。頂部無文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
37 － 9	57T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位RLR 縄文⇒連結渦巻状隆沈線。	ナデ	雲母・金雲母・石英
37 － 10	46 T Ⅰ層	Ⅵ－1	波状口縁。縦位L 撚糸文⇒渦巻状沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英
37 － 11	58 T Ⅱ層	Ⅵ－1	縦位LR 縄文⇒隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
37 － 12	54 T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位RL 縄文⇒隆沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
37 － 13	57T Ⅱ層	Ⅵ－1	縦位RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英
37 － 14	63 T Ⅰ層	Ⅵ－1	浅鉢。断面三角の隆線，つまみ状の突起。	ミガキ	金雲母
38 － 1	54 T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
38 － 2	54 T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
38 － 3	58 T Ⅱ層	Ⅵ	縦位LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
38 － 4	47 T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位RL 縄文⇒隆沈線。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
38 － 5	63 T Ⅰ層	Ⅵ－2	波状口縁。縦位RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
38 － 6	63 T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位条線文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
38 － 7	54 T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針・赤色粒
38 － 8	54 T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位・横位LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
38 － 9	63 T Ⅰ層	Ⅵ－2	縦位LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
38 － 10	63 T Ⅰ層	Ⅵ－2	縦位LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針・赤色粒
38 － 11	54 T Ⅰ層	Ⅵ－2	縦位RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母
38 － 12	63 T Ⅰ層	Ⅵ－2	縦位LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
38 － 13	46 T Ⅰ層	Ⅵ－2	縦位LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
38 － 14	56 T Ⅰ層	Ⅵ	半截竹管による縦位条線文⇒口縁摩消。	ナデ	雲母・金雲母・石英
38 － 15	56 T Ⅰ層	Ⅵ	縦位LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・石英
38 － 16	58 T Ⅱ層	Ⅵ－3	半截竹管による縦位条線文⇒半截竹管による波状平行沈線。	ナデ	石英・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
38 － 17	63 T Ⅰ 層	Ⅵ	口縁横位 LR 縄文、胴部縦位 LR 縄文⇒口縁下横位沈線。	ナデ	雲母・金雲母
39 － 1	63 T Ⅱ 層	Ⅶ－1	口縁刻み付隆帯区画。条線文による格子状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
39 － 2	57 T Ⅰ 層	Ⅶ－1	波状口縁。口縁隆帯区画。波頂部から縦位の刻み付ノ字状隆帯。縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英
39 － 3	62 T Ⅰ 層	Ⅶ－1	波状口縁。口縁刺突付隆帯区画。波頂部からノ字状隆帯、中央沈潜。	ミガキ	雲母
39 － 4	63 T Ⅰ 層	Ⅶ－1	口縁隆帯・沈線区画。横位 LR 縄文⇒弧状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
39 － 5	58 T Ⅱ 層	Ⅶ－1	波状口縁。波頂部上端隆帯貼付。波頂部貫通孔、盲孔。波頂部から縦位２条の鎖状隆帯、隆帯上円形浮文。口縁内面盲孔。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
39 － 6	57 T Ⅰ 層	Ⅶ－1	波状口縁。縦位 LR 縄文⇒縦位多条沈線。	ミガキ	雲母・石英
39 － 7	58 T Ⅱ 層	Ⅶ－2	口縁１条の沈線、盲孔。縦位弧状の隆線。	ミガキ	金雲母
39 － 8	62 T Ⅰ 層	Ⅶ	口縁環状突起。突起部貫通孔。突起部から橋状把手、把手上に盲孔・沈線。口縁精円形沈線。口縁内面盲孔。	ナデ	金雲母・石英
39 － 9	46 T Ⅰ 層	Ⅶ	橋状のひねりを持つ把手。把手上端円形浮文。把手上沈線、盲孔。口縁１条の沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
39 － 10	62 T Ⅰ 層	Ⅶ－2	波状口縁。波頂部貫通孔。波頂部上端弧状隆帯。口縁盲孔、沈線。口縁沈線区画。縄文⇒沈線⇒盲孔。口縁内面沈線、盲孔。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
39 － 11	56 T Ⅰ 層	Ⅶ－2	波状口縁。波頂部貫通孔。波頂部上端沈線。口縁盲孔、沈線。口縁沈線区画。横位 LR 縄文⇒沈線⇒盲孔。口縁内面沈線、盲孔。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
39 － 12	49 T Ⅰ 層	Ⅶ－1	横位 LR 縄文⇒沈線、円形浮文。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
39 － 13	56 T Ⅰ 層	Ⅶ－1	横位・縦位 LR 縄文⇒鎖状隆帯、縦位蛇行状沈線、斜位沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
39 － 14	58 T Ⅱ 層	Ⅶ－1	口縁隆帯・沈線区画。縦位・斜位 RLR 縄文⇒沈線⇒円形浮文。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
39 － 15	46 T Ⅰ 層	Ⅶ－2？	横位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
39 － 16	56 T Ⅰ 層	Ⅶ－2	横位 LR 縄文⇒沈線、縦位列点状沈線。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
39 － 17	46 T Ⅰ 層	Ⅶ	縦位条縄文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
39 － 18	56 T Ⅰ 層	Ⅶ－1？	２条単位の沈線による縦位菱形文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針・赤色粒
40 － 1	63 T Ⅰ 層	Ⅶ－3	横位 LR 縄文⇒沈線、円形刺突列。	ミガキ	雲母・石英
40 － 2	56 T Ⅰ 層	Ⅹ	縦位蛇行懸垂条縄文（５～６本単位）。	ナデ	石英・海綿状骨針
40 － 3	57 T Ⅰ 層	Ⅸ	下端横位２条の沈線。底部ナデ。	ナデ	雲母・金雲母・石英
41 － 1	Ⅰ区テストピット Ⅲ層	Ⅳ－2	縦位 LR 縄文⇒断面三角の縦位隆線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
41 － 2	Ⅰ区テストピット Ⅲ層	Ⅳ－2	縦位隆沈線、横位２条単位の沈線⇒沈線間三角刺突。２条単位の沈線による縦位楕円文。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
41 － 3	Ⅰ区テストピット Ⅲ層	Ⅳ－5	縦位蛇行状隆線、隆線に沿う１条の有節沈線、多段の幅広爪形文。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
41 － 4	Ⅰ区テストピット Ⅲ層	Ⅴ－2	突起。渦巻状隆沈線、下端沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
41 － 5	Ⅰ区テストピット Ⅲ層	Ⅵ－1	縦位 RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
41 － 6	Ⅰ区サブトレンチ Ⅲ層上面	Ⅴ・Ⅵ	縦位・斜位 RL 縄文⇒胴部下端ナデ消し。底部ナデ。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
41 － 7	Ⅰ区サブトレンチ Ⅲ層上面	Ⅱ	頸部横位円形竹管文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維
41 － 8	Ⅰ区サブトレンチ Ⅲ層上面	Ⅱ	横位２条以上の結節回転文⇒横位２条単位の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維
41 － 9	Ⅰ区サブトレンチ Ⅲ層上面	Ⅲ－6	複合口縁。口縁縦位棒状工具による刻み。変形爪形文（幅１．７cm）、斜位刺突列、変形爪形文、横位平行沈線。補修孔有。	ナデ	金雲母・石英
41 － 10	Ⅰ区サブトレンチ Ⅲ層上面	Ⅲ－6	横位・縦位・鋸歯状の多条半隆起線。	ナデ	金雲母
41 － 11	Ⅰ区サブトレンチ Ⅲ層上面	Ⅲ－3	複合口縁。口縁下端ヘラ状工具による刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
41 － 12	Ⅰ区サブトレンチ Ⅲ層上面	Ⅲ－4	複合口縁。口縁下端三角刻み。横位 LR？縄文⇒横位、山形状平行沈線。	ナデ	海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
41 － 13	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅲ － 4	口縁山形状小突起。突起部円形の爪形文、横位爪形文、横位平行沈線。	ナデ	石英・海綿状骨針
41 － 14	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅳ － 1	縦位菱形状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
41 － 15	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅳ － 2	口縁下横位隆帯、隆帯の上下に沿う有節沈線。横位１条の波状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
41 － 16	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅳ － 5	口縁縦位刺み付隆帯。三角形刺突付縦位隆帯⇒横位隆帯による口縁区画⇒区画内有節沈線による多条山形文⇒隆線に沿う１・２条の有節沈線（刺突）。胴部横位幅広爪形文。	ナデ	金雲母・石英
41 － 17	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅳ － 2	波状口縁。波頂部屑形突起、上端刺み。口縁に沿う断面三角の隆線、多条沈線。波頂部から垂下する縦位多条沈線。	ナデ	海綿状骨針・赤色粒
41 － 18	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅳ － 2	波状口縁。波頂部二叉状。横位 LR 縄文⇒波頂部から垂下する縦位多条縄圧痕文（LR）⇒口縁に沿う２条単位の縄圧痕文（LR）。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
41 － 19	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅳ － 2	縦位 LR ？縄文⇒山形状の縄圧痕（LR ？）付隆帯。	ナデ	雲母・石英
41 － 20	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅳ － 2	断面三角の縦位２条の隆線、隆線に沿う沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
41 － 21	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅳ － 2	上下Ｄ字形爪形文付横位隆帯、隆帯による楕円形区画。区画内縦位 LR 縄文⇒楕円形区画に沿う１～２条の沈線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
41 － 22	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ － 2	斜位隆線⇒縦位隆線、縦位・横位多条沈線による方形区画。	ナデ	雲母・海綿状骨針
41 － 23	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅳ － 2	縦位 LR 縄文。縦位断面三角の押捺付隆線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
41 － 24	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅳ － 2	断面三角の縦位１条の隆線、隆線に沿う縄圧痕文（LR）。縦位 LR 縄文。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
41 － 25	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅳ － 5	断面三角の縦位・弧状の隆線。胴部多段輪積痕、輪積痕上押捺。	ナデ	雲母・石英
41 － 26	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅳ － 5	浅鉢。流水状・渦巻状の沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
42 － 1	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅴ － 1	波状？口縁。口縁橋状突起。ナデ。	ナデ	石英・海綿状骨針
42 － 2	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅴ － 2	口縁下隆帯区画（隆帯剥離）。区画内横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
42 － 3	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅴ － 2	波状口縁。波頂部突起、突起上渦巻状隆沈線、橋状把手、把手上沈線。口縁に沿う沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
42 － 4	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅴ － 2	縦位 RL 縄文⇒縦位・横位・弧状の３単位の沈線、１条の曲線状沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
42 － 5	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅴ － 2	縦位 LR 縄文⇒曲線状の２～３条単位の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
42 － 6	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅴ － 2	縦位 LR 縄文⇒縦位・弧状の隆帯。	ナデ	雲母・海綿状骨針
42 － 7	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅴ － 2	口縁隆沈線による弧状区画。区画内縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
42 － 8	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ － 1	口縁縦位 RL 縄文⇒隆沈線による楕円形区画。頸部以下隆線。	ミガキ	雲母・赤色粒
42 － 9	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ － 1	縦位附加条１種（RL ＋ L）⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
42 － 10	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ － 1	縦位 RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
42 － 11	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ － 2	口縁横位 LR 縄文、胴部縦位・斜位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
42 － 12	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ － 2	縦位 LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
42 － 13	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ － 2	横位・弧状の断面三角の隆線⇒隆線間棒状工具による刺突。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
42 － 14	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ － 2	縦位無節 R 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
42 － 15	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ	縦位 RLR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
42 － 16	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ	縦位 LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
42 － 17	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ	縦位無節 L 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
42 － 18	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ－２	浅鉢。縦位 LR 縄文⇒隆帯。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針・赤色粒
42 － 19	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ	縦位附加条１種（LR ＋ R）⇒沈線。図 42 － 20 と同一。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
42 － 20	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ	図 42 － 19 と同一。	－	－
42 － 21	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ－２	縦位 LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
42 － 22	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ－２	縦位 LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
42 － 23	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅵ－３	縦位刻み付隆帯。縦位条線文。	ナデ	雲母・金雲母・石英
43 － 1	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅶ	波状口縁。波頂部弧状隆帯、貫通孔。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
43 － 2	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅶ－１	橋状のひねりを持つ把手。把手上盲孔。口縁隆帯区画。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
43 － 3	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅶ－２	口縁沈線区画。横位 LR 縄文⇒沈線⇒盲孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
43 － 4	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅶ－２	口縁沈線区画。横位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
43 － 5	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅶ－２	縦位 RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針・赤色粒
43 － 6	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅶ－２	口縁沈線区画。横位 LR 縄文⇒沈線⇒盲孔。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
43 － 7	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅶ－２	口縁沈線区画。横位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
43 － 8	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅶ－２	口縁沈線区画。横位・縦位 RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
43 － 9	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅶ－２	横位・縦位 LR 縄文⇒多条沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
43 － 10	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅹ	斜位網目状撚糸文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
43 － 11	Ⅰ区サブトレンチⅢ層上面	Ⅹ	斜位網目状撚糸文。	ナデ	石英・海綿状骨針
44 － 1	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅱ	横位 RL 縄文⇒刺突列。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針・礫
44 － 2	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅱ	縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針・礫
44 － 3	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－２	口縁上端押捺。口縁横位結節回転文⇒縦位山形貼付文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
44 － 4	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－２	口縁上下からの押捺。横位 LR 縄文。内面剥離。	－	海綿状骨針・赤色粒
44 － 5	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－２	口縁指頭による交互押捺。口縁無文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
44 － 6	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－２	口縁上端内面からの押捺。横位 LR 縄文⇒小波状の有節平行沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
44 － 7	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－２	口縁上端ヘラ状工具による刻み。横位 LR 縄文⇒小波状・弧状平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
44 － 8	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－３	口縁鋸歯状貼付文。横位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
44 － 9	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－３	横位 LR 縄文⇒２条単位の山形・方形状貼付文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
44 － 10	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅲ－３	横位 LR 縄文⇒山形沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
44 － 11	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅲ－３	横位 RL ？縄文⇒２条単位の多段山形沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
44 － 12	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅲ－４	波状口縁。口縁肥厚。口縁下半截竹管によるＤ字形刺突。頚部以下縦位・横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
44 － 13	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－４	口縁上端縦位棒状工具による刻み。横位多条沈線⇒沈線間爪形文。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
44 － 14	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－４	口縁小突起。横位・斜位沈線⇒２条以上の山形波状沈線、沈線に沿う爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
44 － 15	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅲ－４	横位 LR 縄文⇒横位多条爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
44 － 16	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅲ－４	横位 RL 縄文⇒２条単位の半截竹管による斜位刺突列。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
44 － 17	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－４	胴部斜位多条爪形文⇒頚部横位１条の爪形文区画⇒縦位弧状平行沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
44 － 18	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－４	横位 LR 縄文⇒横位２条の沈線⇒山形沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
44 － 19	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－４	横位 LR 縄文⇒２条の弧状沈線⇒沈線に沿う爪形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針

図版No	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
44 － 20	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－４	横位 LR 縄文⇒多条弧状沈線⇒沈線に沿う爪形文。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
44 － 21	41 T Ⅱ層	Ⅲ－４？	縦位 LR 縄文・附加条２種（LR ＋ R）⇒横位２条の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
44 － 22	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅲ－５	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
44 － 23	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅲ－６	口縁縦位刻み。横位のアナダラ属の貝殻背圧痕文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
44 － 24	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅲ－６	口縁縦位刻み。横位多条の半截竹管によるＤ字形刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針
44 － 25	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅲ－６	口縁縦位刻み。アナダラ属の貝殻背圧痕文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
44 － 26	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅲ－６	横位２条の変形爪形文（幅 0.9cm）、多条の矢羽状平行沈線、１条以上の変形爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
44 － 27	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅲ－６	横位多条の変形爪形文（幅 1.2cm）。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
45 － 1	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅳ－１	橋状把手。把手多段の山形沈線、把手中央焼成前の穿孔。口縁上下２条単位の横位沈線区画⇒区画に沿う上下三角刺突、区画沈線間円形竹管文。区画内多段の山形沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
45 － 2	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅳ－１	口縁横位１条の沈線区画⇒斜位沈線⇒梯子状短沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
45 － 3	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅳ－１	口縁縦位刻み、横位２条の沈線区画。横位 LR 縄文⇒横位沈線に沿う三角刺突⇒三角刺突に沿う山形沈線、縦位多条沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
45 － 4	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅳ－１	口縁上下横位平行沈線⇒沈線上爪形文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
45 － 5	41 T Ⅱ層	Ⅳ－１	縦位多条沈線⇒口縁横位１条の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
45 － 6	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅳ－１	複合口縁。口縁下三角刺突。横位多条沈線⇒山形沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
45 － 7	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅳ－１	波状口縁。波頂部二又状。縦位多条沈線、横位波状沈線⇒沈線に沿う三角刺突。	ナデ	雲母・海綿状骨針
45 － 8	41 T Ⅰ層	Ⅳ－１	複合口縁。口縁突起。突起上端沈線状の刻み。口縁上端刻み。口縁下横位多条沈線（楕円区画）⇒沈線上（波頂部下）三角刺突。口縁内面横位１条の沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
45 － 9	Ⅰ区 SX01	Ⅳ－１	口縁から垂下するハ字状隆線。口縁ヘラ状工具による横位・弧状の刺突列。図 45 － 10 と同一。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
45 － 10	Ⅰ区 SX01	Ⅳ－１	図 45 － 9 と同一。	－	－
45 － 11	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅳ－２	口縁縄圧痕文（LR）付隆線区画。隆帯に沿う２条の沈線。LR 縄文⇒横位沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
45 － 12	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅳ－２	波状口縁。波頂部刻み付隆線。口縁隆線（剥離）・沈線による楕円形区画、区画内円形竹管文。頸部横位隆線・沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
45 － 13	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅳ－２	口縁下断面三角の刻み付隆線による楕円形区画。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
45 － 14	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅳ－２	口縁隆線・沈線による楕円形区画、区画内横位２条の縄圧痕文？胴部縄文。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
45 － 15	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅳ－２	口縁隆線による楕円形区画。縦位無節 R 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
45 － 16	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅳ－２	断面三角の隆線による楕円形区画。	ナデ	雲母・海綿状骨針
45 － 17	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅳ－２	断面三角の横位隆線。隆線による方形区画、隆線に沿う沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
45 － 18	Ⅰ区 SX01	Ⅳ－２	波状口縁。波頂部２個１対の山形状小突起。口縁に沿う２条単位、斜位１条単位の山形状縄圧痕文（LR）。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
45 － 19	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅳ－２	口縁上端押捺。縦位 LR 縄文⇒横位２条以上の縄圧痕文（LR）。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
45 － 20	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅳ－２	口縁隆帯区画。横位・斜位縄圧痕文（RL）。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
45 － 21	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅳ－３	波状口縁。波頂部内屈。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
45 － 22	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅳ－１	横位多条沈線、沈線に沿う三角刺突。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
45 － 23	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅳ－１	縦位 LR 縄文⇒縦位多条沈線⇒沈線間交互刺突。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
45 － 24	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅳ－２	口縁横位刻み付隆線区画⇒縦位隆線⇒平行沈線による方形？区画。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
45 － 25	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅳ－２	縦位 LR 縄文⇒横位沈線、縦位２条の弧状沈線、横位１条の波状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
45 － 26	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅳ－２	縦位 LR 縄文⇒縦位・波状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
45 － 27	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅳ－２	縦位 LR 縄文・結節回転文⇒縦位の縄圧痕文（LR）付隆線。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
45 － 28	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅳ－５	縦位１条の有節沈線付隆帯。口縁横位刻み付隆線区画、隆帯に沿う１条の有節沈線、区画内斜位２条の有節沈線。胴部縦位幅広爪形文。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
45 － 29	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅳ－５	波状口縁。波頂部瘤状貼付文。波頂部から垂下する断面三角の弧状隆線。口縁内面隆帯。	ナデ	雲母・海綿状骨針

図版No	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
45 － 31	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅳ－５	多段の輪積痕⇒輪積痕上押捺⇒縦位？隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
46 － 1	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅴ－１	口縁隆帯区画、下端押捺。縦位 LR 縄文⇒横位３条の沈線、横位１条の波状沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
46 － 2	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅴ－１	口縁隆帯貼付。区画内Ｃ字形爪形文。頭部横位隆帯。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
46 － 3	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅴ－１	横方向への突起、突起上端弧状のソーメン状隆線。口縁隆帯区画、区画内１条の有節沈線。口縁内面横位・波状のソーメン状隆線。外面波状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英
46 － 4	Ⅰ区 SX01	Ⅴ－１	口縁隆帯貼付による楕円形区画、区画下端隆帯上押捺。区画内爪形文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
46 － 5	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅴ－１	口縁下端隆線区画、２条の横位Ｄ字形刺突⇒刺突間交互刺突付横位隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
46 － 6	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅴ－１	口縁２条の隆線区画⇒区画内波状のソーメン状隆線。縦位爨糸文？⇒横位２条の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
46 － 7	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅴ－１	２段の横位２条単位の沈線⇒沈線間波状のソーメン状隆線。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
46 － 8	Ⅰ区 SX01	Ⅴ－１	横位２条の隆線⇒隆線間縦位多条の縄正循文（LR）。縦位 LR 縄文⇒２条の沈線による方形区画。	ナデ	雲母・海綿状骨針
46 － 9	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅴ－２	口縁縦位 LR 縄文⇒隆沈線による楕円形区画、渦巻状隆線による突起。頭部無文。横位 LR 縄文⇒横位・縦位３条単位の沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
46 － 10	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅴ－２	口縁横位 LR 縄文⇒隆線による弧状区画、渦巻状隆線による突起。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
46 － 11	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅴ－２	口縁縦位 LR 縄文⇒隆沈線による区画、渦巻状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
46 － 12	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅴ－２	波状口縁。横位 LR 縄文⇒横位・弧状隆線。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
46 － 13	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅴ－２	口縁横位 LR 縄文⇒下端隆線区画、弧状隆線。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
46 － 14	Ⅰ区 SX01	Ⅴ－２	縦位 LR 縄文⇒弧状の隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
46 － 15	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅴ－１	縦位 LR 縄文⇒横位２条の隆沈線、２条単位の弧状隆線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
46 － 16	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅴ－２	縦位爨糸文（R）⇒多条の曲線状沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
46 － 17	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２	縦位 RL 縄文⇒３条単位の弧状沈線。図 46 － 18 と同一。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
46 － 18	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２	図 46 － 17 と同一。	－	－
46 － 19	Ⅰ区 SX01	Ⅴ－２	縦位 LR 縄文⇒多条の曲線状隆沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針・赤色粒
46 － 20	Ⅰ区 SX01	Ⅴ－２	波状口縁。波頂部突起、突起上渦巻状隆沈線、橋状把手、把手上沈線。口縁に沿う沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
46 － 21	41T Ⅱ層	Ⅴ－３	口縁２条の縦位ヘラ状工具による刺突列。縦位沈線（細縄文）⇒２条単位の横位波状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
47 － 1	Ⅰ区 SX01	Ⅵ－１	隆沈線による楕円形区画、渦巻状隆線⇒区画内縦位多条沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
47 － 2	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅵ－１	隆沈線による楕円形区画、渦巻状隆線⇒区画内刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
47 － 3	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅵ－１	縦位 LR 縄文⇒弧状の隆線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英
47 － 4	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅵ－１	縦位 LR 縄文⇒曲線状・渦巻状隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
47 － 5	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅵ－１	縦位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
47 － 6	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅵ－１	縦位・横位 RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
47 － 7	Ⅰ区 SX01	Ⅵ－１	縦位 LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
47 － 8	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅵ－１	縦位 RL 縄文⇒隆沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
47 － 9	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅵ－１	縦位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
47 － 10	Ⅰ区 SX01	Ⅵ－１？	縦位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
47 － 11	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅵ－１	横位 LR 縄文⇒沈線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
47 － 12	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅵ－１	縦位 RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
47 － 13	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅵ－１	縦位条線文⇒隆沈線。図 47 － 14 と同一。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
47 － 14	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅵ－１	図 47 － 13 と同一。	－	－
47 － 15	Ⅰ区 SX01	Ⅵ－２	横位 LR 縄文⇒隆沈線⇒縦長刺突。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
47 － 16	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅵ－２	断面三角の隆線⇒横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
47 － 17	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅵ－２	横位 LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
47 － 18	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅵ－２	横位 RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
47 － 19	Ⅰ区 SX01	Ⅵ－１	縦位 LR 縄文⇒沈線。断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針

図版No	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
48 － 1	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅵ－1	縦位 RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
48 － 2	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	口縁２条の沈線区画、横位 LR 縄文。横位 LR 縄文⇒曲線状・渦巻状沈線、盲孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
48 － 3	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	口縁小突起、盲孔。頸部沈線区画。横位 RL 縄文⇒弧状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
49 － 1	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅵ	縦位無節 L 縄文⇒隆線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
49 － 2	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－1	口縁隆帯区画。横位 LRL 縄文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
49 － 3	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－1	口縁ノ字状にせり上がる隆帯。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
49 － 4	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－1	口縁隆帯区画。格子状の櫛描沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
49 － 5	Ⅰ区 SX01	Ⅶ－1	横位 LR 縄文⇒沈線⇒円形浮文。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
49 － 6	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－1	横位 LR 縄文⇒沈線⇒円形浮文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英
49 － 7	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	口縁縦位隆帯、隆帯上下盲孔・中央沈溝、沈線による横位方形区画。横位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
49 － 8	Ⅰ区 SX01	Ⅶ－2？	口縁横位２条の沈線。横位 LR 縄文⇒多条の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
49 － 9	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－2	波状口縁。波頂部貫通孔。頸部縦位隆帯、中央沈溝。頸部横位沈線区画。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
49 － 10	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－1	口縁盲孔列、２条の沈線。頸部縦位多条の鎖状隆帯、上下端盲孔⇒隆帯に沿う沈線⇒横位隆帯・沈線区画。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
49 － 11	Ⅰ区 SX01	Ⅶ－1	小波状口縁。波頂部弧状隆帯（剥離）。口縁隆帯・沈線区画、交点盲孔。縦位 LR 縄文⇒２条単位の弧状沈線。	ナデ	雲母・石英
49 － 12	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	小波状口縁。波頂部貫通孔。縦位隆帯、上下端盲孔、中央沈溝。縦位無節 L 縄文⇒横位沈線区画、弧状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
49 － 13	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－1	波状口縁。波頂部上端楕円形隆帯。口縁貫通孔、口縁１条の沈線、円形浮文。横位 LR 縄文⇒縦位２条単位の沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
49 － 14	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	小波状口縁。波頂部ノ字状沈線、上下端盲孔。口縁沈線区画。縦位 RL 縄文⇒弧状沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
49 － 15	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	小波状口縁。波頂部縦位盲孔列。口縁沈線区画。横位 RL 縄文。	ナデ	雲母・金雲母
49 － 16	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	小波状口縁。波頂部縦位２条単位の弧状沈線、下端盲孔。口縁２条単位の沈線区画。弧状沈線。	ナデ	雲母
49 － 17	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－2	小波状口縁。波頂部縦位１条の沈線、上下端盲孔。口縁沈線区画。斜位弧状の沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
49 － 18	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－2	口縁沈線区画。横位無節 L 縄文⇒沈線による蕨手状文。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
49 － 19	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	波状口縁。口縁沈線区画、盲孔。横位 LR 縄文⇒縦位弧状沈線、列点状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
49 － 20	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	口縁沈線区画。横位 RL 縄文⇒盲孔、縦位沈線。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
49 － 21	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	口縁沈線区画、盲孔。横位附加条２種（RL ＋ R）⇒縦位小波状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
50 － 1	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	頸部沈線区画。横位 LR 縄文⇒弧状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
50 － 2	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	頸部沈線区画。横位 LR 縄文⇒弧状沈線、盲孔。	ミガキ	雲母・石英
50 － 3	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	頸部沈線区画。横位 RL 縄文⇒曲線状沈線。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
50 － 4	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	頸部沈線区画。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
50 － 5	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－2	小波状口縁。波頂部上端環状隆帯。口縁貫通孔、沈線、盲孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
50 － 6	Ⅰ区 SX01	Ⅶ－2	小波状口縁。波頂部楕円状の沈線、盲孔。横位 LR 縄文⇒曲線状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
50 － 7	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－2	縦位 LR 縄文⇒曲線状沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
50 － 8	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－1	横位 LR 縄文⇒縦位蛇行状沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
50 － 9	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	頸部沈線区画。横位・斜位 LR 縄文⇒横位・弧状沈線、盲孔。	ナデ	雲母・海綿状骨針
50 － 10	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	頸部沈線区画。横位沈線⇒盲孔、弧状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
50 － 11	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	横位 LR 縄文⇒曲線状沈線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
50 － 12	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	横位 LR 縄文⇒曲線状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
50 － 13	Ⅰ区 SX01	Ⅶ－2	頸部沈線区画。横位 LR 縄文⇒弧状・波状沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
50 － 14	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	頸部沈線区画。横位・斜位 LR 縄文⇒曲線状沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
50 － 15	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－2	横位 LR 縄文⇒頸部横位沈線区画⇒曲線状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
50 － 16	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－２	頸部沈線区画、盲孔。横位 LR 縄文⇒曲線状・渦巻状の多条沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
50 － 17	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２？	横位 LR 縄文⇒曲線状沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
51 － 1	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－２	波状口縁。波頂部上端環状隆帯。波頂部貫通孔、盲孔。頸部橋状把手、貫通孔、頸部隆帯・沈線区画。横位・縦位 LR 縄文⇒弧状沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
51 － 2	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－２	波状口縁。波頂部上端盲孔、貫通孔。頸部橋状把手、把手中央沈溝、下端盲孔、沈線による方形区画？波頂部口縁内面盲孔、縦位弧状隆帯。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
51 － 3	41T Ⅰ層	Ⅶ－２	波状口縁。波頂部貫通孔。頸部橋状把手、盲孔、沈線による楕円形区画、頸部下隆帯。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
51 － 4	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２	波状口縁。波頂部盲孔。頸部橋状把手、上下端盲孔、弧状隆帯・沈線、横位沈線。波頂部内面円形刺突、盲孔、刺突に沿う弧状沈線。	ミガキ	石英・海綿状骨針
51 － 2	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－２	波状口縁。波頂部上端盲孔、貫通孔。頸部橋状把手、把手中央沈溝、下端盲孔、沈線による方形区画？。波頂部口縁内面盲孔、縦位弧状隆帯。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
51 － 3	41T Ⅰ層	Ⅶ－２	波状口縁。波頂部貫通孔。頸部橋状把手、盲孔、沈線による楕円形区画、頸部下隆帯。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
51 － 4	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２	波状口縁。波頂部盲孔。頸部橋状把手、上下端盲孔、弧状隆帯・沈線、横位沈線。波頂部内面円形刺突、盲孔、刺突に沿う弧状沈線。	ミガキ	石英・海綿状骨針
51 － 5	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－２	波状口縁。波頂部縦位環状隆帯、貫通孔。頸部橋状把手、把手下端盲孔。弧状隆帯、横位・弧状多条沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
51 － 6	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２	口縁突起、突起上端環状隆帯、貫通孔、縦位弧状多条沈線、盲孔。口縁１条の沈線。頸部橋状把手、下端盲孔、縦位弧状隆帯、下端沈線区画。曲線状沈線。	ミガキ	石英・海綿状骨針
51 － 7	Ⅰ区SX01	Ⅶ－２	口縁突起、突起上端円形隆帯、貫通孔、縦位弧状多条沈線。口縁隆帯、１条の沈線、盲孔。横位 LR 縄文、突起から垂下する縦位隆帯⇒頸部下横位２条の沈線区画、縦位弧状沈線、曲線状多条沈線⇒盲孔。	ミガキ	石英・海綿状骨針
51 － 8	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２	口縁突起（剥離）。口縁１条の沈線、盲孔。頸部橋状把手、把手下端盲孔。縦位弧状隆線。頸部下楕円状多条沈線区画。横位 LR 縄文⇒弧状多条沈線。突起部内面盲孔。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
51 － 9	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－２	口縁弧状多条沈線。頸部橋状把手（剥離）、縦位弧状隆帯・上位盲孔、重弧状の多条沈線。２条横位沈線、盲孔、重弧状・渦巻状多条沈線。	ナデ	石英・海綿状骨針
51 － 10	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２	波状口縁。波頂部貫通孔、貫通孔に沿う曲線状多条沈線、横位・楕円状沈線。頸部橋状把手、中央沈溝、下端盲孔。頸部沈線区画、縦位弧状沈線。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
51 － 11	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２	口縁盲孔。頸部ひねりを持つ橋状把手、弧状隆帯。頸部下楕円形沈線、盲孔。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
51 － 12	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－１・２	波状口縁。波頂部突起、対向する弧状沈線、上下端盲孔、中央貫通孔。口縁盲孔、２条単位の沈線。縦位・斜位沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
52 － 1	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２	口縁肥厚、弧状・渦巻状多条沈線。頸部縦位刻み付隆帯。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針・赤色粒
52 － 2	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２	小波状口縁。波頂部貫通孔、貫通孔に沿う多条沈線。口縁２条の沈線。波頂部内面貫通孔に沿う沈線、盲孔。	ミガキ	海綿状骨針
52 － 3	Ⅰ区SX01	Ⅶ－２	波状口縁。注口土器。波頂部環状隆帯。口縁沈線区画。内面弧状隆帯、盲孔。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
52 － 4	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－２	頸部多条沈線区画。横位 LR 縄文⇒弧状・縦位多条沈線、盲孔。	ミガキ	金雲母
52 － 5	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－２	横位 RL 縄文⇒曲線状多条沈線。図 52 － 6 と同一。	ナデ	雲母・海綿状骨針
52 － 6	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－２	図 52 － 5 と同一。	－	－
52 － 7	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２	横位 LR 縄文⇒曲線状多条沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
52 － 8	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅶ－２	横位 LR 縄文⇒曲線状多条沈線。	ナデ	雲母・石英
52 － 9	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２	横位 LR 縄文⇒曲線状多条沈線。	ナデ	石英・海綿状骨針
52 － 10	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２	横位 LR 縄文⇒曲線状多条沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
52 － 11	Ⅰ区SX01	Ⅶ－２	横位 LR 縄文⇒多条沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
52 － 12	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－２？	横位 LR 縄文⇒多条沈線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
52 － 13	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－３？	口縁山形状小突起。口縁沈線区画、横位 LR ？縄文。口縁内面１条の沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
52 － 14	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅶ－3	波状口縁。波頂部突起。波頂部横の口縁上端２個の隆帯（刻み）。波頂部から垂下する隆線、隆線上円形刺突、口縁に沿う２条単位の刻み付隆線。口縁内面１条の横位沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
52 － 15	49T Ⅰ層	Ⅷ－2	口縁上端縦割山形状小突起。三叉状文、弧状・横位沈線⇒端貼付。LR？縄文、隆帯⇒横位短沈線。胴部斜位沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
52 － 16	49T Ⅰ層	Ⅸ	注口土器。斜位Ｌ？撚糸文⇒横位沈線、円形状沈線。隆帯⇒刻目文・刺突文。	ミガキ	石英・海綿状骨針
52 － 17	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅹ	横位 LR・RL 羊結束羽状縄文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
52 － 18	Ⅰ区Ⅱ層	Ⅸ	浮線網状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
52 － 19	Ⅰ区Ⅰ層	Ⅹ	網目状撚糸文（横位回転Ｒ、交互に上下しない）。	ナデ	雲母
53 － 1	64T Ⅱ層	Ⅱ	横位 LR 縄文⇒縦位２条の棒状工具による刺突列⇒横位多条沈線。	ナデ	石英・海綿状骨針・繊維
53 － 2	64T Ⅱ層	Ⅲ－2	口縁上端先端二叉状工具による刺突。横位 LR 縄文。	ヘラナデ	海綿状骨針・繊維（少）
53 － 3	64T Ⅰ層	Ⅲ－2	口縁指頭？による交互押捺。横位 LR 縄文。	ナデ	石英・海綿状骨針
53 － 4	64T Ⅰ層	Ⅲ－2	口縁無文。横位多条有節沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
53 － 5	64T Ⅱ層	Ⅲ－3	横位 LR 縄文⇒多段の２条単位の山形沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
53 － 6	64T Ⅱ層	Ⅲ－3	波状口縁。横位 LR 縄文⇒縦位・斜位・山形状の貼付文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母・石英・繊維
53 － 7	64T Ⅱ層	Ⅲ－4	複合口縁。口縁上端縦位刻み、下端縦位縄圧痕文（LR）。口縁無文。横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
53 － 8	64T Ⅰ層	Ⅲ－4	複合口縁。口縁上下端棒状工具による刻み。縦位隆帯。縦位Ｒ撚糸文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
53 － 9	64T Ⅰ層	Ⅲ－3	波状複合口縁。口縁下端ヘラ状工具による刻み。横位 LR 縄文⇒上下区画連続山形状平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
53 － 10	64T Ⅰ層	Ⅲ－4	複合口縁。口縁三角刻み。横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
53 － 11	64T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁肥厚、１条の山形沈線、盲孔。頸部三角刻み列、ボタン状貼付文。図 53 － 12 と同一。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
53 － 12	64T Ⅱ層	Ⅲ－4	図 53 － 11 と同一。	－	－
53 － 13	64T Ⅰ層	Ⅲ－4	波状口縁。口縁二叉状。頸部横位２条の爪形文付隆帯区画。横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
53 － 14	64T Ⅱ層	Ⅲ－4	波状口縁。頸部横位１条、弧状１条の爪形文付隆帯。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
53 － 15	64T Ⅰ層	Ⅲ－4	波状口縁。横位 LR 縄文⇒上位区画斜格子状平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
53 － 16	64T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁横位沈線区画、縦位多条沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
53 － 17	64T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁肥厚。縁１条の横位、２条単位の菱形・弧状、１条の連続小山形状の縄圧痕文（L）。縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
53 － 18	64T Ⅱ層	Ⅲ－4	複合（肥厚）口縁。口縁多条の斜位・横位・U 字状縄圧痕文（L）。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
53 － 19	64T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁肥厚。口縁横位・縦位沈線⇒沈線に沿う爪形文。頸部横位１条の沈線区画、胴部爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
53 － 20	64T Ⅰ層	Ⅲ－4	縦位 RL 縄文⇒弧状の多条平行沈線、２条の爪形文、１条の山形沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
53 － 21	64T Ⅰ層	Ⅲ－4	頸部沈線区画、山形沈線、２条単位の下向連弧状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
53 － 22	64T Ⅱ層	Ⅲ－5	波状複合口縁。横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
53 － 23	64T Ⅱ層	Ⅲ－5	縦位・横位 LR 縄文。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
53 － 24	64T Ⅱ層	Ⅲ－6	横位 LR 縄文、結節回転文。胴部下端ミガキ、底部ナデ。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
53 － 25	64T Ⅰ層	Ⅲ－5	２条の横位変形爪形文（幅 1.6cm）、多条有節沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
53 － 26	64T Ⅰ層	Ⅲ－5	口縁縦位刻み。横位多条有節沈線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
53 － 27	64T Ⅱ層	Ⅲ－5	弧状のアナダラ属の貝殻腹縁文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
54 － 1	64T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁無文、肥厚。頸部横位３条の爪形文付隆帯。横位 LR 縄文⇒結節回転文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
54 － 2	64T Ⅰ層	Ⅲ－4	口縁山形状小突起。頸部下輪積痕。口縁～頸部無文。横位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
54 － 3	64T Ⅱ層	Ⅳ－1	口縁上端刻み。頸部隆帯貼付による有段、縦位・横位沈線交点にＶ字状貼付文。頸部横位２条、胴部縦位３条の沈線、沈線に沿う三角刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
54 － 4	64T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁横位Ｓ字状貼付文⇒貼付文内縄圧痕文（LR）・沈線。口縁１条の横位縄圧痕文（LR）。頸部有段、有段部半截竹管によるＤ字形刺み。胴部縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
54 － 5	64T Ⅰ層	Ⅳ－3	浅鉢。波状口縁（４単位）。口縁内面隆帯。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
54 － 6	64T Ⅱ層	Ⅳ－3	口縁上端押捺。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針
54 － 7	64T Ⅱ層	Ⅳ－4	口縁山形状小突起、突起刺みによる三叉状。頸部輪積痕。横位 RL 縄文。	ミガキ・ヘラナデ	雲母・海綿状骨針

図版No	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
54 － 8	64T Ⅰ層	Ⅳ－5	多段の輪積痕。輪積痕上押捺。底部網代痕。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
54 － 9	64T Ⅱ層	Ⅴ－1	縦位LR縄文⇒3～4条単位のクランク状・曲線状沈線。胴部下端・底部ナデ。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
54 － 10	64T Ⅱ層	Ⅳ－3	ナデ。底部網代痕。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
54 － 11	64T Ⅱ層	Ⅶ？	ミガキ。	ナデ	雲母・海綿状骨針
55 － 1	64T Ⅱ層	Ⅳ－1	波状口縁。口縁縦位刻み。口縁に沿う横位弧状沈線。波頂部下弧状沈線⇒棒子状短沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
55 － 2	64T Ⅰ層	Ⅳ－1	口縁縦位刻み。多段の山形沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
55 － 3	64T Ⅱ層	Ⅳ－1	口縁下縦位刻み付隆帯区画⇒隆帯下端三角刻み、口縁上下横位沈線⇒2条単位の山形沈線⇒沈線間斜位縦長刺突。胴部横位多条沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
55 － 4	64T Ⅱ層	Ⅳ－1	波状口縁。頸部横位・波頂部から垂下する刻み付隆帯⇒隆帯下端瘤状貼付文。口縁部横位⇒縦位の多条沈線による格子状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
55 － 5	64T Ⅰ層	Ⅳ－1	口縁縦位刻み付隆帯。横位多条の沈線⇒2条単位の縦位刻み付隆帯。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
55 － 6	64T Ⅰ層	Ⅳ－1	口縁山形状小突起。口縁上下横位隆帯⇒隆帯上下棒状工具による刺突、突起から垂下する縦位刻み付隆帯。縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
55 － 7	64T Ⅰ層	Ⅳ－1	口縁山形状小突起。口縁横位1条の沈線⇒沈線上下縦位刻み。縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
55 － 8	64T Ⅰ層	Ⅳ－1	縦位多条沈線⇒横位多条沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
55 － 9	64T Ⅰ層	Ⅳ－1	上下沈線区画、多段の山形沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
55 － 10	64T Ⅰ層	Ⅳ－1	口縁多段の弧状平行短沈線。縦位LR縄文⇒頸部横位平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
55 － 11	64T Ⅱ層	Ⅳ－1	頸部横位刻み付隆帯。縦位LR・RL羽状縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
55 － 12	64T Ⅱ層	Ⅳ－1	横位・斜位・縦位2～3条の沈線⇒沈線に沿う刺突。	ナデ	雲母・海綿状骨針
55 － 13	64T Ⅰ層	Ⅳ－2？	口縁1条の沈線、円形刺突列。2条単位の曲線状沈線、斜位隆線、隆線に沿う沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
55 － 14	64T Ⅰ層	Ⅳ－2	口縁隆帯による楕円形区画、隆帯に沿う沈線、区画内方形状沈線。隆帯下沈線による楕円文・波状文。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
55 － 15	64T Ⅰ層	Ⅳ－2	縦位LR縄文⇒隆線・2条の沈線による楕円形区画、隆線による縦位楕円形区画。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
55 － 16	64T Ⅰ層	Ⅳ－2	縦位LR縄文。縄圧痕文（LR）付縦位隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
55 － 17	64T Ⅱ層	Ⅳ－2	縦位LR縄文⇒横位2条の沈線、縦位1条の波状沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
56 － 1	64T Ⅱ層	Ⅳ－2	口縁横位刻み付隆帯、瘤状貼付文、縦位・斜位隆帯⇒隆帯に沿う多条の縄圧痕文（LR）。	ナデ	雲母・海綿状骨針
56 － 2	64T Ⅱ層	Ⅳ－2	口縁Y字状貼付文⇒縦位LR縄文⇒横位縄圧痕文（LR）。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針・赤色粒
56 － 3	64T Ⅰ層	Ⅳ－2	口縁横位縄圧痕文（LR？）。口縁下押捺付隆帯。縦位LR・RL縄文。	ミガキ・ナデ	金雲母・海綿状骨針
56 － 4	64T Ⅱ層	Ⅳ－2	口縁隆帯貼付、環状・縦位の貼付文による突起、下端押捺、横位縄圧痕文（R）。縦位無節R縄文。	ミガキ	金雲母
56 － 5	64T Ⅱ層	Ⅳ－4	口縁縦位瘤状突起、押捺付隆帯。縦位LR縄文。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
56 － 6	64T Ⅱ層	Ⅳ－4	口縁押捺付隆帯。縦位LR縄文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
56 － 7	64T Ⅰ層	Ⅳ－4	口縁・頸部押捺付き隆帯。縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
56 － 8	64T Ⅱ層	Ⅳ－4	口縁上端ヘラ状工具による刻み。頸部断面三角の刻み付隆線。横位LR縄文。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
56 － 9	64T Ⅰ層	Ⅳ－4	口縁上端縄圧痕文（L）。縦位無節L縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
56 － 10	64T Ⅰ層	Ⅳ－4	頸部断面三角の刻み付隆線。横位LR？縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
56 － 11	64T Ⅱ層	Ⅳ－4	頸部断面三角の押捺付隆線。横位RL縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
56 － 12	64T Ⅰ層	Ⅳ－4	頸部縄圧痕文（LR）付隆帯。	ナデ	雲母・海綿状骨針
56 － 13	64T Ⅱ層	Ⅳ－4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
56 － 14	64T Ⅱ層	Ⅳ－3	ナデ、ヘラナデ。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
56 － 15	64T Ⅱ層	Ⅳ－3	口縁肥厚、口縁下有段。口縁上端刻み。ナデ。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
56 － 16	64T Ⅰ層	Ⅳ－3	複合口縁。多段の輪積痕。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針
56 － 17	64T Ⅱ層	Ⅳ－3	複合口縁。ナデ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
56 － 18	64T Ⅰ層	Ⅳ－5	波状口縁。波頂部傾斜した突起、上端片縁のみ棒状工具による刻み。波頂部から斜位に垂下する蕨手状隆線。口縁上端・口縁に沿う有節沈線。口縁片頭環状隆帯（剥離）、隆帯中央貫通孔、隆帯に沿う１条の有節沈線。口縁片頭上下対向する横位蕨手状の有節沈線（一部沈線、一部山形状）、交点刺先状の刺突。胴部上位断面三角の隆線・有節沈線による楕円形区画、区画内輪積痕⇒輪積痕上押捺。胴部下位断面三角の横位隆線。内面波頂部円形刺突・刻み文、波頂部から垂下するＬ字状の有節沈線。頸部内面有段。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
56 － 19	64T Ⅱ層	Ⅳ－3	浅鉢。口縁上端縄状貼付文。口縁内面隆帯。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
57 － 1	64T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁上端縄圧痕文（Ｌ）。上から横位隆線、半截竹管による刺突、横位沈線、横位・渦巻状隆線⇒横位隆線・隆線に沿う沈線、横位３条沈線、連弧状（山形）沈線、縦位ＬＲ縄文。図 57 － 2・3 と同一。	ナデ	雲母・海綿状骨針
57 － 2	64T Ⅰ層	Ⅴ－1	図 57 － 1・3 と同一。	－	－
57 － 3	64T Ⅰ層	Ⅴ－1	図 57 － 1・2 と同一。	－	－
57 － 4	64T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁横位隆帯。隆帯による楕円形区画（剥離）⇒区画内爪形文。口縁下端押捺付隆帯。縦位ＬＲ縄文。口縁内面隆帯。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
57 － 5	64T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁隆帯による楕円形区画⇒区画内棒状工具による刺突。縦位ＬＲ縄文。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
57 － 6	64T Ⅱ層	Ⅴ－1	口縁突起。突起内面にＳ字状貼付文。口縁上位縄圧痕文（ＬＲ？）。口縁２条の隆帯、下端押捺。縦位ＬＲ縄文⇒隆帯に沿う横位２条の沈線⇒縦位・波状の沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
57 － 7	64T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁横位Ｓ字状・渦巻状突起。頭部押捺付隆帯。縦位ＬＲ縄文。突起内面渦巻状隆帯。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
57 － 8	64T Ⅰ層	Ⅴ－1	縦位Ｒ撚糸文⇒２条単位の波状沈線、頭部横位多条沈線。	ナデ	金雲母
57 － 9	64T Ⅱ層	Ⅴ－1	縦位Ｒ撚糸文⇒口縁上位横位２条以上の隆線、口縁横位・弧状の３条単位の沈線、頭部横位２条単位の沈線・小波状沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
57 － 10	64T Ⅰ層	Ⅴ－1	縦位ＬＲ縄文⇒縦位・弧状・渦巻状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
57 － 11	64T Ⅱ層	Ⅴ－1	方形のソーメン状隆線区画、区画に沿う隆沈線。縦位ソーメン状隆線による曲線状文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
57 － 12	64T Ⅱ層	Ⅴ－2	口縁瘤状突起⇒縦位ＬＲ縄文⇒口縁上下隆沈線区画⇒弧状隆沈線、突起部渦巻状・縦位隆線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
57 － 13	64T Ⅰ層	Ⅴ－2	口縁横位ＬＲ縄文⇒横位・弧状の隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
57 － 14	64T Ⅰ層	Ⅵ－1	横位・斜位ＬＲ縄文⇒断面三角の隆沈線。	ミガキ	金雲母
57 － 15	64T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位ＲＬ縄文⇒隆沈線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
57 － 16	64T Ⅰ層	Ⅵ－2・Ⅶ－1	波状口縁、波頂部山形状小突起。口縁横位１条の沈線。胴部縦位ＬＲ縄文？弧状・楕円状沈線。口縁内面突帯。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
58 － 1	64T Ⅰ層	Ⅶ－1	小波状口縁。口縁隆帯・沈線区画。横位Ｌ撚糸文⇒縦位弧状隆帯・沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
58 － 2	64T Ⅰ層	Ⅶ－1	口縁棒状工具による刻み付隆帯区画。縦位Ｒ撚糸文⇒沈線。	ミガキ	金雲母・赤色粒
58 － 3	64T Ⅰ層	Ⅶ－1	口縁隆帯区画。斜位Ｌ撚糸文⇒半截竹管による２条単位の８字状刺突列。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
58 － 4	64T Ⅱ層	Ⅶ－1	口縁上端・下端刻み付隆帯。縦位櫛描多条短沈線。	ナデ	雲母・石英
58 － 5	64T Ⅱ層	Ⅶ－1	小波状口縁。波頂部刻み付縦位隆帯。口縁刻み付隆帯区画。横位ＬＲ縄文。	ナデ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
58 － 6	64T Ⅱ層	Ⅶ－1	小波状口縁。ノ字状隆帯、中央沈溝、上端盲孔。口縁横位鎖状隆帯区画。横位ＲＬ縄文。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針・赤色粒
58 － 7	64T Ⅰ層	Ⅶ－1	口縁捻りをもつ半円状突起。縦位隆帯、上下端盲孔。口縁隆帯区画。縦位・斜位Ｒ撚糸文。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
58 － 8	64T Ⅰ層	Ⅶ－1	波状口縁。ノ字状隆帯、中央沈溝、上下端盲孔。口縁隆帯区画。縦位・横位ＬＲ縄文。突起内面盲孔。	ヘラナデ	雲母・石英・赤色粒
58 － 9	64T Ⅰ層	Ⅶ－1	波状口縁。対向する縦位弧状隆帯、中央沈溝、上下端盲孔。口縁隆帯区画。横位ＲＬ縄文。	ミガキ	雲母・金雲母
58 － 10	64T Ⅰ層	Ⅶ－1	小波状口縁。縦位隆帯、中央沈溝、上下端盲孔。口縁隆帯・沈線区画。縦位ＬＲ縄文⇒弧状沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
58 － 11	64T Ⅰ層	Ⅶ－1	波状口縁、波頂部山形状小突起。縦位隆帯。上位盲孔、下端円形浮文。口縁隆帯・沈線区画。横位・縦位ＬＲ縄文⇒弧状沈線、蛇行状沈線⇒円形浮文。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針

図版No	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
59 － 1	64T Ⅰ層	Ⅶ－1	波状口縁、波頂部突起。突起中央貫通孔、対向する弧状沈線、上下端盲孔。口縁盲孔、２条の沈線。横	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
59 － 2	64T Ⅱ層	Ⅶ－1	横位・縦位LR縄文⇒横位・縦位沈線⇒円形浮文。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
59 － 3	64T Ⅰ層	Ⅶ－1	縦位附加条１種（LR ＋ R）⇒弧状・縦位沈線⇒円形浮文。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針・赤色粒
59 － 4	64T Ⅰ層	Ⅶ－1	横位RL縄文⇒弧状・蕨手状沈線⇒円形浮文。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針・赤色粒
59 － 5	64T Ⅰ層	Ⅶ－1	横位・斜位RL縄文⇒縦位鎖状隆帯。	ナデ	雲母・海綿状骨針
59 － 6	64T Ⅰ層	Ⅶ－2	口縁突起。突起上端環状隆帯。頸部橋状把手、上下端盲孔。横位LR縄文⇒縦位・斜位沈線。突起内面盲孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
59 － 7	64T Ⅰ層	Ⅶ－2	口縁突起。突起上端環状隆帯、貫通孔、側面・上面盲孔。頸部橋状把手、中央沈溝、上下端盲孔、縦位弧状隆帯。頸部下隆帯・沈線区画。横位LR縄文⇒横位・斜位・弧状沈線区画。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
59 － 8	64T Ⅰ層	Ⅶ－2	口縁沈線区画⇒円形浮文。縦位LR縄文⇒蕨手状沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
59 － 9	64T Ⅰ層	Ⅶ－2	口縁山形状小突起、盲孔。口縁１条の沈線区画。横位・縦位無節Ｌ縄文。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
59 － 10	64T Ⅰ層	Ⅶ－2	波状口縁、貫通孔。横位LR縄文⇒縦位・横位沈線。	ヘラナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
59 － 11	64T Ⅰ層	Ⅶ－2	口縁２条の沈線区画⇒８字状浮文。横位LR縄文⇒半截竹管による縦位列点状刺突、斜位沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針・赤色粒
59 － 12	64T Ⅰ層	Ⅶ－2	小波状口縁。横位LR縄文⇒Ｌ字状・弧状沈線、縦位列点状刺突。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
59 － 13	64T Ⅰ層	Ⅶ－2	口縁１条の沈線⇒横位LR縄文⇒横位・弧状沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
59 － 14	64T Ⅰ層	Ⅶ－2	小波状口縁。口縁下２条の横位沈線。横位LR縄文⇒３条単位のＪ字状沈線、縦位蛇行状？沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
59 － 15	64T Ⅰ層	Ⅶ－2	横位LR縄文⇒口縁横位沈線、弧状・曲線状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
59 － 16	64T Ⅰ層	Ⅶ－2	横位RL縄文⇒横位・斜位・渦巻状沈線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
60 － 1	64T Ⅰ層	Ⅶ－2	縦位LR縄文⇒縦位・蕨手状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
60 － 2	64T Ⅰ層	Ⅶ－2	横位LR縄文⇒横位・斜位・弧状沈線⇒盲孔。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
60 － 3	64T Ⅱ層	Ⅶ－4	波状口縁。縦位・横位・斜位・弧状の沈線、沈線間半截竹管による刺突。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針・赤色粒
60 － 4	64T Ⅰ層	Ⅶ－4	横方向の刺突全面施文。	ナデ	金雲母・石英
60 － 5	64T Ⅰ層	Ⅶ－1	横位RL縄文⇒横位平行沈線⇒縦位弧状沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
61 － 1	69T Ⅰ層	Ⅲ－3	口縁上端縦位刻み。横位LR縄文⇒横位平行沈線⇒沈線間斜位平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
61 － 2	65T Ⅱ層	Ⅲ－3	波状口縁。波頂部瘤状貼付文。横位LR縄文⇒２段の横位３条単位の山形沈線⇒山形沈線間斜位２条単位の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
61 － 3	70T Ⅱ層	Ⅲ－3	横位RL縄文⇒横位２条の山形沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
61 － 4	69T Ⅰ層	Ⅲ－2	横位多条結節回転文⇒縦位波状沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
61 － 5	71T Ⅱ層	Ⅲ－4	多段の横位爪形文・三角刻み列。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
61 － 6	70T Ⅱ層	Ⅲ－4	頸部横位１条の爪形文、横位１条の平行沈線⇒縦位・小波状の多条平行沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
61 － 7	65T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁３条の棒状縦位隆帯。口縁横位沈線⇒渦巻状・斜位沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
61 － 8	65T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁山形状？小突起。斜位・Ｖ字状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
61 － 9	65T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁肥厚。横位・斜位沈線⇒沈線に沿う爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
61 － 10	65T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁隆帯貼付、口縁上端斜位・曲線状沈線。横位１条の沈線。多段の下向弧状短沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
61 － 11	70T Ⅰ層	Ⅲ－4	縦位棒状工具による刻み。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
61 － 12	70TSD01 Ⅰ層	Ⅲ－4	横位LR？縄文⇒縦位・横位・斜位多条平行沈線⇒交点に弧状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
61 － 13	70T Ⅰ層	Ⅲ－5	口縁無文。横位RL縄文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
61 － 14	68T Ⅰ層	Ⅲ－4	縦位LR縄文⇒横位・弧状沈線⇒沈線に沿う爪形文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
61 － 15	70T Ⅱ層	Ⅲ－4	山形沈線、横位２条の沈線、横位１条の隆線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
61 － 16	70T Ⅱ層	Ⅲ－4	口縁内面隆帯貼付、縦位短沈線⇒横位１条の沈線。波状・弧状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
61 － 17	70TSD01 Ⅰ層	Ⅳ－1	口縁内面隆帯貼付。２条単位の渦巻状沈線⇒棒子状短沈線⇒斜位多条沈線。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
61 － 18	70T Ⅲ層	Ⅳ－1	頸部刻み付隆帯。口縁斜位平行沈線による細線文？⇒斜位平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
61 － 19	65T Ⅱ層	Ⅳ－5	波状口縁。口縁に沿う１条の有節沈線、波底部縦位２条の有節沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針

図版No.	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
61 － 20	65T Ⅱ層	Ⅳ－5	口縁隆線による楕円形区画⇒隆線に沿う１条の有節沈線。Y 字状に垂下する有節沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
61 － 21	65T Ⅱ層	Ⅳ－2	隆線による楕円形区画、区画内隆線に沿う２条の有節沈線、Y 字状隆線・沈線、横位下向連弧状沈線。縄位 LR ？縄文。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
61 － 22	65T Ⅱ層	Ⅳ－5	縄位隆線、隆線に沿う１条の有節沈線。輪積痕をやや残す。	ナデ	雲母・海綿状骨針
61 － 23	65T Ⅰ層	Ⅳ－2	波状口縁。波頂部Ｕ字状突起、上端刻み。突起部Ｕ字状隆線、縄位多条沈線。口縁に沿う３条の沈線⇒交互刺突文。波頂部下多条の逆Ｕ字状沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
61 － 24	65T Ⅱ層	Ⅳ－2	口縁下横位２条の隆線区画。隆線上渦巻状隆帯貼付けによる突起。口縁から突起にかけて縄位３条の隆線、口縁に沿う楕円状？隆線、隆線に沿う縄圧痕文（LR）。口縁下縄位・横位・弧状・Ｖ字状沈線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
61 － 25	65T Ⅱ層	Ⅳ－2	口縁弧状貼付文。口縁横位１条の縄圧痕文（LR？）。縄位 LR 縄文⇒頸部縄位縄圧痕文（LR）。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
61 － 26	70T Ⅲ層	Ⅳ－2	口縁下刻み付横位隆線。Ｌ字状？の２条単位の沈線⇒縄位隆線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針・赤色粒
61 － 27	65T Ⅱ層	Ⅳ－2	頸部横位２条の沈線、隆線による楕円形区画、隆線に沿う１条の沈線、横位多条沈線、縄位２条の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
62 － 1	65T Ⅱ層	Ⅳ－3	波状口縁。輪積痕多段。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
62 － 2	65T Ⅱ層	Ⅳ－5	輪積痕多段⇒押捺。縄位・三角状の断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
62 － 3	65T Ⅱ層	Ⅳ－2	波状口縁。口縁上端爪形文。縄位縄圧痕文（LR）付隆帯。斜位・弧状多条沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
62 － 4	70TSD01 Ⅰ層	Ⅳ－2	環状貼付文。縄位・横位の断面三角の隆線。口縁内面沈線による楕円形文、端部刻み文。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
62 － 5	65T Ⅱ層	Ⅳ－2	口縁隆線による楕円形区画、区画内縄位短沈線。縄位 LR 縄文。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
62 － 6	71T Ⅰ・Ⅱ層	Ⅳ－2	口縁隆線による楕円形区画、区画内隆線に沿う２条の沈線。縄位 LR 縄文。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
62 － 7	70T Ⅲ層	Ⅳ－2	縄位 RL 縄文⇒弧状・斜位楕円状沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
62 － 8	65T Ⅱ層	Ⅳ－2	口縁Ｓ字状（曲線状）貼付文。口縁下隆帯貼付による有段。口縁半截竹管による横位１条の刺突列。縄位 LR 縄文。	ヘラナデ	雲母・海綿状骨針
62 － 9	65T Ⅱ層	Ⅴ－1	口縁隆帯貼付，１条の縄圧痕文（LR）。縄位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
62 － 10	65T Ⅱ層	Ⅴ－1	口縁隆帯貼付、突起。突起上端Ｓ字状？貼付文。隆帯間１条の有節沈線。縄位 LR 縄文⇒３条単位の上向連弧状沈線、横位沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
62 － 11	70TSD01 Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁隆線貼付による橋状把手、楕円形区画。連弧状？多条沈線。口縁内面隆帯貼付、隆帯上ソーメン状隆線による波状文・有節沈線。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
62 － 12	65T Ⅰ層	Ⅴ－1	口縁ソーメン状隆線による波状・楕円文。縄位Ｒ撚糸文⇒２条の横位沈線，１条の波状沈線、横位２条の沈線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
62 － 13	65T Ⅱ層	Ⅴ－1	横位２条の隆沈線、横位刻み付隆線。縄位 LR 縄文⇒３～４条単位の渦巻状沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
62 － 14	65T Ⅱ層	Ⅴ－1	縄位 RL 縄文⇒頸部横位多条沈線、１条の山形沈線、横位３条の沈線、縄位・横位・クランク状・渦巻状の３条単位の沈線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
62 － 15	70T Ⅲ層	Ⅴ－1	縄位 LR 縄文⇒３条単位の渦巻状沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
62 － 16	70T Ⅲ層	Ⅴ－2	縄位Ｒ撚糸文⇒口縁隆沈線による方形区画、渦巻文。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
62 － 17	70T Ⅱ層	Ⅴ－2	横位 RL 縄文⇒横位・弧状の隆線（端部渦巻状）。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
62 － 18	65T Ⅱ層	Ⅴ－2	波状口縁、渦巻状？突起。口縁上端沈線。突起上円形刺突、突起に沿う弧状・渦巻状沈線。縄位Ｒ撚糸文⇒横位・弧状隆沈線。	ナデ	雲母・石英・海綿状骨針
63 － 1	71T Ⅰ・Ⅱ層	Ⅴ－2	波状口縁。波頂部突起、突起上渦巻状隆沈線、橋状把手、把手上沈線。口縁に沿う沈線。波頂部内面貫通孔。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
63 － 2	65T Ⅱ層	Ⅴ－2	波状口縁。波頂部環状沈線。口縁上端沈線。波頂部から垂下する橋状把手、把手中央沈線。把手に沿う渦巻状隆沈線。口縁沈線による楕円形区画、区画内横位２条縄圧痕文（RL）・横位 LR 縄文。波頂部内面貫通孔。	ナデ	雲母・海綿状骨針

図版No	出土遺構・層名	分　類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物
63 － 3	65T Ⅱ層	Ⅴ－2	頸部横位隆沈線、胴部連結渦巻状隆沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
63 － 4	65T Ⅱ層	Ⅴ－2	縦位条線文⇒３条単位の縦位渦巻状沈線。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
63 － 5	70TSD01 Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位 RL 縄文⇒隆沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
63 － 6	70T Ⅱ層	Ⅵ－1	縦位 RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
63 － 7	70T Ⅱ層	Ⅵ－1	波状口縁。波頂部渦巻状隆沈線、横位 LR 縄文⇒横位隆沈線による楕円状区画。縦位 LR 縄文⇒隆沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針。
63 － 8	70T Ⅱ層	Ⅵ－1	渦巻状隆沈線、刺突？	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
63 － 9	65T Ⅱ層	Ⅵ－1	横位 RLR 縄文⇒隆沈線による方形区画、渦巻状文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
63 － 10	65T Ⅰ層	Ⅵ－1	縦位 LR 縄文⇒多条沈線、円形刺突。	ナデ	金雲母・海綿状骨針
63 － 11	70T Ⅲ層	Ⅵ－1	波状口縁。弧状沈線、縦長刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
63 － 12	70T Ⅲ層	Ⅵ－1	口縁横位 LR 縄文⇒隆沈線による楕円形区画。胴部縦位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
63 － 13	65T Ⅱ層	Ⅵ－2	波状口縁。口縁の字状隆帯貼付による突起。条線文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英
63 － 14	70T Ⅱ層	Ⅵ	縦位 LR 縄文⇒沈線。胴部焼成前貫通孔。	ナデ	雲母・海綿状骨針
64 － 1	65T Ⅱ層	Ⅵ－2	波状口縁。断面三角の波頂部から垂下するノ字状・横位隆線、L 字状隆線。沈線⇒縦位条線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
64 － 2	68T Ⅰ層	Ⅶ－1	口縁隆帯・沈線区画⇒盲孔、縦位蛇行状沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
64 － 3	65T Ⅰ層	Ⅶ－1	口縁隆帯区画。小波状口縁。弧状隆帯、中央沈溝、上下端盲孔。横位 LR 縄文⇒綾手状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
64 － 4	65T Ⅱ層	Ⅶ－1	口縁渦巻状隆帯による突起、貫通孔。縦位弧状隆帯、下端盲孔。口縁隆帯・沈線区画。縦位弧状・蛇行状沈線。横位 LR 縄文。口縁内面盲孔。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針
64 － 5	65T Ⅰ層	Ⅶ－1	波状口縁。対向する弧状隆帯、中央沈溝、上下端盲孔。口縁隆帯区画。	ナデ	金雲母・石英・海綿状骨針
64 － 6	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	口縁山形状小突起、貫通孔、貫通孔に沿う隆線、盲孔。横位 LR 縄文⇒横位多条沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
64 － 7	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	口縁弧状隆帯。縦位 RL 縄文⇒横位・曲線状沈線。	ナデ	石英・海綿状骨針
64 － 8	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	波状口縁。口縁沈線区画⇒盲孔。横位・斜位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英
64 － 9	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	口縁山形状小突起。貫通孔、貫通孔に沿う弧状沈線、盲孔。縦位沈線。頸部横位沈線。	ナデ	雲母・金雲母・海綿状骨針
64 － 10	65T Ⅰ層	Ⅶ－2	波状口縁。口縁縦位沈線、上下端盲孔。縦位 LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・赤色粒
64 － 11	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	小波状口縁、貫通孔。口縁沈線区画⇒盲孔。口縁縦位 LR 縄文⇒綾手状沈線。口縁内面盲孔。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
64 － 12	65T Ⅰ層	Ⅶ－2	横位 LR 縄文⇒横位・曲線状沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英・海綿状骨針
64 － 13	65T Ⅱ層	Ⅶ－1	口縁突起、突起上端沈線、中央貫通孔、貫通孔の周囲盲孔、下端円形浮文。口縁２条の沈線。縦位隆帯、中央沈溝。内面盲孔、沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
64 － 14	65T Ⅰ層	Ⅶ－1	波状口縁。波頂部突起。突起縦位隆帯、中央沈溝。突起内面２状の弧状沈線、上下端盲孔、中央貫通孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
65 － 1	65T Ⅱ層	Ⅶ－1	横位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
65 － 2	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	横位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針
65 － 3	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	横位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
65 － 4	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	横位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
65 － 5	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	横位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
65 － 6	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	横位・縦位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿状骨針
65 － 7	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	横位 LR 縄文⇒綾手状沈線。	ミガキ	石英・赤色粒
65 － 8	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	横位 RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針
65 － 9	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	曲線状沈線、列点状沈線⇒円形浮文。	ミガキ	雲母・石英
65 － 10	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	縦位 LR 縄文⇒多条沈線、盲孔。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
65 － 11	65T Ⅱ層	Ⅶ－2	横位 LR 縄文⇒多条沈線。	ミガキ	金雲母・石英・海綿状骨針
65 － 12	65T Ⅱ層	Ⅶ－3	横位・縦位沈線⇒横位・縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針
65 － 13	65T Ⅱ層	Ⅷ－1	波状口縁。口縁上端楕円状隆帯。横位 LR 縄文⇒斜位・弧状沈線⇒口縁・沈線に沿う半截竹管による D 字形刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
65 － 14	65T Ⅱ層	Ⅷ－1	横位 LR 縄文⇒横位平行沈線⇒縦位弧状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針
65 － 15	65T Ⅱ層	Ⅸ	壺形土器。口縁横位３条の沈線。口縁内面横位２条の沈線。	ナデ	雲母

報告書抄録

ふりがな	うらじりかいづか3
書名	浦尻貝塚3
副書名	第1分冊 ― 土器編―
シリーズ名	南相馬市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第11集
編著者名	川田強・佐川久
編集機関	福島県南相馬市教育委員会文化財課
所在地	〒975-0012　福島県南相馬市原町区三島町二丁目45
発行年月日	２００８．３．３１

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡	北緯	東経	調査面積 (㎡)	調査原因
浦尻貝塚（うらじりかいづか）	南相馬市小高区浦尻字南台（みなみだい）ほか	072125	52 53 54 114	37°31′00″	141°01′40″	5,140	道路・ 保存目的範囲内容確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
浦尻貝塚	貝塚・集落跡・古墳・館	縄文～近世	貝塚・竪穴住居柱穴・貯蔵穴等	動物遺体・人骨・炭化種実・縄文土器・土製品・石器	縄文時代前期～晩期貝塚・集落跡

印刷　2008年3月28日
発行　2008年3月31日

南相馬市埋蔵文化財調査報告書第11集

浦尻貝塚3
第1分冊－土器編－

編　集　南相馬市教育委員会 文化財課
発　行　南相馬市教育委員会
〒975－0012　福島県南相馬市原町区
三島町二丁目45番地
印　刷　有限会社　ライト印刷
〒975-0018　福島県南相馬市原町区北新田字信田370－1